

無線ユニット

設定ツール (SWL-UT)

ユーザーズマニュアル

このたびは、当社の無線ユニットをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
無線ユニットを正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に本書をよくお読みいただき、
無線ユニットの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願い致します。

— ご注意 —

1. 許可なく、本ユーザーズマニュアルの無断転載をしないでください。
2. 記載事項は、お断りなく変更することがありますので、ご了承ください。
3. 本製品は、国内電波法にもとづく仕様となっておりますので、
日本国外では使用しないでください。

◆ 使用上のご注意

- 本書の内容の一部または全部を当社に断りなく、いかなる形でも転載または複製することは固くお断りします。
- 本製品（マニュアル含む）は、ソフトウェア使用契約のもとでのみ使用することができます。
- 本ツールを使用してのデータの破損や欠落などにつきましては責任を負いかねます。
- 本マニュアルに記載されている内容は、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
- 本ツールには、パソコンへの不正侵入ならびにセキュリティに関する設定は含んでおりません。
お客様自身にて実施いただきますようお願いいたします。
- 本ツール(マニュアル含む)を運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- USB を挿入する際は無線ユニットの電源をお切りください。
- 無線ユニットを設置する際は、加工機周辺を避けるように設置してください。ノイズ等の影響で通信不良になる可能性があります。

◆ 関連マニュアル

最新マニュアル PDF は、当社 FA ソリューションパーツサイトからダウンロードすることができます。

● MODBUS タイプ

マニュアル名称	マニュアル番号	内容
920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ] ユーザーズマニュアル詳細編	X903140902	920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]本体の仕様、システム構成、各種設定、設置と配線、機能、パラメーター一覧、エラー一覧について記載しています
920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ] ユーザーズマニュアル(ハードウェア編)	X903140901	920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]の各部名称や一般仕様、無線仕様等のハードウェアに関わる内容について記載しています。
アンテナ敷設マニュアル	X903130602	アンテナの設置方法、電波の伝達特性について記載しています。
920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ] MODBUS インターフェース編	X903140905	920MHz 帯無線ユニット[MODBUS]の RS485 通信仕様、伝文仕様、要求/応答構成、エラー時の応答伝文、レジスタ仕様について記載しています。

● Ethernet タイプ

マニュアル名称	マニュアル番号	内容
920MHz 帯無線ユニット[Ethernet タイプ] ユーザーズマニュアル(詳細編)	X903130502	920MHz 帯無線ユニット[Ethernet タイプ]本体の仕様、システム構成、各種設定、設置と配線、機能、パラメーター一覧、エラー一覧について記載しています
920MHz 帯無線ユニット[Ethernet タイプ] ユーザーズマニュアル(ハードウェア編)	X903130501	920MHz 帯無線ユニット[Ethernet タイプ]の各部名称や一般仕様、無線仕様等のハードウェアに関わる内容について記載しています。
アンテナ敷設マニュアル	X903130602	アンテナの設置方法、電波の伝達特性について記載しています。

●SWL11 タイプ

マニュアル名称	マニュアル番号	内容
429MHz 帯無線ユニット[SWL11 タイプ] ユーザーズマニュアル(詳細編)	X903180901	429MHz 帯無線ユニット本体の仕様、システム構成、各種設定、設置と配線、機能、パラメータ一覧、エラー一覧について記載しています
429MHz 帯無線ユニット[SWL11 タイプ] ユーザーズマニュアル(ハードウェア編)	X903200202	429MHz 帯無線ユニットの各部名称や一般仕様、無線仕様等のハードウェアに関わる内容について記載しています。
アンテナ敷設マニュアル	X903130602	アンテナの設置方法、電波の伝達特性について記載しています。

●ソフトウェア

マニュアル名称	マニュアル番号	内容
無線ユニット SWL サポートツール ユーザーズマニュアル	X903200704	無線ユニット(429,920MHz 帯)に関するツールの起動方法、設定ツール、電波環境監視ツールの概要、操作方法について記載しています。
無線ユニット 設定ツール ユーザーズマニュアル	X903140903	無線ユニット(429,920MHz 帯)の設定ユーティリティの概要、操作方法について記載しています。
無線ユニット 電波環境監視ツール ユーザーズマニュアル	X903200705	無線ユニット(429,920MHz 帯)の周波数計測機能、通信チェック機能の概要、操作方法について記載しています。

※赤枠: 本マニュアル

最新のマニュアル PDF については、当社ホームページよりダウンロードできます。
www.melco.co.jp/business/download/index.html?bannerid=fa_manual



◆ ソフトウェアバージョン対応表

下表に無線ユニット親局、子局と設定ユーティリティの SW Ver 組合せ表を記載します。
ご購入いただいたユニットの形名及び、ソフトウェアバージョンを確認して設定ツールをご使用ください。
なお、本マニュアルは SWL90 及び SWL11 シリーズの無線ユニットが対象になります。

無線ユニットと設定ツールの SW Ver 組合せ表

Ethernet タイプ			親局 [SWL90-ETMC]							入出力子局 [SWL90-R4ML]				
			Ver. 5.10	Ver. 5.00	Ver. 4.10	Ver. 4.00	Ver. 3.**	Ver. 2.**	Ver. 1.**	Ver. 4.10	Ver. 4.00	Ver. 3.**	Ver. 2.**	Ver. 1.**
Ethernet タイプ	SWL-UT-ENT	Ver2.10	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×
		Ver2.00	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×
		Ver.1.00	×	×	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	SWLStartUp [SWL-UT3]	Ver.4.**	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×	×
		Ver.2.**	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×
		Ver.1.**	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×
	SWLStartUp [SWL-UT1]	Ver.1.**	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○

Ethernet タイプ			パルスカウント子局 [SWL90-PL3]		taBaneLE(タバネル) Bluetooth® ゲートウェイユニット※1 [SWL90-BLX]	
			Ver. 4.10	Ver. 1.**	Ver. 2.**	Ver. 1.**
Ethernet タイプ	SWL-UT-ENT	Ver2.10	○	○	○	○
		Ver2.00	○	○	×	○
		Ver.1.00	○	○	×	×
	SWLStartUp [SWL-UT3]	Ver.4.**	×	○	×	×
		Ver.2.**	×	○	×	×
		Ver.1.**	×	×	×	×
	SWLStartUp [SWL-UT1]	Ver.1.**	×	×	×	×

※1：本マニュアル内「taBaneLE(タバネル) Bluetooth®ゲートウェイユニット」は以下「taBaneLE」と明記。

MODBUS タイプ			MODBUS ユニット [SWL90-R4MD]					パルス カウント子局 [SWL90-PL3]	
			Ver. 4.10	Ver. 4.00	Ver. 3.**	Ver. 2.**	Ver. 1.**	Ver. 4.10	Ver. 1.**
MODBUS タイプ	SWL-UT-MOD	Ver.1.00	○	○	○	×	×	○	○
		Ver.4.**	×	○	○	×	×	×	○
	SWLStartUp [SWL-UT4]	Ver.2.**	×	×	○	×	×	×	○
		Ver.1.**	×	×	×	○	×	×	×
	SWLStartUp [SWL-UT2]	Ver.1.**	×	×	×	×	○	×	×

429MHz 帯 特定小電力無線 I/O ユニット (SWL11-TR08)	設定ユーティリティ (SWL11-UT)
Ver1.00	Ver1.00

◆ 目次

使用上のご注意	A-1
関連マニュアル	A-1
ソフトウェアバージョン対応表	A-3

第1章 概要 1-1

1.1. 概要	1-2
1.2. 機能一覧	1-3
1.3. 動作環境	1-4

第2章 使用準備 2-1

2.1. 設定ツールの起動・終了	2-2
2.2. 画面一覧【設定ツール編】	2-4
2.3. 画面詳細【設定ツール編】	2-5
2.3.1. メイン画面【設定ツール】	2-5
2.3.2. バージョン確認画面	2-6

第3章 設定ユーティリティ [MODBUS タイプ] 3-1

3.1. 画面一覧	3-2
3.2. 画面詳細	3-3
3.2.1. 起動画面	3-3
3.2.2. ウィザード画面	3-4
3.2.3. メイン画面	3-5
3.2.4. メニューバー	3-6
3.2.5. 共通設定	3-7
3.2.6. RS485 プロトコル設定	3-8
3.2.7. 送信先アドレス設定	3-12
3.2.8. 無線拡張設定	3-15
3.2.9. 自局設定	3-16
3.2.10. ルート設定画面	3-17
3.2.11. パルスカウント設定	3-18
3.2.12. 増設ユニット設定画面	3-21
3.2.13. 個別設定画面	3-23
3.3. 使用手順	3-27
3.3.1. 設定書込手順	3-27
3.3.2. 設定変更の手順	3-28
3.4. 使用手順詳細	3-29
3.4.1. ウィザード画面からパラメータ設定	3-29
3.4.2. 無線ユニットの設定データ作成	3-31
3.4.3. 親局に設定データの書込み	3-43

3.4.4. USB 接続による子局書込み	3-46
3.4.5. 子局通信確認	3-48
3.4.6. 無線配信による子局書込み	3-50
3.4.7. 設定ファイル保存	3-54
3.4.8. 保存した設定ファイル読出し	3-55
3.4.9. 親局から設定データ読出し	3-56
3.4.10. 子局から設定データ読出し	3-58
3.4.11. 設定ユーティリティの設定内容初期化	3-61
3.4.12. ヘルプ機能	3-62

第4章 設定ユーティリティ [Ethernet タイプ]	4-1
-------------------------------------	------------

4.1. 画面一覧	4-2
4.2. 画面詳細	4-3
4.2.1. 起動画面	4-3
4.2.2. メイン画面	4-4
4.2.3. メニューバー	4-6
4.2.4. 共通設定	4-8
4.2.5. 自局設定	4-11
4.2.6. Ethernet 無線親局設定画面	4-12
4.2.7. Ethernet 相手局設定画面	4-13
4.2.8. デバイス割付一覧	4-15
4.2.9. ルート設定画面	4-16
4.2.10. ツリー部表示／ユニット個別設定 UI	4-17
4.2.11. パルスカウント設定	4-18
4.2.12. 増設ユニット設定	4-19
4.2.13. アナログ Ch 設定画面	4-20
4.2.14. Bluetooth デバイス設定画面	4-21
4.2.15. Bluetooth デバイススキャン画面	4-22
4.2.16. Bluetooth 詳細設定画面	4-23
4.2.17. 親局 [SWL90-ETMC] 個別設定画面 (ポーリング通信)	4-24
4.2.18. 子局 [SWL90-R4ML] 個別設定画面 (ポーリング通信)	4-25
4.2.19. 子局 [SWL90-PL3] 個別設定画面 (ポーリング通信)	4-26
4.2.20. 親局 [SWL90-ETMC] 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-27
4.2.21. 子局 [SWL90-R4ML] 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-28
4.2.22. 子局 [SWL90-TH1 (E)] 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-29
4.2.23. 子局 [SWL90-PL3] (中継局兼子局) 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-30
4.2.24. 子局 [SWL90-PL3] (子局) 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-31
4.2.25. 子局 [SWL90-BLX] (子局) 個別設定画面 (トランジェント通信)	4-32
4.2.26. 簡易画面時個別設定画面	4-33
4.2.27. エラー情報取得画面	4-34

4.3. 使用手順	4-35
4.3.1. 用途事例① 新規使用手順	4-36
4.3.2. 用途事例② 新規使用手順	4-37
4.3.3. 用途事例① 設定変更の手順	4-38
4.3.4. 用途事例② 設定変更の手順	4-39
4.3.5. 簡易設定表示／詳細設定表示の切り替え	4-40
4.4. 使用手順詳細（親局 ETMC 簡易画面）	4-41
4.4.1. 無線ユニットの設定データの作成	4-41
4.4.2. ユニット追加、ユニットタイプ選択	4-42
4.4.3. ルート設定	4-44
4.4.4. 共通設定	4-45
4.4.5. 個別設定／一括設定	4-46
4.4.6. パルスカウント設定	4-49
4.4.7. 増設局設定	4-51
4.4.8. Bluetooth デバイス設定	4-53
4.4.9. Ethernet 設定	4-77
4.4.10. 親局への設定データの書込み	4-79
4.4.11. USB 接続による子局書込み	4-81
4.4.12. 子局通信確認	4-84
4.4.13. 無線配信による子局書込み	4-85
4.4.14. 設定ファイル保存	4-90
4.4.15. 保存した設定ファイル読出し	4-91
4.4.16. 親局から設定データ読出し	4-92
4.4.17. 子局から設定データ読出し	4-95
4.4.18. エラー履歴読出し	4-98
4.4.19. 設定ユーティリティの設定内容初期化	4-100
4.4.20. ヘルプ機能	4-101
4.5. 使用手順詳細（親局 ETMC 詳細画面）	4-102
4.5.1. 無線ユニットの設定データ作成	4-102
4.5.2. 共通設定	4-105
4.5.3. ユニットタイプ／ユニット ID 設定	4-106
4.5.4. Ethernet 設定	4-107
4.5.5. ルート設定	4-109
4.5.6. パルスカウント設定	4-111
4.5.7. 増設局設定	4-113
4.5.8. Bluetooth デバイス設定	4-115
4.5.9. 親局への設定データの書込み	4-116
4.5.10. USB 接続による子局書込み	4-120
4.5.11. 子局通信確認	4-123
4.5.12. 無線配信による子局書込み	4-124

4.5.13. 設定ファイル保存	4-129
4.5.14. 保存した設定ファイル読出し	4-130
4.5.15. 親局から設定データ読出し	4-131
4.5.16. 子局から設定データ読出し	4-135
4.5.17. 設定ユーティリティの設定内容初期化	4-139
4.5.18. ヘルプ機能	4-140
4.6. 使用手順詳細 (BLX ゲートウェイモード)	4-142
4.6.1. ゲートウェイユニットの設定データの作成	4-142
4.6.2. ユニット選択	4-143
4.6.3. 共通設定	4-143
4.6.4. Bluetooth デバイス設定	4-144
4.6.5. Ethernet 設定	4-145
4.6.6. 設定ツールと SWL90-BLX の接続方法の設定	4-147
4.6.7. 設定データの書込み	4-148
4.6.8. 設定ファイル保存	4-150
4.6.9. 保存した設定ファイル読出し	4-151
4.6.10. 設定データ読出し	4-152
4.6.11. 設定ユーティリティの初期化	4-154
第5章 設定ユーティリティ [SWL11]	5-155
5.1. 画面一覧	5-156
5.2. 画面詳細	5-157
5.2.1. 起動画面	5-157
5.2.2. メイン画面	5-158
5.2.3. メニューバー	5-159
5.2.4. ツールバー	5-160
5.2.5. ユニット経路構成	5-161
5.2.6. 個別設定画面/一括設定画面	5-162
5.3. 使用手順	5-164
5.3.1. 設定書込手順(初期設定)	5-164
5.3.2. 設定変更の手順	5-165
5.2.7. バージョン確認画面	5-167
5.2.8. ヘルプ画面	5-168
5.4. 使用手順詳細	5-169
5.4.1. 設定データの作成(共通設定)	5-169
5.4.2. 設定データの作成(中継設定)	5-170
5.4.3. 個別設定/一括設定方法	5-173
5.4.4. USB 接続による書込み	5-175
5.4.5. 無線通信テスト	5-176
5.4.6. 無線配信による書込み	5-177

5.4.7.	USB パラメータ読込	5-179
5.4.8.	設定ファイルに名前を付けて保存	5-180
5.4.9.	設定ファイル上書き保存	5-181
5.4.10.	保存した設定ファイル読出し	5-182
5.4.11.	設定一覧出力	5-183

第6章 保守資料	6-1
-----------------	------------

6.1.	トラブルシューティング[MODBUS タイプ]	6-2
6.2.	トラブルシューティング[Ethernet タイプ]	6-3
6.3.	トラブルシューティング[SWL11]	6-5
6.4.	接続 COM ポート確認手順	6-6

第 1 章

第1章 概要

1.1. 概要	1-2
1.2. 機能一覧	1-3
1.3. 動作環境	1-4

1.1. 概要

設定ツール(SWL-UT)は当社製無線ユニット専用の設定ソフトウェアです。

※対応無線ユニットは A-3 ページの「ソフトウェアバージョン対応表」をご参照ください。

本マニュアルには、無線ユニットとパソコンとの接続方法及び各画面についての説明を記載しております。

大項目	小項目	概要
設定ツール	設定ユーティリティ	パソコンでパラメータの設定を行い、無線ユニットを USB または Ethernet(※1)を接続して設定の書込み、読出しができます。

※1: Ethernet 接続は SWL90-ETMC、SWL90-BLX のみ対応です。

1.2. 機能一覧

設定ツール(SWL-UT)の各機能は次の通りです。

●設定ユーティリティ

No	機能一覧	概要
1	パラメータ設定	パラメータをソフトウェア上で設定することができます。
2	パラメータ書込/読込	USB 経由でパラメータの書込・読込が可能です。  パソコン 無線ユニット パソコン 無線ユニット
3	無線パラメータ配信 書込機能	親局設定の無線ユニットにUSBまたは Ethernet(※1)を接続して、子局に無線パラメータの配信が可能です。  パソコン 親局 子局
4	設定内容 バックアップ機能	現在の設定内容をファイルに書込むことができます。  パソコン
5	設定内容リストア機能	設定内容バックアップ機能にてファイルに書き出したファイルを読込むことができます。  パソコン
6	パラメータ ヘルプ表示機能	パラメータ設定の詳細をヘルプ画面に表示することができます。
7	エラー情報取得機能	無線ユニットに USB/Ethnet 接続し、現在のエラー/過去 10 件のエラーを確認することが可能です。 ※2

※1: Ethernet 接続は SWL90-ETMC、SWL90-BLX のみ対応です。

※2: エラー情報取得機能は SWL90-BLX のみ対応です。

1.3. 動作環境

本製品の動作環境は次の通りです。

No.	項目	仕様
1	CPU	2.6GHz 以上の 32 ビットまたは 64 ビット CPU
2	ハードディスク容量	200Mbyte 以上
3	必要メモリ容量	8GB 以上(推奨)
4	OS	Windows 11
5	ミドルウェア	.NET Framework 4.6.2 ※1
6	インターフェース	Bluetooth® Device (Ver4.0 以上)
7	ディスプレイ解像度	1920×1080 以上
8	色深度	65,536 色以上推奨
9	I/O	USB2.0 またはイーサネット
10	ドライバ等	OS 標準ドライバ

※1: インストールされていない場合は Microsoft 社のホームページよりダウンロードしてください。

※タッチ操作は対応していません。

第 2 章

第2章 使用準備

- 2. 1. 設定ツールの起動・終了 2-2
- 2. 2. 画面一覧【設定ツール編】..... 2-4
- 2. 3. 画面詳細【設定ツール編】 2-5

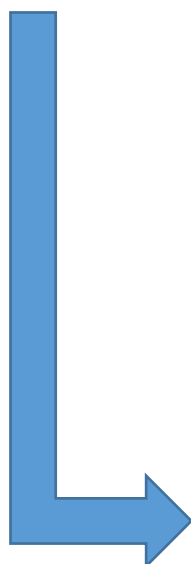
2.1. 設定ツールの起動・終了

設定ツールの起動・終了は以下の手順で行います。

(1) 起動

ダウンロードしたフォルダ内の「SWL-SupportTool.exe」をダブルクリックすると SWL サポートツールが表示されます。設定ツールを選択して起動してください。

※SWL サポートツールは、「SWL サポートツール ユーザーズマニュアル」をご参照ください。

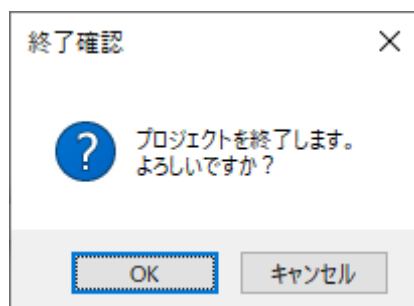


(2)終了

画面の右上の「×」ボタンを選択すると設定ツールを終了します。



(3)下記ダイアログが表示されます。



2.2. 画面一覧【設定ツール編】

本製品の画面は次の通りです。

No.	画面名称	概要
1	メイン画面【設定ツール】	メイン画面【サポートツール】で設定ツール選択後に表示される画面です。
2	設定ユーティリティ	メイン画面【設定ツール】で設定ユーティリティを選択すると、設定ユーティリティ起動画面が表示され、無線ユニットのパラメータ設定が PC で行えます。設定ユーティリティで使用する画面一覧は第 3 章以降をご参照ください。

2.3. 画面詳細【設定ツール編】

2.3.1. メイン画面【設定ツール】

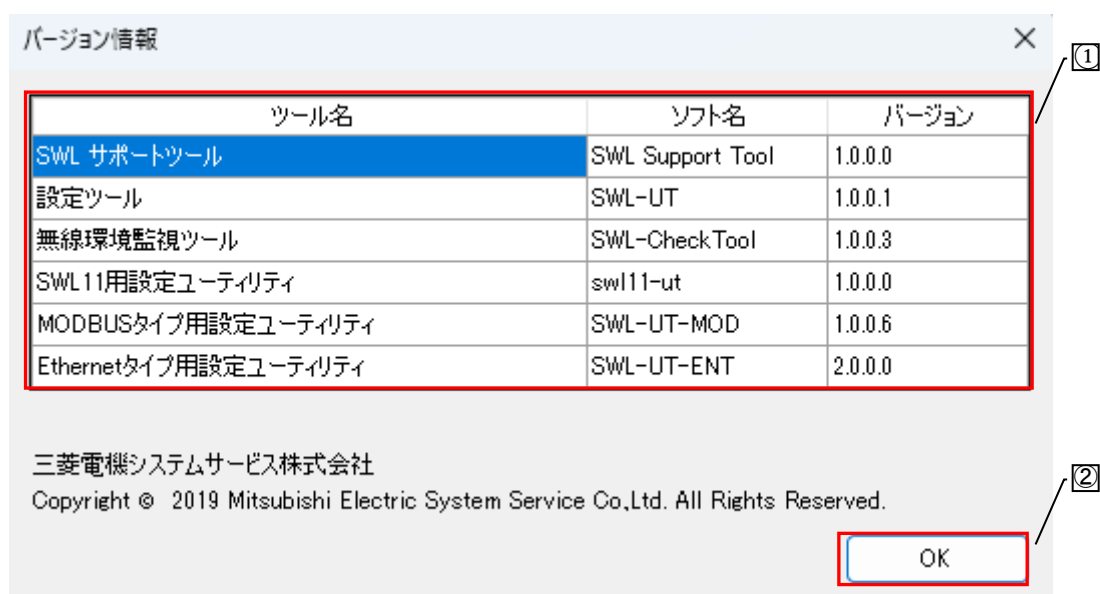
設定をするユニットタイプの選択、マニュアル、バージョン確認を行う画面になります。



No.	名称		内容	参照項
①	ツール バー	ファイル	終了	アプリケーションを終了します。
		ツール	SWL サポートツール	メイン画面【SWL サポートツール】が表示されます。
			設定ユーティリティ	選択したタイプの設定ユーティリティが 起動します。
			電波環境監視ツール	電波環境監視ツールが起動します。
		ヘルプ	マニュアル	以下マニュアルを PDF で開きます。 ・SWL90-ETMC 取扱説明書(ユニット編) ・SWL90-R4MD 取扱説明書(ユニット編) ・SWL90-R4MD MODBUS I/F 接続編 ・SWL11 取扱説明書(ユニット編) ・設定ツール取扱説明書
			バージョン表示	各ツールのバージョン表示画面が表示されます。
②	ユニットタイプ選択		設定するユニットタイプを選択します。	—
③	設定ユーティリティ		設定ユーティリティ画面が表示されます。	—

2.3.2. バージョン確認画面

本アプリのバージョンを確認することができます。



No.	名称	内容
①	バージョン表示	ソフトウェアのバージョンを確認できます。
②	OK	バージョン情報画面を閉じます。

第 3 章

第3章 設定ユーティリティ [MODBUS タイプ]

3. 1.	画面一覧	3-2
3. 2.	画面詳細	3-3
3. 3.	使用手順	3-27
3. 4.	使用手順詳細	3-29

3. 1. 画面一覧

設定ユーティリティの画面は次の通りです。

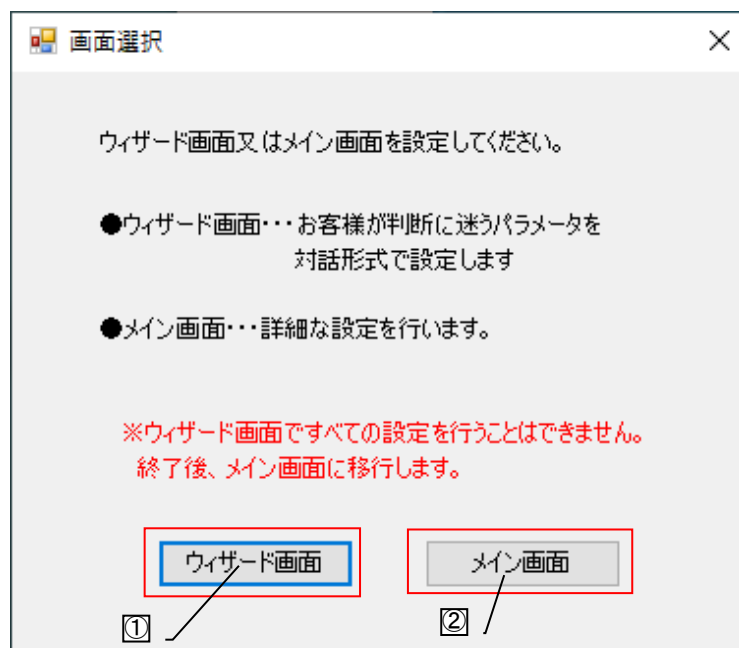
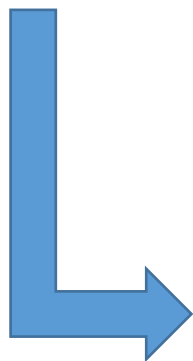
No.	画面名称	概要	参照項
1	起動画面	設定ユーティリティ選択時に最初に表示される画面です。 設定方法(ウィザード画面もしくはメイン画面)を選択します。	3.2.1.
2	ウィザード画面	お客様が判断に迷うパラメータを対話形式で設定する画面です。	3.2.2.
3	メイン画面	起動画面、ウィザード画面にて設定完了後、常に表示される画面です。 パラメータ設定、ファイルの保存/読出し、パラメータの書込/読込を行うことができます。	3.2.3.
4	RS485 プロトコル設定	RS485 通信で使用するプロトコルに関する設定を行う画面です。	3.2.6.
5	送信先アドレス設定	MODBUS 機器の送信先アドレスを登録する画面です。	3.2.7.
6	ルート設定画面	無線ユニットの通信経路を設定する画面です。	3.2.10.
7	パルスカウント設定	無線ユニットのパルスカウントの使用有無、パルスカウント仕様を設定する画面です。	3.2.11.
8	増設ユニット設定画面	無線ユニットの増設ユニットの使用有無、増設ユニット仕様を設定する画面です。	3.2.12.
9	個別設定画面	各無線ユニットの詳細パラメータ設定を行う画面です。	3.2.13.

3. 2. 画面詳細

3.2.1. 起動画面

「SWL90(MODBUS タイプ)」を選択し、設定ユーティリティをクリックします。

画面選択でウィザード画面もしくはメイン画面を選択します。



No.	名称	内容	参照項
①	ウィザード画面	お客様が判断に迷うパラメータを対話形式で設定する画面です。	3.2.2.
②	メイン画面	起動画面、ウィザード画面にて設定完了後、常に表示される画面です。	3.2.3.

3.2.2. ウィザード画面

対話形式で必要なパラメータ設定を行います。

※下記画面はウィザード画面の一画面を例で記載しております。

通信トポロジ設定

①周波数/グループ/子局台数設定

↓

● ②通信トポロジ設定

↓

③通信プロトコル設定

↓

④RS485通信設定

↓

⑤送信先アドレス設定

↓

設定確認

通信トポロジ ● ツリー
○ メッシュ

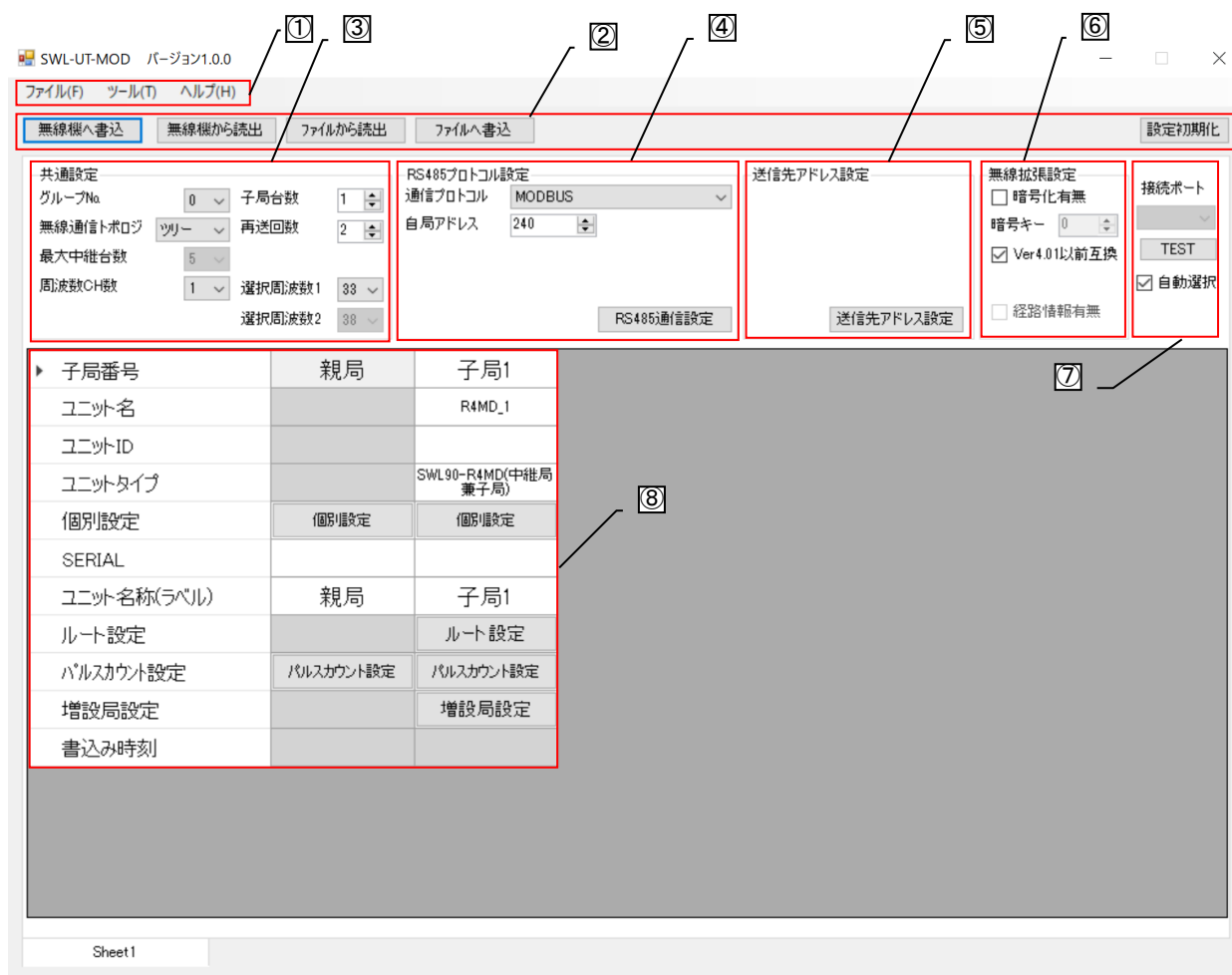
- ・ツリーを選択するケース
応答速度を求める場合、中継経路が一本しかない場合、及び経路の切り替えができない場合
- ・メッシュを選択するケース
通信経路が2本以上存在し、経路の切り替えが可能かつ、応答速度を求めない(温度、電力量などのサンプリング周期が長い場合)

③ 戻る ④ 次へ ⑤ キャンセル

No.	名称	内容
①	進捗表示	パラメータ設定の進捗状況を確認できます。
②	パラメータ設定	各パラメータの説明を確認しながらパラメータ設定を行います。
③	戻る	一つ前の画面に戻ります。
④	次へ(完了)	次の画面に進みます。 ⑤送信先アドレス設定の画面では完了ボタンとなります。 完了ボタン選択後は、ウィザード画面にて設定したパラメータが反映された状態で設定ユーティリティが表示されます。
⑤	キャンセル	起動画面に戻ります。

3.2.3. メイン画面

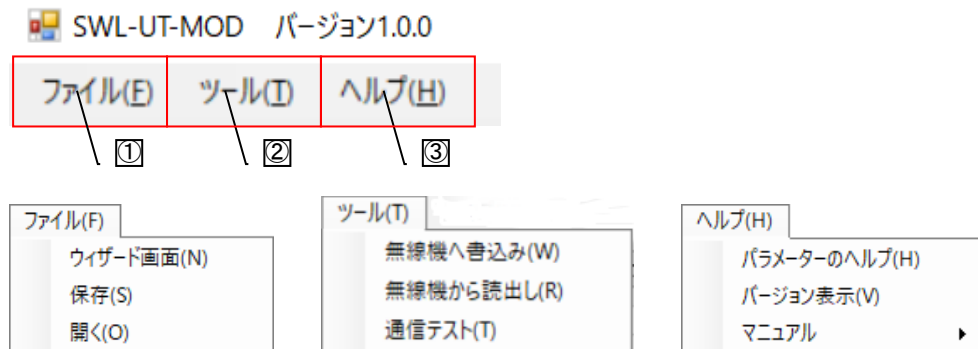
メイン画面は設定ユーティリティ起動使用中、常に表示される画面で無線パラメータ設定、ファイルの保存/読出、ユニットへのパラメータ書込/読込を行うことができます。



No.	名称	内容	参照項
①	メニューバー	メニューバーから3つのメニューを選択することができます。 ・ファイル: 設定ファイルの保存/開く、ウィザード画面からのパラメータ設定ができます。 ・ツール: 無線ユニットへパラメータ書込/読出/通信テストを行うことができます。 ・ヘルプ: 設定ユーティリティのバージョン確認、設定パラメータの詳細、マニュアルを表示することができます。	3.2.4.
②	ツールボタン	無線ユニットへパラメータ書込/読出、設定ファイル保存/読出、パラメータ初期化を行うことができます。	3.2.4.
③	共通設定	親局と子局が通信を行うための共通項目の設定を行います。	3.2.5.
④	RS485 プロトコル設定	RS485 通信に関しての設定を行います。	3.2.6.
⑤	送信先アドレス設定	無線送信で子局と接続機器の紐付に関する設定を行います。	3.2.7.
⑥	無線拡張設定	暗号キーの設定および旧バージョン互換設定、経路仕様情報有無の設定を行います。	3.2.8.
⑦	接続ポート設定	接続ポート設定を行います。	—
⑧	自局設定	ユニット毎の ID や子局タイプ、動作についての設定を行います。	3.2.9.

3.2.4. メニューバー

設定ユーティリティを操作するための命令や機能をプルダウンメニューから選択、実行することができます。
メニューバーでは 3 つのメニューから機能を選択することができます。



No.	名称	内容	参照項
①	ファイル	ウィザード画面	ウィザード画面を開きます。 3.2.2.
		保存	パラメータ設定した内容をファイル保存します。 3.2.20.
		開く	パラメータ設定したファイルを読出します。 3.2.21.
②	ツール	無線機へ書込み	パソコンから USB 経由で無線ユニットへパラメータ書込を行います。 3.2.16. 3.2.17. 3.2.19.
		無線機から読出し	無線ユニットから USB 経由でパラメータを読出します。 3.2.22. 3.2.23.
		通信テスト	親局と子局間の無線通信確認を実施します。 3.2.18.
③	ヘルプ	パラメータのヘルプ	各設定パラメータの詳細説明を表示します。 3.2.25.
		バージョン表示	設定ユーティリティのバージョンを表示します。 3.2.4.(1)
		マニュアル	無線ユニットのマニュアルを表示します。 ・設定ツール取扱説明書 ・SWL90-R4MD 取扱説明書(ユニット編) ・SWL90-R4MD MODBUS I/F 接続編 —

(1)バージョン表示

設定ユーティリティのバージョンを表示します。



No.	名称	内容
①	OK	設定ユーティリティのバージョン表示画面を閉じます。
②	バージョン表示	設定ユーティリティのバージョンを確認できます。

3.2.5. 共通設定

無線通信を行うため、親局・子局の共通項目設定を行います。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	グループ No.	無線通信で使用するグループ No.を設定します。 ※無線ユニットを複数系統使用する場合はグループ No が重複しないように設定してください。	0～15	0
②	子局台数	親局と通信を行う子局の数(中継専用局含む)の台数を設定します。 子局台数により、シートに表示される子局台数が変化します。	1～64	1
③	無線通信トポロジ	無線通信時の経路構築時に使用する通信構成を設定します。	ツリー/メッシュ	ツリー
④	再送回数	無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。	0～15	2
⑤	最大中継台数	通信トポロジがメッシュモードのときの最大中継台数の設定を行います。 (通信トポロジがメッシュ時のみ有効)	0～5	5
⑥	周波数 CH 数	使用する周波数の数を選択します。 ※通信トポロジに「メッシュ」を選択した場合、周波数 CH 数は「1」しか選択できません。	1,2	1
⑦	選択周波数 1	無線通信で使用する周波数を選択します。	24～38	33
⑧	選択周波数 2	無線通信で使用する 2 つ目の周波数を選択します。 選択周波数 1 で通信が安定しない時に、選択周波数 2 で無線通信を行うための周波数を選択します。	24～38 ※周波数 CH 数を 2 選 定時選択可	38

※: 各項目の詳細は、SWL90-R4MDの『ユーザーズマニュアル(詳細編)』を参照ください。

最新のマニュアル PDF については、当社ホームページよりダウンロードできます。
www.melco.co.jp/business/download/index.html?bannerid=fa_manual



3.2.6. RS485 プロトコル設定

RS485 通信で使用するプロトコルに関する設定を行います。

通信プロトコルは以下表を参考に、ご使用のプロトコルに合わせて選択してください。



No	名称	選択	内容	電文図	参照項
①	通信 プロト コル	MODBUS	MODBUS [®] RTU 使用時に選 択します。 MODBUS(R)無線子局や増 設ユニットの入出力、及び 無線センサ端末の温湿度デ ータの監視/制御は MODBUS [®] RTU 通信でのみ 使用できます。		3.2.6.(1)
		フリープロトコル (タイムアウト検 知)	MODBUS [®] RTU 以外 の RS485 プロトコル使用時に 選択します。 電文間の無通信時間で電 文の区切りを判断します。 電文間時間はパラメータで 設定できます。		3.2.6.(2)
		フリープロトコル (SoF/EoF 検知)	MODBUS [®] RTU 以外 の RS485 プロトコル使用時に 選択します。 SoF(電文開始コード)から EoF(電文終了コード)までを 電文の区切りと判断します。 SoF と EoF のキャラクタはパ ラメータで設定できます。 ※EoF 未検出時は設定した 電文時間経過を電文の区 切りと判断します。		3.2.6.(3)
②	RS485 通信設定		RS485 通信に関する設定を 行います。	—	3.2.6.(4)

(1)MODBUS 選択時

通信プロトコルに「MODBUS」を選択した場合、RS485 プロトコル設定は下記項目となります。

The screenshot shows the 'RS485プロトコル設定' (RS485 Protocol Setting) window. In the '通信プロトコル' (Communication Protocol) dropdown, 'MODBUS' is selected. Below it, the '自局アドレス' (Local Address) is set to '240'. To the right, the '送信先アドレス設定' (Destination Address Setting) button is highlighted with a blue box. The '無線拡張設定' (Wireless Extension Setting) section on the right includes options for '暗号化有無' (Encryption On/Off), '暗号キー' (Encryption Key), and 'Ver 4.00以前互換' (Compatible with Ver 4.00 or earlier).

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	通信プロトコル	MODBUS を選択します。	—	—
②	自局アドレス	親局の MODBUS スレーブアドレスを設定します	1～247	240

(2)フリープロトコル(タイムアウト検知)選択時

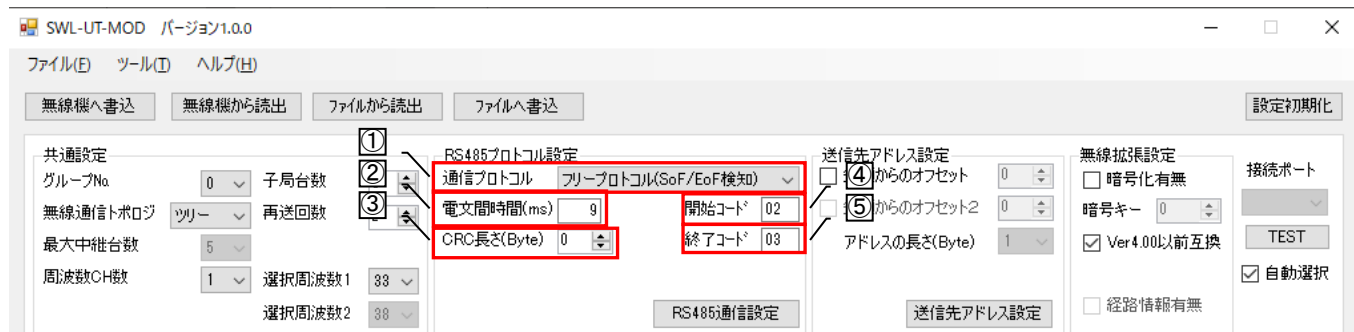
通信プロトコルに「フリープロトコル(タイムアウト検知)」を選択した場合、RS485 プロトコル設定は下記項目となります。

The screenshot shows the 'RS485プロトコル設定' (RS485 Protocol Setting) window. In the '通信プロトコル' (Communication Protocol) dropdown, 'フリープロトコル(タイムアウト検知)' (Free Protocol (Timeout Detection)) is selected. Below it, the '電文間時間(ms)' (Inter-message time (ms)) is set to '9'. To the right, the '送信先アドレス設定' (Destination Address Setting) button is highlighted with a blue box. The '無線拡張設定' (Wireless Extension Setting) section on the right includes options for '暗号化有無' (Encryption On/Off), '暗号キー' (Encryption Key), and 'Ver 4.00以前互換' (Compatible with Ver 4.00 or earlier).

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	通信プロトコル	フリープロトコル(タイムアウト検知)を選択します。	—	—
②	電文間時間(ms)	電文の検出を行う電文間のタイムアウト時間を設定します	0～9999	9

(3)フリープロトコル(SoF/EoF 検知)選択時

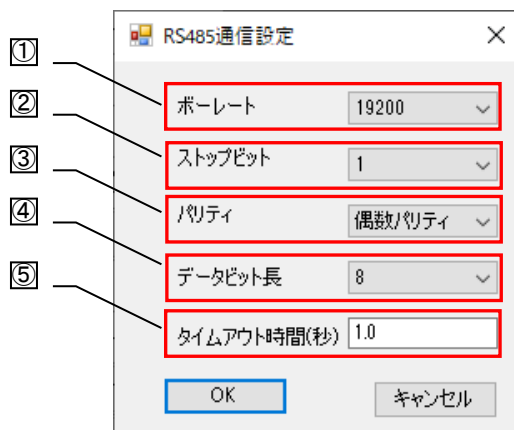
通信プロトコルに「フリープロトコル(SoF/EoF 検知)」を選択した場合、
RS485 プロトコル設定は下記項目となります。



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	通信プロトコル	フリープロトコル(SoF/EoF 検知)を選択します。	—	—
②	電文間時間(ms)	電文間のタイムアウト時間を設定します。 設定された時間が経過し、無通信状態となり、SoF/EoF が検出できない場合はエラーとなります。	0～9999	9
③	CRC 長さ	SoF の後に付与する CRC の長さ(バイト数)を設定します。	0～9	0
④	開始コード	電文の開始を検出するアスキーコードを設定します。	0～FF	02
⑤	終了コード	電文の終了を検出するアスキーコードを設定します。	0～FF	03

(4)RS485 通信設定

RS485 通信に関する設定を行います。



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	ボーレート	通信ボーレートを設定します。	2400 / 4800 / 9600 / 14400 / 19200 / 38400 / 57600 / 76800 / 115200 / 230400[bps]	19200
②	ストップビット	ストップビット数を設定します。	1,2	1
③	パリティ	パリティの設定をします。	パリティなし(NONE)/ 偶数パリティ(EVEN)/ 奇数パリティ(ODD)	偶数パリティ
④	データビット長	データ通信にて1文字あたりに 必要なビット数を設定します。	7,8	8
⑤	タイムアウト時間(s)	子局-スレーブ間でのデータの 送信後の応答データの待ち時 間を設定します。	0.1～999.9	1.0

3.2.7. 送信先アドレス設定

無線親局が RS485 マスタユニットから受信する電文内にある、RS485 スレーブアドレス情報の格納位置やサイズを識別する為、「先頭からのオフセット」や「アドレスの長さ」を指定します。

※通信プロトコルを「フリープロトコル(タイムアウト検知)」、「フリープロトコル(SoF/EoF 検知)」選択時のみ設定が必要になります。

また、「送信先アドレス設定」ボタンを押して、「無線の子局番号」と「RS485 スレーブアドレス」の紐付け設定することで、無線親局が RS485 マスタユニットから受信する RS485 スレーブアドレス情報を基に、無線子局へのセレクトینگ通信が可能になります。

(1)MODBUS 選択時



No.	名称	内容	設定範囲
①	送信先アドレス設定	送信先アドレス設定画面を表示します。 詳細は「3.2.7(3) 送信先アドレス設定画面」をご参照ください。	-

(2)フリープロトコル(タイムアウト検知) / フリープロトコル(SoF/EoF 検知)選択時

SWL-UT-MOD バージョン1.0.0

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書込 設定初期化

共通設定
 グループNo. 0 子局台数 6
 無線通信ポート 3 再送回数 2
 最大中継台数 5
 周波数CH数 1 選択周波数1 33
 選択周波数2 38

RS485プロトコル設定
 通信プロトコル フリープロトコル(SoF/EoF検知) ③
 電文間時間(ms) 9 開始コード 02
 CRC長さ(Byte) 0 終了コード 03
 RS485通信設定

送信先アドレス設定
 ① 先頭からのオフセット 0
 ② 先頭からのオフセット値 0
 ③ 先頭からのオフセット2 0
 ④ アドレスの長さ(Byte) 1
 送信先アドレス設定

無線機設定
 ② 無線機設定
 ④ 比有無
 ⑤ Ver4.00以前互換
 ⑥ 経路情報有無

接続ポート
 TEST
 自動選択

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	先頭からのオフセット	フリープロトコルモード時にセレクトイング動作の有効/無効を設定します。	チェックあり: 有効 (セレクトイング通信) チェックなし: 無効 (ポーリング通信)	チェックなし: 無効
②	先頭からのオフセット値	電文内の局番位置を設定します。 先頭を 0 バイト目としたオフセットで選択します。	0～253	0
③	先頭からのオフセット2	セレクトイング動作時に局番位置の第二候補の有効/無効を設定します。	チェックあり: 有効 チェックなし: 無効	チェックなし: 無効
④	先頭からのオフセット値2	電文内の局番位置の第二候補を設定します。 先頭を 0 バイト目としたオフセットで選択します。	1～254	0
⑤	アドレスの長さ	送信先アドレスの長さ(バイト)を設定します。	1,2	1
⑥	送信先アドレス設定	送信先アドレス設定画面を表示します。 詳細は「3.2.7(3) 送信先アドレス設定画面」をご参照ください。	※先頭からのオフセットがチェックなしの場合選択できません。	—

(3)送信先アドレス設定画面

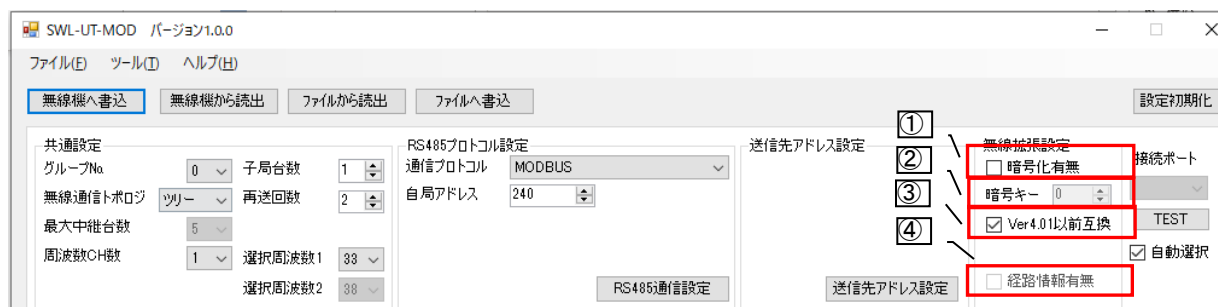
親局または各子局につながる RS485 機器のアドレス(局番)を各局に紐付ける設定を行います。

無線 ユニット	① ユニット名称 (ラベル)	② RS485 スレーブ [*] 台数	RS485スレーブアドレス				
			1台目	2台目	3台目	4台目	5台目
▶ 親局		2	1	2			
子局 1	子局1	3	3	4	5		
子局 2	子局2	2	6	7			
子局 3	子局3	4	8	9	10	11	
子局 4	子局4	1	12				
子局 5	子局5	2	13	14			
子局 6	子局6	2	15	16			

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	ユニット名称 (ラベル)	メイン画面で入力したユニット名称が表示されます。	-	-
②	RS485 スレーブ台数	親局または子局に接続する RS485 スレーブの台数を設定します。 設定した台数分、RS485 スレーブ設定が入力可能となります。	1～31	0
③	RS485 スレーブ アドレス 設定	親局または各子局につながる RS485 機器のアドレス(局番)を設定します。	MODBUS [®] モード時 : 1 ～247 フリープロトコル時 : 00 ～FF (アドレスの長さ:1) /0000～FFFF (アドレスの長さ:2)	空欄

3.2.8. 無線拡張設定

暗号キーの設定および旧バージョン互換設定、経路情報使用有無の設定を行います。



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	暗号化有無	無線通信の暗号化機能有効/無効を設定します。	チェック:暗号化有効 チェックなし:暗号化無効	チェックなし
②	暗号キー	無線通信の暗号キーを設定します。	0～9999	0
③	Ver4.01 以前互換	Ver4.01 以前互換の有無を設定します。 ※メッシュ時はチェックありでマスクされ、設定はできません。 ※互換なしの場合、Ver4.01 以前のユニットと通信できません	☐ : 互換なし ☒ : 互換あり	チェックあり
④	経路情報有無	無線通信トポロジがメッシュモードの時に設定をチェックあり(ツール使用有)に設定すると、無線環境監視ツールでの経路表示が可能です。	チェックあり:ツール使用有 チェックなし:ツール使用無 ※無線通信トポロジがメッシュ時のみ、選択可能	チェックなし

!!! 注意事項 !!!

パラメータ無線配信機能を使用する場合は暗号化無効設定にしてご使用ください。

3.2.9. 自局設定

ユニット ID やユニットタイプなどそのユニット毎の設定を行います。

①	子局番号	親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5
②	ユニット名		R4MD_1	R4MD_2	R4MD_3	R4MD_4	R4MD_5
③	ユニットID						
④	ユニットタイプ		SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)
⑤	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定
⑥	SERIAL						
⑦	ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5
⑧	ルート設定		ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定
⑨	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定
⑩	増設局設定		増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定
⑪	書込み時刻						

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局番号	子局の場合、ユニット毎に「1」から連番で番号が割り振られます。	-	-
②	ユニット名	ユニット名と、「MODBUS インタフェース編」マニュアルを併せて参照することで、各子局に割り当てられるMODBUS レジスタアドレスと、対象の子局が判断しやすくなります。 ユニット名の表示仕様は以下を参照ください。 R4MD_1: R4MD 子局 1 データ R4MD_2: R4MD 子局 2 データ TH1_1: 温湿度センサ 1 台目データ TH1_2: 温湿度センサ 2 台目データ PL3_1: パルスカウント 1 台目データ PL3_2: パルスカウント 2 台目データ	-	-
③	ユニット ID	親局に子局を登録する際のユニット ID を設定します。 ※先に SERIAL を入力した場合、自動でユニット ID が入力されます。 上位 3 桁が 254 以上の場合ユニット ID「1」が入力されます。	1～254	空欄
④	ユニットタイプ	子局の無線ユニットタイプを設定します。	SWL90-R4MD(中継局兼子局)/ SWL90-TH1(E)(中継局兼子局)/ SWL90-TH1(E)(子局)/ SWL90-PL3(中継局兼子局)/ SWL90-PL3(子局)	SWL90-R4MD (中継局兼子局)
⑤	個別設定	個別設定画面を表示します。	-	
⑥	SERIAL	ユニット上部の銘板に記載してある SERIAL 番号を入力します。SERIAL 番号を入力することにより、SERIAL の上位 3 桁がユニット ID に自動入力されます。	00000000～ 99999999	空欄
⑦	ユニット名称 (ラベル)	ユニット毎の固有の名称を設定します。	全角/半角 8 文字	子局 1
⑧	ルート設定	ルート設定画面を表示します。	3.2.10.	
⑨	パルスカ ウント設定	パルスカウント機能についての設定を行います。	3.2.11.	
⑩	増設局設定	子局に接続する増設ユニットについての設定を行います。(SWL90-R4MD 子局のみ)	3.2.12.	
⑪	書込み時刻	無線ユニットに書込みを行った時間が表示されます。	-	空欄

3.2.10. ルート設定画面

無線通信トポロジがツリーの場合、親局と通信する際の中継ルートを設定を行います。

子局ルート設定 子局1

中継経路設定数 ① 3

中継段数 ② 中継1 中継2 中継3 ③ 中継4 中継5

	中継段数 ②	中継1	中継2	中継3 ③	中継4	中継5
経路1	1	2				
経路2	2	3	4			
経路3	3	5	6	7		

中継1～5には中継局の子局番号を親局から近い順に設定してください。

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	中継経路設定数	中継経路数を設定します。 ※複数経路の設定は Ver4.10 からの新機能です。	1～3	1
②	中継段数	親局が子局と通信を行うまでの中継局を経由する段数の設定を行います。	0～5	0
③	子局番号	中継を行う子局番号の設定を行います ※設定する内容はユニット ID ではなく、子局番号です。 ※親局側から見て 1 番目の中継局を「中継1」、2 番目の中継局を「中継2」に設定してください。	1～64 (自局番号は入力不可)	空欄

※SWL90-TH1 (E) (子局) 及び SWL90-PL3 (子局) は中継局に設定できません。

3. 2. 11. パルスカウント設定

(1)R4MD のパルスカウント設定

子局が R4MD の場合は CH1～2 が設定可能です

パルスカウント使用 CH 数が「未使用」の場合、CH1～2 は ON/OFF 入力として使用できます。

パルスカウント使用 CH 数が「1Ch」の場合、

1CH はパルスカウントとして使用でき、2CH は CH1 カウントリセットとして機能します。

パルスカウント設定 子局1

パルスカウント使用CH数: 1Ch

CH1

CH1動作: パルスカウント

カウント桁数: 8

初期値: 0

CH2

CH2動作: CH1カウントリセット

カウント桁数: 8

初期値: 0

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	パルスカウント有効設定	パルスカウント機能有効/無効設定を行います。	未使用/ 1Ch / 2Ch	未使用
②	パルスカウント桁数設定	パルスカウントで使用する桁数の設定を行います。	1～8	8
③	パルスカウント初期値	パルスカウント値としてカウントを開始する初期値を設定します。	0～99999999 (桁数設定による。)	0
④	CH1 カウントリセット	CH1 のパルスカウント値をリセットします。	-	-

(2)PL3 のパルスカウント設定

子局が PL3 の場合、CH1～3 が設定可能です。

CH3 は SWL90-PL3 のみ設定可能です。

パルスカウント使用 CH 数が「未使用」の場合、CH1～3 は ON/OFF 入力として使用できます。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	パルスカウント有効設定	パルスカウント機能有効/無効設定を行います。	未使用/ 1Ch/ 2Ch / 3Ch	未使用
②	パルスカウント桁数設定	パルスカウントで使用する桁数の設定を行います。	1～8	1
③	パルスカウント初期値	パルスカウント値としてカウントを開始する初期値を設定します。	0～99999999 (桁数設定による。)	0
④	パルスカウント最小入力パルス幅	パルスカウントで取得可能なパルスの最小入力パルス幅を設定します。 最小の入力パルス幅は以下の通りです。 10Hz: ON 10ms 以上、OFF 20ms 以上 30Hz: ON/OFF 各 50.0ms 以上	10 / 30	30

パルスカウント使用 CH 数が「1Ch」の場合

CH1 はパルスカウントとして、CH2、3 は ON/OFF 入力として使用できます。

パルスカウント設定 子局1

パルスカウント使用CH数: 1Ch

CH1

CH1動作: パルスカウント

カウント桁数: 8

初期値: 0

最小入力パルス幅(Hz): 30

CH2

CH2動作: Ver 1.02以前:無効
Ver 1.10以降:ON/OFF入力

カウント桁数: 8

初期値: 0

最小入力パルス幅(Hz): 30

CH3

CH3動作: Ver 1.02以前:無効
Ver 1.10以降:ON/OFF入力

カウント桁数: 8

初期値: 0

最小入力パルス幅(Hz): 30

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	パルスカウント有効設定	パルスカウント機能有効/無効設定を行います。	未使用/ 1Ch / 2Ch / 3Ch	未使用
②	CH 動作	各 CH の動作を表示します。 ※PL3 の入力データ格納位置は MODBUS インタフェース編の取扱説明書をご参照ください	-	ON/OFF 動作
③	パルスカウント桁数設定	パルスカウントで使用する桁数の設定を行います。	1～8	8
④	パルスカウント初期値	パルスカウント値としてカウントを開始する初期値を設定します。	0～99999999 (桁数設定による。)	0
⑤	パルスカウント最小入力パルス幅	パルスカウントで取得可能なパルスの最小入力パルス幅を設定します。 最小の入力パルス幅は以下の通りです。 10Hz: ON 10ms 以上、OFF 20ms 以上 30Hz: ON/OFF 各 50.0ms 以上	10 / 30	30

3.2.12. 増設ユニット設定画面

子局(SWL90-R4MD)に接続する増設ユニットに関する設定を行います。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	増設局台数	子局に接続する増設の台数(予約局含む)を設定します。 増設局台数として設定した台数の増設設定が表示され、設定可能です。	0～8	0
②	増設ユニット 接続設定	子局の RS485 端子に接続する機器として、増設ユニットを使用する場合は選択します。	チェックなし: MODBUS [®] 機器接続 チェックあり: 増設ユニット接続	チェックなし
③	ユニット種別	接続する増設ユニット種別の設定を行います。	DIO/DI 16 点ユニット /AD 4 点ユニット	－
④	予約設定	設定した増設ユニットの使用局/予約局の設定を行います。	使用局/予約局	－
⑤	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データのクリア/ホールドについての設定を行います。	クリア/ホールド/ 子局に合わせる	－
⑥	アナログ CH 設定	AD4 点ユニットのアナログ入力に関する設定を行います。 「3.2.12(1) アナログ CH 設定画面) 参照」	－	－

(1)アナログ CH 設定画面

アナログ増設ユニットの各アナログチャンネルの設定を行います。

	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4
Ch使用	☐	☐	☐	☐
入力レンジ	0-10V	0-10V	0-10V	0-10V
平均方法	サンプリング	サンプリング	サンプリング	サンプリング
平均回数	0	0	0	0

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	アナログ CH 使用設定	該当するアナログ CH の使用有/無を設定します。	チェックあり: 使用 チェックなし: 未使用	チェックなし
②	入力レンジ	使用するデータのレンジを設定します。	0-10V/0-5V/1-5V/ 0-20mA/4-20mA/ ユーザレンジ 1/ ユーザレンジ 2	0-10V
③	平均方法	データの表示について行う平均処理について設定します。	サンプリング/ 回数平均/ 時間平均/ 移動平均	サンプリング
④	平均回数	平均方法にて、平均を行う回数を設定します。 サンプリングは平均処理を行わないため、平均回数は無効となります。 (時間平均の場合、設定値 × 10ms 間のデータ平均となります。)	0～32	0

3.2.13. 個別設定画面

個別設定では、無線出力電力や、エラー端子の出力など、ユニット毎の動作についての設定を行います。

(1)親局(SWL90-R4MD)個別設定画面

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	無線タイムアウト時間	無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0.0」の場合は自動計算となります。	0.0～ 999.9(秒)	0.0
②	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ ホールド/ ビットクリア・ ワードホールド/ ビットホールド・ ワードクリア	ビットクリア・ ワードホールド
③	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/a 接点/ b 接点	b 接点
④	無線出力電力	無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑤	エラー遅延時間	MODBUS(R)無線親局に対して一定時間 RS485 機器よりデータが送られなかった場合にエラーを表示する場合の遅延時間の設定を行います。	0.0～999.9	0.0

(2)MODBUS®子局(SWL90-R4MD)個別設定画面

個別設定

子局番号: 子局1

ユニットタイプ: SWL90-R4MD(中継局兼子局)

① 動作	通常局
② 無線送信間隔(分:秒)	01:00
③ 無線応答待ち時間(秒)	0.0
④ エラー時データ	クリア
⑤ エラー端子の出力	b接点
⑥ 無線出力電力	20mW
⑦ 温度データオフセット	0.0
⑧ 湿度データオフセット	0.0

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	無線送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ無線送信を行う周期を設定します。 ※SWL90-TH1、SWL90-PL3 のみ設定可能	01:00～99:59	01:00
③	無線タイムアウト 時間	無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0.0」の場合は自動計算となります。	0.0～ 999.9(秒)	0.0
④	エラー時のデー タ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ ホールド	クリア
⑤	エラー端子の出 力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/a 接点/ b 接点	b 接点
⑥	無線出力電力	無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑦	温度データ オフセット	温湿度センサ SWL90-TH1(E)を使用する場合に設定可能なパラメータです。 温度データを設定値分オフセットできます。 SWL90-TH1(E)(中継局兼子局)をご使用の場合は「-1.8」を設定してください。	-99.9～99.9	0.0
⑧	湿度データ オフセット	温湿度センサ SWL90-TH1(E)を使用する場合に設定可能なパラメータです。 湿度データを設定値分オフセットできます。	-99.9～99.9	0.0

(3)温湿度センサ子局(SWL90-TH1(E))個別設定画面

個別設定

子局番号: 子局1

ユニットタイプ: SWL90-TH1(E)(中継局兼子局)

動作	通常局
無線送信間隔(分:秒)	01:00
無線タイムアウト時間(分)	0
温度データオフセット	0.0
湿度データオフセット	0.0

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	無線送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ無線送信を行う周期を設定します。	01:00～99:59	01:00
③	無線タイムアウト時間(分)	親局と通信できないときにタイムアウトが発生させるまでの時間を設定することができます。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250	0
④	温度データオフセット	温湿度センサ SWL90-TH1(E)を使用する場合に設定可能なパラメータです。 温度データを設定値分オフセットできます。 SWL90-TH1(E)(中継局兼子局)をご使用の場合は「-1.8」を設定してください。	-99.9～99.9	0.0
⑤	湿度データオフセット(%)	温湿度センサ SWL90-TH1(E)を使用する場合に設定可能なパラメータです。 湿度データを設定値分オフセットできます。	-99.9～99.9	0.0

(4)パルスカウント子局(SWL90-PL3)個別設定画面

個別設定

子局番号: 子局1

ユニットタイプ: SWL90-PL3(中継局兼子局)

① 動作	通常局
② 無線送信間隔(分:秒)	01:00
③ 無線タイムアウト時間(分)	0
④ エラー時データ	クリア
⑤ エラー端子の出力	b接点
⑥ 無線出力電力	20mW
⑦ 出力機能切り換え	エラー出力

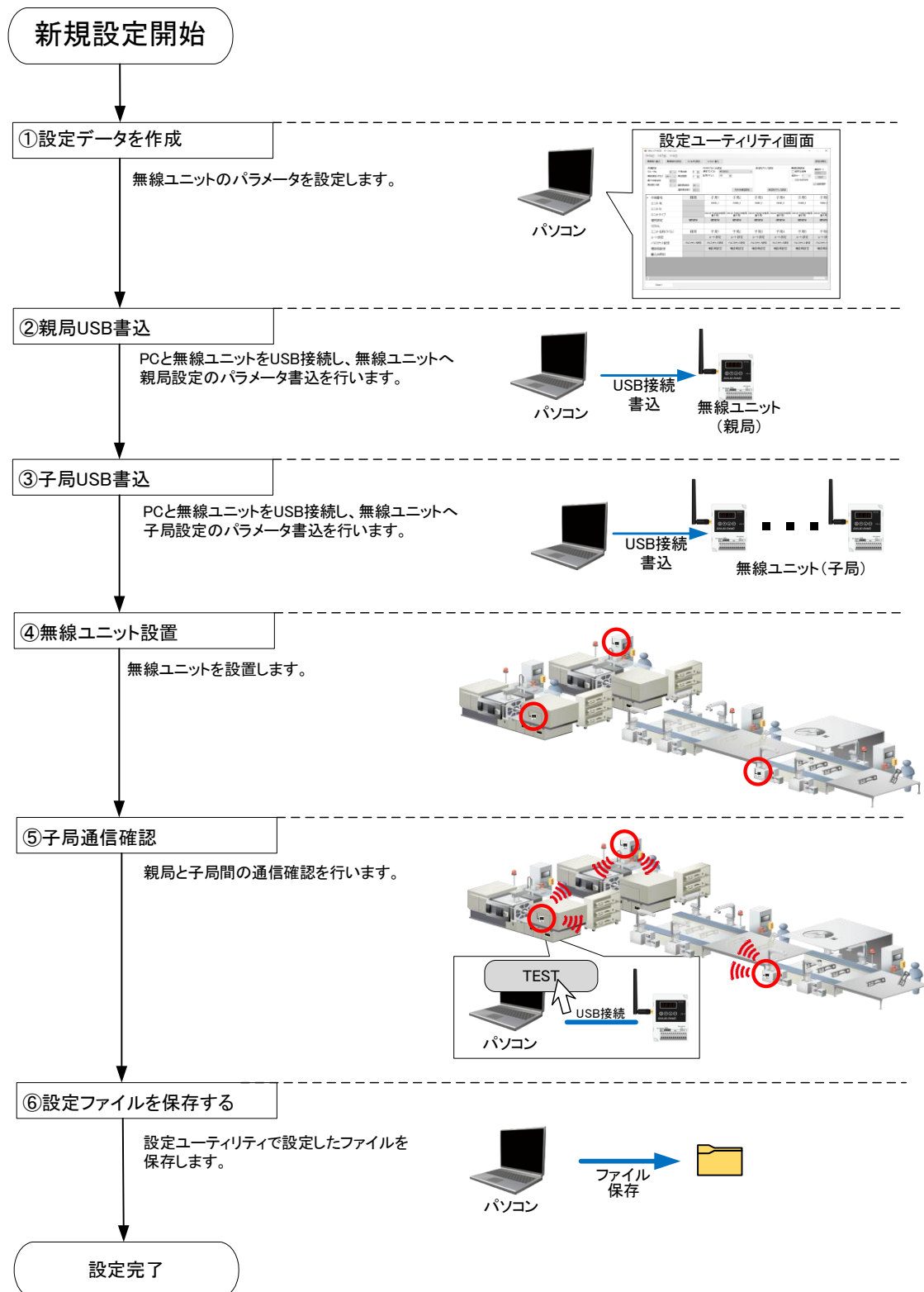
OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	無線送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ無線送信を行う周期を設定します。	01:00～99:59	01:00
③	無線タイムアウト時間(分)	親局と通信できない時にタイムアウトを発生させるまでの時間を設定することができます。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250	0
④	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ ホールド/	クリア
⑤	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/a 接点/ b 接点	b 接点
⑥	無線出力電力	無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑦	出力機能切り換え	ユニットの出力端子からの出力内容を選択します。	エラー出力/ 警報出力(トランジェントイベント通信)	エラー出力

3.3. 使用手順

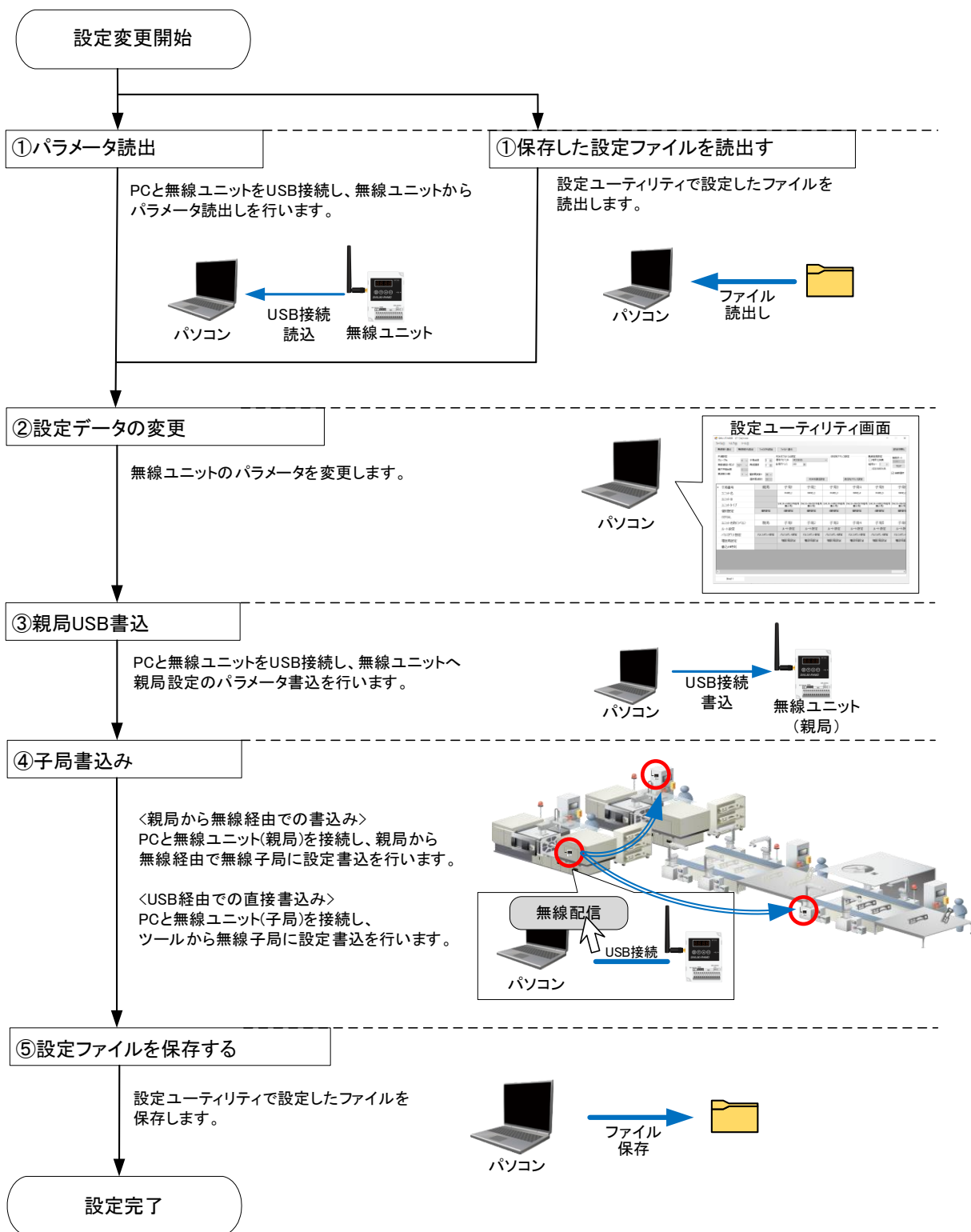
3.3.1. 設定書込手順

無線ユニットの初期設定の手順として以下を実施してください。



3.3.2. 設定変更の手順

無線ユニットの設定変更は以下手順で実施してください。



3. 4. 使用手順詳細

3.4.1. ウィザード画面からパラメータ設定

無線通信設定やRS485 通信設定を対話方式で設定することで、通信に必要な最低限のパラメータを設定できます。
(子局毎の詳細設定は、ウィザード設定後にメイン画面で設定してください。)

(1)画面選択画面からウィザード画面を選択します。

説明を参照し、各パラメータを設定した後、「次へ」ボタンを押してください。(①～⑤の項目を設定します。)

画面選択

ウィザード画面又はメイン画面を設定してください。

- ウィザード画面・・・お客様が現場に迷わずパラメータを対話形式で設定します
- メイン画面・・・詳細な設定を行います。

※ウィザード画面ですべての設定を行うことは終了後、メイン画面に移行します。

①ウィザード画面を選択します。

ウィザード画面

メイン画面

周波数/グループ/子局台数設定

②パラメータを設定します。

③選択すると次の設定項目に移行します。

次へ

キャンセル

(2) 画面左側進捗状況の項目⑤まで設定完了すると「設定確認」画面が表示されます。
設定内容に問題がなければ「完了」ボタンを押下し、設定を確定して下さい。

設定確認

以下の設定内容でよろしければ、「完了」ボタンをクリックしてください。
設定内容を変更する場合は、「戻る」ボタンをクリックしてください。
設定を中止する場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

【設定内容】

周波数/グループ/子局台数設定		RS485通信設定	
周波数(CH)	33	ボーレート	19200
グループNo	0	ストップビット	1
子局台数(台)	4	パリティ	偶数/奇数
通信ポート	ツリー	データビット長	8
通信プロトコル	MODBUS-RTU	タイムアウト時間(秒)	1.0
自局アドレス	240		

無線ユニット		RS485スレーブアドレス					
ユニット名称 (ラベル)	RS485スレーブ台数	1台目	2台目	3台目	4台目	5台目	6台目
親局	0						
子局 1	子局1	1	1				
子局 2	子局2	2	2	3			
子局 3	子局3	3	3				

設定確認

戻る

完了

キャンセル

(3)ウィザード画面の設定が反映され、メイン画面が表示されます。

SWL-UT-MOD バージョン1.0.0

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書込 設定初期化

共通設定
 グループNo. 0 子局台数 4
 無線通信トポロジ ツリー 再送回数 2
 最大中継台数 5
 周波数CH数 1 選択周波数1 33 選択周波数2 38

RS485プロトコル設定
 通信プロトコル MODBUS
 自局アドレス 240

送信先アドレス設定

無線拡張設定
☐ 暗号化有無
 暗号キー 0
☒ Ver4.00以前互換
☐ 経路情報有無

接続ポート
 TEST
☒ 自動選択

RS485通信設定 送信先アドレス設定

子局番号	親局	子局1	子局2	子局3	子局4
ユニット名		R4MD_1	R4MD_2	R4MD_3	R4MD_4
ユニットID	0	1	2	3	4
ユニットタイプ		SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)
個別設定	個別値設定	個別値設定	個別値設定	個別値設定	個別値設定
SERIAL					
ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3	子局4
ルート設定		ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定
パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定
増設局設定		増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定
書き込み時刻					

Sheet1

3.4.2. 無線ユニットの設定データ作成

無線ユニットに書込む設定データを作成します。

各設定の詳細については、「3.2.3. メイン画面」をご参照ください。

①共通設定

②RS485 プロトコル設定

③送信先アドレス設定

④無線拡張設定

⑤ユニットタイプ/ユニットID設定

⑥ルート設定

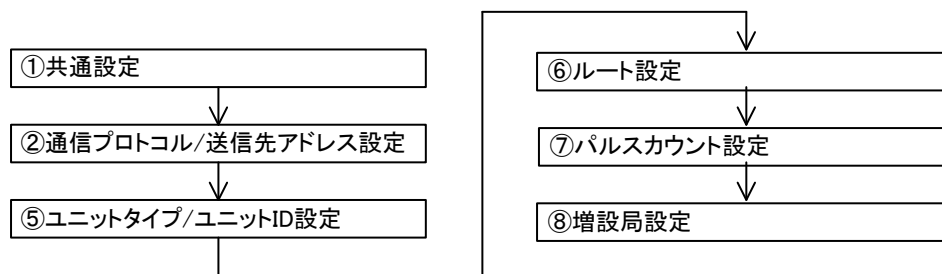
⑦パルスカウント設定

⑧増設局設定

⑨個別設定

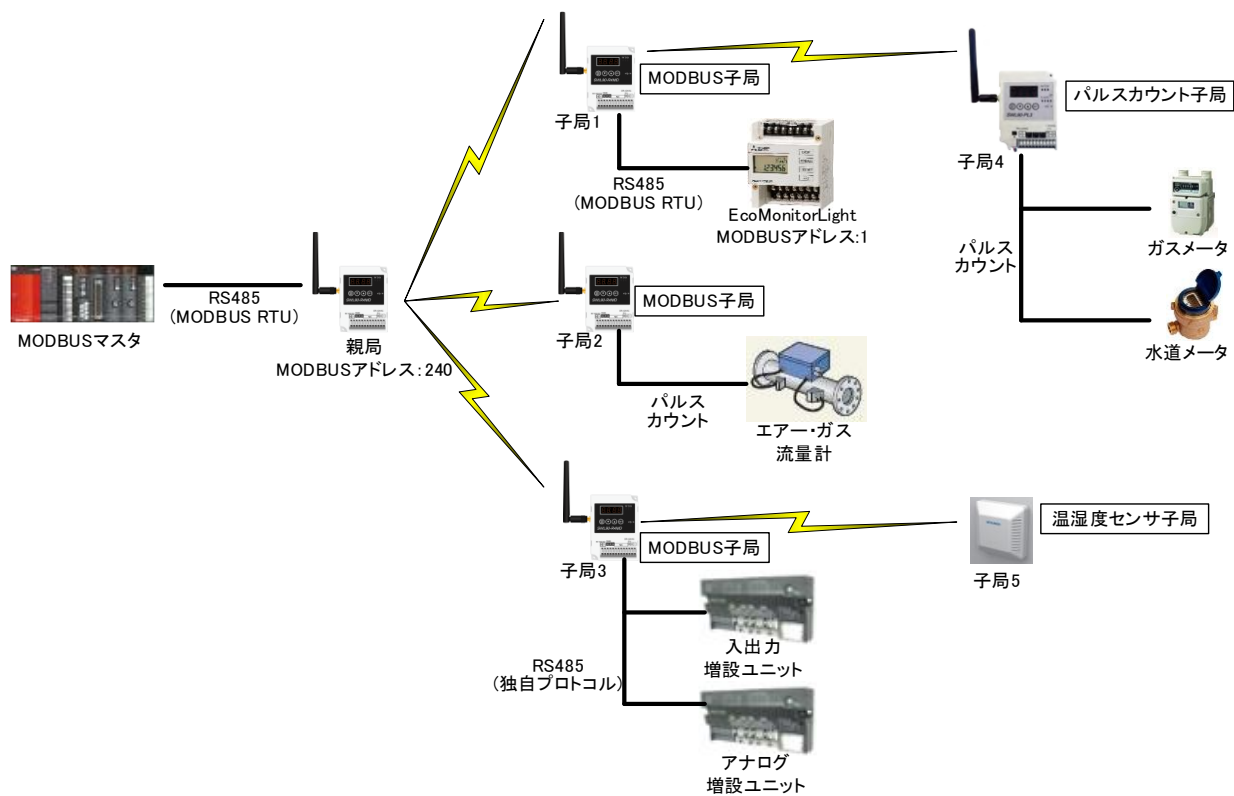
	親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5	子局6
ユニット名		R4MD_1	R4MD_2	R4MD_3	R4MD_4	R4MD_5	R4MD_6
ユニットID	0	1	2	3	4	5	6
ユニットタイプ		SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)
個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定
SERIAL							
ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5	子局6
ルート設定		ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定
パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定
増設局設定		増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定	増設局設定
書き込み時刻							

設定手順



無線ユニットのパラメータ設定を順に行います。

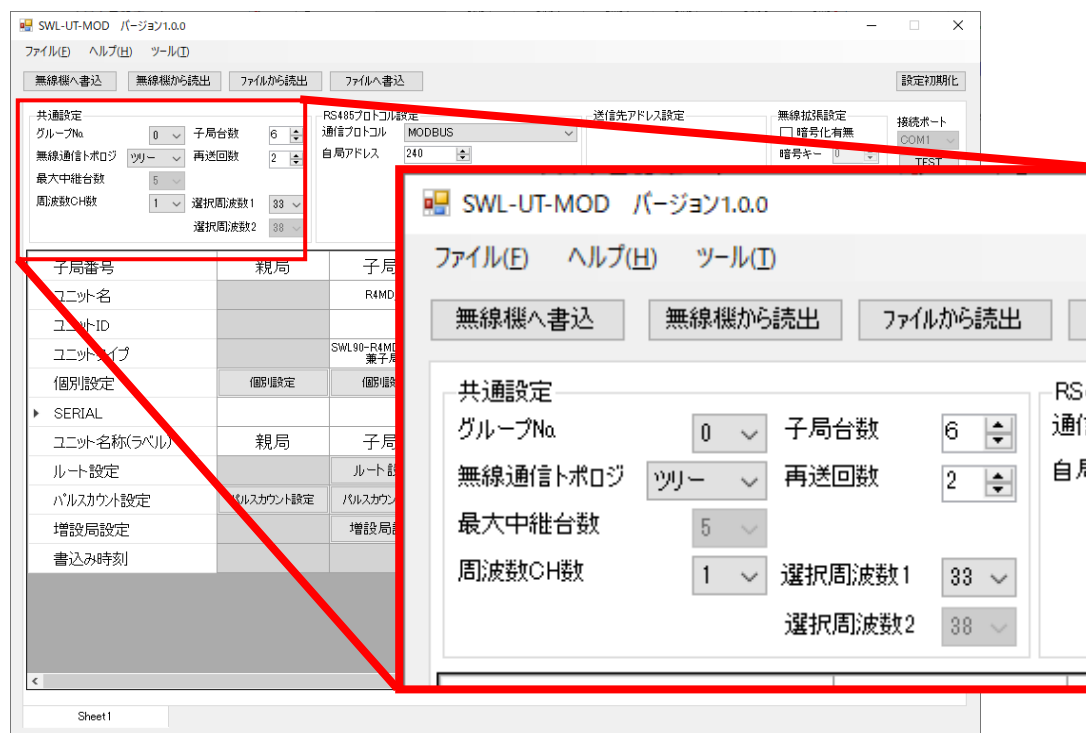
下記構成の設定例を元に設定を行います。



(1)共通設定

無線ユニットに書込む設定データを作成します。

親局、子局の共通設定が一致しなければ通信を行うことができません。



共通設定のパラメータを設定します。

グループ No.: グループ No.を選択します。

同一エリアで複数の無線システムを使用する場合に誤送信、誤受信を防ぎます。

子局台数: 子局台数を選択します。

無線通信トポロジ: 無線通信時の経路構築時に使用する通信構成を設定します。

ツリー設定にて経路を固定することを推奨します。

再送回数: 無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。

最大中継台数: 通信トポロジをメッシュ設定時に可能なパラメータになります。

ユニットの中継段数の範囲を設定できます。

周波数 CH 数: 無線周波数を使用するチャンネル数を選択します。

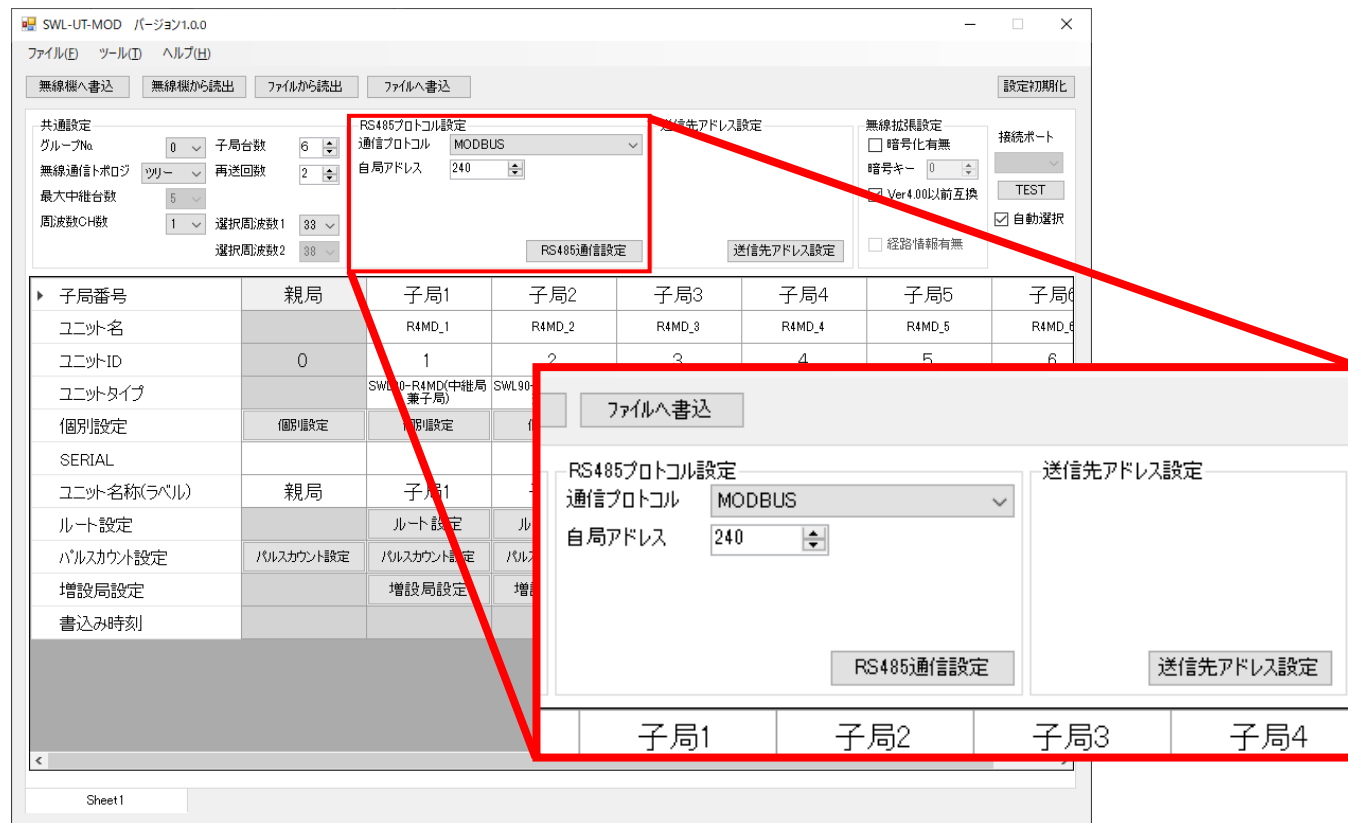
選択周波数 1.2: 選択周波数 1 で通信が安定しない時に、選択周波数 2 で無線通信を行うための周波数を選択します。

(設定例)

名称	設定値	名称	設定値
グループ No	5(任意)	子局台数	5
無線通信トポロジ	ツリー	再送回数	2(任意)
最大中継台数	—	選択周波数 1	30(任意)
周波数 CH 数	2	選択周波数 2	38(任意)

(2)通信プロトコル設定/送信先アドレス設定

MODBUS 通信に関する設定を行います。



ここでは通信プロトコルを MODBUS に設定した場合の設定例を記載いたします。

【RS485 通信設定】

無線ユニットの MODBUS アドレス(=自局アドレス)を設定し、RS485 通信設定を行います。

RS485 通信設定は、上位(シーケンサ)—無線ユニット(親局)、MODBUS 子局1—スレーブ(EcoMonitorLight)間の設定を行います。

(RS485 プロトコル設定 設定例)

名称	設定値
通信プロトコル	MODBUS
自局アドレス	240

名称	設定値
ボーレート	19200
ストップビット	1
パリティ	偶数パリティ
データビット長	8
タイムアウト時間	1.0

【送信先アドレス設定】

無線ユニットに接続した MODBUS 機器の MODBUS アドレスを設定します。

本構成の場合、MODBUS 子局1にスレーブとなる MODBUS アドレス:1 の EcoMonitorLight を接続するため、以下のように設定します。

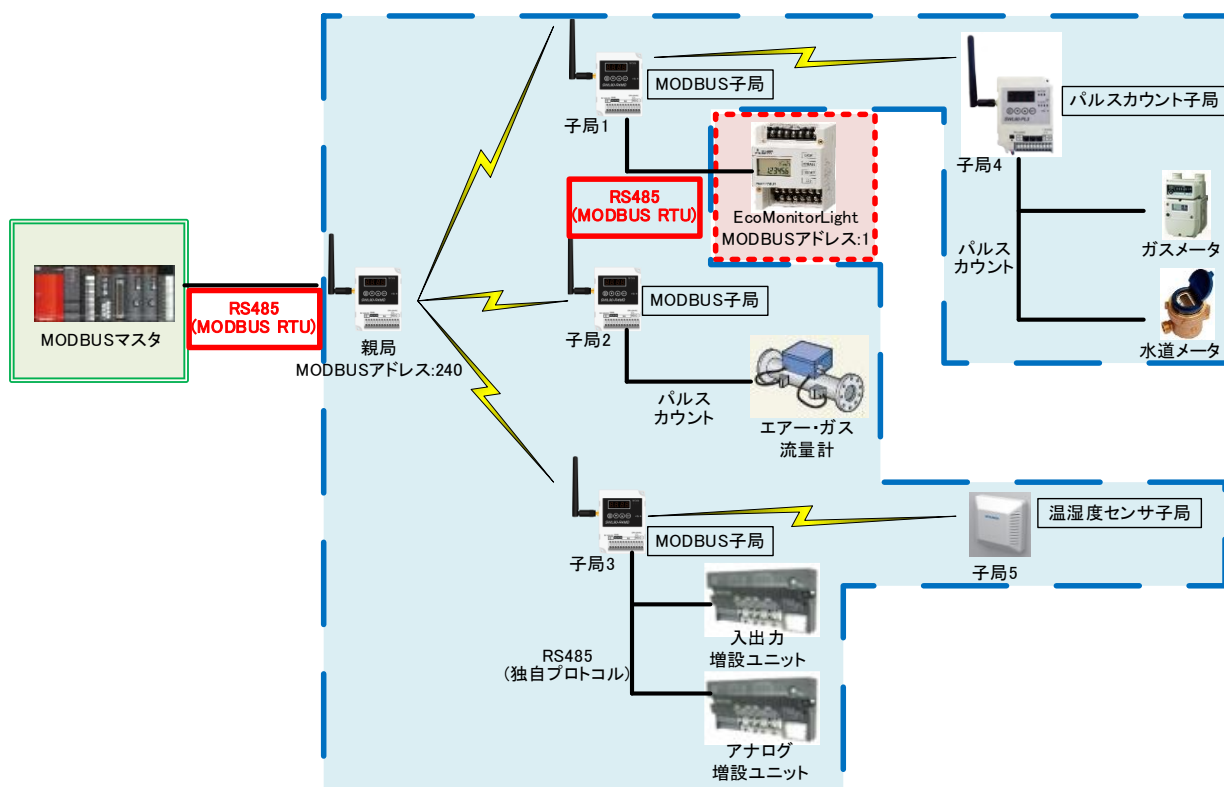
無線 ユニット	ユニット名称 (ラベル)	RS485 スレーブ 台数	RS485スレーブアドレス				
			1台目	2台目	3台目	4台目	5台目
親局		0					
子局 1	子局1	1	1				
子局 2	子局2	0					
子局 3	子局3	0					
子局 4	子局4	0					
子局 5	子局5	0					

以上で RS485 (MODBUS RTU) 通信設定、アドレス設定は完了です。

MODBUSマスタ(=0)

自局アドレス=240

送信先アドレス=1



(3) ユニットタイプ/ユニット ID 設定

無線ユニットタイプ/ユニット ID の設定を行います。

【無線ユニットタイプ】

無線ユニット子局のユニットタイプを選択します。

名称	ユニットタイプ
子局 1	SWL90-R4MD (中継局兼子局)
子局 2	SWL90-R4MD (中継局兼子局)
子局 3	SWL90-R4MD (中継局兼子局)
子局 4	SWL90-PL3 (中継局兼子局)
子局 5	SWL90-TH1 (子局)

【子局ユニット ID】

子局本体のユニット ID は工場出荷時には、シリアル No. 上位 3 桁が設定されています。

子局本体のユニット ID に合わせて設定ユーティリティのユニット ID を記入してください。

工場出荷時に
子局の定格銘板の
「SERIAL」の上 3 桁が
無線ユニットのユニット ID
になります。

定格銘板

920MHz Wireless Unit	
TYPE	SWL90-R4MD
	12/24VDC 1.4W
SERIAL	12300631
SW Ver.	2.00
MADE IN JAPAN	
MITSUBISHI ELECTRIC SYSTEM & SERVICE CO., LTD.	

無線ユニット

子局 1

7 セグメント LED に
「U. 123」が表示される

子局番号	親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5
ユニット名		R4MD_1	R4MD_2	R4MD_3	PL3_1	TH1_1
ユニットID		123	124	125	50	1
▶ ユニットタイプ		SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-PL3(中継局兼子局)	SWL90-TH1(E)(子局)

※各子局の本体に任意のユニット ID (例: 子局 1 ユニット ID = 1、子局 2 ユニット ID = 2 など) を任意の値に入力することも可能です。

(4)ルート設定

無線ユニットの経路設定を行います。

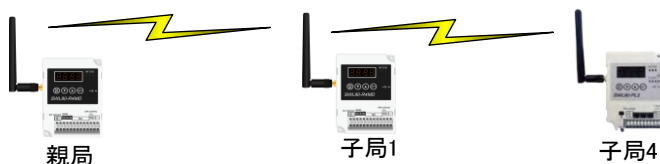
本構成では、中継して無線通信を行う子局 4、子局 5 の設定例を記載します。

The screenshot shows the SWL-UT-MOD software interface. A red box highlights the 'Route Setting' (ルート設定) section for Substation 4 and Substation 5. The interface includes a table for station settings and a detailed routing configuration area. Arrows point from labels '子局4 ルート設定' and '子局5 ルート設定' to the respective settings in the interface.

局2	子局3	子局4	子局5
MD_2	R4MD_3	PL3_1	TH1_1
24	125	50	1
MD(中継局子局)	SWL90-R4MD(中継局兼子局)	SWL90-PL3(中継局兼子局)	SWL90-TH1(EX子局)
設定	個別設定	個別設定	個別設定
局2	子局3	子局4	子局5
設定	ルート設定	ルート設定	ルート設定

【子局 4 ルート設定】

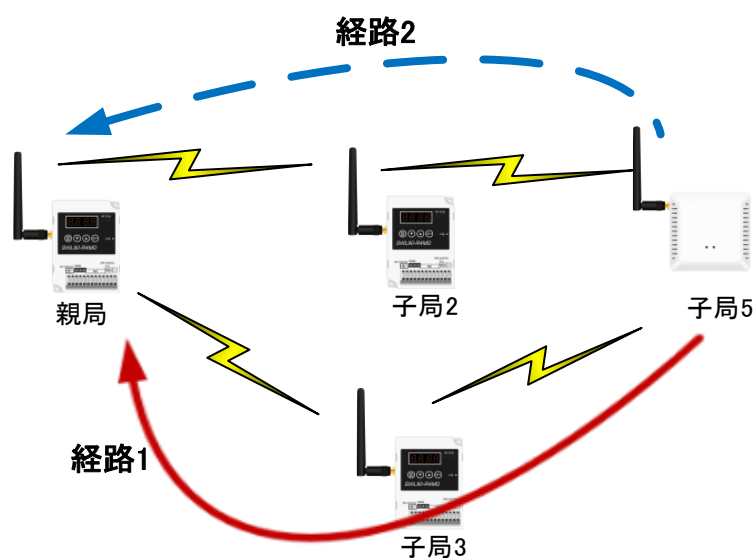
子局4は、子局1を経由して親局へ無線送信するため設定は以下のように設定します。



The screenshot shows the '子局ルート設定 子局4' (Substation Route Setting Substation 4) dialog box. The '中継経路設定数' (Relay Route Setting Count) is set to 1. The '経路1' (Route 1) is set to 1, indicating a single relay through Substation 1. The dialog box includes fields for '中継1' through '中継5' (Relay 1 through Relay 5) and a note: '中継1～5には中継局の子局番号を親局から近い順に設定してください。' (Set the relay station numbers from the main station in order of proximity for relays 1 to 5).

【子局 5 ルート設定】

子局 5 は、子局 3 を経由して親局へ無線送信する経路を基本としますが、万が一子局 3 の通信が途切れた場合に備え、子局 2 を経由して親局へ無線通信する経路を設定します。



子局ルート設定 子局5

中継経路設定数
2

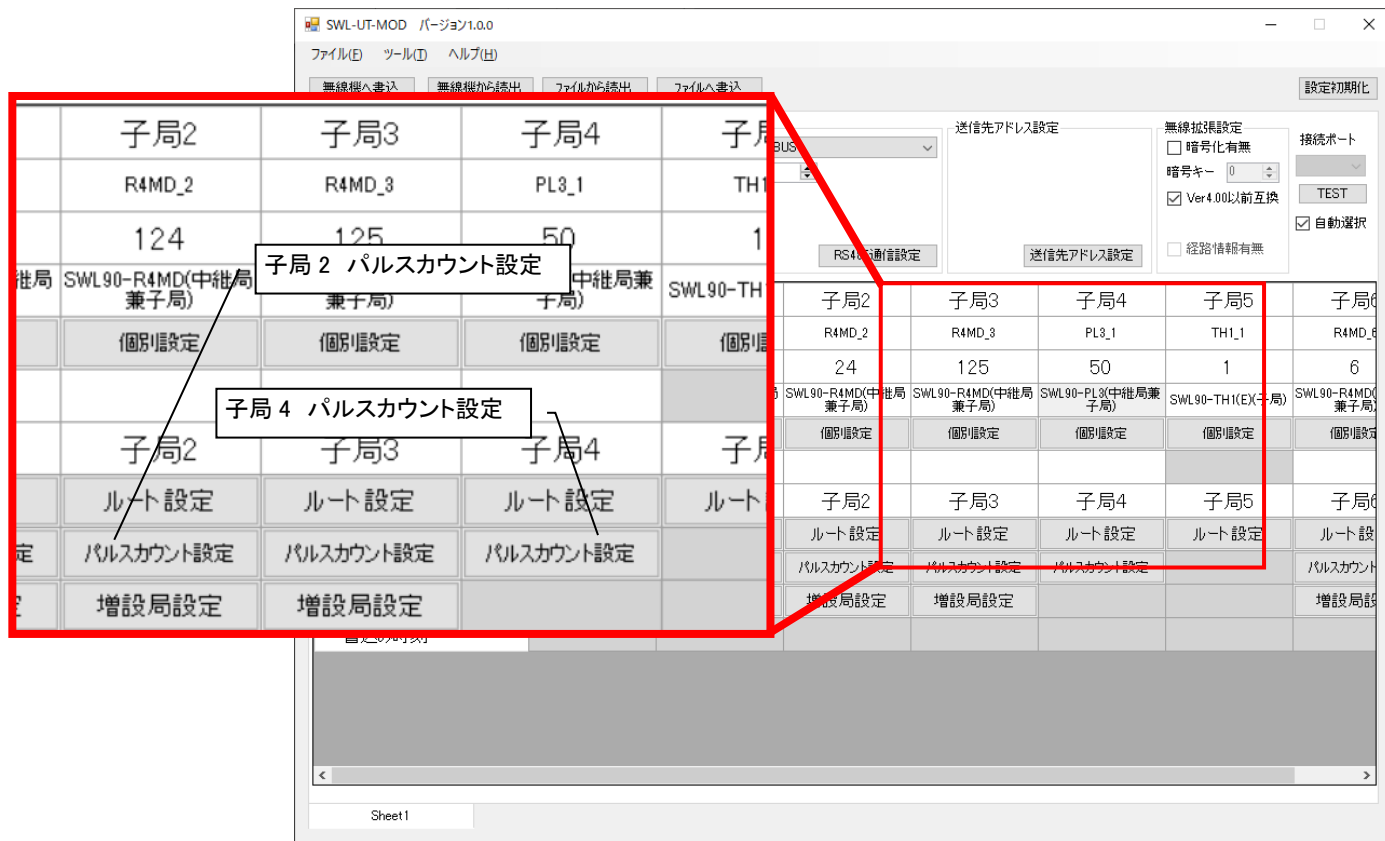
	中継段数	中継1	中継2	中継3	中継4	中継5
経路1	1	3				
経路2	1	2				
経路3	0					

中継1～5には中継局の子局番号を親局から近い順に設定してください。

OK
キャンセル

(5)パルスカウント設定

パルスカウント設定を行います。パルスカウント設定を行わない場合は、入力信号としてご利用できます。
本構成では、パルスカウントを使用する子局 2、子局 4 の設定例を記載します。



【子局 2 パルスカウント設定】

子局 2 は、エアーガス流量計を接続し、パルスカウントを 1CH 使用するため設定は以下のように設定します。

名称	設定値
パルスカウント設定	1CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1

※1: ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

【子局 4 パルスカウント設定】

子局 4 は、ガスメータ、水道メータを接続し

パルスカウントを 2CH 使用するため設定は以下のように設定します。

パルスカウント設定 子局4

パルスカウント使用CH数

2Ch

CH1

CH1動作:

パルスカウント

カウント桁数

8

初期値

0

最小入力パルス幅(Hz)

30

CH2

CH2動作:

パルスカウント

カウント桁数

8

初期値

0

最小入力パルス幅(Hz)

30

CH3

CH3動作:

Ver 1.02以前:無効
Ver 1.10以降:ON/OFF入力

カウント桁数

8

初期値

0

最小入力パルス幅(Hz)

30

名称	設定値
パルスカウント設定	2CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1
CH2 カウント桁数	8 ※1
CH2 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1

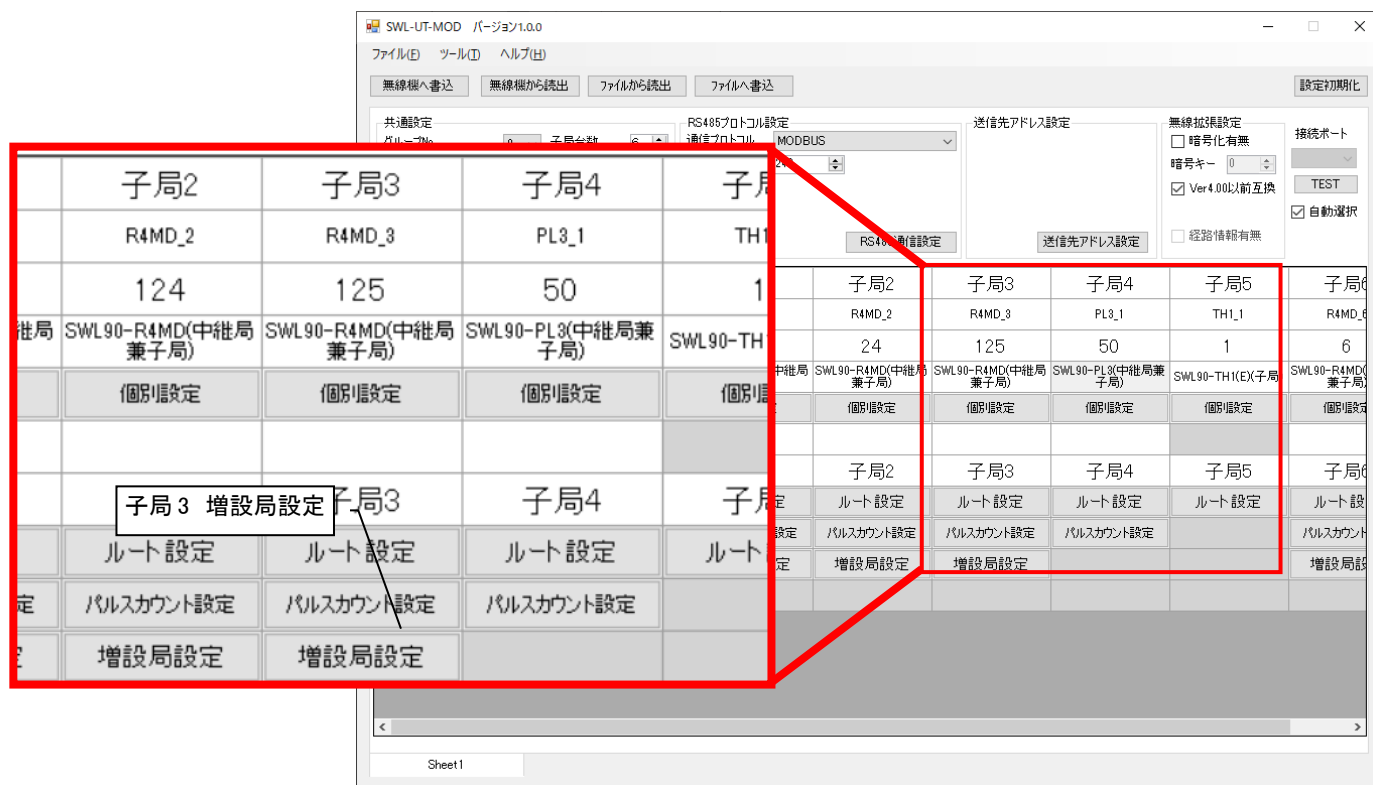
※1:ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

(6)増設局設定

MODBUS 子局の RS485 に接続する増設局設定を行います。

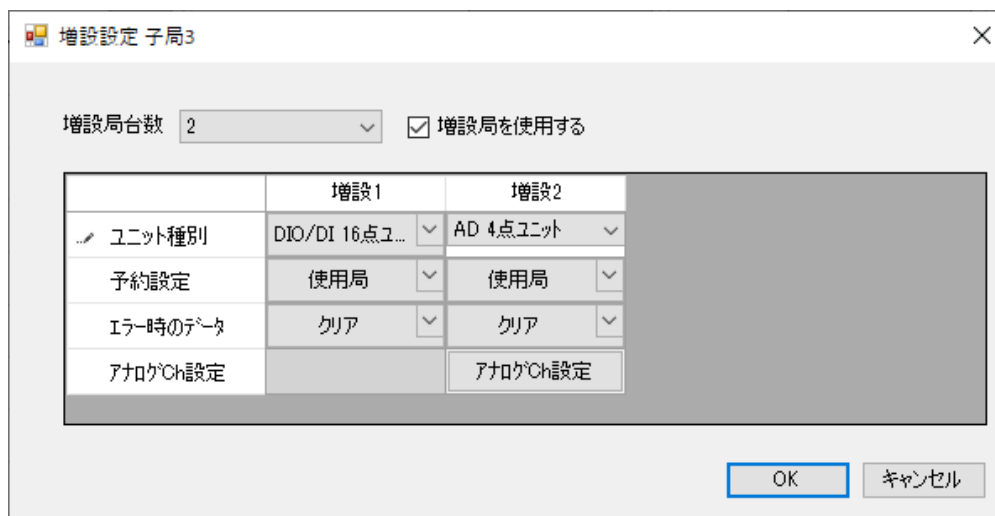
※同一子局に増設ユニット、MODBUS 機器を同時に接続することはできません。

本構成では、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用する子局 3 の設定例を記載します。



【子局 3 増設局設定】

子局 3 は、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用するため設定は以下のように設定します。



アナログ増設ユニットを設定する場合、「アナログ CH 設定」を行う必要があります。
CH1 を使用した場合の設定を以下の通りです。

増設設定 子局3

増設局台数: 2 ☒ 増設局を使用する

	増設1	増設2
▶ ユニット種別	DIO/DI 16点ユ...	AD 4点ユニット
予約設定	使用局	使用局
エラー時のデータ	クリア	クリア
アナログCh設定	アナログCh設定	

OK キャンセル

アナログCh設定 子局3 増設2

	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4
▶ Ch使用	☒	☐	☐	☐
入力レンジ	0-10V	0-10V	0-10V	0-10V
平均方法	サンプリング	サンプリング	サンプリング	サンプリング
平均回数	0	0	0	0

OK キャンセル

以上で必要なパラメータ設定は終了です。
ユニット毎にパラメータ設定が必要な場合は、「個別設定」「無線拡張設定」から設定を行ってください。

3.4.3. 親局に設定データの書き込み

無線ユニット親局に USB を接続して設定データを書込む手順は以下となります。

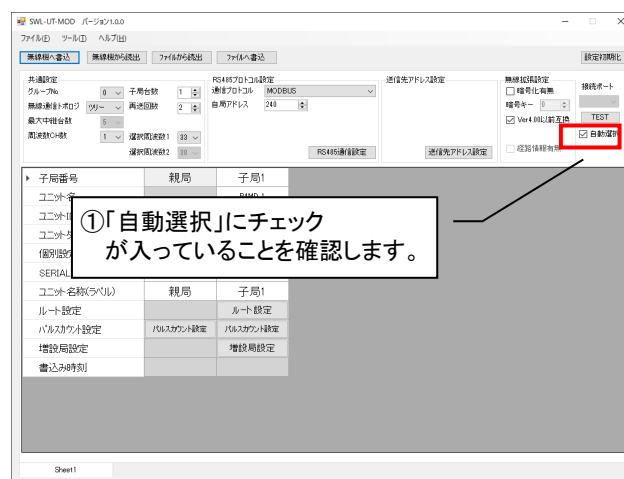
※書き込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書き込み中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

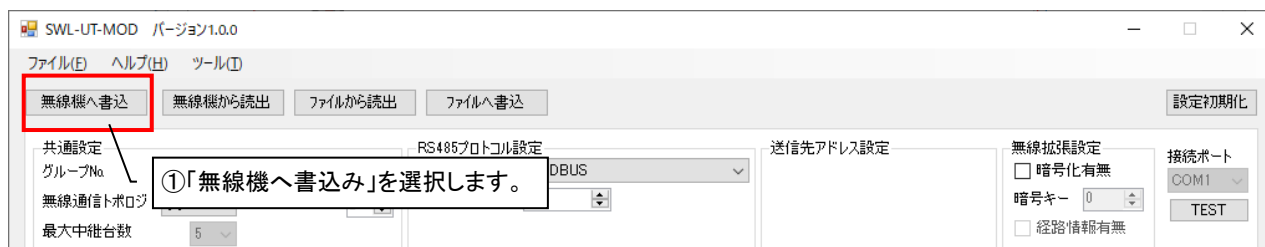
※書き込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1)メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



(2)「無線機へ書き込み」ボタンを選択し、「書き込み選択」画面を表示します。

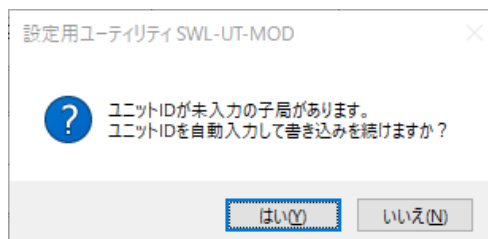


!!! 注意事項 !!!

親局への書き込み時、ユニット ID が入力されていない子局がある場合、下記のようなダイアログが表示されます。

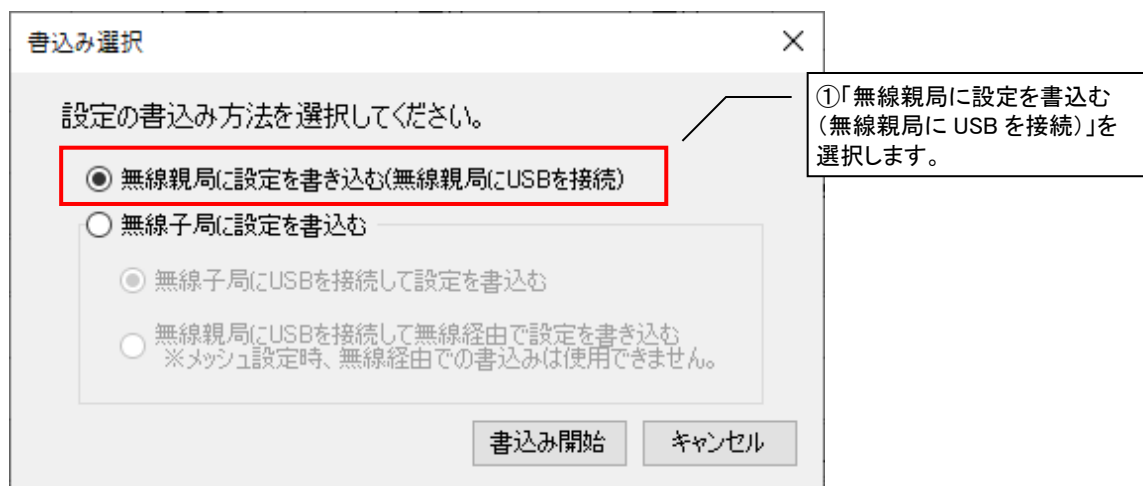
自動で入力する場合は、子局番号がユニット ID になります。また、パラメータ無線配信機能を使用する場合、

子局本体のユニット ID を自動で入力された設定ユーティリティの値に合わせて変更してください。

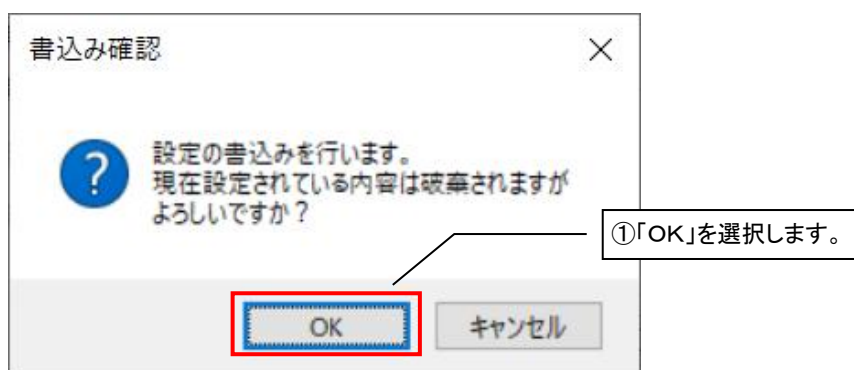


(3) 無線機への書き込み方法を選択します。

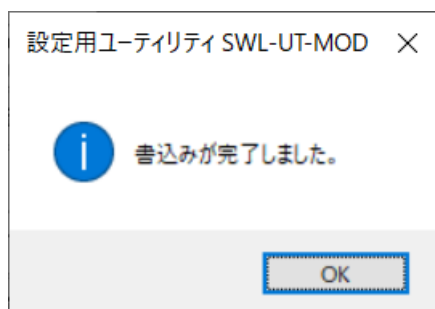
「無線親局に設定を書込む(無線親局に USB を接続)」を選択します。



(4) 書き込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(5) 書き込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



※R4MD(Ver1.00)、PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、書き込みを行ってください。

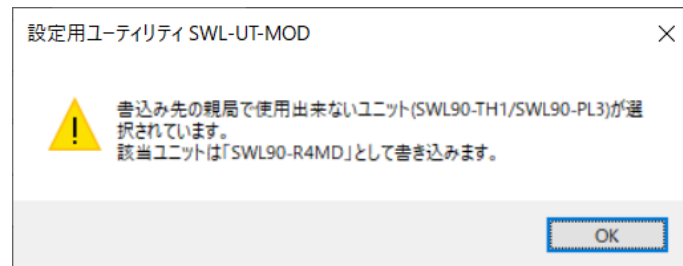
USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながらの電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

親局(Ver1.00)への書き込み時、R4MD(Ver1.00)に登録できない PL3 または TH1 子局がある場合、

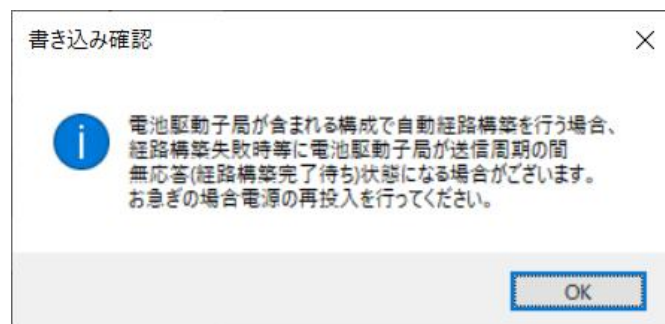
下記のようなダイアログが表示されます。

該当ユニットは「SWL90-R4MD」として書き込まれます。



!!! 注意事項 !!!

TH1、PL3 の電池駆動子局が含まれる構成で親局に書き込みを行う場合、下記のダイアログが表示されます。



3.4.4. USB 接続による子局書込み

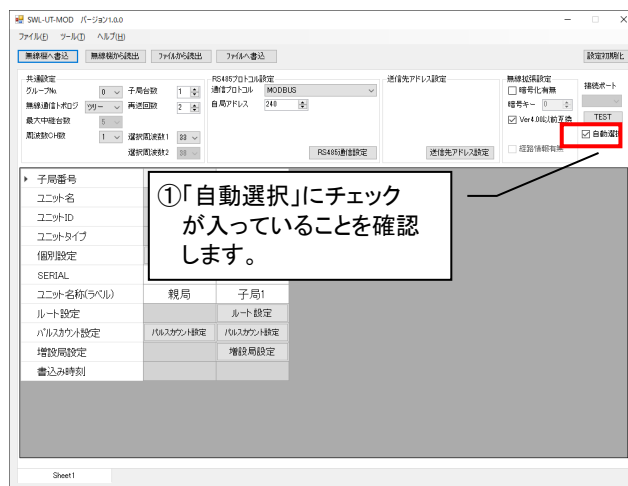
USB 接続による子局の書込みは以下手順で行います。

※書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書込み中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※書込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

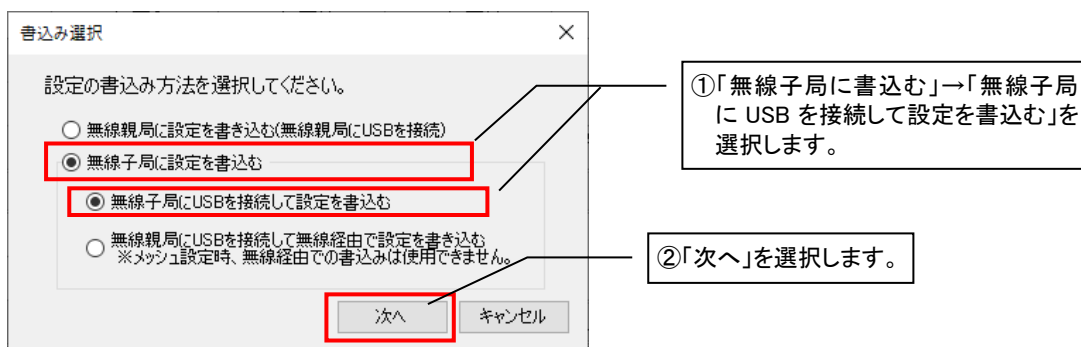
- (1) メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。
パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



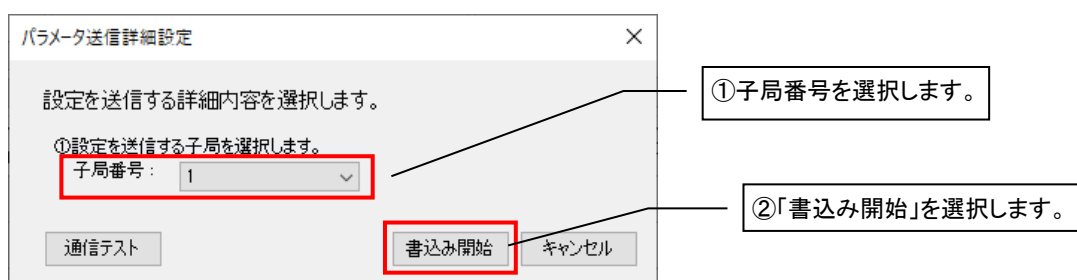
- (2) 「無線機へ書込み」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



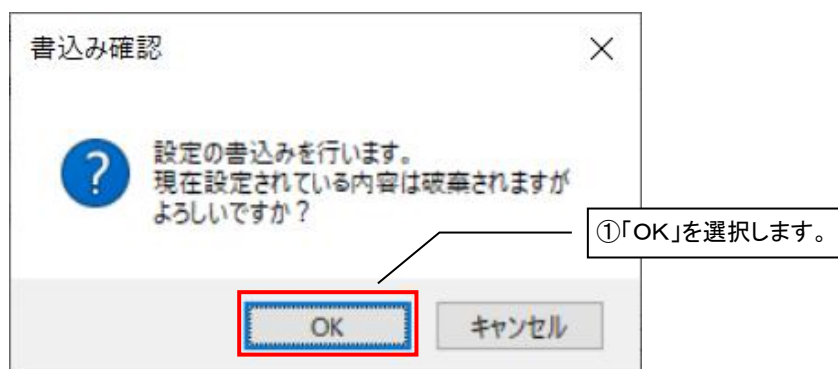
- (3) 「無線子局に設定を書込む」と「無線子局に USB を接続して設定を書込む」を選択し「次へ」ボタンを押す。



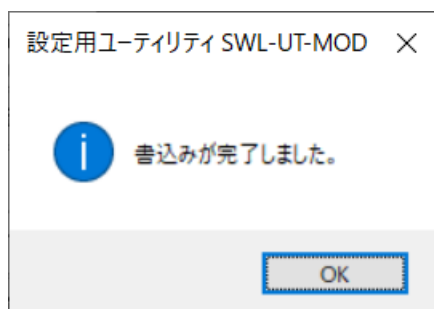
(4) 子局番号を選択し、「書込み開始」ボタンを選択します。



(5) 書込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(6) 書込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



※R4MD(Ver1.00)、PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、書込みを行ってください。

USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

3.4.5. 子局通信確認

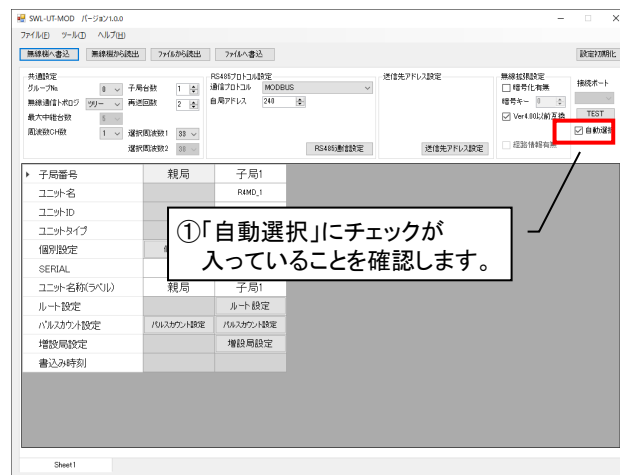
無線子局との接続確認を以下の手順で行います。

※親局、子局へ設定データ書込後に実施してください。

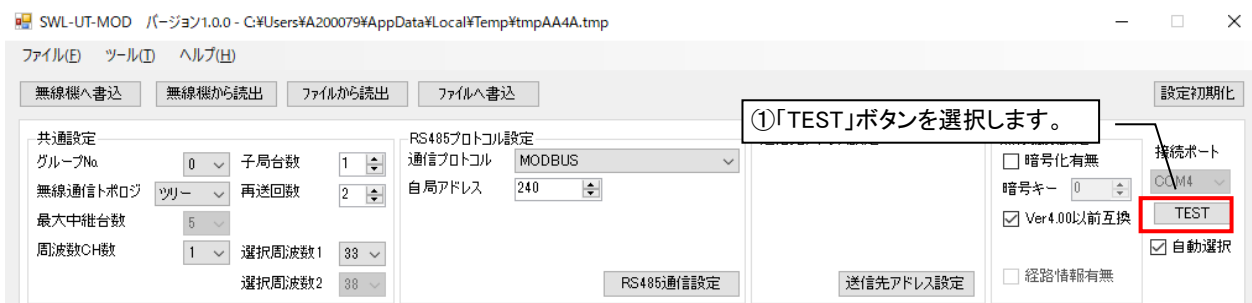
※SWL90-PL3(電池駆動局)、SWL90-TH1(電池駆動、外部電源局)への通信テストは行えません

(1)メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。

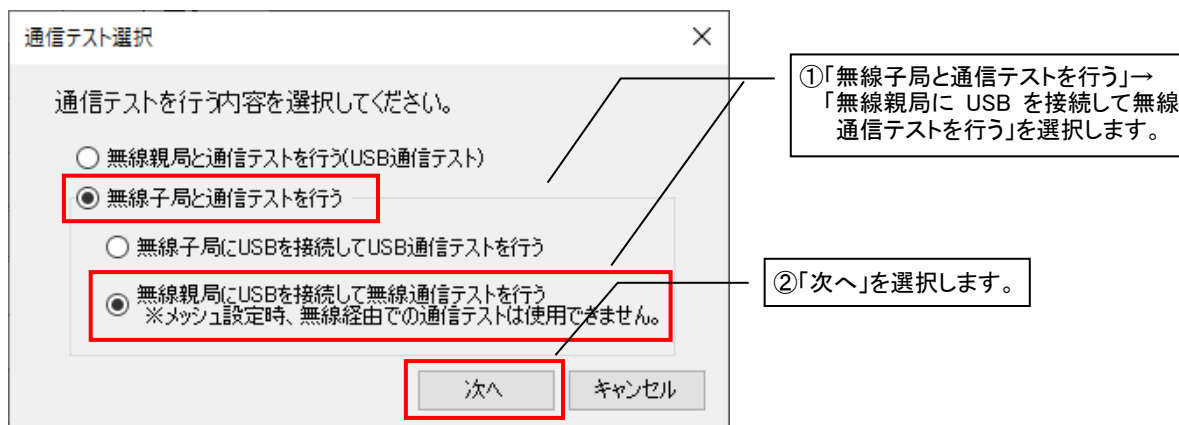


(2)「TEST」ボタンを選択し、「通信テスト選択」ダイアログを表示します。



(3)「通信テスト選択」ダイアログが表示されます。

「無線子局と通信テストを行う」を選択し、「無線親局に USB を接続して無線通信テストを行う」を選択します。



(4) 子局番号と無線パラメータを選択し、「テスト開始」を選択してください。

無線通信確認詳細設定

無線で通信テストを行う詳細内容を選択します。

①通信確認を行う子局を選択します。

子局番号: 1

②通信確認を行う無線パラメータを選択します。

周波数チャンネル: 33
グループ設定: 0
通信トポロジ: ツリー

※無線ユニットがテストモードの場合、無線配信機能は使用できません。
※Ver4.00より前のユニットに対しては、無線配信機能は使用できません。
※Ver4.10より前のユニットはTH1/PL3への無線配信はできません。
※無線配信の対象に電池駆動子局が含まれる場合、送信周期以上の配信時間がかかります。
※無線配信の対象に電池駆動子局が含まれる場合、配信失敗時等に無線ユニットが、設定されている送信周期の間、無応答(パラメータ配信待ち)状態になる場合がございます。
お急ぎの場合は中継兼子局から電源の再投入を行ってください。

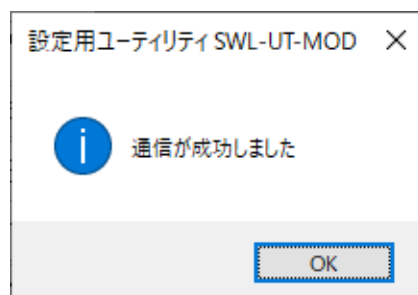
③テスト開始を選択します。

テスト開始 キャンセル

注意: 無線通信(テスト)するには親局と子局の無線パラメータ(周波数、グループ、通信トポロジ)を一致させる必要があります。このとき、周波数は選択周波数1の周波数を選択してください。



(5) 正常に完了した場合、以下のダイアログが表示されます。



3.4.6. 無線配信による子局書込み

親局に USB を接続し、無線経由で子局への書込みが可能です。

書込み手順は次ページ(1)からご参照ください。

※書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書込み中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※書込み中は、通常動作が一時停止し、再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

※親局に設定データ書込後に実施してください。

※以下の場合は無線書込みが使用できません。USB 経由で書込みを行ってください。

- ・通信トポロジが「メッシュ」の場合
- ・ユニットタイプを変更する場合(例: SWL90-PL3(子局)を SWL90-PL3(中継兼子局)に変更する)
- ・電池子局を含む構成で通信の経路を変更する場合
- ・電池子局を含む構成で送信周期を変更する場合

※電池駆動子局を含む構成でパラメータ配信に失敗した場合、子局が応答待ちの状態となり

通常動作、パラメータ配信が行えません。

応答待ち状態は子局の無線送信周期経過後、自動で復旧しますが

お急ぎの場合は中継兼子局から順番に電源を再投入してください。

無線書込みが使用可能なユニットの組み合わせは以下のとおりです。

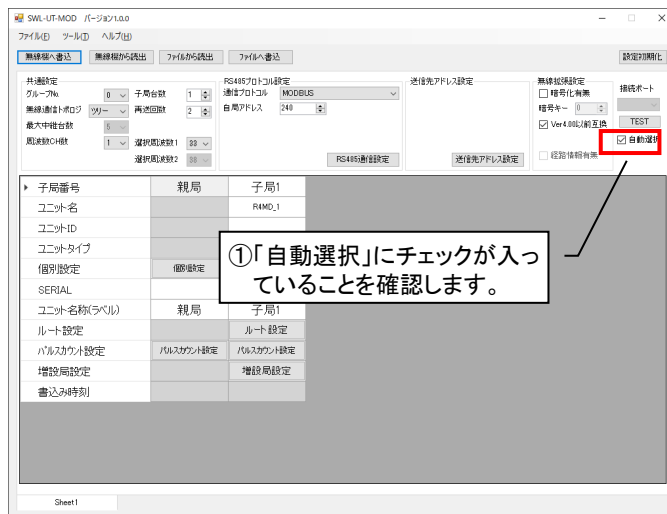
		無線パラメータ配信対象ユニット									
		入出力子局 [SWL90-R4MD]					温湿度センサ [SWL90-TH1 (E)]			パルスカウント子局 [SWL90-PL3]	
		Ver 4.1	Ver 4.0*	Ver 3.**	Ver 2.**	Ver 1.**	Ver 4.1	Ver 2.**	Ver 1.**	Ver 4.1	Ver 1.**
親局 [SWL90-R4MD]	Ver 4.1	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×
	Ver 4.0*	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver 3.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver 2.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver 1.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(1)メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。

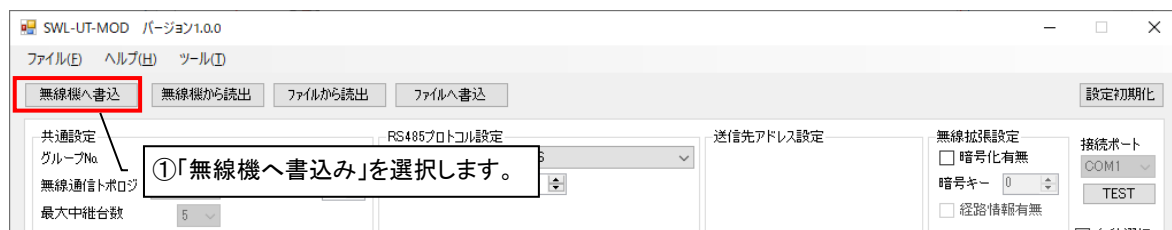
パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



USB
接続

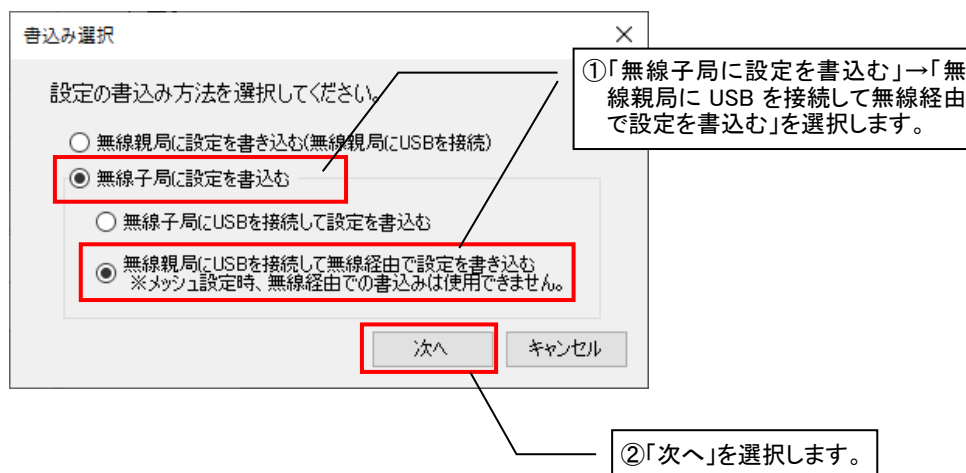


(2)「無線機へ書込み」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



(3) 書込み選択ダイアログが表示されます。

「無線子局に設定を書込む」を選択し、「無線親局に USB を接続して無線経由で設定を書込む」を選択します。



(4) 子局番号と無線パラメータを選択し、「書き込み開始」を選択してください。

無線パラメータ送信詳細設定

無線で設定を送信する詳細内容を選択します。

①設定を送信する子局を選択します。
設定を送信する子局番号を設定してください。
複数の子局を送信する場合、「1.3.6」のようにカンマで区切るか
「1-6」のようにハイフンで範囲を指定してください。

子局番号:

②設定を送信する無線パラメータを選択します。

周波数チャンネル: 33
グループ設定: 0
通信トポロジ: ツリー

※無線ユニットがテストモードの場合、無線配信機能は使用できません。
※Ver4.00より前のユニットに対しては、無線配信機能は使用できません。
※Ver4.10より前のユニットはTH1/PL3への無線配信はできません。
※無線配信の対象に電池駆動子局が含まれる場合、送信周期以上の配信時間がかかります。
※無線配信の対象に電池駆動子局が含まれる場合、配信失敗時等に無線ユニットが、
設定されている送信周期の間、無応答(パラメータ配信待ち)状態になる場合がございます。
お急ぎの場合は中継兼子局から電源の再投入を行ってください。

通信テスト 書き込み開始 キャンセル

①設定を送信する子局番号を選択します。

②現在、書き込み対象子局に設定されている無線パラメータと一時的に一致させます。

③書き込み開始を選択します。

無線子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

SWL-UT-MOD バージョン1.0.0

ファイル(F) ヘルプ(H) ツール(T)

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出

共通設定

グループNo: 0 子局台数: 1
無線通信トポロジ: ツリー 再送回数: 2
最大中継台数: 5
周波数CH数: 1 選択周波数1: 33 選択周波数2: 33

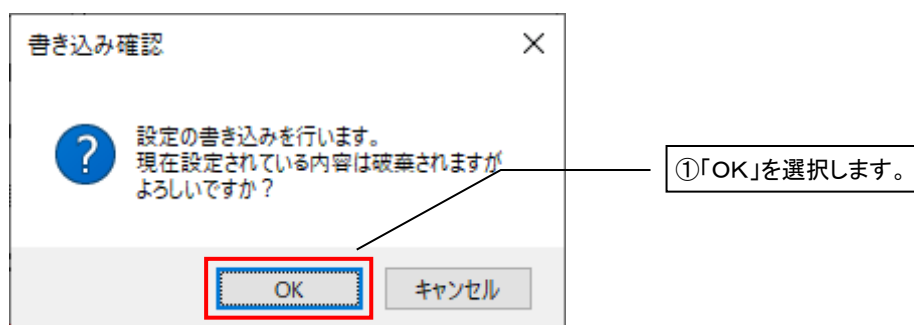
RS485プロトコル設定
通信プロトコル: MODBUS
自局アドレス: 240

子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

無線送信するには親局と子局の無線パラメータ(周波数、グループ、通信トポロジ)を一致させる必要があります。
このとき、周波数は選択周波数1の周波数を選択してください。

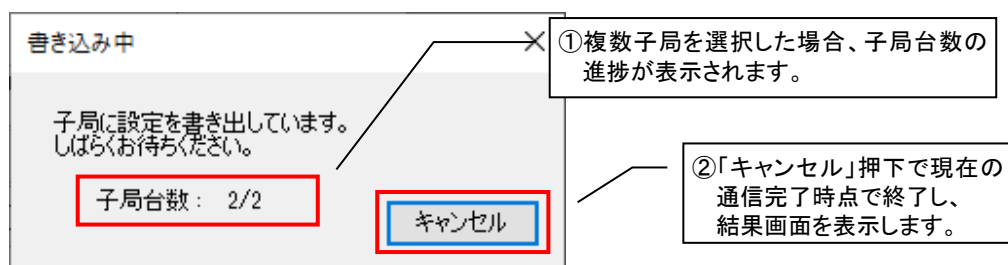


(5)「OK」を選択してください。



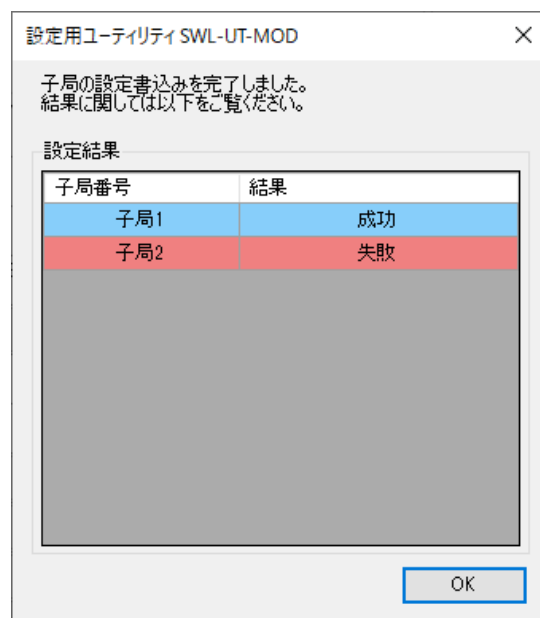
(6) 設定の書き込みが開始します。

設定書き込み中は下記のように進捗が表示されますので、しばらくお待ちください。



(7) 設定完了後、以下のような結果画面を表示します。

青: 成功、赤: 失敗、黄: 中断



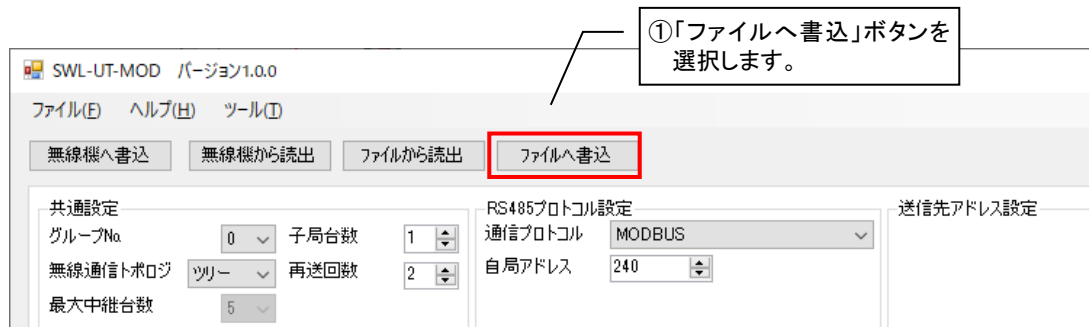
3.4.7. 設定ファイル保存

無線ユニットに書込んだ設定内容をパソコンに csv ファイルを保存する手順は以下になります。

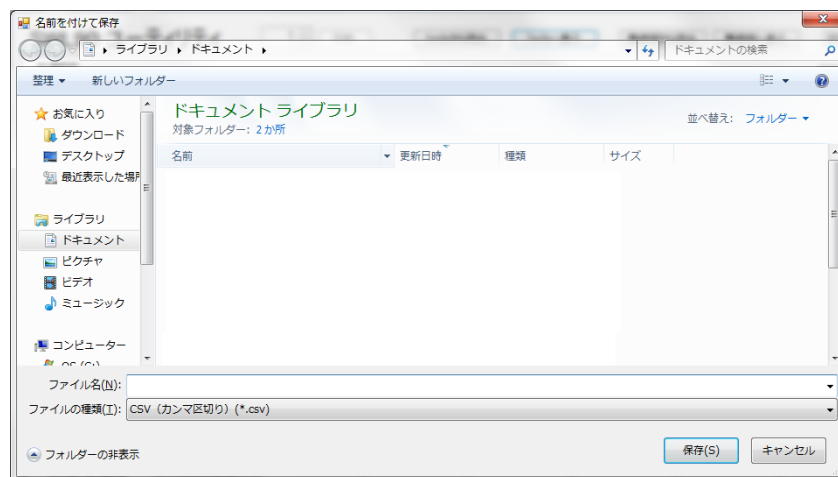
※保存した CSV ファイルを編集すると、設定ユーティリティでの読出しができなくなります。

設定を編集する場合は、必ず設定ユーティリティに読出してから編集してください。

(1) 画面上部の「ファイルへ書込」ボタンを選択します。



(2) ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンを選択してください。

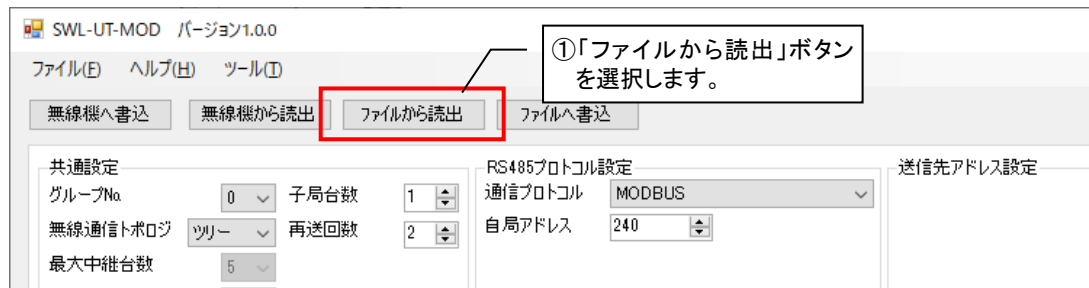


3.4.8. 保存した設定ファイル読出し

パソコンに保存した csv ファイルの読出しは以下の手順になります。

※旧バージョンの csv ファイルを読出すと、設定内容が補正または読み飛ばされる可能性があります。

(1)画面上部の「ファイルから読出」ボタンを選択します。



(2)ファイル読出しダイアログが表示されますので、読出すファイルを選択し、「開く」ボタンを選択してください。



3.4.9. 親局から設定データ読出し

無線ユニットの設定データをパソコンへ読出す場合、以下手順で行います。

※読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。

※読出し中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

※親局無線ユニットのバージョンが Ver4.00 以降のユニットは、子局パラメータも一括で読出しができます。

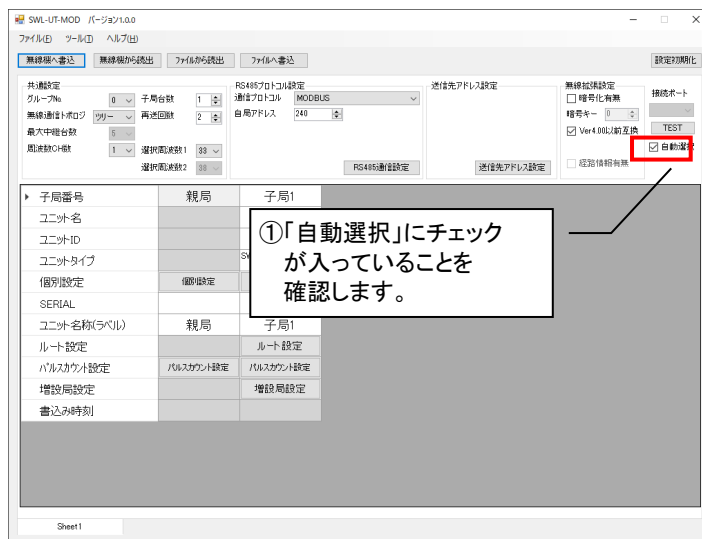
※親局のパラメータを設定ユーティリティ経由ではなく、ユニット本体のボタン操作で書込んだ場合、

親局から全てのパラメータを読出すことができません。

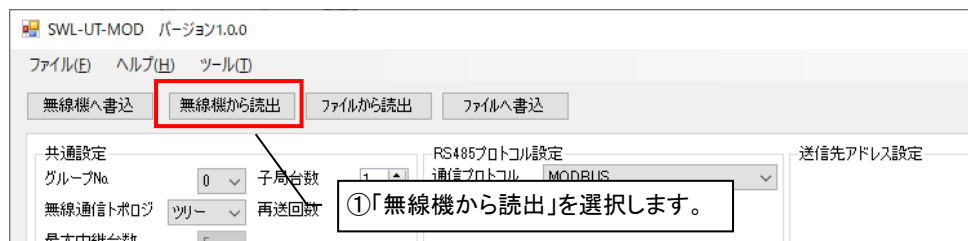
その場合は、親局と子局全台からUSB接続にて読出しを行ってください。

(1) メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。

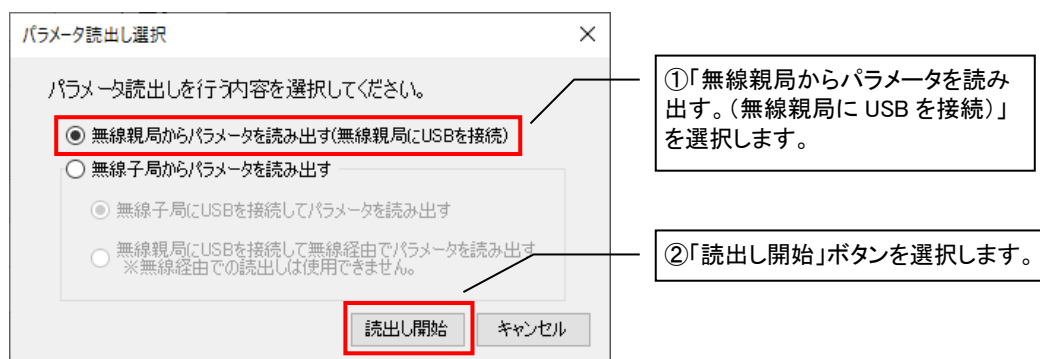


(2) 「無線機から読出し」ボタンを選択し、「読出し選択」画面を表示します。

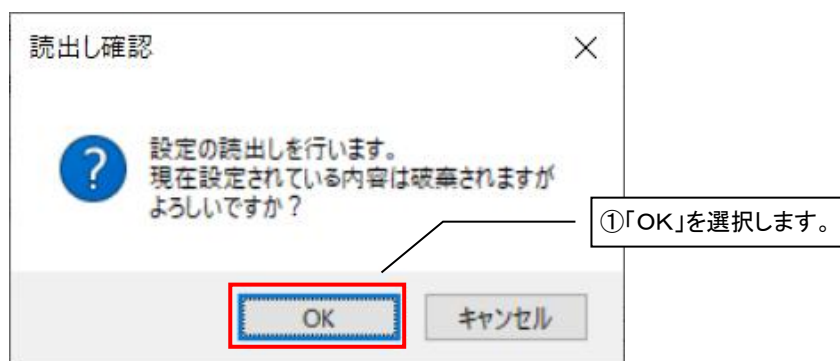


(3)無線機からの読出し方法を選択します。

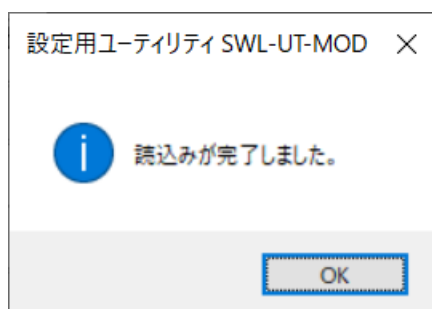
「無線親局からパラメータを読出す(無線親局に USB を接続)」を選択し、「読出し開始」ボタンを押します。



(4)読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(5)読出し完了後、以下のダイアログが表示されます。



※R4MD(Ver1.00)、PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、書込みを行ってください。

USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を読出す為には、親局と子局の双方から設定データを読出す必要があります。(子局が複数存在する場合は各子局から読出す必要があります。)

3.4.10. 子局から設定データ読出し

無線ユニットに設定されている設定内容を設定ユーティリティ上に読出しを行う場合、以下手順で行います。

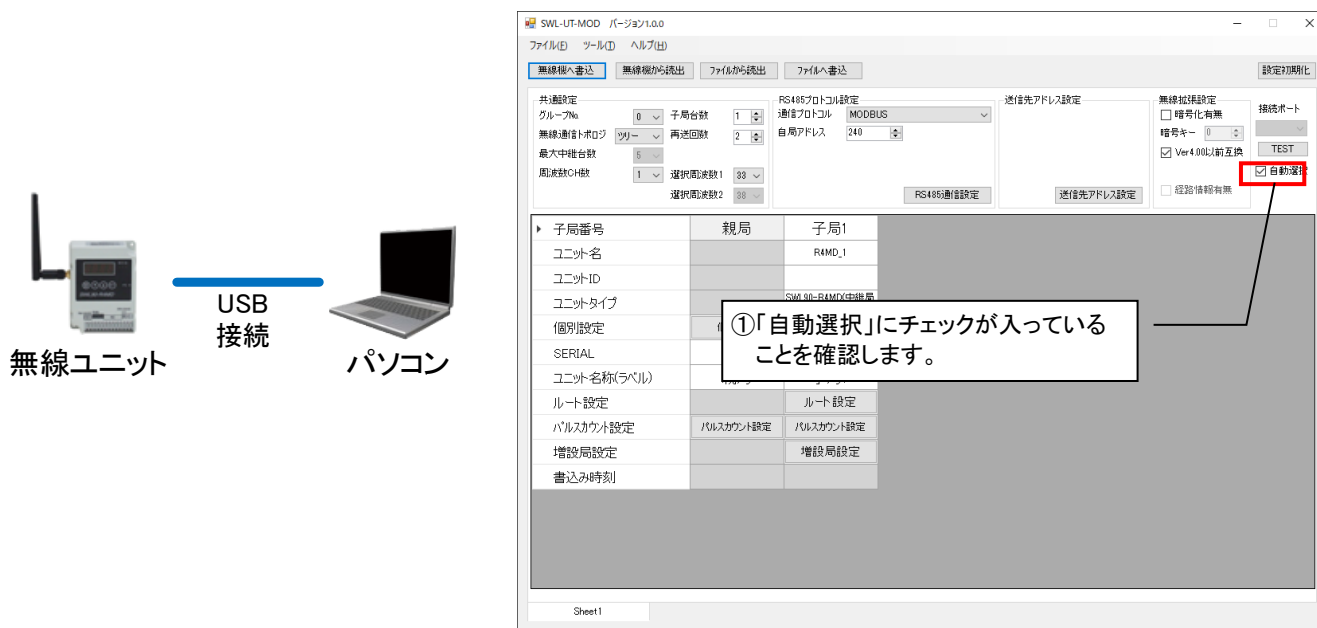
※読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。

※読出し中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

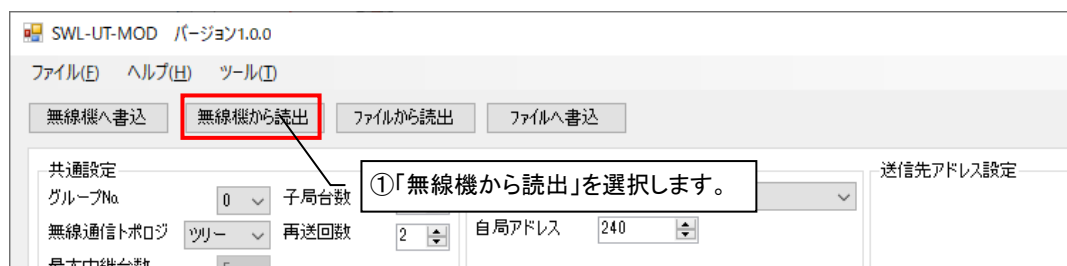
※読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1)メイン画面の右上の「自動選択」にチェックが入っていることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



(2)「無線機から読出」ボタンを選択し、「読出し選択」画面を表示します。



(3)パラメータ読出し選択ダイアログが表示されます。

「無線子局からパラメータを読み出す」と「無線子局に USB を接続してパラメータを読み出す」を選択します。

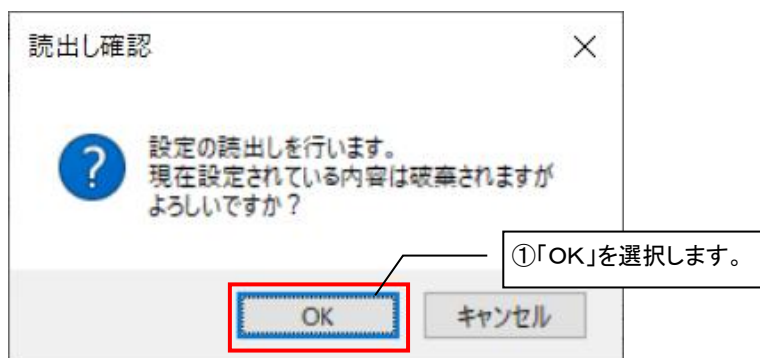
(4) 子局に無線親局経由でパラメータを読み出す場合、下記画面が表示されます。

読み出しを実行する場合は「読み出し開始」ボタン、読み出しを中止する場合は、「キャンセル」ボタンを選択してください。

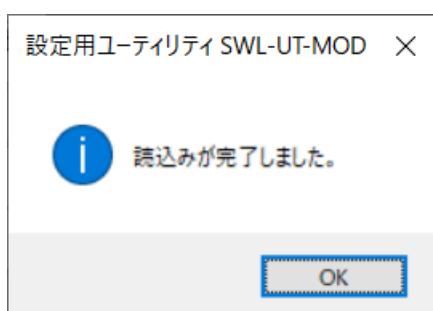
※R4MD(Ver1.00)、PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、書込みを行ってください。

USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

(5) 読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択します。

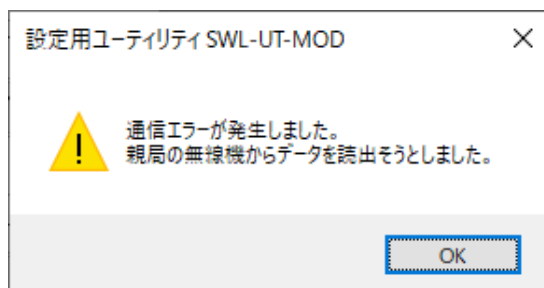


(6) 設定の読出しが正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。



!!! 注意事項 !!!

子局から設定データを読出す際 USB を親局に接続して行くと以下のダイアログが表示されます。



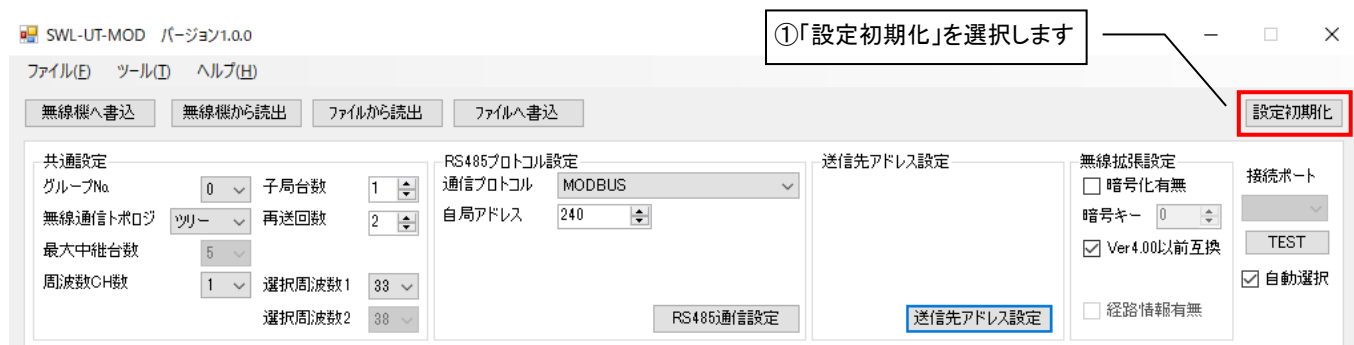
!!! 注意事項 !!!

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を読出す為には、親局と子局の双方から設定データを読出す必要があります。(子局が複数存在する場合は各子局から読出す必要があります。)

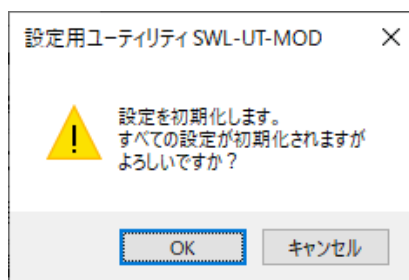
3.4.11. 設定ユーティリティの設定内容初期化

設定ユーティリティに設定した設定データを初期化する場合、以下手順で行います。

(1) 設定初期化を選択します。



(2) 「OK」を選択すると、設定ユーティリティで設定したデータが初期化されます。

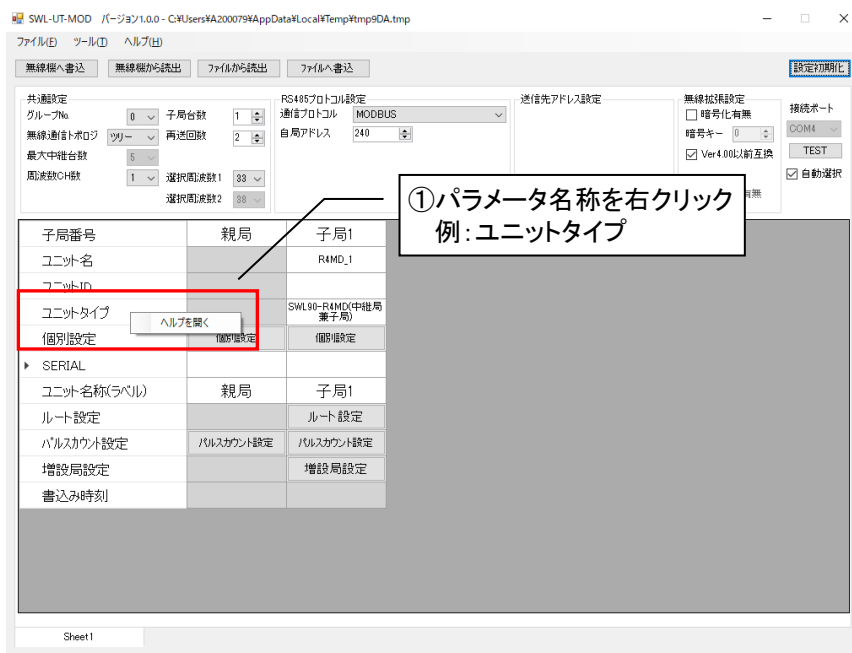


3.4.12. ヘルプ機能

メイン画面でパラメータ名称を右選択することで、ヘルプ画面を開くことができます。
パラメータの詳細説明を参照でき、マニュアルレスでのパラメータ設定が可能になります。

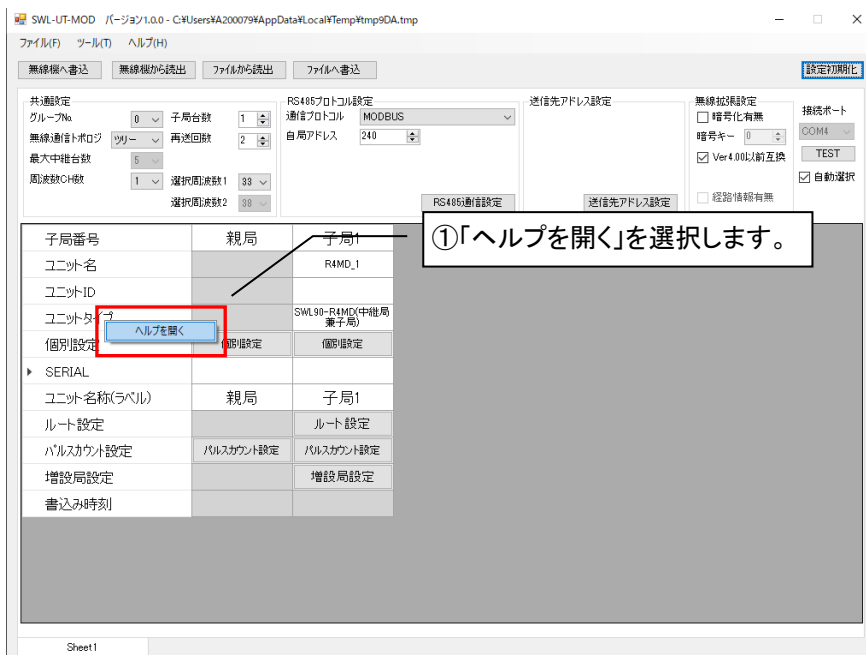
ヘルプウィンドウを開く手順

(1)パラメータ名称を右クリックします。

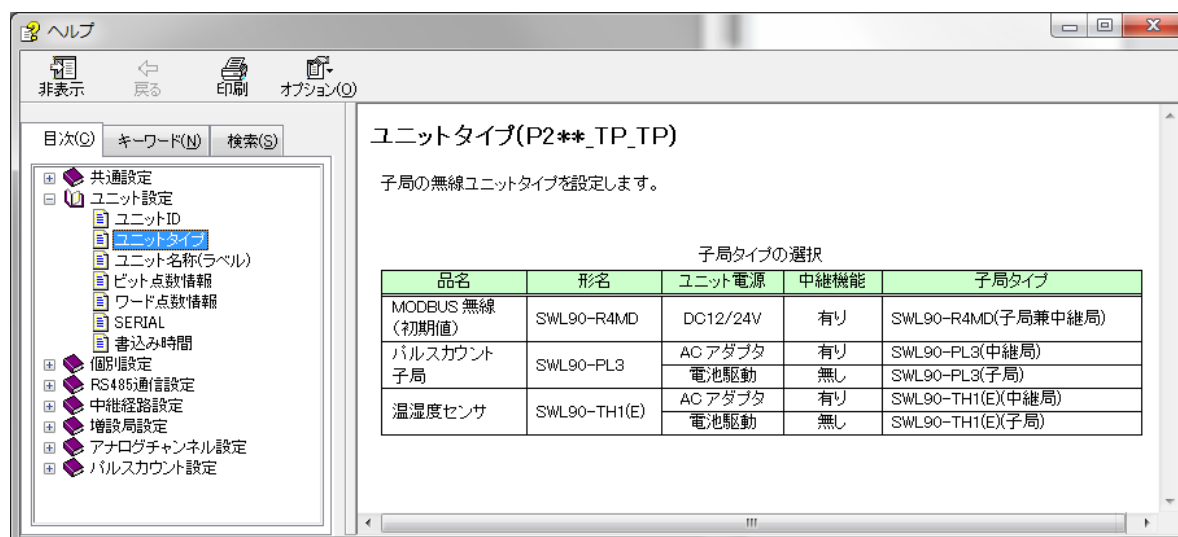


※一部のパラメータはヘルプを表示できません。

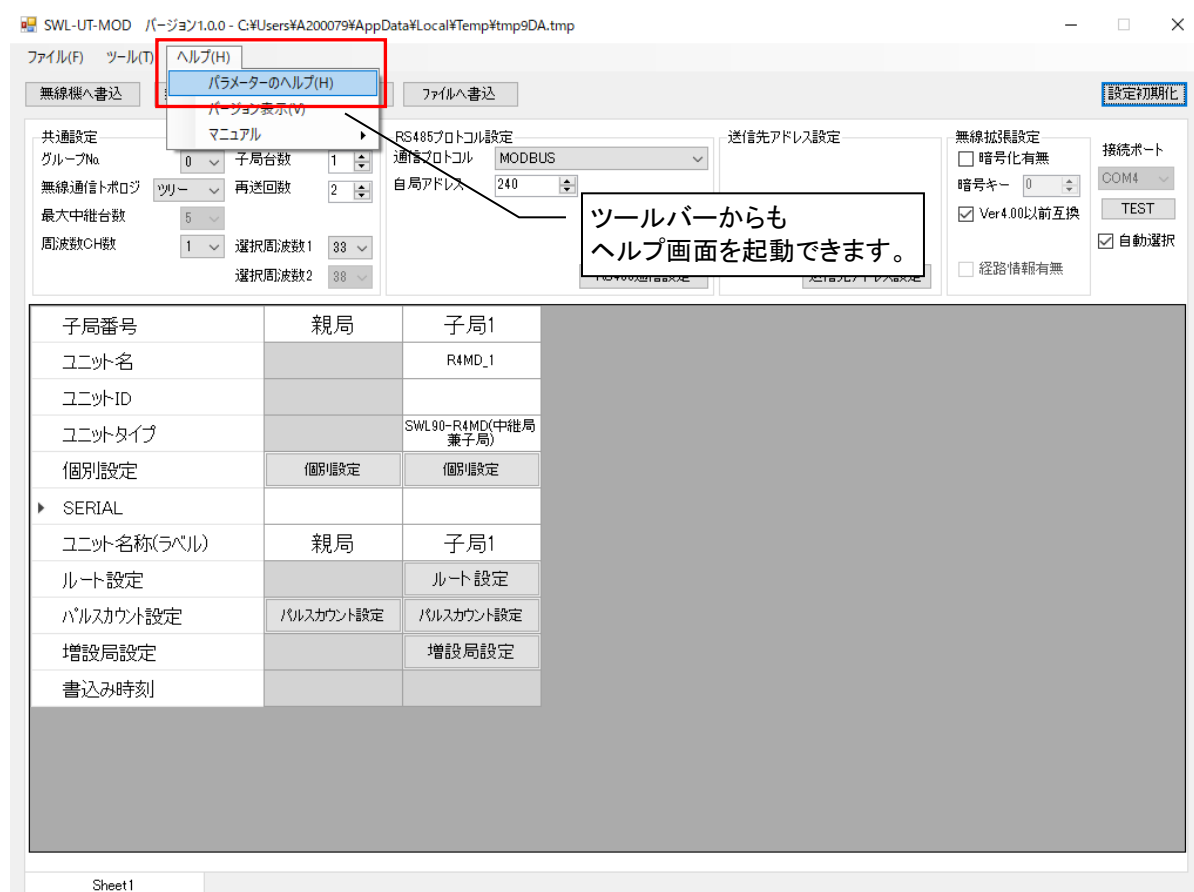
(2)「ヘルプを開く」を選択します。



(3)ヘルプウィンドウが開きパラメータの詳細を参照できます。



【補足】



第 4 章

第4章 設定ユーティリティ [Ethernet タイプ]

4. 1. 画面一覧	4-2
4. 2. 画面詳細	4-3
4. 3. 使用手順	4-35
4. 4. 使用手順詳細（親局 ETMC 簡易画面）	4-41
4. 5. 使用手順詳細（親局 ETMC 詳細画面）	4-102
4. 6. 使用手順詳細（BLX ゲートウェイモード）	4-142

4.1. 画面一覧

設定ユーティリティの画面は次の通りです。

No.	画面名称	概要	参照 項
1	メイン画面	無線パラメータ設定、ファイルの保存/読出し、無線ユニットパラメータの書込/読込を行うことができます。	4.2.2
2	Ethernet 設定画面	Ethernet 通信で使用する設定を行う画面になります。	4.2.6
3	ルート設定画面	無線ユニットの通信経路を設定する画面になります。	4.2.9
4	パルスカウント設定画面	無線ユニットのパルスカウントの使用有無、パルスカウント仕様を設定する画面になります。	4.2.11
5	増設ユニット設定画面	無線ユニットの増設ユニットの使用有無、増設ユニット仕様を設定する画面になります。	4.2.12
6	Bluetooth®デバイス設定画面	接続するデバイス名と台数の選択する画面になります。	4.2.14
7	Bluetooth スキャン画面	PC ツール周辺の Bluetooth デバイスをスキャンする画面になります。	4.2.15
8	Bluetooth 詳細設定画面	Bluetooth 通信の詳細設定を行う画面になります。	4.2.16
9	個別設定画面	各無線ユニットの詳細パラメータ設定を行う画面になります。	4.2.17

4.2. 画面詳細

4.2.1. 起動画面

「SWL90(Ethernet タイプ)」を選択し、設定ユーティリティをクリックします。

画面選択でメイン画面を選択します。



4.2.2. メイン画面

メイン画面は設定ユーティリティ起動使用中、常に表示される画面で無線パラメータ設定、ファイルの保存/読出、ユニットへのパラメータ書込/読込を行うことができます。

1) 簡易設定画面



No.	名称	内容	参照項
①	ツールバー	無線ユニットへのパラメータ読み書きや設定データのファイル書込み等が可能です。	—
②	ツリー部	無線ユニットの通信経路が表示されます。 無線ユニットを選択し、個別設定 UI で設定の変更が可能です。	4.2.10
③	ユニット/個別設定 UI	無線ユニット個別の設定が可能です。	4.2.10

2) 詳細設定画面

SWL-UT-ENT バージョン2.1.0

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書込 デバイス一覧 設定初期化

共通設定

グループNo. 0 無線通信構成 ポーリング通信(経路情報なし) 使用周波数CH数 1 無線通信ポート プロトコル ツリー

再送回数 2 Ver4.00以前互換 選択周波数 33 最大中継段数 5

選択周波数2 27 子局台数 1

接続方法: USB

ポート番号: 自動選択

接続先選択 TEST

子局番号	親局	子局1
ユニット名		R4ML_1
SERIAL		
ユニット名称(ラベル)	親局	子局1
ユニットID		
ユニットタイプ		SWL90-R4ML(中継局兼子局)
個別設定	個別設定	個別設定
ビット点数情報	16	16
ワード点数情報	0	0
Ethernet設定	Ethernet設定	
ルート設定		ルート設定
パルスカウント設定		パルスカウント設定
増設局設定		増設局設定
Bluetooth®デバイス設定		
書込み時刻		

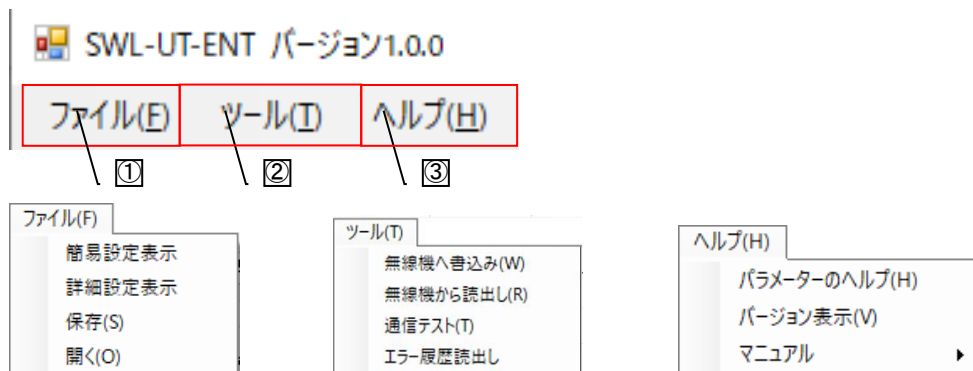
r188 終了

No.	名称	内容	参照項
①	メニューバー	メニューバーから3つのメニューを選択することができます。 ・ファイル: 設定ファイルの保存/開くができます。 ・ツール: 無線ユニットへパラメータ書込/読出/通信テストを行うことができます。 ・ヘルプ: 設定ユーティリティのバージョン確認、設定パラメータの詳細、マニュアルを表示することができます。	4.2.3
②	ツールボタン	無線ユニットへパラメータ書込/読出、設定ファイル保存/読出、パラメータ初期化を行うことができます。	—
③	共通設定	親局と子局が通信を行うための共通項目の設定を行います。	4.2.4
④	自局設定	無線送信で子局と接続機器の紐付に関する設定を行います。	4.2.5
⑤	Ethernet 設定	Ethernet 通信に関しての設定を行います。	4.2.6
⑥	デバイス割付け一覧	ユーティリティで設定された内容をもとにデバイスの使用状況及び割り付けを視覚的に表示します。	4.2.8
⑦	個別設定	無線タイムアウト時間、エラー時データ、エラー端子の出力、無線出力電力等の設定を表示します。	4.2.17
⑧	接続ポート設定	接続ポート設定を行います。	—

4.2.3. メニューバー

設定ユーティリティを操作するための命令や機能がプルダウンメニューから選択、実行することができます。

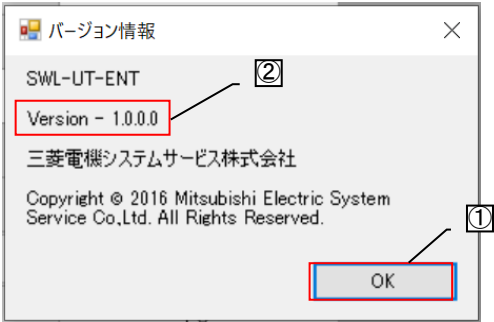
メニューバーは 3 つのメニューから機能選択することができます。



No.	名称		内容	参照項		
				ETMC 簡易	ETMC 詳細	BLX ゲートウェイ
①	ファイル	簡易設定表示	簡易設定画面を表示します。	1) 簡易設定画面		
		詳細設定表示	詳細設定画面を表示します。	2) 詳細設定画面		
		保存	パラメータ設定した内容をファイル保存します。	4.4.14	4.5.13	4.6.8
		開く	パラメータ設定したファイルを読出します。	4.4.15	4.5.14	4.6.9
②	ツール	無線機へ書き込み	パソコンから USB または Ethernet 経由で無線ユニットへパラメータ書込を行います。	4.4.10	4.5.9	4.6.7
		無線機から読出し	無線ユニットから USB または Ethernet 経由でパラメータを読出します。	4.4.16	4.5.15	4.6.10
		通信テスト	親局と子局間の無線通信確認を実施します。	—	—	—
		エラー履歴読出し	SWL90-BLX からエラー情報を読出します。	4.4.18	4.4.18	4.4.18
③	ヘルプ	パラメータのヘルプ	各設定パラメータの詳細説明を表示します。	4.4.20	4.5.19	4.5.19
		バージョン表示	設定ユーティリティのバージョンを表示します。	次ページ		
		マニュアル	無線ユニットのマニュアルを表示します。 ・ユーティリティマニュアル ・Ethernet 設定マニュアル	—		

(1)バージョン表示

設定ユーティリティのバージョンを表示します。



No.	名称	内容
①	OK	設定ユーティリティのバージョン表示画面を閉じます。
②	バージョン表示	設定ユーティリティのバージョンを確認できます。

4.2.4. 共通設定

1) 簡易設定画面

(1) 親局 ETMC 選択時

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	グループ No.	無線通信のグループNo.を設定します。 無線ユニットを複数系統使用する場合は、グループNoは重複しないように設定してください。	0～15	0
②	無線通信構成	無線通信にてデータを取得する無線通信構成を設定します。以下に選択基準を記載します。 ・ポーリング 親局が子局全対しデータの送信を順番に行う通信方式を使用したいときに設定します。 ・トランジェント 子局が親局に対して定期的にデータの送信を行う通信方式を使用したいときに設定します。 ・経路情報なし シーケンサに接続する場合 ・経路情報あり 見える化ツール (SWL-Monitor) に接続する場合	ポーリング通信 (経路情報なし) / ポーリング通信 (経路情報あり) / トランジェント通信 (経路情報なし) / トランジェント通信 (経路情報あり)	ポーリング通信 (経路情報なし)
③	再送回数	無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。	0～15	2
④	Ver4.00 以前互換	Ver4.00 以前互換の有無を設定します。 ※メッシュ時はチェックありでマスクされ、設定はできません。 ※互換なしの場合、Ver4.00 以前のユニットと通信できません	☐ : 互換なし ☒ : 互換あり	☒ : 互換あり
⑤	選択周波数	無線通信で使用する周波数を選択します。	24～38	33
⑥	子局台数	親局と通信を行う子局の数 (中継専用局含む) の台数を設定します。 子局台数により、シートに表示される子局台数が変化します。	1～64	1

(2) BLXゲートウェイモード選択時



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	Bluetooth デバイス タイムアウト時間	Bluetooth デバイスの通信タイムアウト時間を設定 できます。 設定時間（分）の間、データの受信が無い場合はタ イムアウトが発生します。	0～250 *1	0
②	エラー時データ	タイムアウト発生時に Bluetooth デバイスのデー タをクリアするかホールドするかを選択できます。	クリア／ホールド	ホールド

*1：範囲外の値が入力された場合ダイアログを表示して値の補正を行います。

2) 詳細設定画面

無線通信を行うため、親局・子局の共通項目設定を行います。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	グループ No.	無線通信のグループNo.を設定します。 無線ユニットを複数系統使用する場合は、グループNoは重複しないように設定してください。	0～15	0
②	無線通信構成	無線通信にてデータを取得する無線通信構成を設定します。以下に選択基準を記載します。 ・ポーリング 親局が子局全台に対しデータの送信を順番に行う通信方式を使用したいときに設定します。 ・トランジェント 子局が親局に対して定期的にデータの送信を行う通信方式を使用したいときに設定します。 ・経路情報なし シーケンサに接続する場合 ・経路情報あり 見える化ツール(SWL-Monitor)に接続する場合	ポーリング通信 (経路情報なし)/ ポーリング通信 (経路情報あり)/ トランジェント通信 (経路情報なし)/ トランジェント通信 (経路情報あり)	ポーリング通信 (経路情報なし)
③	再送回数	無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。	0～15	2
④	Ver 4.00 以前互換	Ver 4.00 以前互換の有無を設定します。 ※メッシュ時はチェックありでマスクされ、設定はできません。 ※互換なしの場合、Ver 4.00 以前のユニットと通信できません	☐ : 互換なし ☒ : 互換あり	☒ : 互換あり
⑤	使用周波数 CH 数	使用する周波数の数を設定します。	1/2	1
⑥	選択周波数	無線通信で使用する周波数を選択します。	24～38	33
⑦	選択周波数 2	無線通信で使用する周波数を選択します。 ※使用周波数 CH 数が 1 の場合は設定できません。	24～38	27
⑧	無線通信トポロジ	使用する通信方式の設定を行います。	ツリー/メッシュ	ツリー
⑨	最大中継台数	通信モードがメッシュモードのときに最大何台まで中継を許可するかの設定を行います。 (通信モードがメッシュの時のみ有効)	0～5	5
⑩	子局台数	親局と通信を行う子局の数(中継専用局含む)の台数を設定します。 子局台数により、シートに表示される子局台数が変化します。	1～64	1

4.2.5. 自局設定

自局設定では、ユニット ID やユニット名称など、ユニットタイプについての設定を行います。

①	子局番号	親局	子局1	子局2	子局3
	ユニット名		R4ML_1	R4ML_2	R4ML_3
②	SERIAL				
③	ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3
④	ユニットID	0	1	2	3
⑤	ユニットタイプ		SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)
⑥	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定
	ビット点数情報	48	16	16	16
⑦	ワード点数情報	0	0	0	0
	Ethernet設定	Ethernet設定			

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局番号	子局の場合、ユニット毎に「1」から連番で番号が割り振られます。	-	-
②	SERIAL	ユニット上部の銘板に記載してある SERIAL 番号を入力します。SERIAL 番号を入力することにより、SERIAL の上位 3 桁がユニット ID に自動入力されます。子局 SERIAL はユニットへ設定書込み時、読み出し時に読出されます。※1	00000000～99999999	空欄
③	ユニット名称 (ラベル)	ユニット名称を設定します。※2	8 文字	空欄
④	ユニット ID	親局に子局を登録する際のユニット ID を設定します。空欄の状態では親局に書込みを行うと、子局番号の値が自動的に設定されます。	1～254 (1～99)※3	空欄
⑤	ユニットタイプ	子局の無線ユニットタイプを設定します。	※4	SWL90-R4ML (中継局兼子局)
⑥	ビット点数情報	親局：全子局のビット点数の総計を表示します。 子局：自局が使用しているビット総点数を表示します。	設定不可 (自動計算)	-
⑦	ワード点数情報	親局：全子局のワード点数の総計を表示します。 子局：自局が使用しているワード総点数を表示します。		

※1：親局に書込み、読出しを行っても子局の SERIAL は表示されません。

※2：無線ユニットからユニット名称（ラベル）は読出しできません。

※3：ユニットタイプに SWL90-TH1 (E) を選択した場合は設定範囲が 1～99 になります。

※4：設定範囲は下記のとおりです。

- ・ SWL90-R4ML (中継局兼子局)
- ・ SWL90-TH1 (E) (中継局兼子局) (システム情報あり) 【トランジェント選択時のみ選択可能】
- ・ SWL90-TH1 (E) (子局) (システム情報あり) 【トランジェント選択時のみ選択可能】
- ・ SWL90-PL3 (中継局兼子局)
- ・ SWL90-PL3 (子局) 【トランジェント選択時のみ選択可能】
- ・ SWL90-BLX (中継局兼子局) 【トランジェント、ツリー選択時のみ選択可能】

4.2.6. Ethernet 無線親局設定画面

Ethernet 設定画面では、Ethernet 通信に関する設定を行います。

Ethernet 無線親局設定画面では、自局の Ethernet 通信に関する設定を

相手局設定画面では通信相手 Ethernet に関しての設定を行います。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	IP アドレス	無線ユニットの IP アドレスを登録します。	0. 0. 0. 1～ 255. 255. 255. 254	192. 168. 10. 2
②	サブネットマ スク	無線ユニットの IP に対するサブネットマスク を設定します。	192. 0. 0. 0～ 255. 255. 255. 252	255. 255. 255. 0
③	ポート番号 (10 進数)	相手 Ethernet 機器と通信する為の無線ユニッ トのポート番号を設定します。	49152～65534	49152
④	プロトコル選択	通信相手 Ethernet 機器により、プロトコル形 式を設定します。 以下に選択基準を記載します。 3E フレーム： iQ-R、Q、L、FX5 シーケンサや、 SWL Monitor(※1)と接続する場合。 1E フレーム： FX3 シーケンサと接続する場合 3E フレームサーバ： EcoServer IIIと接続する場合 ※1E フレームは、「トランジェント通信（経路 情報あり）」、「ポーリング通信（経路情報あ り）」の場合には表示されません	3E フレームクライアント/ 1E フレームクライアント/ 3E フレームサーバ	3E フレームクライアント
⑤	伝文送信周期 (ms)	クライアント機能時に伝文の送信を行う周期 を設定します。	50～9999	50
⑥	Ethernet 受信待 ち時間(分：秒)	サーバ機能時に、クライアントから設定時間 要求伝文が送信されない場合、エラーを発生 する時間を設定します。 ※プロトコル選択が「3E フレームサーバ」の 場合に有効なパラメータです。	0 分 0 秒～ 99 分 59 秒	0 分 5 秒

※SWL Monitor は当社製無線ユニットデータ見える化ツールです。

詳細は当社ホームページ www.melco.co.jp/business/wireless/software/index.html をご参照ください。

4.2.7. Ethernet 相手局設定画面

The screenshot shows the 'Ethernet 相手局設定' dialog box. The '相手局設定' tab is active. The IP address is set to 192.168.10.3. The port number is 49408. The network number is 00, PC number is FF, requested I/O station number is 3FF, requested unit station number is 00, CPU monitoring time is 16, and Ethernet timeout time is 5000. The communication device setting table is also visible, showing device types and start numbers for various protocols.

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	IP アドレス	相手 Ethernet 機器の IP アドレスを登録します。	0.0.0.1～ 255.255.255.254	192.168.10.3
②	ポート番号	相手 Ethernet 機器と通信する為の相手局側のポートを設定します。	49152～65535	49408
③	ネットワーク番号	シーケンサアクセス時に最後に経由するネットワークシステムの番号を設定します。	00H～FFH ※1	00H
④	PC 番号	システム上でのアクセス局の PC 番号を、ネットワークユニットなどの設定番号で設定します。 (PC 番号：FF はネットワーク番号が 00H のときのみ有効)	00H～FFH ※1	FFH
⑤	要求先 I/O 局番	使用するシーケンサに合わせて設定を行います。 アクセス局のシーケンサ CPU が以下の場合は、使用する CPU のマニュアルをご参照ください。 ・マルチ CPU システムのシーケンサ ・Q シリーズ C24 などによるマルチロップ接続上のシーケンサ CPU ・二重化システムの CPU 上記以外の場合は初期値を設定します。(固定)	0000H～FFFFH ※1	03FFH
⑥	要求先ユニット局番		00H～FFH ※1	00H
⑦	CPU 監視タイマ	Ethernet ユニットの自局の CPU を監視する監視時間を設定する。	1～3600 ※1	16H
⑧	Ethernet タイムアウト時間 (ms)	Ethernet 機器との送信から受信までの通信タイムアウト時間を設定します。 ※プロトコル選択がクライアント (3E フレーム、1E フレーム) の場合のみ有効なパラメータです。	100～9999	5000
⑨	ビット入力デバイス種別	SLMP (3E フレーム) 又は MC プロトコル 1E フレームで、Ethernet 相手機器に書き込みを行う、デバイスについての設定を行います。 デバイス種別と開始番号 (書き込み先頭アドレス) を設定します。 他のシステムと重複しないようにデバイスを割り当ててください。 無線ユニットでの使用範囲： 開始番号の設定値+ビット/ワード総点数 例) デバイス種別：X 開始番号：1000 ビット総点数：64 点の場合 X1000 ～ X103F までの領域を使用します。	次ページ参照	次ページ参照

※1：③～⑦のパラメータを変更したい場合はユニットのボタン操作で実行してください。(ETMC のみ)

通信デバイス設定

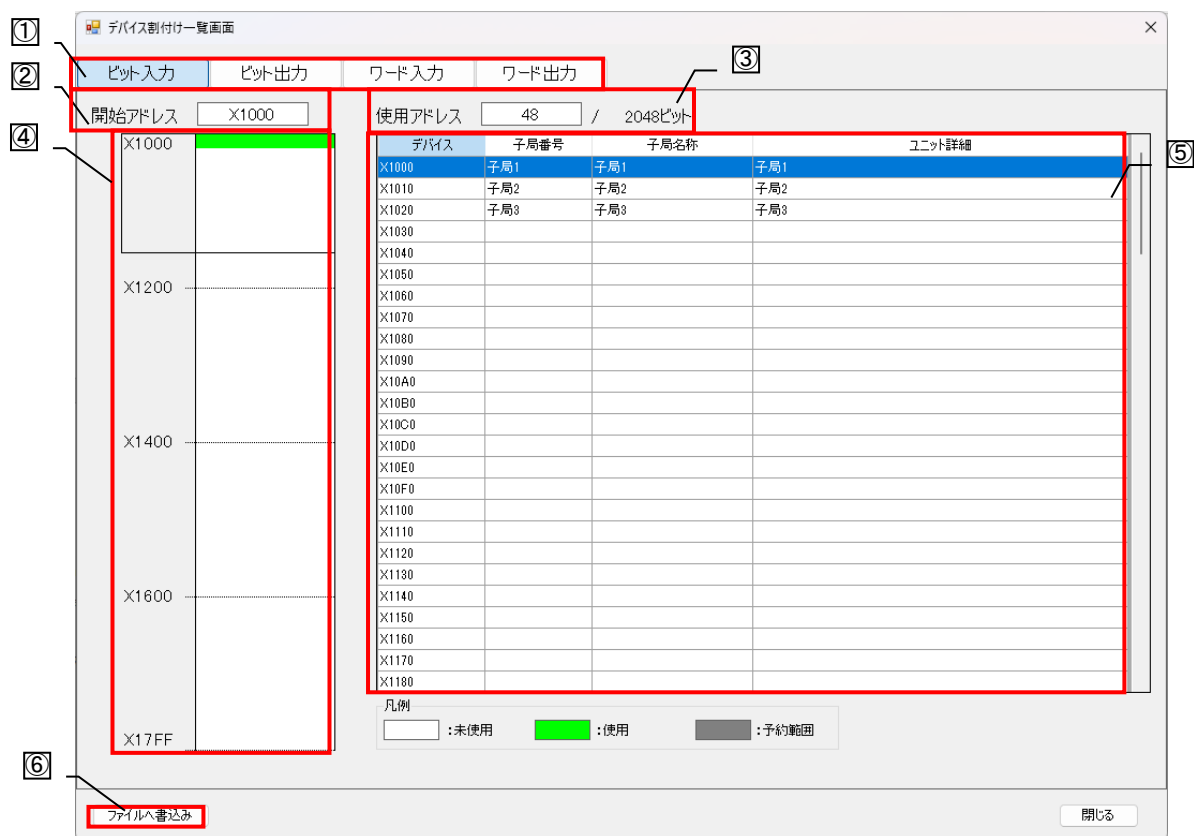
	①	デバイス種別	開始番号	②
ビット入力(16進数)		X	1000	
ビット出力(16進数)	③	Y	1000	④
ワード入力(10進数)	⑤	D	300	⑥
ワード出力(10進数)	⑦	D	600	⑧
経路情報(10進数)	⑨	D	5000	⑩
システム領域書込(10進数)	⑪	D	1000	⑫
システム領域読出(10進数)	⑬	D	1050	⑭

※1：①～⑭は、プロトコル選択がクライアント(3E フレーム、1E フレーム)の場合に有効なパラメータです。

※2：⑨～⑭は、通信構成が「ポーリング通信(経路あり)」又は「トランジェント通信(経路あり)」の場合に有効なパラメータです。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	ビット入力 (16 進数)	ビット入力データ(無線ユニット子局からの入力信号)を書込むデバイス種別及びデバイスの開始番号の設定を行います。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム、1E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	X/M/D	X
②	ビット入力(16 進数)開始番号		0～1F40 (D/M 設定時は 0～8000)	1000
③	ビット出力 デバイス種別	ビット出力データ(無線ユニット子局への出力信号)を読み出すデバイス種別及びデバイスの開始番号の設定を行います。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム、1E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	Y/M/D	Y
④	ビット出力 開始番号		0～1F40 (D/M 設定時は 0～8000)	1000
⑤	ワード入力 デバイス種別	ワード入力データ(無線ユニット子局からのアナログ入力データ)を書込むデバイス種別及びデバイスの開始番号の設定を行います。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム、1E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	D	D
⑥	ワード入力 開始番号		0～8000	300
⑦	ワード出力 デバイス種別	ワード出力データ(無線ユニット子局へのアナログ出力データ)を読み出すデバイス種別及びデバイスの開始番号の設定を行います。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム、1E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	D	D
⑧	ワード出力 開始番号		0～8000	600
⑨	経路情報 デバイス種別	通信構成にて、(経路情報あり)を設定した場合、経路情報を書込む先のデバイス種別及び開始番号を設定します。 経路情報は固定で 1409 ワード使用します。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	D	D
⑩	経路情報開始番号		0～8000	5000
⑪	システム領域書込み デバイス種別	通信構成にて、(経路情報あり)を設定した場合、無線ユニット親局からのシステム情報を書込む先のデバイス種別及び開始番号を設定します。 システム領域書込みは固定で 12 ワード使用します。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	D	D
⑫	システム領域書込み 開始番号		0～8000	1000
⑬	システム領域読出し デバイス種別	通信構成にて、トランジェント通信(経路情報あり)を設定した場合、無線ユニット親局がシステム情報を読み出す先のデバイス種別及び開始番号を設定します。 システム領域読出しは固定で 12 ワード使用します。 ※プロトコル選択がクライアント(3E フレーム)の場合のみ有効なパラメータです。	D	D
⑭	システム領域読出し 開始番号		0～8000	1050

4.2.8. デバイス割付一覧



デバイス割り付け一覧画面

デバイス割り付け一覧画面表示項目

No.	名称	内容	設定範囲
①	データ切り替えタグ	デバイス割り付け一覧画面に表示するデータを切り替えます。	-
②	開始アドレス	領域を使用する先頭アドレスを表示します。	-
③	使用アドレス	デバイスの使用領域を表示します。	-
④	デバイス使用状況	デバイスの使用する(占有する)範囲を表示します。	-
⑤	デバイス使用詳細	デバイスを使用している項目等の詳細内容を表示します。	-
⑥	デバイス割り付け書き出しボタン	デバイス使用詳細の内容を CSV ファイルで書き出します。 書き出し内容は現在表示中のデータとなります。	-

4.2.9. ルート設定画面

ルート設定画面では、動作モードがツリーの場合、子局へ送信される中継ルートを設定を行います。

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	中継経路設定数	中継経路数を設定します。 ※複数経路の設定は Ver4. 10 からの新機能になります。	1～3	1
②	中継段数	親局が子局と通信を行うまでの中継局を経由する段数の設定を行います。	0～5	0
③	子局番号	中継を行う子局番号の設定を行います ※設定する内容はユニット ID ではなく、子局番号です。 ※親局側から見て 1 番目の中継局を「中継 1」、2 番目の中継局を「中継 2」に設定してください。	1～64 (自局番号は入力不可)	空欄

※子局台数を減らしたときに、非表示となった子局が設定されている経路設定は、削除されます。

4.2.10. ツリー部表示／ユニット個別設定 UI

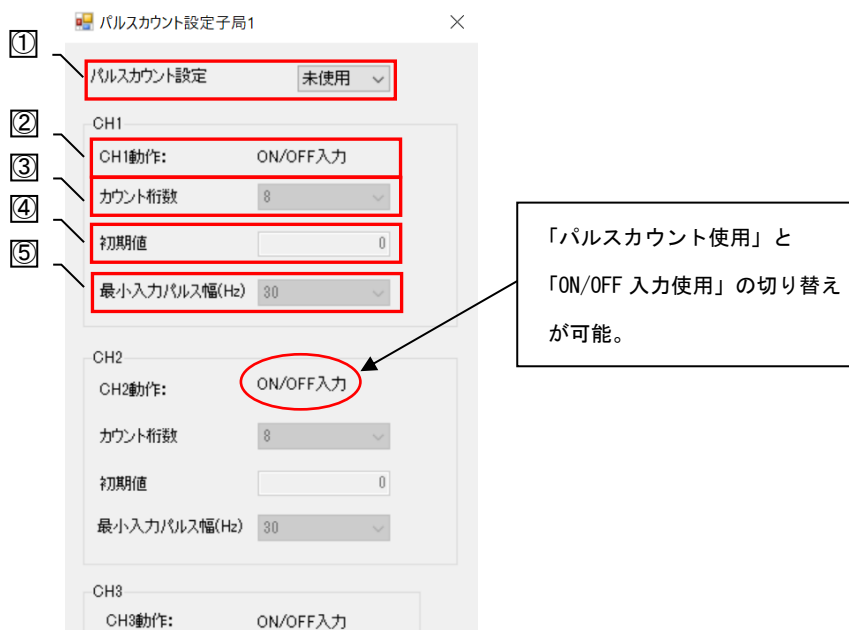


No.	名称	内容
①	ツリー部	ドラッグ＆ドロップで通信の経路作成を行います。 ※経路を削除したい場合は、親局にドラッグ＆ドロップしてください。
②	ユニット親局 (ETMC)	ETMC を親局として使用する場合、 親局の上にドラッグ＆ドロップを行います。
③	ユニット親局 (GW)	GW を親局として使用する場合、 親局の上にドラッグ＆ドロップを行います。
④	ユニット子局	使用する子局をドラッグ＆ドロップして追加します。

4.2.11. パルスカウント設定

パルスカウントに関しての設定を行います。

CH3 は SWL90-PL3 のみ設定可能です。



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	パルスカウント有効設定	パルスカウント機能有効/無効設定を行います。 有効にした Ch 数に対応し、下記②～④が設定可能になります。	未使用/ 1Ch / 2Ch / 3Ch (3Ch は PL3 のみ)	未使用
②	CH 動作	各 CH の動作を表示します。	・ ON/OFF 入力 ・ パルスカウント ・ Ver. 102 以前：無効 Ver. 110 以降：ON/OFF 入力 ・ CH1 カウントリセット	ON/OFF 動作
③	パルスカウント桁数設定	パルスカウントで使用する桁数の設定を行います。	1～8	8
④	パルスカウント初期値	パルスカウント値としてカウントを開始する初期値を設定します。 ※設定欄に「ブランク」は設定できません。	0～99999999 (桁数設定による。)	0
⑤	パルスカウント最小入力パルス幅(Hz)	パルスカウントで取得可能なパルスの最小入力パルス幅を設定します。 ※取得可能な最小の入力時間は以下の通りです。 10Hz：ON/OFF 各 100ms 以上 30Hz：ON/OFF 各 16.7ms 以上 50Hz：ON/OFF 各 10.0ms 以上 100Hz：ON/OFF 各 5.0ms 以上	・ R4ML 30 / 50 / 100 ・ PL3 10 / 30	30

4.2.12. 増設ユニット設定

増設設定画面

増設設定画面設定項目

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	増設局台数	子局に接続する増設の台数(予約局含む)を設定します。 増設局台数として設定した台数の増設設定が表示され、設定可能となります。	0～8	0
②	ユニット種別	接続する増設ユニット種別の設定を行います。	DIO/DI 16 点ユニット/ AD4 点ユニット	－
③	予約設定	設定した増設ユニットの使用局/予約局の設定を行います。	使用局/ 予約局	－
④	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データのクリア/ホールドについての設定を行います。	クリア/ ホールド/ 子局に合わせる	－
⑤	アナログ Ch 設定	AD4 点ユニットのアナログ入力に関する設定を行います。 「4. 2. 13 アナログ Ch 設定画面」参照	－	－

ユニット種別をAD4点ユニットからDIO/DI16点ユニットへ変更すると、変更後に使用されないパラメータは初期値に変更されます。

4.2.13. アナログ Ch 設定画面

アナログ Ch 設定画面では、アナログ増設ユニットの各アナログチャンネルの設定を行います。

	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4
▶ Ch使用	☐	☐	☐	☐
入力レンジ	0-10V	0-10V	0-10V	0-10V
平均方法	サンプリング	サンプリング	サンプリング	サンプリング
平均回数	0	0	0	0

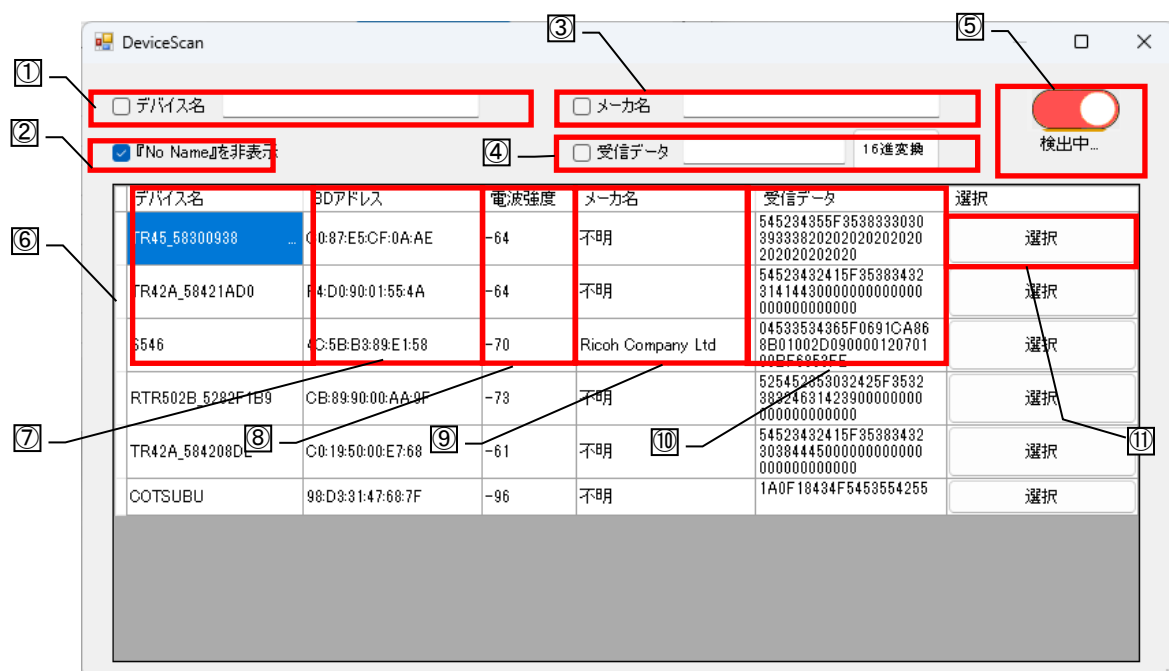
OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	アナログ Ch 変換許可	該当するアナログ Ch の使用有/無を設定します。	☒ : 使用 ☐ : 未使用	☐ : 未使用
②	入力レンジ	使用するデータのレンジを設定します。	0-10V/ 0-5V/ 1-5V/ 0-20mA/ 4-20mA/ ユーザレンジ 1 (メーカ設定) ユーザレンジ 2 (メーカ設定)	0-10V
③	平均方法	データの表示について行う平均処理について設定します。	サンプリング/ 回数平均/ 時間平均/ 移動平均	サンプリング
④	平均回数	平均方法にて、平均を行う回数を設定します。 サンプリングは平均処理を行わないため、平均回数は無効となります。 (時間平均の場合、設定値 × 10ms 間のデータ平均となります。)	0~32	0

4.2.14. Bluetooth デバイス設定画面

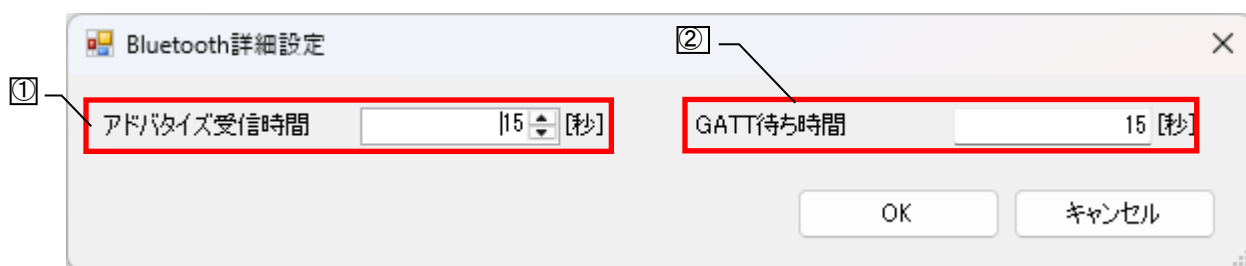
No	名称	内容	入力範囲	初期値
①	Bluetooth デバイス台数	接続する Bluetooth デバイスの台数を選択します。	0～24	0
②	メーカー/製品名	接続する Bluetooth デバイスのデバイス名を選択します。	—	予約局
③	BD アドレス	接続する Bluetooth デバイスの BD アドレスを入力もしくは選択します。	—	空欄
④	詳細設定	Bluetooth の詳細設定を行う画面を開きます。	—	—

4.2.15. Bluetooth デバイススキャン画面



No	名称	内容	入力範囲
①	デバイス名フィルタ	入力されたテキストデータを部分一致でフィルタします。	チェックなし: フィルタなし チェックあり: フィルタあり
②	No Name を非表示	デバイス名が No Name となっているデータを非表示とします。	チェックなし: フィルタなし チェックあり: フィルタあり
③	メーカー名フィルタ	入力されたテキストデータを部分一致でフィルタします。	チェックなし: フィルタなし チェックあり: フィルタあり
④	受信データフィルタ	入力された英数字を部分一致でフィルタします。 16 進変換ボタン押下で入力値を 16 進数に変換します。	チェックなし: フィルタなし チェックあり: フィルタあり
⑤	スキャン開始トグル	スキャンの開始とスキャンの停止を制御します。	トグル OFF: スキャン停止中 トグル ON: スキャン中
⑥	デバイス名表示	Bluetooth のデバイス名を表示します。	—
⑦	BD アドレス表示	発信元の Bluetooth デバイスアドレスを表示します。	—
⑧	電波強度表示	受信した電波強度を表示します。	—
⑨	メーカー名表示	Bluetooth デバイスのメーカー名を表示します。	—
⑩	受信データ表示	受信したアドバタイズデータを表示します。	—
⑪	選択ボタン	選択された BD アドレスを Bluetooth デバイス設定画面の「BD アドレス」に反映し、デバイススキャン画面を閉じます。	—

4.2.16. Bluetooth 詳細設定画面



No	名称	内容	入力範囲	初期値
①	アドバタイズ受信時間	アドバタイズデータの受信待ち時間を設定します。 アドバタイズ通信センサと GATT 通信センサを併用する場合は、使用するアドバタイズ通信センサのうち、アドバタイズ送信周期が最も長いセンサの周期を設定してください。 設定可能な値は 15 秒単位です。(*1)	15～3600	15
②	GATT 待ち時間	GATT センサ 1 台あたりの GATT 通信の最大通信時間を設定します。	3～60	15

*1: 15 秒単位以外の値が入力された場合は、15 秒単位に自動で補正します。

例 1: 0 を入力した場合は、15 に補正する。

例 2: 16 を入力した場合は、30 に補正する。

例 3: 3601 を入力した場合は、3600 に補正する。

※アドバタイズ送信周期の詳細については以下のマニュアルをご参照ください。

『920MHz 帯無線ユニット[Ethernet タイプ]ユーザーズマニュアル(詳細編)』

4.2.17. 親局[SWL90-ETMC]個別設定画面(ポーリング通信)

個別設定

子局番号

SWL90-ETMC(親局)

920MHz通信タイムアウト時間(秒)(ポーリング通信時)

0.0

エラー時データ

ビットクリアワードホールド

920MHz通信出力電力

20mW

OK

キャンセル

①

②

③

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	920MHz 通信タイムアウト時間(ポーリング通信時)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。「0.0」の場合は自動計算となります。	0.0～999.9(秒)	0.0 (秒)
②	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ホールド/ ビットクリア・ワードホールド/ ビットホールド・ワードクリア	ビットクリア・ワードホールド
③	920MHz 通信出力電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW

4.2.18. 子局[SWL90-R4ML]個別設定画面(ポーリング通信)

個別設定

子局番号:

ユニットタイプ: SWL90-R4ML(中継局兼子局)

動作	通常局	
920MHz通信タイムアウト時間 (秒)(ポーリング通信時)	0.0	②
エラー時データ	クリア	③
エラー端子の出力	b接点	④
920MHz通信出力電力	20mW	⑤

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、中継専用局は 中継局、将来追加予定の場合は予約局と 設定します。	通常局/中継局/ 予約局	通常局
②	920MHz 通信タイムアウト時間 (ポーリング通信時)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0.0」の場合は自動計算となります。	0.0～ 999.9(秒)	0.0 (秒)
③	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定 を行います。	クリア/ ホールド	クリア
④	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の 設定を行います。	LIVE 信号/ a 接点/b 接点	b 接点
⑤	920MHz 通信出力電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を 行います。	1mW/10mW/20mW	20mW

4.2.19. 子局[SWL90-PL3]個別設定画面(ポーリング通信)

個別設定

子局番号: [SWL90-PL3]

ユニットタイプ: SWL90-PL3(中継局兼子局)

動作	通常局
920MHz通信タイムアウト時間 (秒)(ポーリング通信時)	0.0
エラー時データ	クリア
エラー端子の出力	b接点
920MHz通信出力電力	20mW
出力機能切り換え	エラー出力

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、中継専用局は 中継局、将来追加予定の場合は予約局と 設定します。	通常局/中継局/ 予約局	通常局
②	920MHz 通信タイム アウト時間 (ポーリング通信時)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムア ウト時間の設定を行います。 「0.0」の場合は自動計算となります。	0.0～ 999.9(秒)	0.0 (秒)
③	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設 定を行います。	クリア/ ホールド	クリア
④	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の 設定を行います。	LIVE 信号/a 接点/ b 接点	b 接点
⑤	920MHz 通信出力 電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を 行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑥	出力機能切り換え	出力機能の動作切り換えを行います。	エラー出力/ 警報出力	エラー出力

4.2.20. 親局[SWL90-ETMC]個別設定画面(トランジェント通信)

個別設定

子局番号

親局

ユニットタイプ

SWL90-ETMC(親局)

エラー時データ

ビットクリア/ワードホールド

920MHz通信出力電力

20mW

親局データ送信ウェイト時間(秒)

1

OK

キャンセル

①

②

③

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ホールド/ ビットクリア・ ワードホールド/ ビットホールド・ ワードクリア	ビットクリア・ ワードホールド
②	920MHz 通信出力電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
③	親局データ送信ウェイト時間	親局が無線送信を行った後、次の無線送信を行うまでの時間を設定します。	0～60(秒)	1 (秒)

4.2.21. 子局[SWL90-R4ML]個別設定画面(トランジェント通信)

個別設定

子局番号: [子局1]

ユニットタイプ: SWL90-R4ML(中継局兼子局)

動作	通常局
920MHz送信間隔(分:秒)	01:00
920MHz通信タイムアウト時間(分)	0
エラー時データ	クリア
エラー端子の出力	b接点
920MHz通信出力電力	20mW
子局入力信号監視遅延時間	1

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	920MHz 送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ 920MHz 無線送信を行う周期を設定します。 ※1	00:30～99:59	01:00
③	920MHz 通信タイムアウト時間(分)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250(分)	0 (分)
④	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ ホールド	クリア
⑤	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/a 接点/ b 接点	b 接点
⑥	920MHz 通信出力電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑦	子局入力信号監視遅延時間	入力端子の入力検知後、入力の監視を無効にする時間を設定します。	0～60(秒)	1 (秒)

※1: 数字のみ入力してください。0030 と入力すると、00:30 になります。

4.2.22. 子局[SWL90-TH1(E)]個別設定画面(トランジェント通信)

個別設定

子局番号: 子局1

ユニットタイプ: SWL90-TH1(E)(中継局兼子局)(システム情報あり)

動作	通常局
920MHz 送信間隔(分:秒)	01:00
920MHz 通信タイムアウト時間(分)	0
温度データオフセット(°C)	0.0
湿度データオフセット(%)	0.0

OK キャンセル

個別設定(トランジェント通信選択時)

個別設定(トランジェント通信選択時) 設定項目

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は 予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	920MHz 送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ920MHz無線送信を行う周期を設 定します。※1	00:30～99:59	01:00
③	920MHz 通信タイム アウト時間(分)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時 間の設定を行います。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250(分)	0(分)
④	温度データ オフセット(°C)	センサデータにオフセットをかける値を設定しま す。	-99.9～99.9	0.0
⑤	湿度データ オフセット(%)	ユニットタイプがSWL90-TH1(E)(中継局)又は SWL90-TH1(E)(子局)の場合のみ設定可能です。		0.0

※1: 数字のみ入力してください。0030 と入力すると、00:30 になります。

4.2.23. 子局[SWL90-PL3] (中継局兼子局) 個別設定画面 (トランジェント通信)

個別設定

子局番号: [SWL90-PL3]

ユニットタイプ: SWL90-PL3(中継局兼子局)

動作	通常局
920MHz送信間隔(分:秒)	01:00
920MHz通信タイムアウト時間(分)	0
エラー時データ	クリア
エラー端子の出力	b接点
920MHz通信出力電力	20mW
出力機能切り換え	エラー出力

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	920MHz 送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ 920MHz 無線送信を行う周期を設定します。※1	00:30～99:59	01:00
③	920MHz 通信タイムアウト時間(分)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250(分)	0 (分)
④	エラー時のデータ	エラー発生時の出力データについての設定を行います。	クリア/ ホールド	クリア
⑤	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/a 接点 /b 接点	b 接点
⑥	920MHz 通信出力電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑦	出力機能切り換え	出力機能の動作切り換えを行います。	エラー出力/ 警報出力	エラー出力

※1: 数字のみ入力してください。0030 と入力すると、00:30 になります。

4.2.24. 子局[SWL90-PL3] (子局)個別設定画面(トランジェント通信)

動作	通常局
920MHz送信間隔(分:秒)	01:00
920MHz通信タイムアウト時間(分)	0
920MHz通信出力電力	20mW
電池駆動メッシュ方式	起動時メッシュ

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	920MHz 送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ 920MHz 無線送信を行う周期を()設定します。※1	00:30～99:59	01:00
③	920MHz 通信タイム アウト時間	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 「0」の場合は自動計算となります。	0～250(分)	0 (分)
④	920MHz 通信出力 電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW
⑤	電池駆動 メッシュ方式	無線通信トポロジに「メッシュ」を選択時のみ設定できます。 <起動時メッシュ> ユニット起動時にルートを決定しその後は固定されます。 <動的メッシュ> ルートが周囲の環境により自動で切り替わります。 (注)動的メッシュに設定すると電池の消耗が早くなります。	起動時メッシュ/ 動的メッシュ	起動時メッシュ

※1：数字のみ入力してください。0030 と入力すると、00：30 になります。

4.2.25. 子局[SWL90-BLX] (子局)個別設定画面(トランジェント通信)

個別設定

子局番号: SWL90-BLX

ユニットタイプ: SWL90-BLX(中継局兼子局)

② 動作	通常局
③ 920MHz 送信間隔(分:秒)	01:00
④ 920MHz 通信タイムアウト 時間(分)	0
⑤ Bluetooth デバイス タイムアウト 時間(分)	0
⑥ エラー時データ	ホールド
920MHz 通信出力電力	20mW

OK キャンセル

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	子局動作	子局の動作についての設定を行います。 通常の使用局は通常局、将来追加予定の場合は予約局と設定します。	通常局/予約局	通常局
②	920MHz 送信間隔 (分:秒)	子局から親局へ 920MHz 無線送信を行う周期を設定します。※1	00:30～99:59	01:00
③	920MHz 通信タイム アウト時間(分)	920MHz 無線通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 0 の場合は自動計算となります。	0～250(分)	0 (分)
④	Bluetooth デバイス タイムアウト時間 (分)	Bluetooth 通信でのエラー発生タイムアウト時間の設定を行います。 0 の場合はエラー発生なしとなります。 ※タイムアウト設定時は Bluetooth デバイス 24 台全てに 同じタイムアウト時間が設定されます。	0～250(分)	0 (分)
⑤	エラー時データ	Bluetooth 通信でのエラー発生時に Bluetooth デバイスの データをクリアするかホールドするかの設定を行います。	クリア/ホールド	ホールド
⑥	920MHz 通信出力 電力	920MHz 無線通信を行う送信出力の設定を行います。	1mW/10mW/20mW	20mW

※1: 数字のみ入力してください。0030 と入力すると、00:30 になります。

4.2.26. 簡易画面時個別設定画面

子局1個別設定

① ユニットタイプ SWL90-R4ML

② 動作 通常局

③ ユニットID

④ SERIAL 000 00000

⑤ ビット点数情報 16 ワード点数情報 0

⑥ 920MHz送信間隔(分:秒) 01:00

⑦ Ethernet設定 Ethernet設定

⑧ パルスカウント設定 パルスカウント設定

⑨ 増設局設定 増設局設定

⑩ Bluetooth®デバイス設定 Bluetooth®デバイス設定

⑪ ユニット名称 子局1

No	名称	内容	入力範囲	初期値
1	ユニットタイプ	ユニットタイプを設定可能です。	・SWL90-R4ML ・SWL90-TH1(中継兼子局) (トランジェント選択時のみ) ・SWL90-TH1(子局) (トランジェント選択時のみ) ・SWL90-PL3(中継兼子局) ・SWL90-PL3(子局) (トランジェント選択時のみ) ・SWL90-BLX (トランジェント選択時のみ)	SWL90-R4ML
2	動作	ユニットの動作を設定可能です。	・通常局 ・中継専用局(ポーリング選択時のみ) ・予約局	通常局
3	ユニットID	ユニットIDを入力可能です。	選択ユニットが TH1 以外の時: 1~254 選択ユニットが TH1 の時: 1~99 ※ユニットID 空欄時に SERIAL が入力された時、SERIAL の上位 3 桁をユニットIDとして自動入力します。	空欄
4	SERIAL	ユニット SERIAL を入力可能です。	上位: 001~254 下位: 00000~99999	上位: 000 下位: 00000
5	点数情報	ビット点数情報、ワード点数情報を確認可能です。	設定された点数情報を表示します。	—
6	920MHz 送信間隔	920MHz 通信間隔を設定可能です。	00:30~99:59	01:00
7	Ethernet 設定	Ethernet 通信設定を開きます。	—	—
8	パルスカウント設定	パルスカウント設定を開きます。	—	—
9	増設局設定	増設局設定を開きます。	—	—
10	Bluetooth デバイス設定	Bluetooth デバイス設定を開きます。	—	—
11	ユニット名称	ユニット名称を入力可能です。	最大 8 文字でユニット名称を入力可能です。	子局 1

4.2.27. エラー情報取得画面

エラー情報取得

①

エラー情報取得

②

ユニットタイプ

SWL90-BLX

現在エラー

エラーコード	内容	確認/対処	復旧条件
E	エラー発生なし	なし	なし

③

エラー履歴

No	エラーコード	内容	確認/対処	復旧条件
1	noID	Bluetooth@ユニット未登録	【対処】 設定ユーティリティから設定を書き込んでください。	Bluetooth@デバイス登録
2	E	エラー発生なし	なし	なし
3	E	エラー発生なし	なし	なし
4	E	エラー発生なし	なし	なし
5	E	エラー発生なし	なし	なし
6	E	エラー発生なし	なし	なし
7	E	エラー発生なし	なし	なし
8	E	エラー発生なし	なし	なし
9	E	エラー発生なし	なし	なし
10	E	エラー発生なし	なし	なし

終了

taBaneLE（SWL90-BLX）のエラー情報を確認する画面です。

No	名称	内容
1	エラー情報取得	エラー情報の取得を行います。
2	現在エラー	現在発生中のエラーを表示します。
3	エラー履歴	過去 10 件のエラーの履歴を表示します。

4.3. 使用手順

2つの用途事例をご紹介します。使用手順は各参照先をご参照ください。

用途事例①（参照先: 4.3.1 用途事例① 新規使用手順）

【構成】

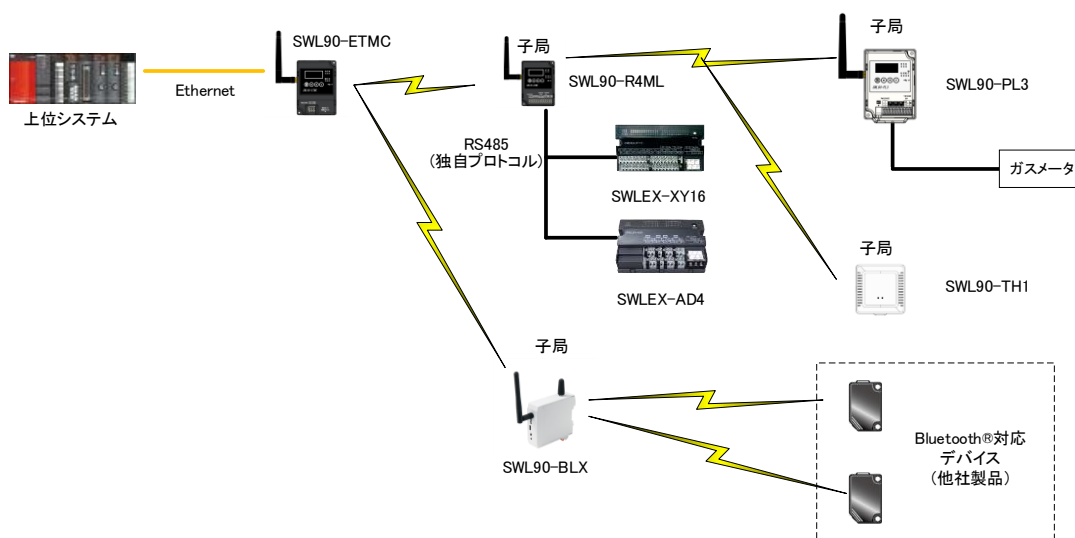
親局: SWL90-ETMC

子局: SWL90-R4ML/SWL90-PL3/SWL90-TH1/SWL90-BLX

【概要】

離れた位置の情報(*1)を Ethernet 経由でシーケンサに収集が可能です。

*1: 入出力信号/アナログ値/パルス値/ 温湿度値/他社製 Bluetooth デバイス



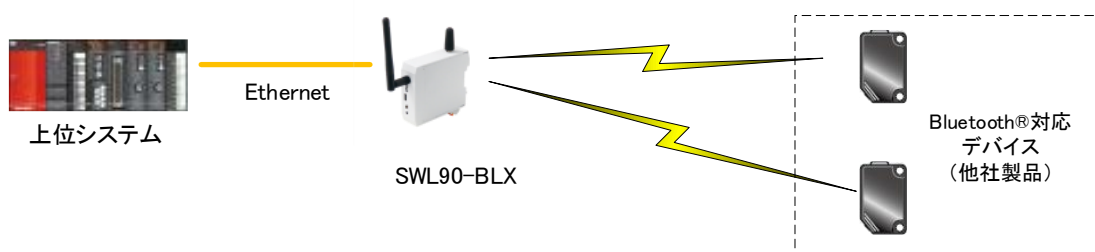
用途事例②（参照先: 4.3.2 用途事例② 新規使用手順）

【構成】

ゲートウェイ: SWL90-BLX

【概要】

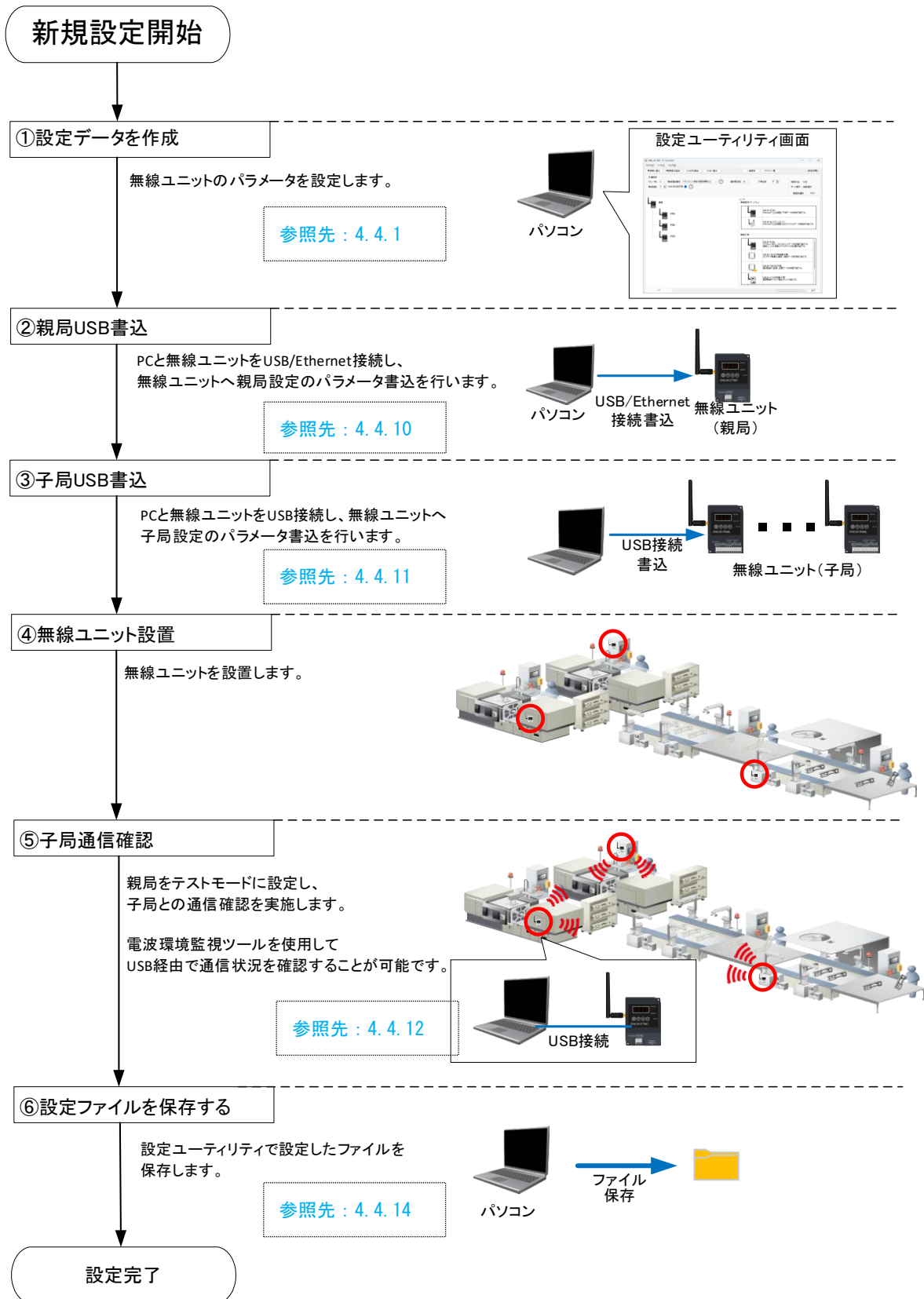
離れた位置の Bluetooth センサ(*2)の情報をシーケンサに収集が可能です。



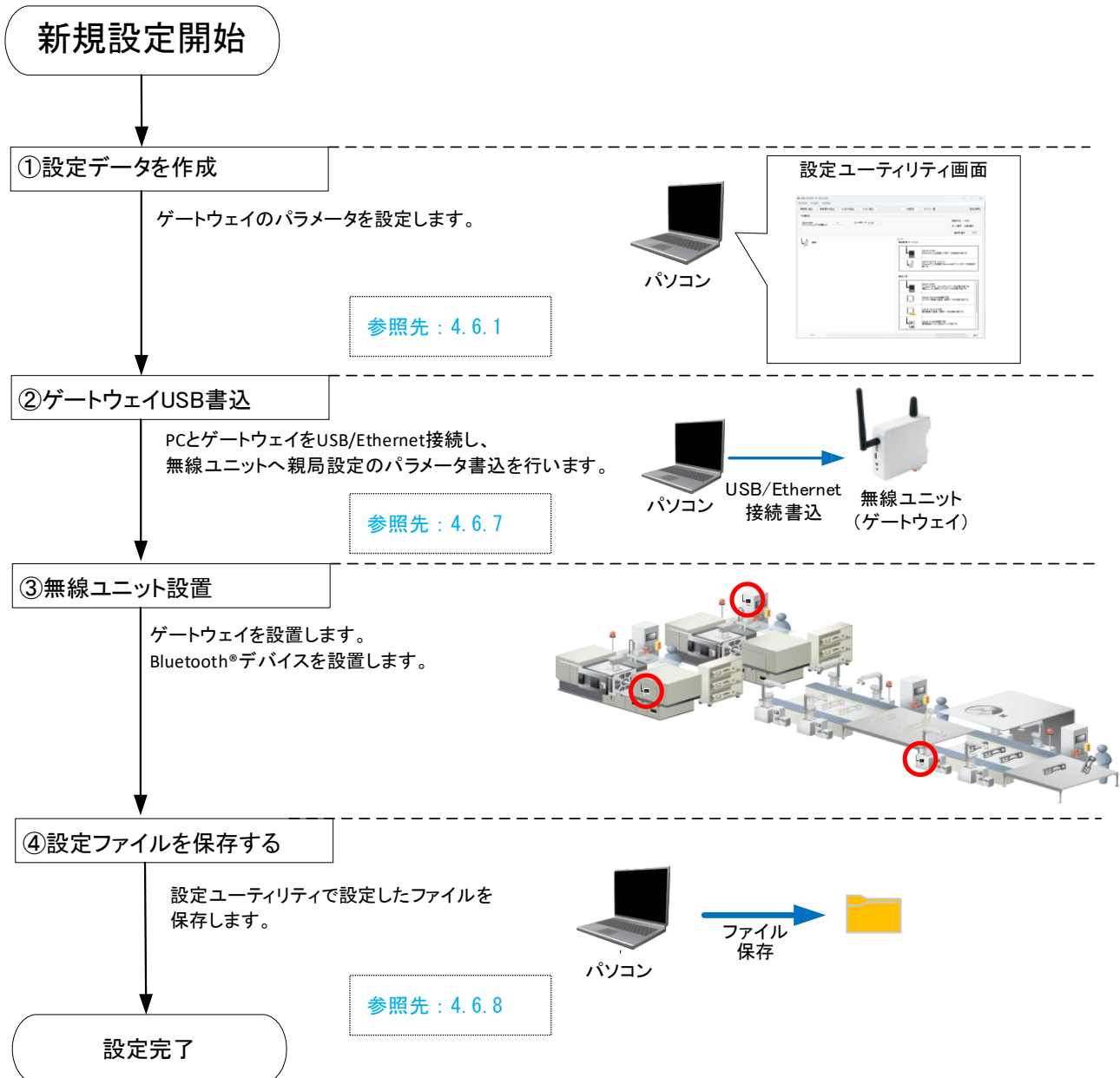
※2: 接続可能なユニットは『4.4.8 Bluetooth デバイス設定』を参照ください。

4.3.1. 用途事例① 新規使用手順

無線ユニットの初期設定の手順として以下を実施ください。

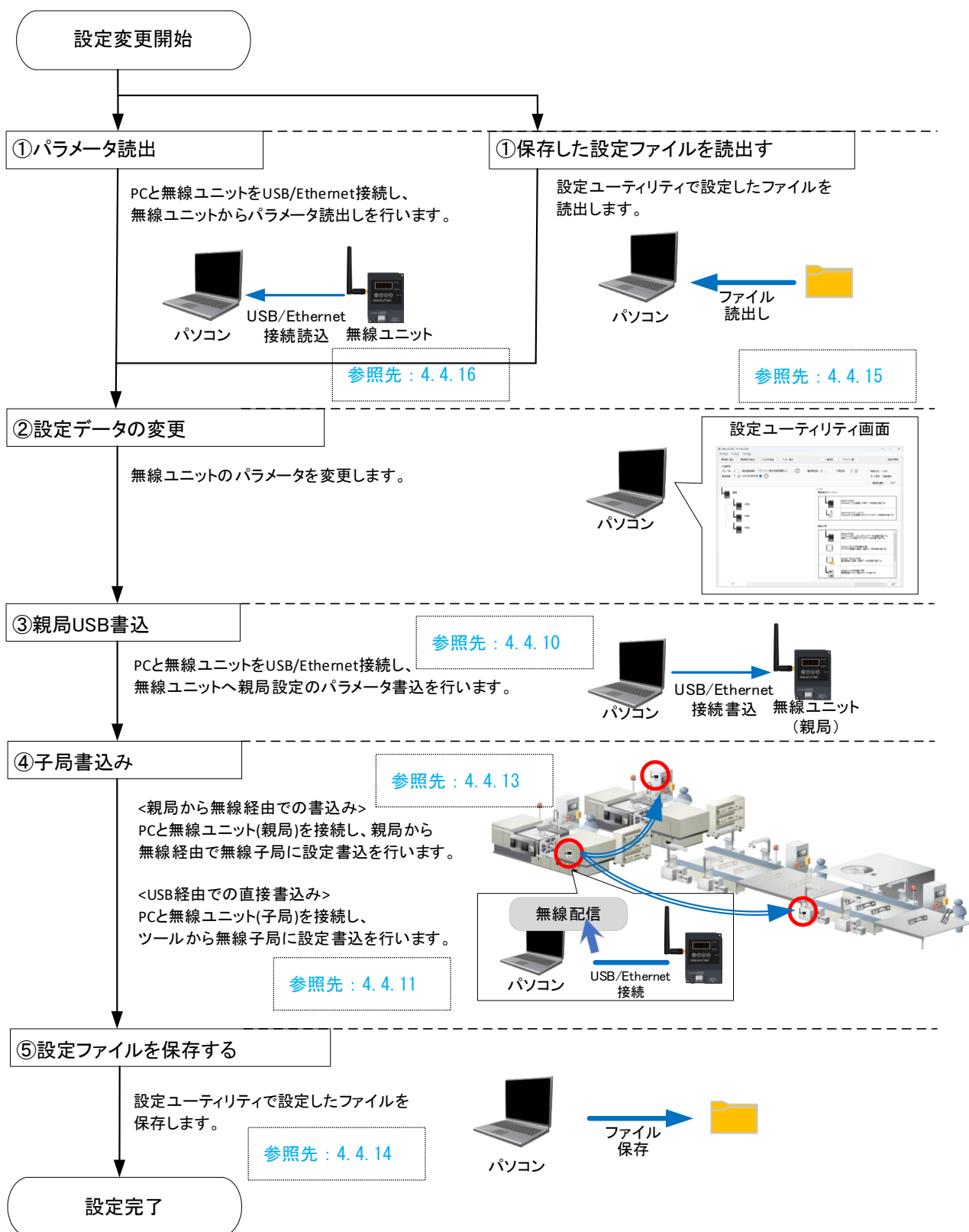


4.3.2. 用途事例② 新規使用手順

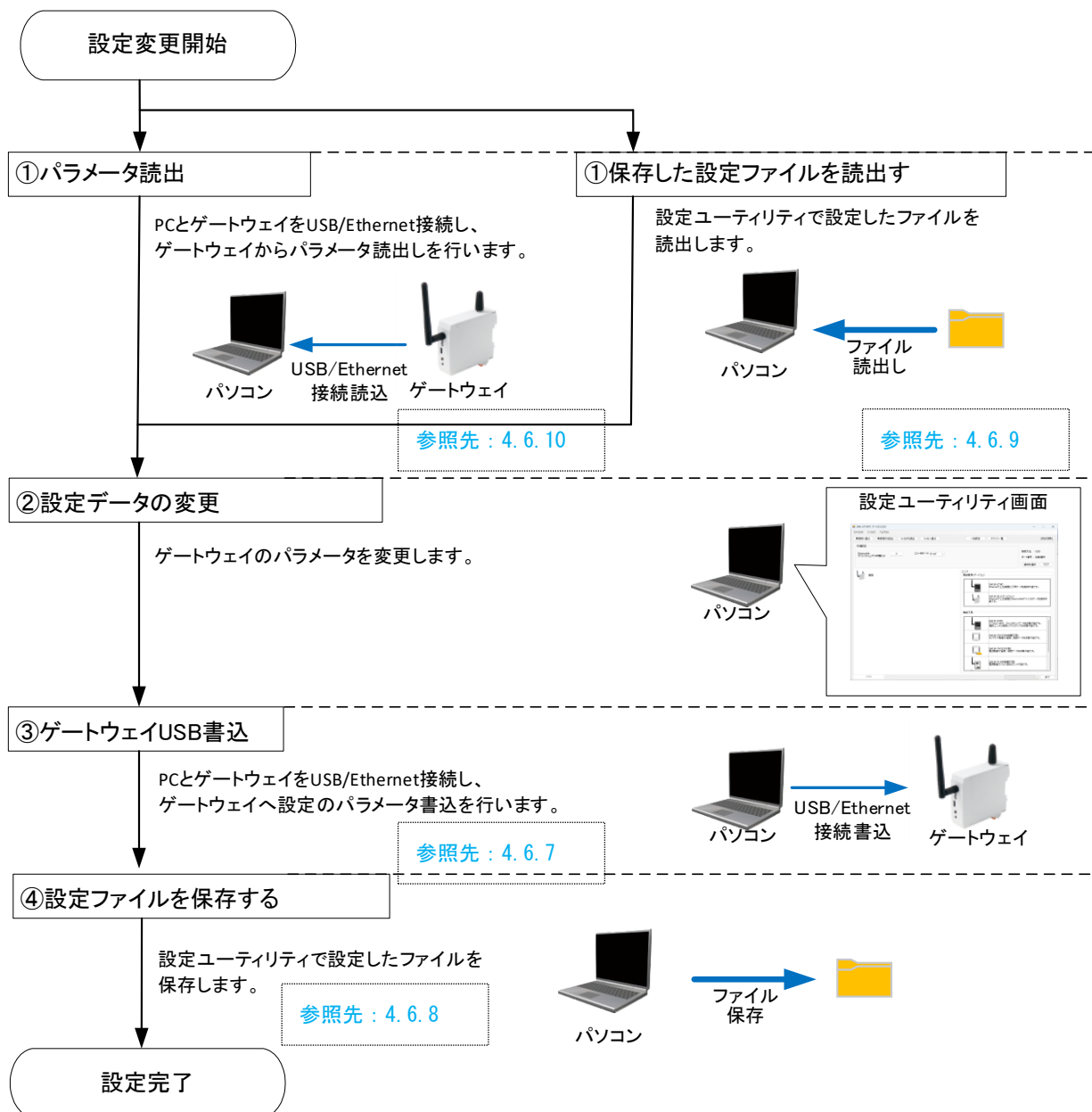


4.3.3. 用途事例① 設定変更の手順

無線ユニットの設定変更は以下手順で実施してください。



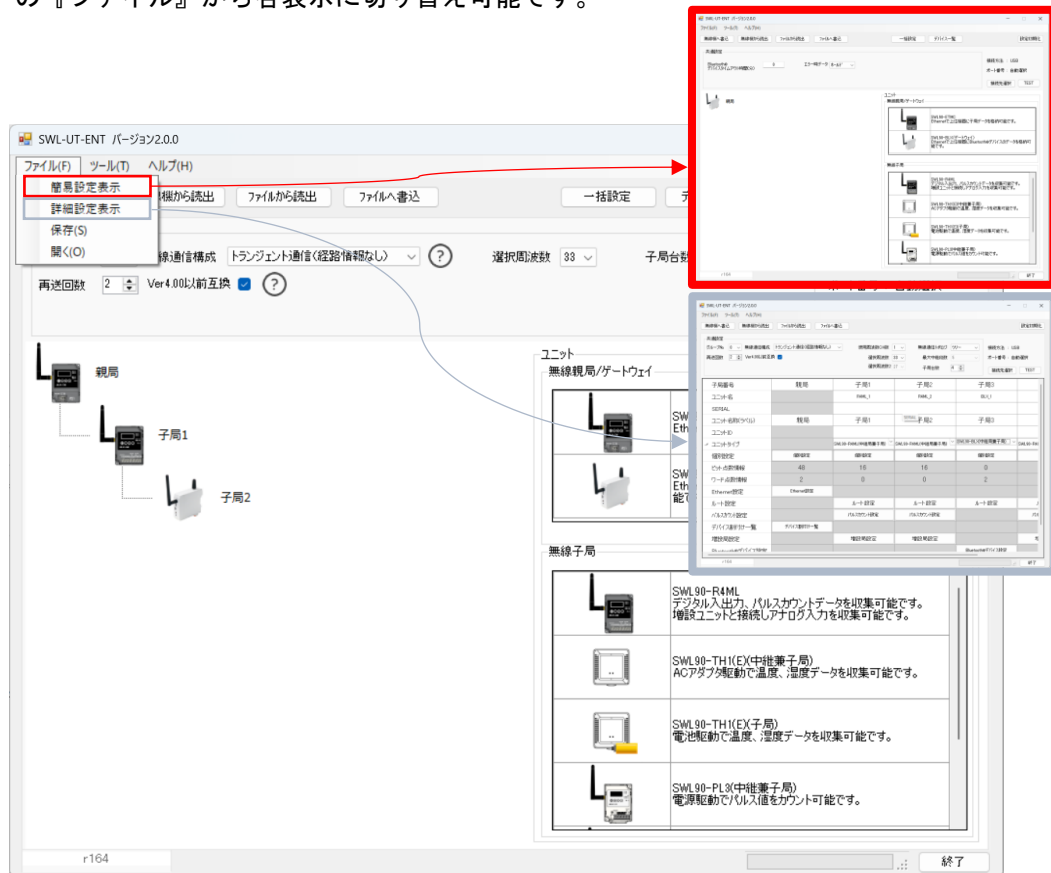
4.3.4. 用途事例② 設定変更の手順



4.3.5. 簡易設定表示／詳細設定表示の切り替え

・機能概要

ツールバーの『ファイル』から各表示に切り替え可能です。



!!! 注意事項 !!!

表示切り替え時の注意事項

- 以下の場合、簡易画面に遷移できません。
 - ・通信トポロジがメッシュの場合
 - ・中継経路設定数に「2」以上を設定している場合
 - ・簡易画面で描画出来ない経路を設定している場合
- BLX ゲートウェイモードを使用する場合、詳細画面に遷移できません。

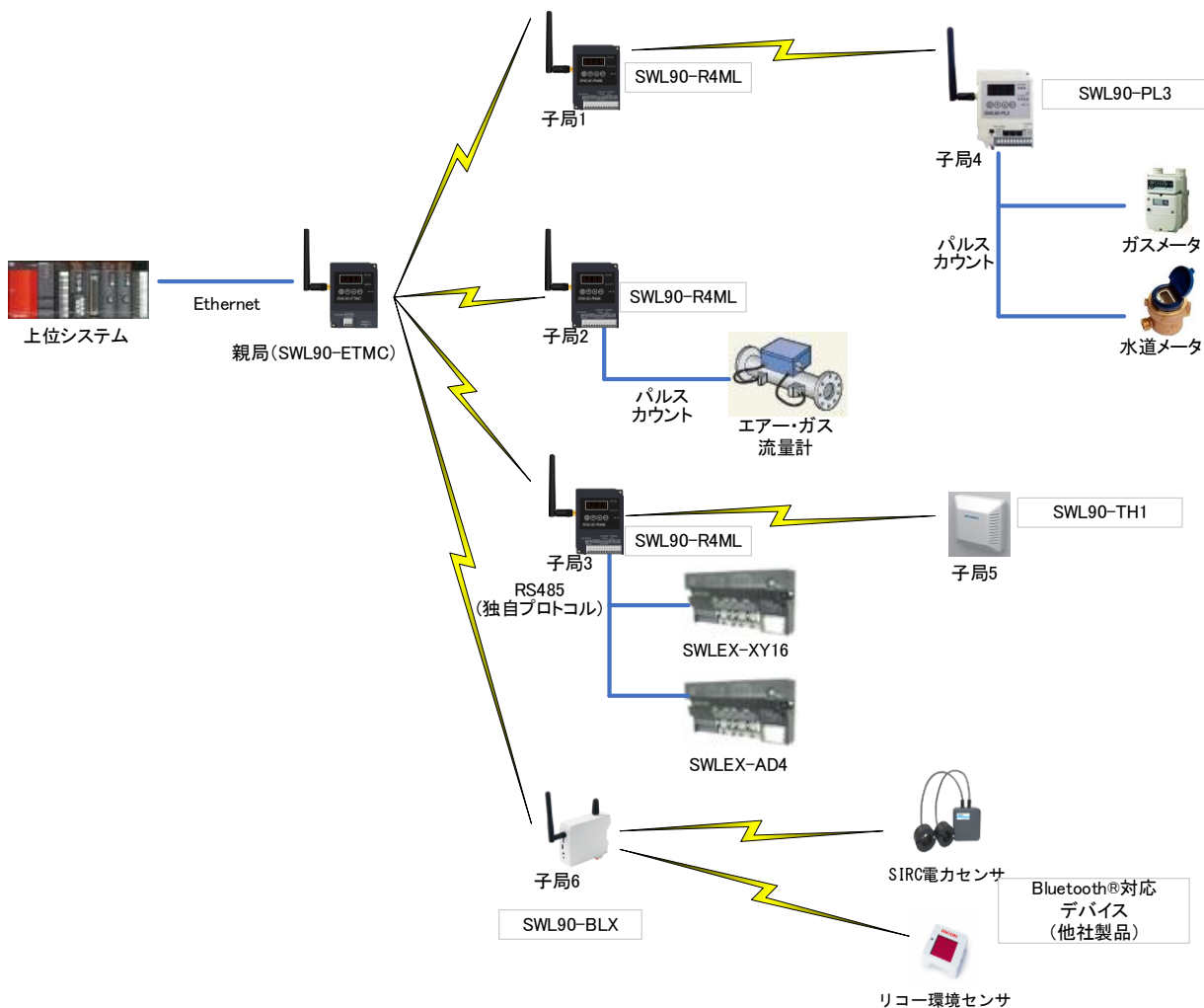
4.4. 使用手順詳細（親局 ETMC 簡易画面）

4.4.1. 無線ユニットの設定データの作成

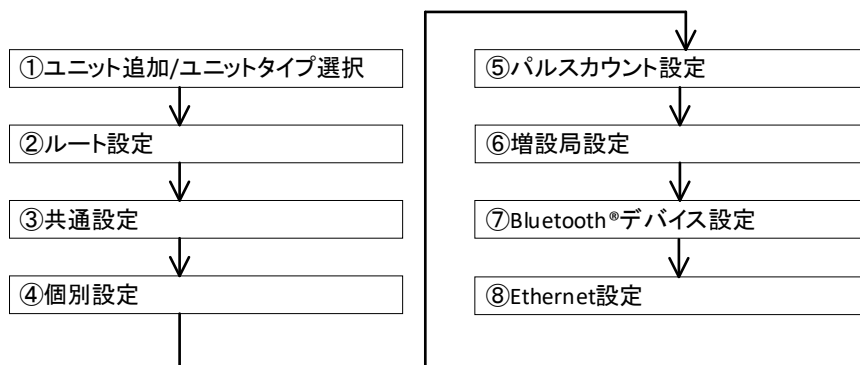
無線ユニットに書込む設定データを作成します。

各設定の詳細については、「4.2 画面詳細」をご参照ください。

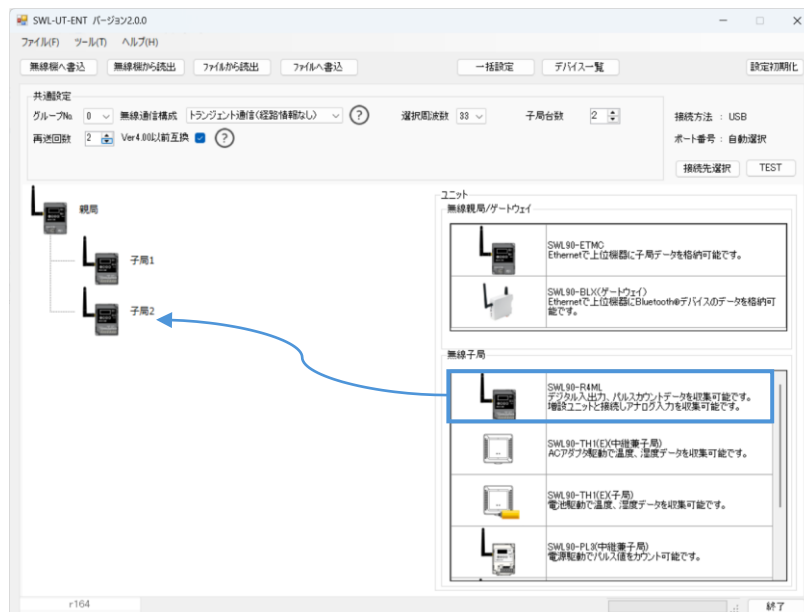
下記構成の設定例を元に設定を行います。



設定手順



4.4.2. ユニット追加、ユニットタイプ選択



子局ユニットの追加はユニットのアイコンをドラッグ & ドロップすることでユニットを追加することができます。

!!! 注意事項 !!!

以下ユニットは無線通信構成『トランジェント通信(経路情報なし)』または、『トランジェント通信(経路情報あり)』の設定時のみ表示されます。

- ・SWL90-TH1 (E) (中継兼子局)
- ・SWL90-TH1 (E) (子局)
- ・SWL90-PL3 (子局)
- ・SWL90-BLX (中継兼子局)

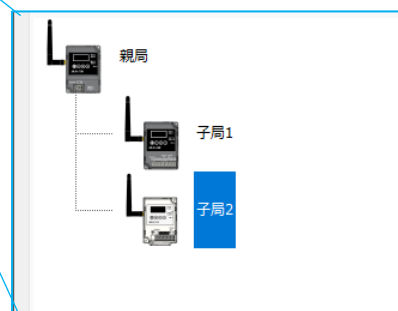
備考

●個別設定から、ユニットタイプを変更する方法

※個別設定からユニットタイプを変更することが可能です。

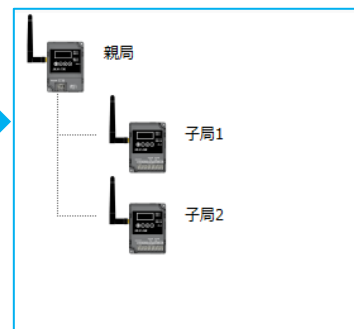


ユニットタイプを
任意のユニットに変更可能



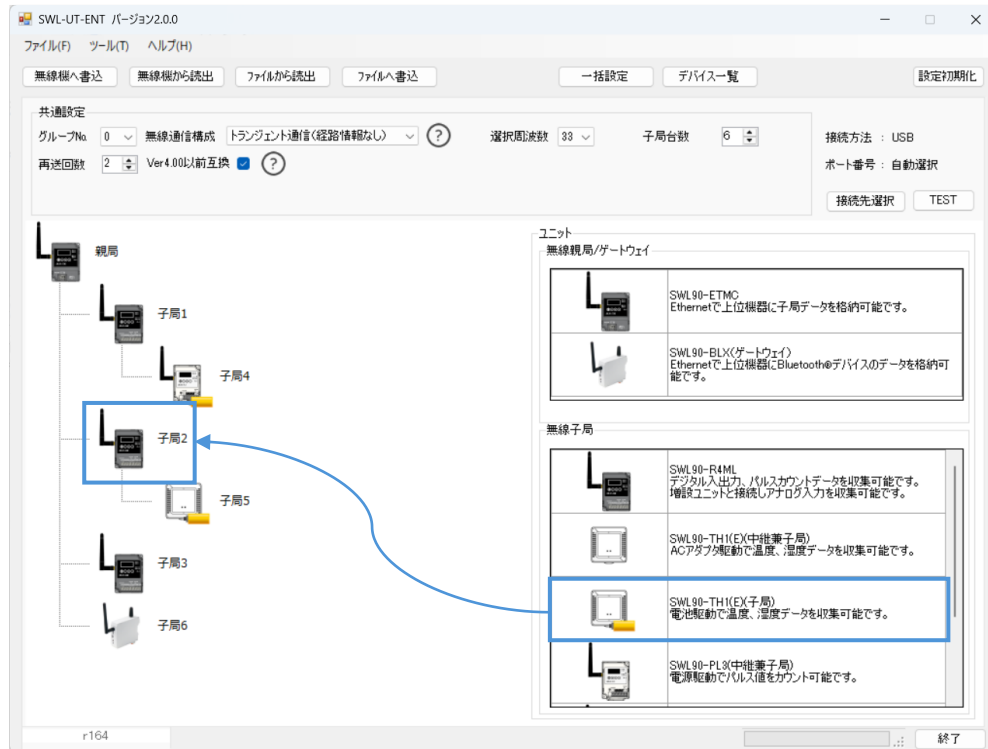
●子局の削除方法

子局台数を減らすことで最も子局番号が大きいユニットを削除することが可能です。



4.4.3. ルート設定

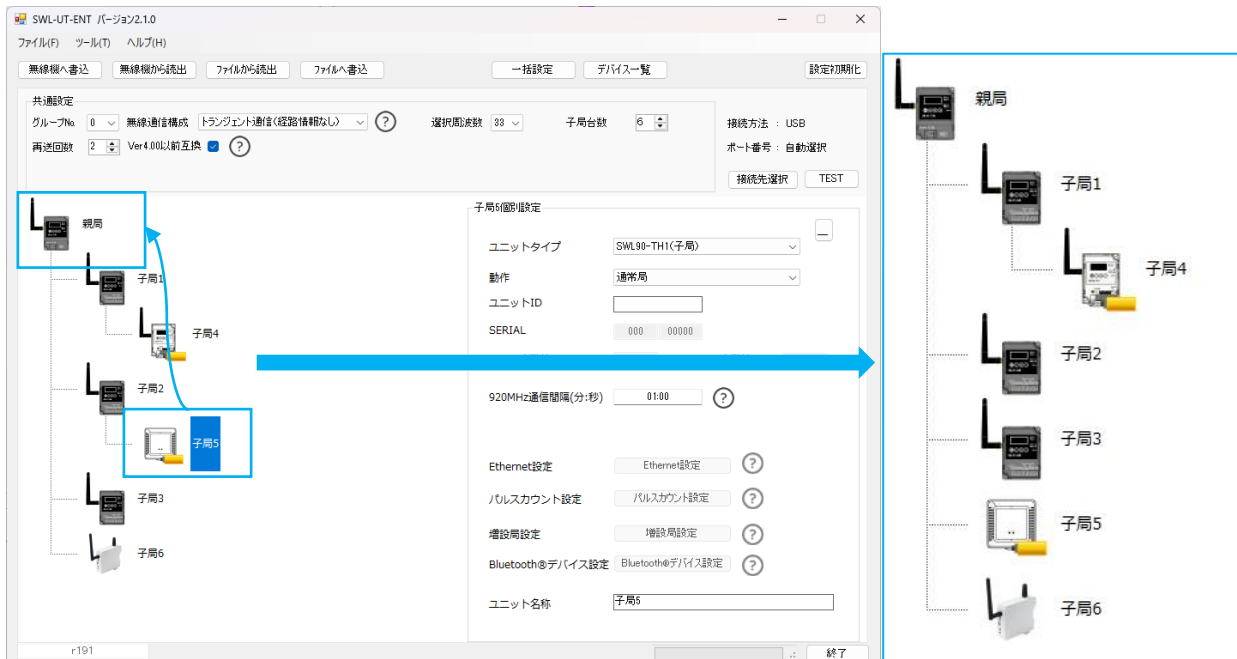
中継したいユニットの上にアイコンをドラッグ & ドロップすることで通信経路を作成することができます。



備考

●通信経路を削除する方法

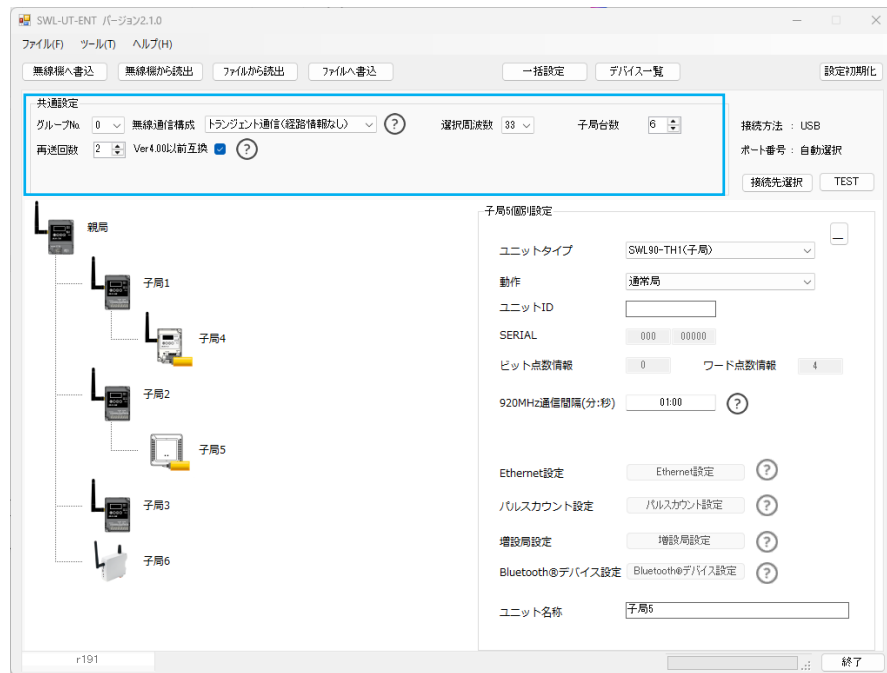
親局のアイコンの上にアイコンをドラッグ & ドロップすることで通信経路を削除することができます。



4.4.4. 共通設定

無線親局と無線子局の共通設定を行います。

親局、子局の共通設定が一致しなければ通信を行うことができません



親局、子局に共通して設定する項目は以下の通りです。

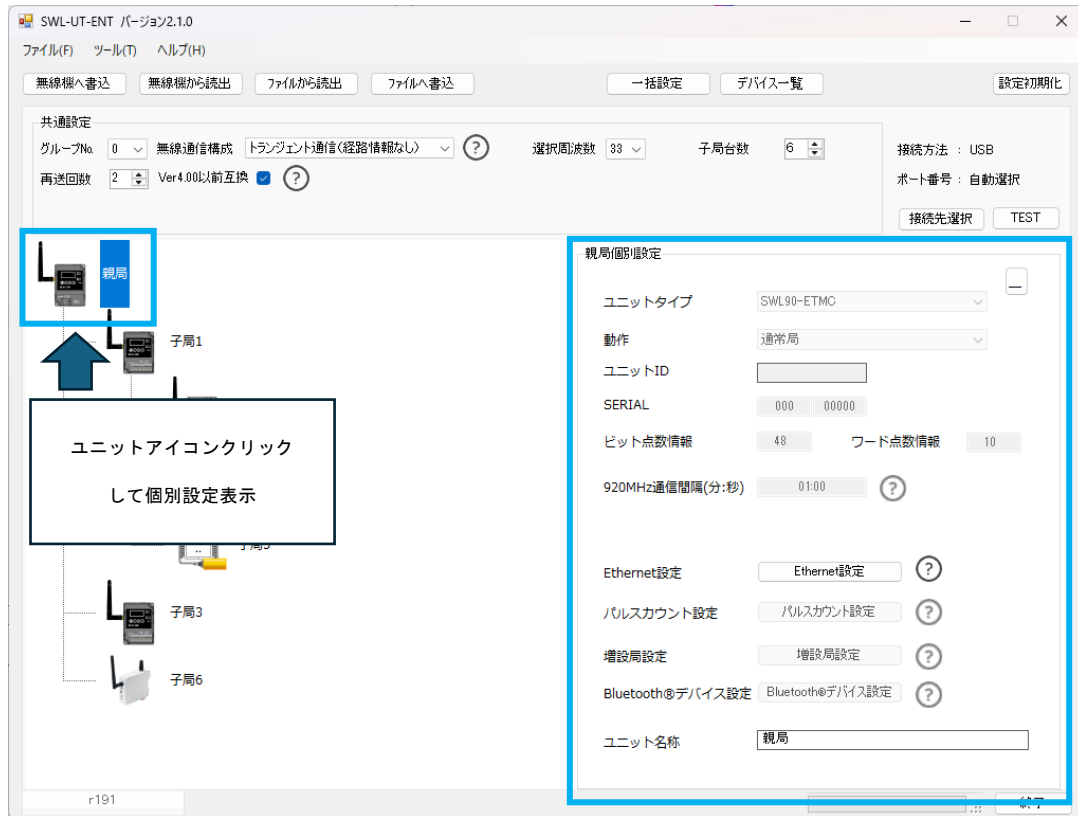
パラメータ	詳細
グループ No	グループ No を選択します。 同一エリアで複数の無線システムを使用する場合に誤送信、誤受信を防ぎます。
無線通信構成	無線通信にてデータを取得する無線通信構成を選択します。 ※SWL90-TH1 や SWL90-BLX はトランジェント通信設定時のみ選択可能です。
選択周波数	無線周波数を使用するチャネル数を選択します。 無線環境監視ツールで周辺の使用チャネルをスキャンして 使用されていないチャネルを選択ください。
子局台数	画面に表示している子局台数を表示します 子局台数を変更した場合、画面に表示される子局台数が増減します
再送回数	無線通信が失敗した時の送信リトライ回数を設定します。
Ver4.00 以前互換	Ver4.00 以前の無線ユニットとの互換設定を行います ※互換なしの場合、Ver4.00 以前のユニットと通信できません。

4.4.5. 個別設定／一括設定

1) 親局個別設定

親局のユニットアイコンを選択することで、親局の個別設定が開きます。

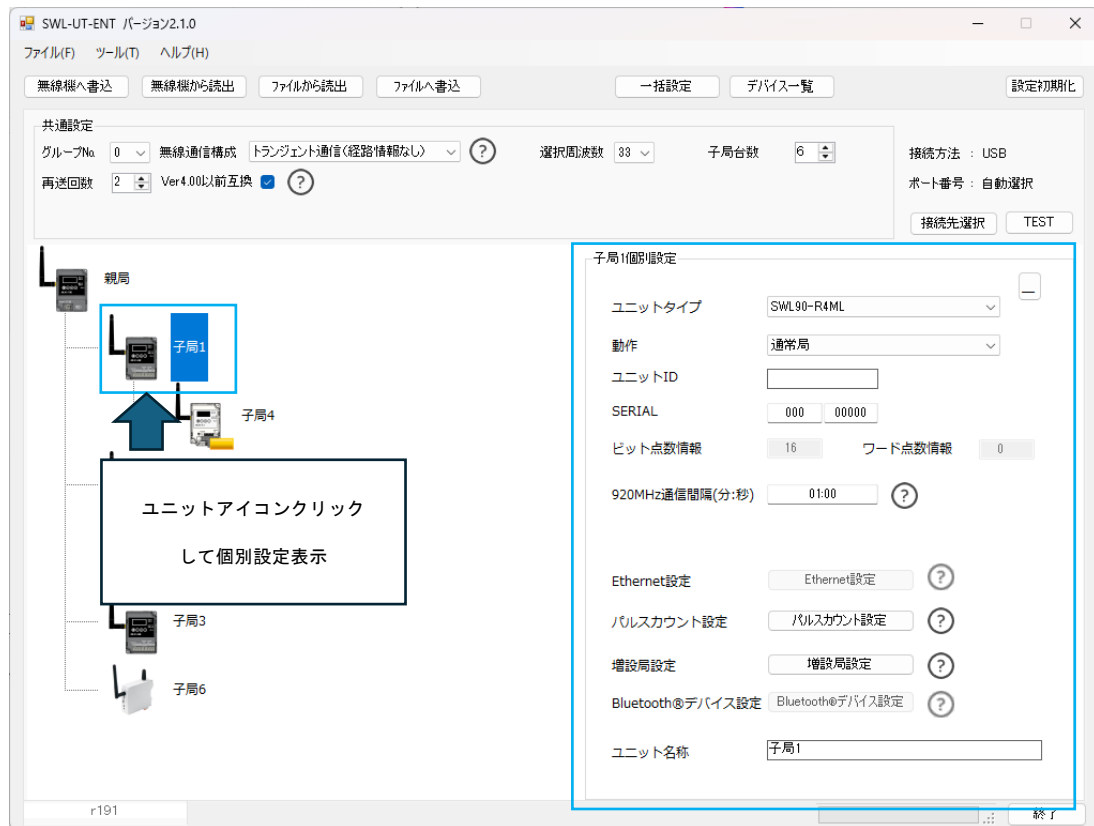
Ethernet 無線親局と相手局の設定を実施していきます。



2) 子局個別設定

ユニットアイコンを選択することで、各子局の個別設定が開きます。

ユニット ID や送信周期の設定を個別に実施していきます。



【子局ユニット ID】

子局本体のユニット ID は工場出荷時には、シリアル No.上位 3 桁が設定されています。

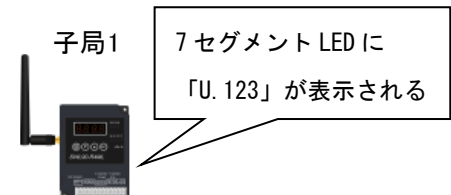
子局本体のユニット ID に合わせて設定ユーティリティのユニット ID を記入してください。

工場出荷時に
子局の定格銘板の
「SERIAL」の上 3 桁が
無線ユニットのユニット ID
になります。

定格銘板

920MHz Wireless Unit	
TYPE	SWL90-R4ML
	12/24VDC 1.4W
SERIAL	12300631
SW Ver.	4.10
MITSUBISHI ELECTRIC SYSTEM & SERVICE CO., LTD. MADE IN JAPAN	

無線ユニット

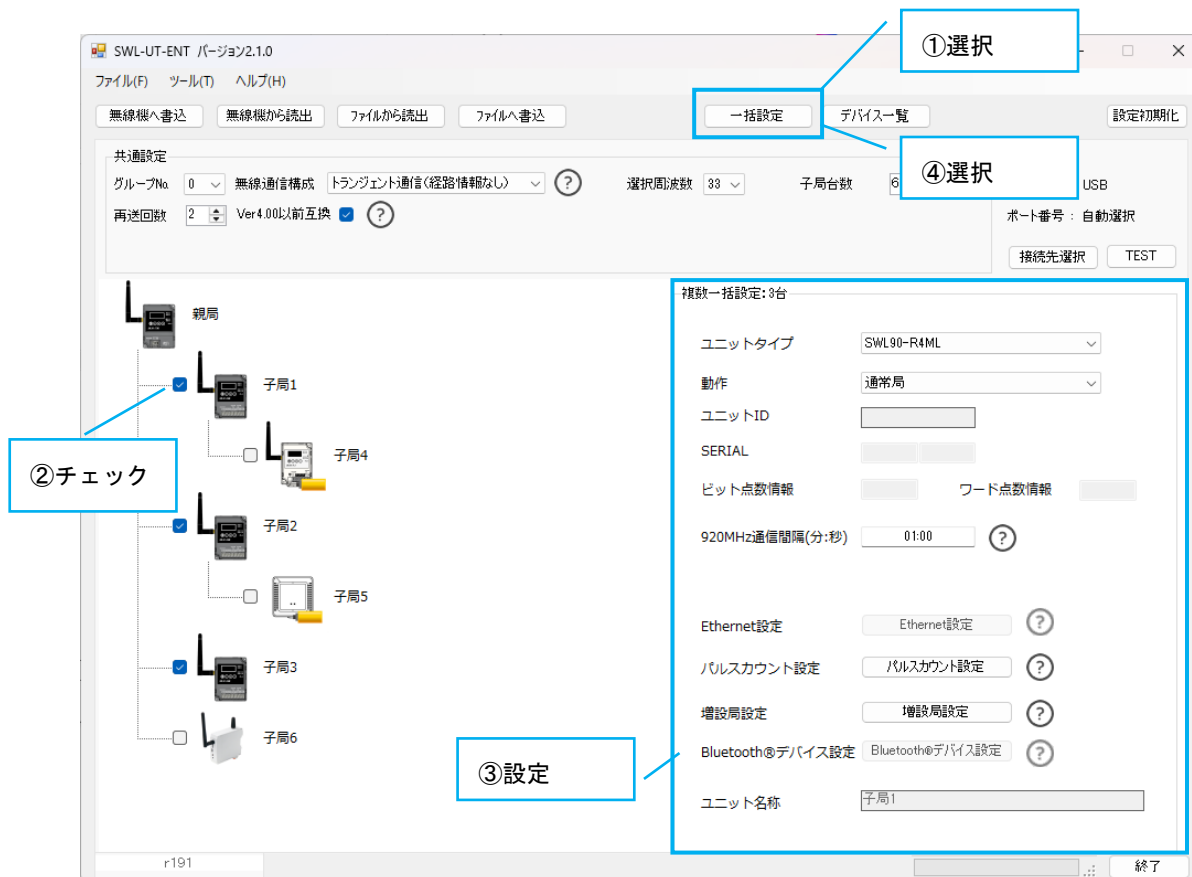


※各子局の本体に任意のユニット ID (例: 子局 1 ユニット ID = 1、子局 2 ユニット ID = 2 など) を入力することも可能です。

3) 一括設定

複数台のユニットに同じ設定を行う場合、以下手順で一括設定可能です。

- ① 『一括設定』を選択
- ② 同じ設定を行いたいユニットに☑
- ③ 設定を実施
- ④ 『一括設定』を選択し、設定を確定



一括設定で変更可能な設定内容は以下のとおりです。

- ・ユニットタイプ
- ・動作
- ・無線送信間隔(分:秒) (無線通信構成にトランジェント通信選択時のみ)
- ・パルスカウント設定 (ユニットタイプに SWL90-R4ML/SWL90-PL3 選択時のみ)
- ・増設局設定 (ユニットタイプに SWL90-R4ML 選択時のみ)

！！ 注意事項 ！！

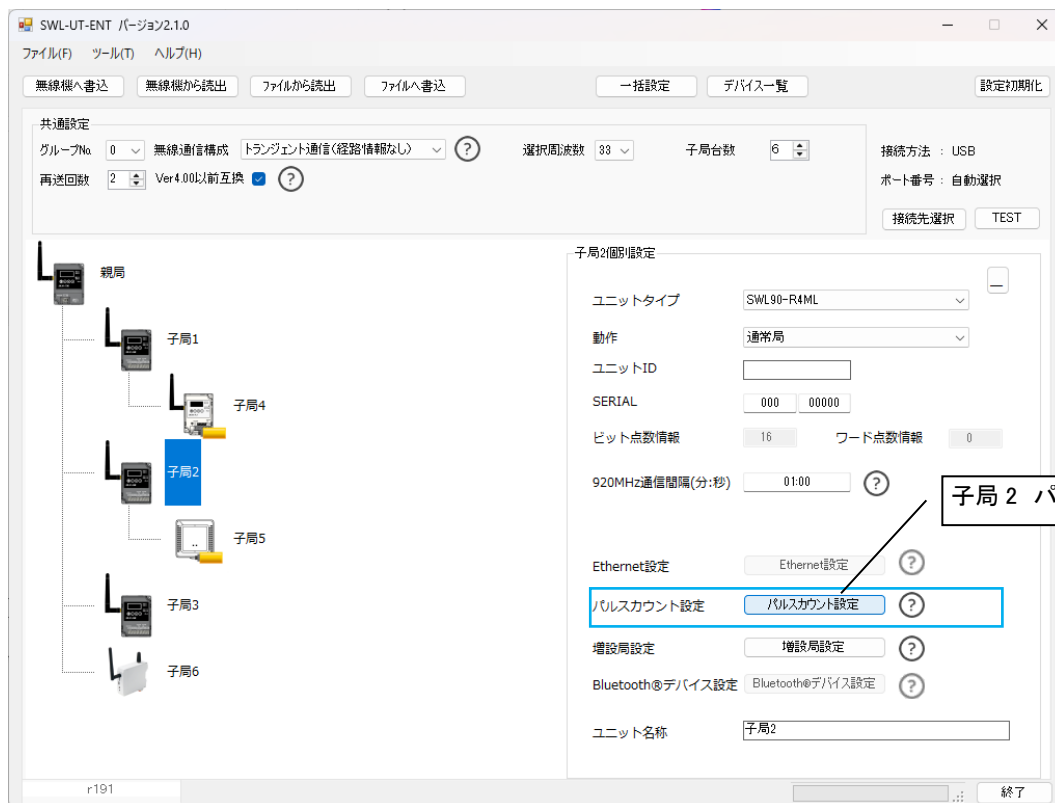
一括設定中は以下動作実施できません。設定完了後、一括設定を押下し設定を確定してください。

- ・無線機へ書込／無線機から読出
- ・ファイルから読出／ファイルへ書込
- ・詳細画面への画面遷移
- ・設定初期化

4.4.6. パルスカウント設定

パルスカウント設定を行います。パルスカウント設定を行わない場合は、入力としてご利用できます。

本構成では、パルスカウント設定を使用する子局 2、子局 4 の設定例を記載します。



【子局 2 パルスカウント設定】

子局 2 は、エアーガス流量計を接続し、パルスカウントを 1CH 使用するため設定は以下のように設定します。

表 4-1 子局 2 パルスカウント設定

名称	設定値
パルスカウント設定	1CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1



※1: ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

【子局 4 パルスカウント設定】

子局 4 は、ガスメータ、水道メータを接続しパルスカウントを 2CH 使用するため設定は以下のように設定します。

表 4-2 子局 4 パルスカウント設定

名称	設定値
パルスカウント設定	2CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1
CH2 カウント桁数	8 ※1
CH2 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1

パルスカウント設定 2Ch

CH1

CH1動作: パルスカウント

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

CH2

CH2動作: パルスカウント

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

CH3

CH3動作: ON/OFF入力

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

OK キャンセル

※1: ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

4.4.7. 増設局設定

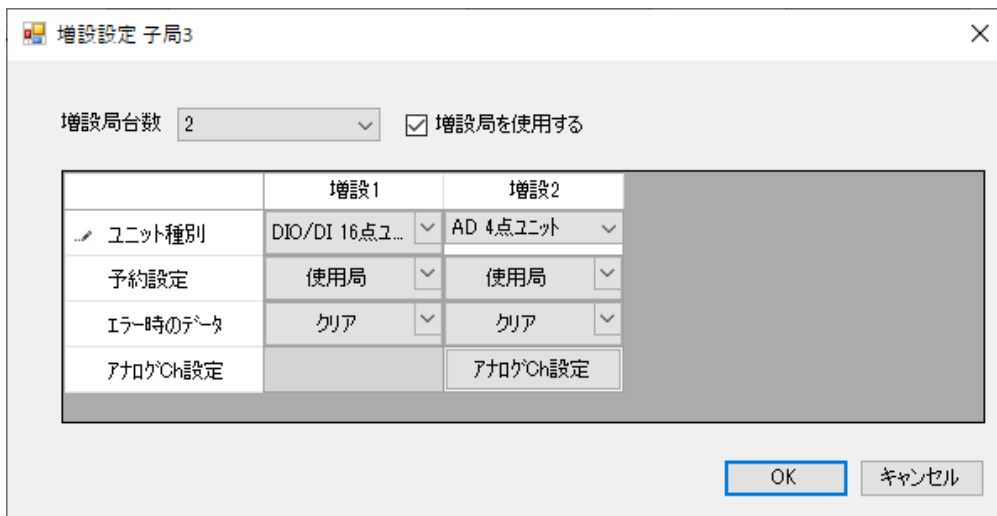
子局に接続する増設局設定を行います。

本構成では、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用する子局 3 の設定例を記載します。



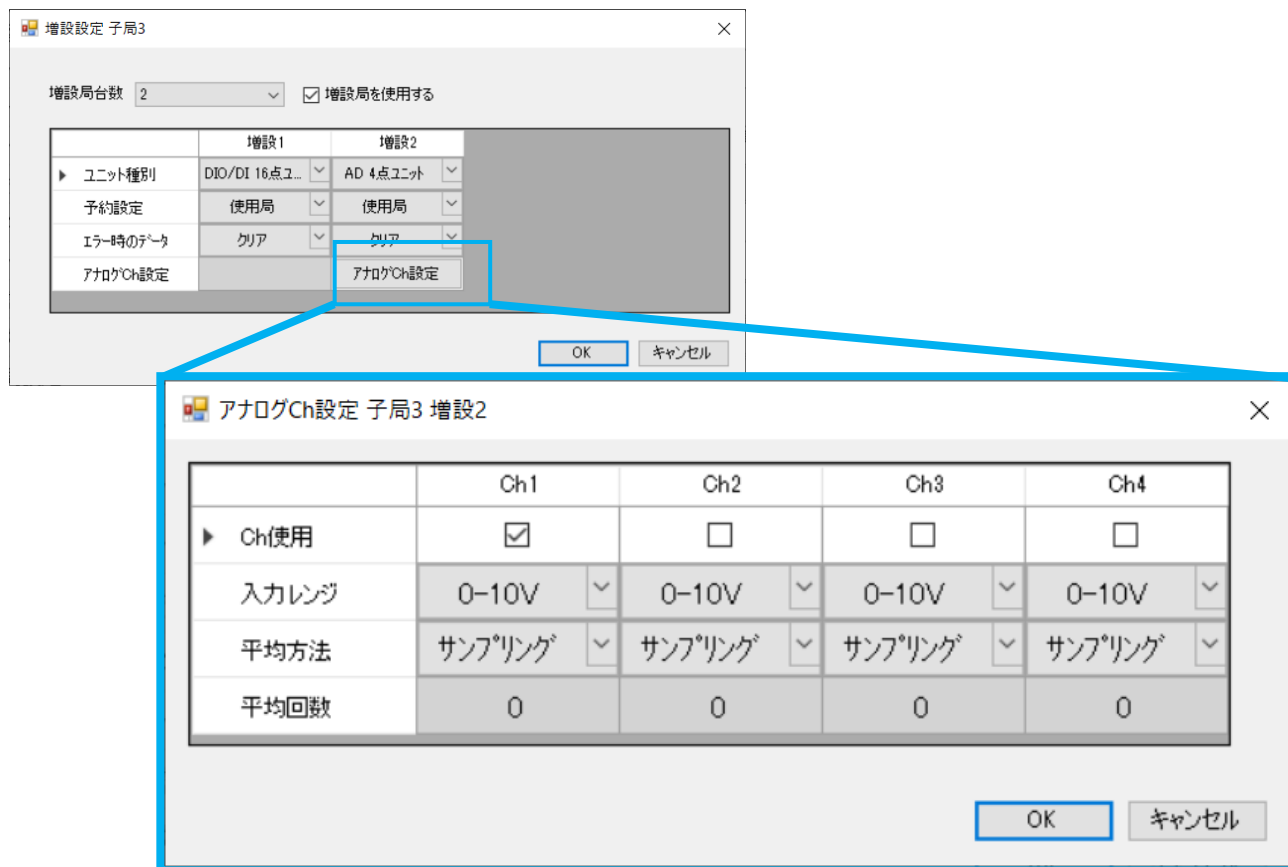
【子局 3 増設局設定】

子局 3 は、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用するため設定は以下のように設定します。



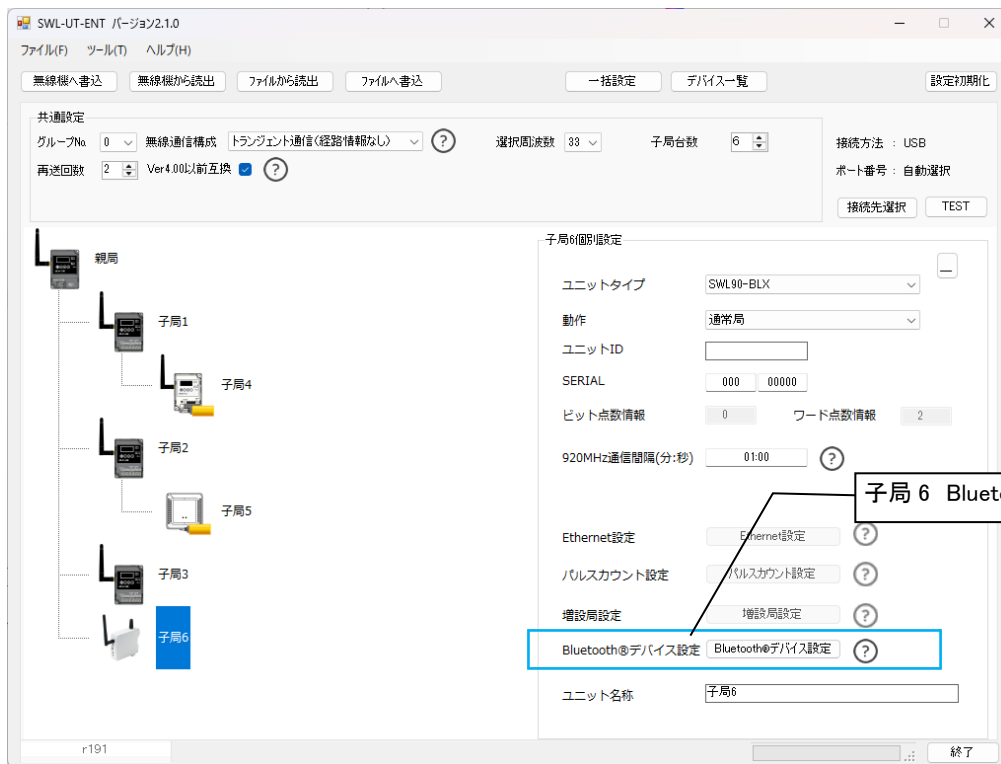
アナログ増設ユニットを設定する場合、「アナログ CH 設定」を行う必要があります。

CH1 を使用した場合の設定は以下の通りです。



4.4.8. Bluetooth デバイス設定

子局に接続する Bluetooth デバイス設定を行います。



【子局 6 Bluetooth デバイス設定】



○Bluetooth デバイス台数

接続する Bluetooth デバイスの台数を選択します。

○メーカー／製品名

接続するデバイスのメーカー／製品名を選択します。

メーカー毎の取得情報は次ページ以降を参照してください。

表 4-3 メーカー／製品名 (1/5)

No	選択内容	取得内容	取得詳細	通信方式
1	予約局	空き 空き 空き 空き	データ格納されません 予約領域としてデバイスを確保することが出来ます	—
2	T&D 製 温度センサ TR41A/TR42A	温度[°C] 電池レベル 電波強度[dBm] 空き	温度の 10 倍値が格納されます 電池レベルが格納されます 5:電池あり 1:電池残量低下 ※詳細はメーカーマニュアルをご参照ください 受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い データ格納されません	アドバタイズ
3	T&D 製 温度センサ TR43A	温度[°C] 湿度[%] 電池レベル 電波強度[dBm]	温度の 10 倍値が格納されます 湿度の 10 倍値が格納されます 電池レベルが格納されます 5:電池あり 1:電池残量低下 ※詳細はメーカーマニュアルをご参照ください 受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い	アドバタイズ
4	T&D 製 温度センサ TR45	温度[°C] 電池レベル 電波強度[dBm] 空き	温度の 10 倍値が格納されます 電池レベルが格納されます 5:電池あり 1:電池残量低下 ※詳細はメーカーマニュアルをご参照ください 受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い データ格納されません	アドバタイズ
5	リコー製 環境センサ D201/D202 (気圧、温度、湿度、電圧)	気圧[hPa] 温度[°C] 湿度[%] 電池電圧[V]	気圧の 10 倍値が格納されます 温度の 10 倍値が格納されます 湿度の 10 倍値が格納されます 電池電圧の 100 倍値が格納されます	アドバタイズ
6	リコー製 環境センサ D201/D202 (照度、電波強度)	照度[lx] 電波強度[dBm] 空き 空き	照度の 10 倍値が格納されます 照度は生値が格納されるため、 値によって以下の計算を行ってください ・『格納値の 10 分の 1』が 350 未満 換算値[lx]=2.1242 × 『格納値の 10 分の 1』 + 0 ・『格納値の 10 分の 1』が 350 以上 換算値[lx]=1.0692 × 『格納値の 10 分の 1』 + 388.24 受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い データ格納されません データ格納されません	アドバタイズ

表 4-4 メーカー/製品名 (2/5)

No	選択内容	取得内容	取得詳細	通信方式
7	リコー製 CO2 センサ D101 (気圧、温度、湿度、電圧)	気圧[hPa]	気圧の 10 倍値が格納されます	アドバタイズ
		温度[°C]	温度の 10 倍値が格納されます	
		湿度[%]	湿度の 10 倍値が格納されます	
		電池電圧[V]	電池電圧の 100 倍値が格納されます	
8	リコー製 CO2 センサ D101 (照度、CO2、電波強度)	照度[lx]	照度の 10 倍値が格納されます 照度は生値が格納されるため、 値によって以下の計算を行ってください ・『格納値の 10 分の 1』が 250 未満 換算値[lx]=3.0274×『格納値の 10 分の 1』 ・『格納値の 10 分の 1』が 250 以上 換算値[lx]=1.2223×『格納値の 10 分の 1』+ 444.02	アドバタイズ
		CO2[ppm]	CO2 の値が格納されます	
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い／-90:悪い	
		空き	データ格納されません	
9	木幡製角度センサ Salta/Salta EX	角度	角度の 100 倍値が格納されます 受信データは初期設定位置からの移動角度のため、 取り付けるアナログメータに合わせて値を補正する 必要があります	アドバタイズ
		電池電圧[V]	電池電圧の 1000 倍値が格納されます	
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い／-90:悪い	
		空き	データ格納されません	
10	SIRC 製 角度センサ PAK04/PAK05	角度	角度値が格納されます 受信データは初期設定位置からの移動角度のため、 取り付けるアナログメータに合わせて値を補正する 必要があります	アドバタイズ
		電池電圧[V]	電池電圧の 10 倍値が格納されます	
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い／-90:悪い	
		空き	データ格納されません	
11	SIRC 製 電力センサ DDS33P / DDS13P (電力)	積算電力量[Wh](下位)	積算電力が 32bit データで格納されます。 ※積算値の最大は「999,999,999」	アドバタイズ
		積算電力量[Wh](上位)		
		有効電力[W](下位)	有効電力が 32bit データで格納されます。	
		有効電力[W](上位)		
12	SIRC 製 電力センサ DDS33P / DDS13P (電力、電池)	皮相電力[V・A](下位)	皮相電力が 32bit データで格納されます。	アドバタイズ
		皮相電力[V・A](上位)		
		電池電圧[V]	電池電圧の 10 倍値が格納されます。	
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い／-90:悪い	
13	SIRC 製 電力センサ DDS33P 200V 設定時 (電流、力率)	3 相電流[A](下位)	センサ本体の DIP スイッチが 200V 設定時 (SW2:ON) の電流値を格納可能です。 電流値が 32bit データで格納されます。 電流値の 1000 倍値が格納されます。 力率の 1000 倍値が格納されます。 格納内容はメーカーの取説をご参照ください。	アドバタイズ
		3 相電流[A](上位)		
		力率		
		センサ情報		
14	SIRC 製 電力センサ DDS33P 400V 設定時 (電流、力率)	3 相電流[A](下位)	センサ本体の DIP スイッチが 400V 設定時 (SW2:OFF) の電流値を格納可能です。 電流値が 32bit データで格納されます。 電流値の 1000 倍値が格納されます。 力率の 1000 倍値が格納されます。 格納内容はメーカーの取説をご参照ください。	アドバタイズ
		3 相電流[A](上位)		
		力率		
		センサ情報		

表 4-5 メーカー/製品名 (3/5)

No	選択内容	取得内容	取得詳細	通信方式
15	SIRC 製 電力センサ DDS13P 100V 設定時 (電流、力率)	単相電流[A](下位)	センサ本体の DIP スイッチが 100V 設定時 (SW2:ON) の電流値を格納可能です。 電流値が 32bit データで格納されます。 電流値の 1000 倍値が格納されます。	アドバタイズ
		単相電流[A](上位)		
		力率		
		センサ情報		
16	SIRC 製 電力センサ DDS13P 200V 設定時 (電流、力率)	単相電流[A](下位)	センサ本体の DIP スイッチが 200V 設定時 (SW2:OFF) の電流値を格納可能です。 電流値が 32bit データで格納されます。 電流値の 1000 倍値が格納されます。	アドバタイズ
		単相電流[A](上位)		
		力率		
		センサ情報		
17	ABLIC 製 漏水センサ S-CBTGAAAC	電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い	アドバタイズ
		空き	データ格納されません	
		空き	データ格納されません	
		空き	データ格納されません	
18	Braveridge 製 キーホルダー型ビーコン FBV-NKH52W	電池残量	BATTERY_LOW を有効にした場合、BATTERY_LOW の状態になった時に 1 を出力します。	アドバタイズ
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い	
		空き	データ格納されません	
		空き	データ格納されません	
19	柴田科学製 熱中症計 HSM-1 (WBGT、黒球温度、 温度、湿度)	WBGT	暑さ指数の10倍値が格納されます。	GATT
		黒球温度[°C]	黒球温度の10倍値が格納されます。	
		温度[°C]	温度の10倍値が格納されます。	
		湿度[%]	湿度の 10 倍値が格納されます。	
20	柴田科学製 熱中症計 HSM-1 (年、月、日、時)	年	計測日時の年が格納されます。	GATT
		月	計測日時の月が格納されます。	
		日	計測日時の日が格納されます。	
		時	計測日時の時が格納されます。	
21	柴田科学製 熱中症計 HSM-1 (分、秒、電波強度)	分	計測日時の分が格納されます。	GATT
		秒	計測日時の秒が格納されます。	
		電波強度[dBm]	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い	
		空き	データ格納されません	
22	三菱電機製 電力量計 M2PM (計器 ID)	計器 ID1	16 進 ASCII コードで格納されます。 計器 ID は下位上位の順に格納されます。 計器 ID1～5 を結合することで機器の シリアル No を取得できます。	GATT
		計器 ID2		
		計器 ID3		
		計器 ID4		
23	三菱電機製 電力量計 M2PM (計器 ID、乗率、小数点位置)	計器 ID5	同上	GATT
		乗率仮数部	乗率仮数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		乗率指数部	乗率指数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		小数点位置	小数点位置が格納されます。(有効電力計算に使用)	

表 4-6 メーカー/製品名 (4/5)

No	選択内容	取得内容	取得詳細	通信方式
24	三菱電機製 電力量計 M2PM (有効電力量受電、 有効電力量送電)	有効電力量受電 (下位)	有効電力量受電が 32bit データで格納されます。 値によって以下の計算を行ってください (i) 小数点位置が 00h(小数点以下 1 桁の場合) ・LCD 表示値 = 格納値 × 0.01 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^{乗率指数部} × 0.1 ・有効電力量範囲(8 桁):00000000 ~ 99999999	GATT
		有効電力量受電 (上位)	(ii) 小数点位置が 01h(小数点以下 2 桁の場合) ・LCD 表示値 =格納値 × 0.1 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^{乗率指数部} × 0.01 ・有効電力量範囲(7 桁):00000000 ~ 09999999 ※LCD 表示値は単位と小数点を除いた LCD (ディスプレイ)の値	
		有効電力量送電 (下位)	有効電力量送電が 32bit データで格納されます。 上記受電と同じ計算が必要です。 (LCD には表示されません)	
		有効電力量送電 (上位)		
		25	三菱電機製 電力量計 M2PM (電波強度)	
空き	-80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い データ格納されません			
空き	データ格納されません			
空き	データ格納されません			
26	三菱電機製 電力量計 M8FM (計器 ID)	計器 ID1	16 進 ASCII コードで格納されます。	GATT
		計器 ID2	計器 ID は下位上位の順に格納されます。	
		計器 ID3	計器 ID1～5 を結合することで機器の	
		計器 ID4	シリアル No を取得できます。	
27	三菱電機製 電力量計 M8FM (計器 ID、乗率、小数点位置)	計器 ID5	同上	GATT
		乗率仮数部	乗率仮数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		乗率指数部	乗率指数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		小数点位置	小数点位置が格納されます。(有効電力計算に使用)	
28	三菱電機製 電力量計 M8FM (有効電力量受電、有効電力 量送電)	有効電力量受電 (下位)	有効電力量受電が 32bit データで格納されます。 (i) 小数点位置が 00h(小数点以下 1 桁の場合) ・LCD 表示値 = 格納値 × 0.01 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^{乗率指数部} × 0.1 ・有効電力量範囲(8 桁):00000000 ~ 99999999	GATT
		有効電力量受電 (上位)	(ii) 小数点位置が 01h(小数点以下 2 桁の場合) ・LCD 表示値 = 格納値 × 0.1 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^{乗率指数部} × 0.01 ・有効電力量範囲(7 桁):00000000 ~ 09999999 ※LCD 表示値は単位と小数点を除いた LCD (ディスプレイ)の値	
		有効電力量送電 (下位)	有効電力量送電が 32bit データで格納されます。 上記受電と同じ計算が必要です。 (LCD には表示されません)	
		有効電力量送電 (上位)		
		29	三菱電機製 電力量計 M8FM (検定有効期限、電波強度)	
検定有効期限(月)	検定有効期限(月)が格納されます。			
電波強度	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い/-90:悪い			
空き	データ格納されません			
30	三菱電機製 電力量計 M8HM (計器 ID)	計器 ID1	16 進 ASCII コードで格納されます。	GATT
		計器 ID2	計器 ID は下位上位の順に格納されます。	
		計器 ID3	計器 ID1～5 を結合することで機器の	
		計器 ID4	シリアル No を取得できます。	
31	三菱電機製 電力量計 M8HM (計器 ID、乗率、小数点位置)	計器 ID5	同上	GATT
		乗率仮数部	乗率仮数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		乗率指数部	乗率指数部が格納されます。(有効電力計算に使用)	
		小数点位置	小数点位置が格納されます。(有効電力計算に使用)	

表 4-7 メーカー/製品名 (5/5)

No	選択内容	取得内容	取得詳細	通信方式
32	三菱電機製 電力量計 M8HM (有効電力量受電、 有効電力量送電)	有効電力量受電 (下位)	有効電力量受電が 32bit データで格納されます。 <u>(i) 小数点位置が 00h(小数点以下 1 桁の場合)</u> ・LCD 表示値 = 格納値 × 0.01 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^ 乗率指数部 × 0.1 ・有効電力量範囲(8 桁):00000000 ~ 99999999	GATT
		有効電力量受電 (上位)	<u>(ii) 小数点位置が 01h(小数点以下 2 桁の場合)</u> ・LCD 表示値 = 格納値 × 0.1 (小数点以下切り捨て) ・現在の有効電力量(単位:kWh) = LCD 表示値 × 乗率仮数部 × 10 ^ 乗率指数部 × 0.01 ・有効電力量範囲(7 桁):00000000 ~ 09999999 ※LCD 表示値は単位と小数点を除いた LCD (ディスプレイ)の値	
		有効電力量送電 (下位)	有効電力量送電が 32bit データで格納されます。 上記受電と同じ計算が必要です。 (LCD には表示されません)	
		有効電力量送電 (上位)		
33	三菱電機製 電力量計 M8HM (電波強度)	電波強度	受信した電波強度が格納されます -80dBm 以上を推奨します (例)-70:良い／-90:悪い	GATT
		空き	データ格納されません	
		空き		
		空き		

Bluetooth®デバイス設定親局

Bluetoothデバイス台数: 2

-Bluetoothデバイス1台目

メーカー/製品名: リコー製 環境センサ D201/D202(気圧、温度、湿度、電圧)

BDアドレス: B4:E3:F9:49:AF:B3 [デバイススキャン]

-Bluetoothデバイス2台目

メーカー/製品名: SIRC製 電力センサ DDS33P/DDS13P(電力)

BDアドレス: B4:E3:F9:49:AF:B3 [デバイススキャン]

+Bluetoothデバイス3台目

OK キャンセル

BD アドレス

接続する Bluetooth デバイスの BD アドレスを設定します。

BD アドレスが不明な場合は、次のデバイススキャンの操作により検索できます。

メーカーごとの登録方法を記載します。

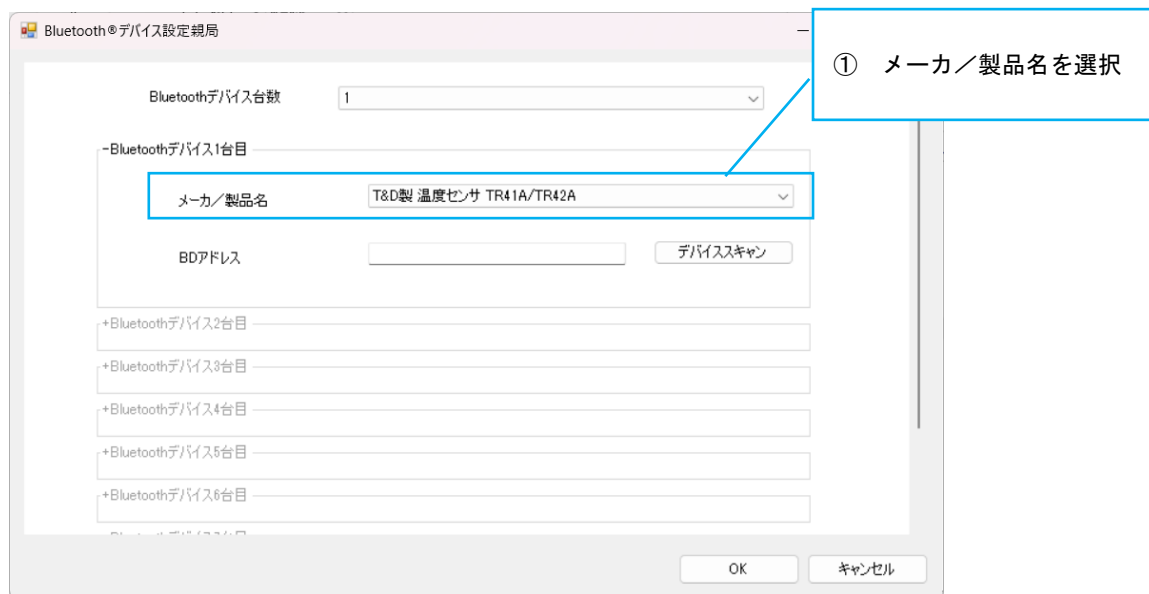
No	メーカー名	参照先
1	T&D	1)
2	リコー	2)
3	木幡計器製作所	3)
4	SIRC	4)
5	ABLIC	5)
6	Braveridge	6)
7	柴田科学	7)
8	三菱電機	8)

センサの仕様やパラメータ変更方法は、メーカーページをご参照ください。

1) T&D センサ

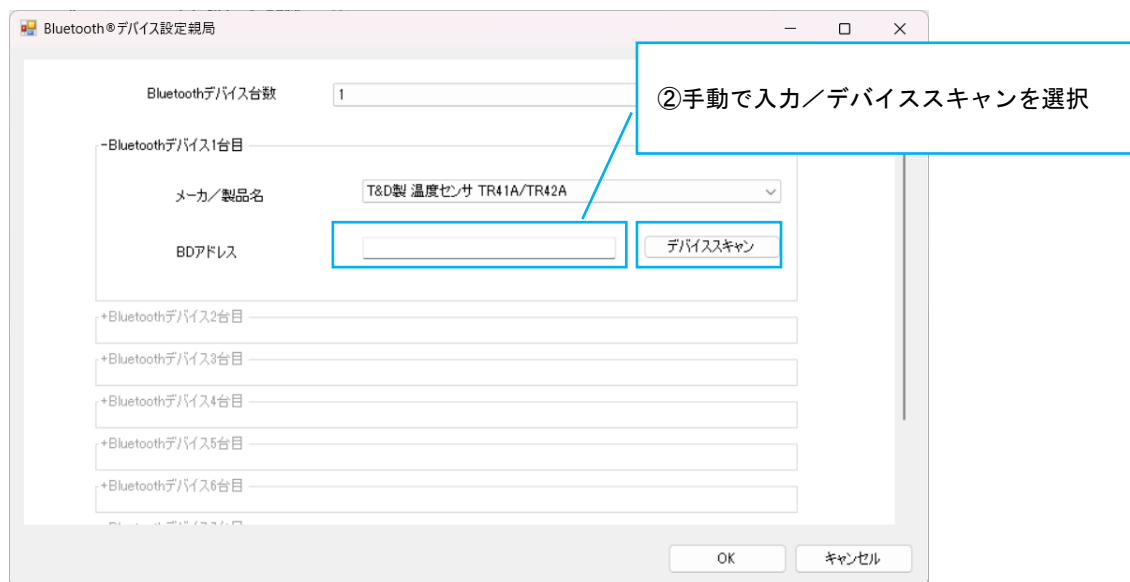
- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照

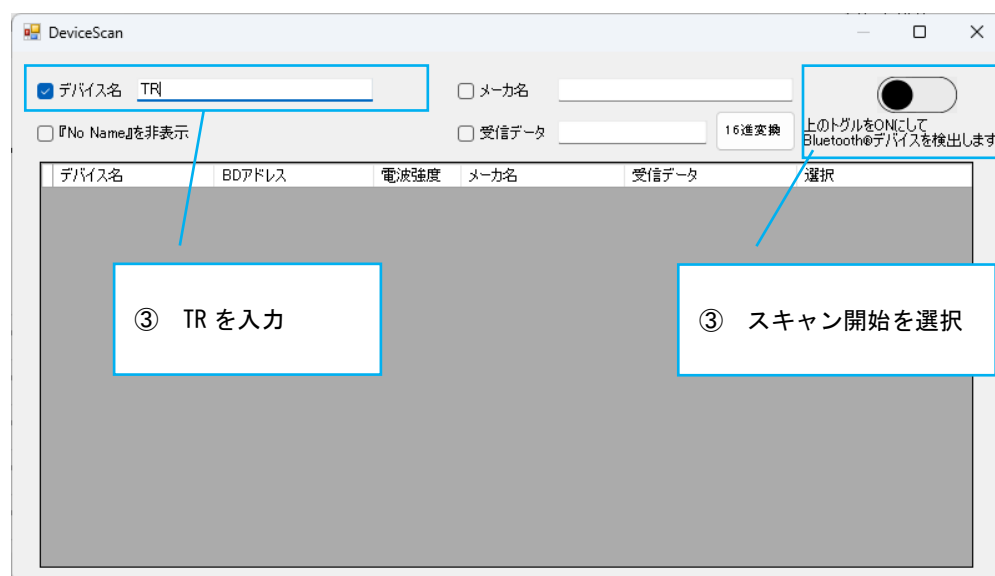


- ② 接続するセンサの『BD アドレス』が分かる場合、入力を実施します。

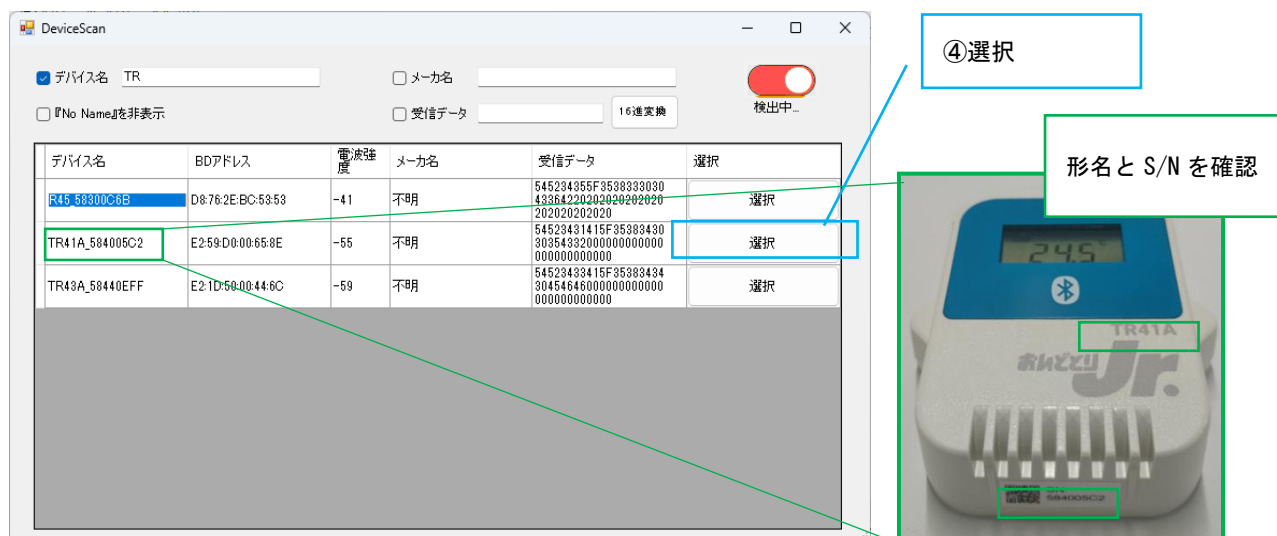
不明な場合は、デバイススキャンを選択します。



- ③ デバイス名に「TR」を入力し、『スキャン開始』を選択します。



- ④ 接続したい形名と S/N が一致するものを『選択』します。



2) リコーセンサ

- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

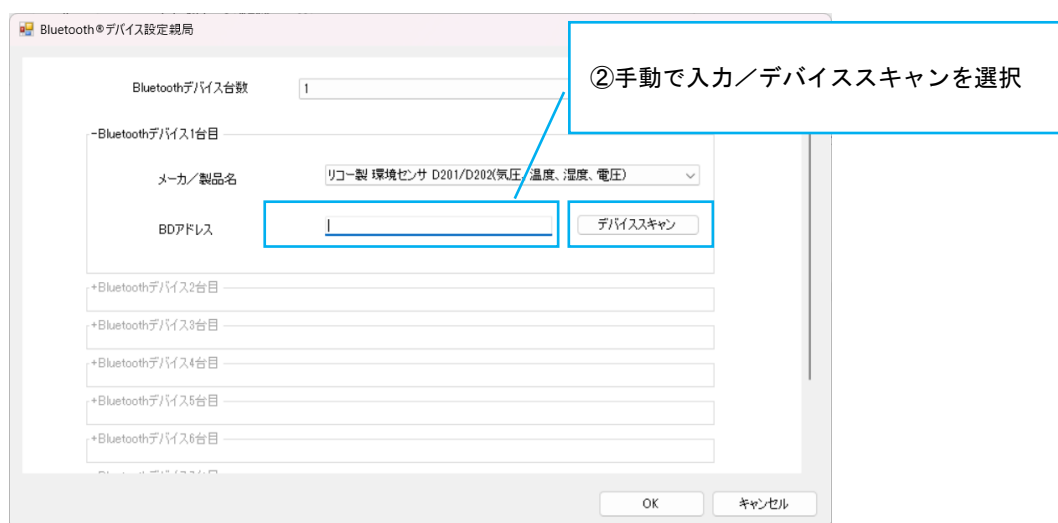
※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照

The screenshot shows the 'Bluetooth®デバイス設定親局' (Bluetooth® Device Settings Parent Station) window. The 'Bluetoothデバイス台数' (Number of Bluetooth devices) is set to 1. Under '-Bluetoothデバイス1台目' (Bluetooth device 1), the 'メーカー/製品名' (Manufacturer/Product name) dropdown is selected, showing 'リコー製 環境センサ D201/D202(気圧、温度、湿度、電圧)'. A blue box highlights this dropdown, and a callout points to it with the text '① メーカー/製品名を選択' (Select manufacturer/product name). The 'BDアドレス' (BD address) field is empty, and the 'デバイススキャン' (Device scan) button is visible. Below this, there are sections for adding more devices (+Bluetoothデバイス2台目 through +Bluetoothデバイス6台目). At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

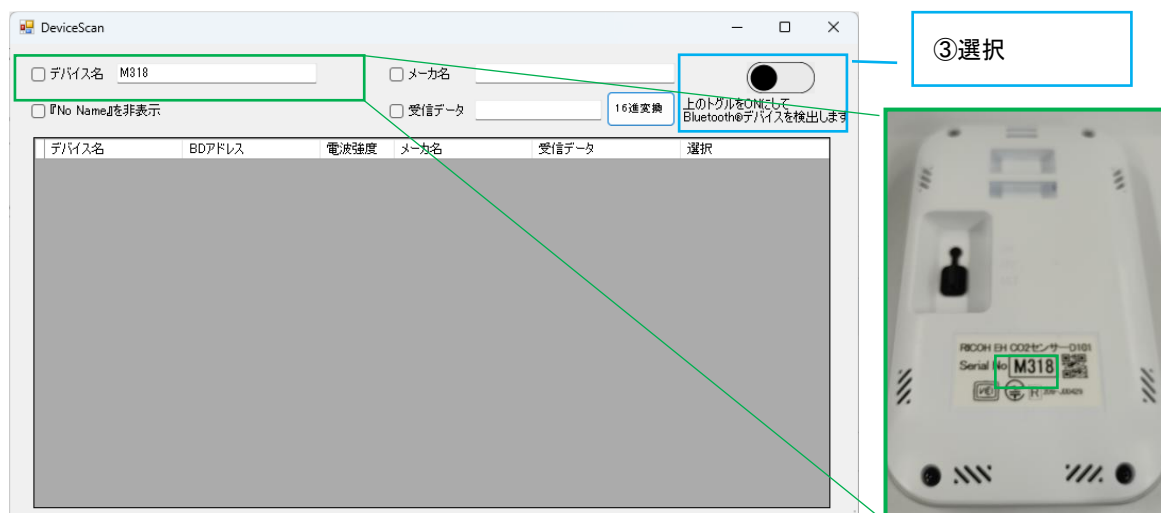
リコーのセンサ情報を全て取得するためには2台分設定する必要があります。

The screenshot shows the 'Bluetooth®デバイス設定親局' (Bluetooth® Device Settings Parent Station) window with 'Bluetoothデバイス台数' (Number of Bluetooth devices) set to 2. Under '-Bluetoothデバイス1台目' (Bluetooth device 1), the 'メーカー/製品名' (Manufacturer/Product name) dropdown is selected, showing 'リコー製 環境センサ D201/D202(気圧、温度、湿度、電圧)'. The 'BDアドレス' (BD address) field contains '38:5B:44:5F:0B:D5'. A blue box highlights the dropdown, and a callout points to it with the text '取得データが異なる製品名をそれぞれ選択' (Select product names that provide different data). Under '-Bluetoothデバイス2台目' (Bluetooth device 2), the 'メーカー/製品名' (Manufacturer/Product name) dropdown is selected, showing 'リコー製 環境センサ D201/D202(照度、電波強度)'. The 'BDアドレス' (BD address) field also contains '38:5B:44:5F:0B:D5'. A green box highlights this field, and a callout points to it with the text '同じBDアドレスを入力' (Enter the same BD address). The 'デバイススキャン' (Device scan) button is visible for both devices. At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

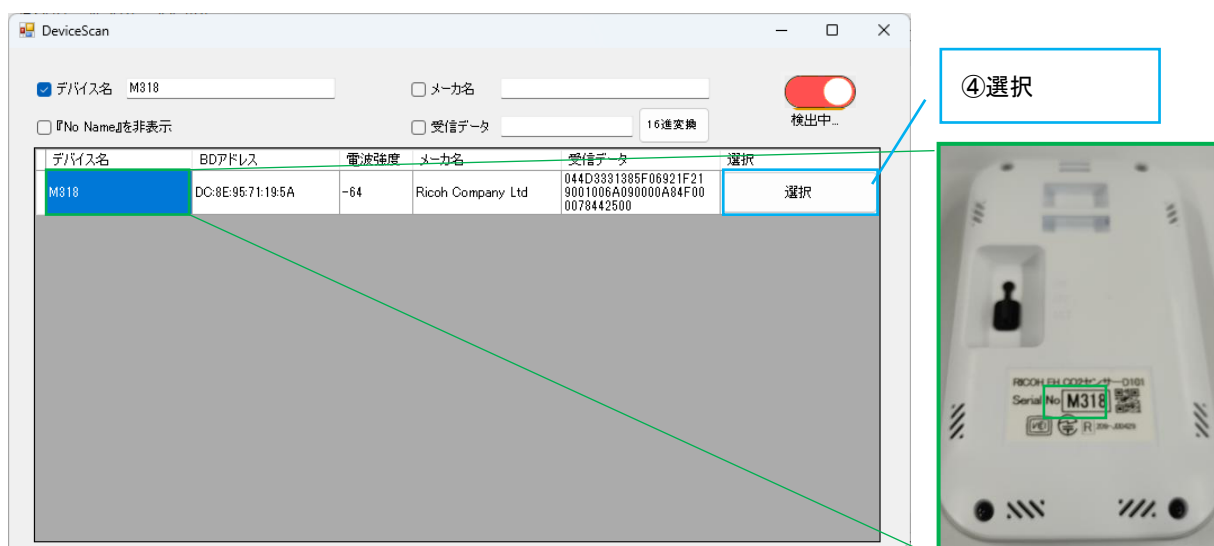
- ② 接続するセンサの BD アドレスが分かる場合、入力を実施します。
不明な場合は、デバイススキャンを選択します。



- ③ デバイス名にユニット裏側に記載の Serial No を入力し『スキャン開始』を選択します。



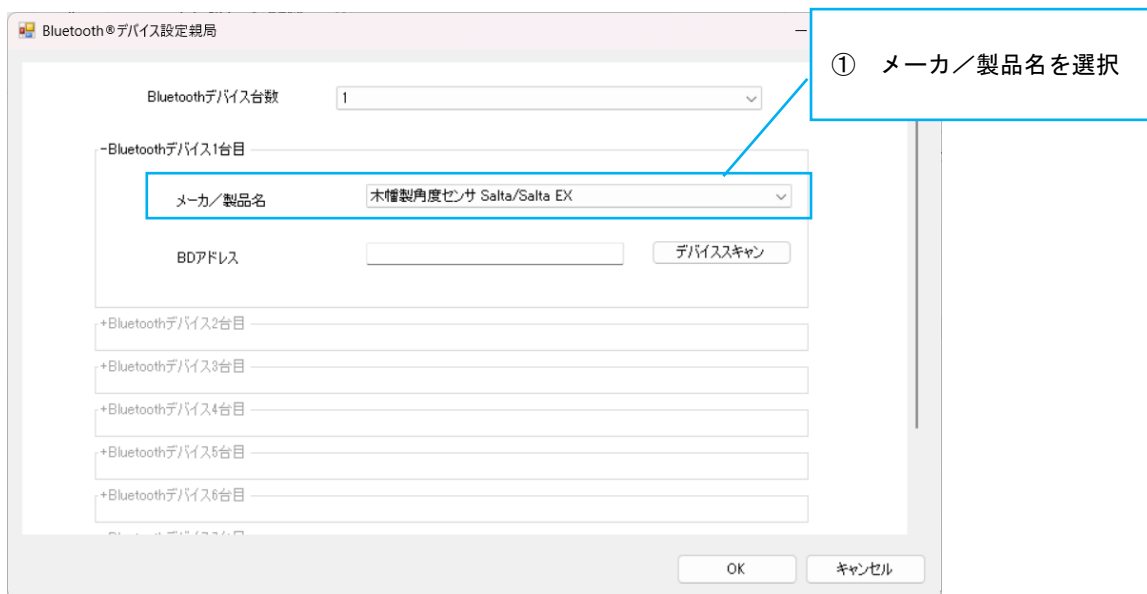
- ④ 接続したいセンサの SerialNo と一致するものを選択します。



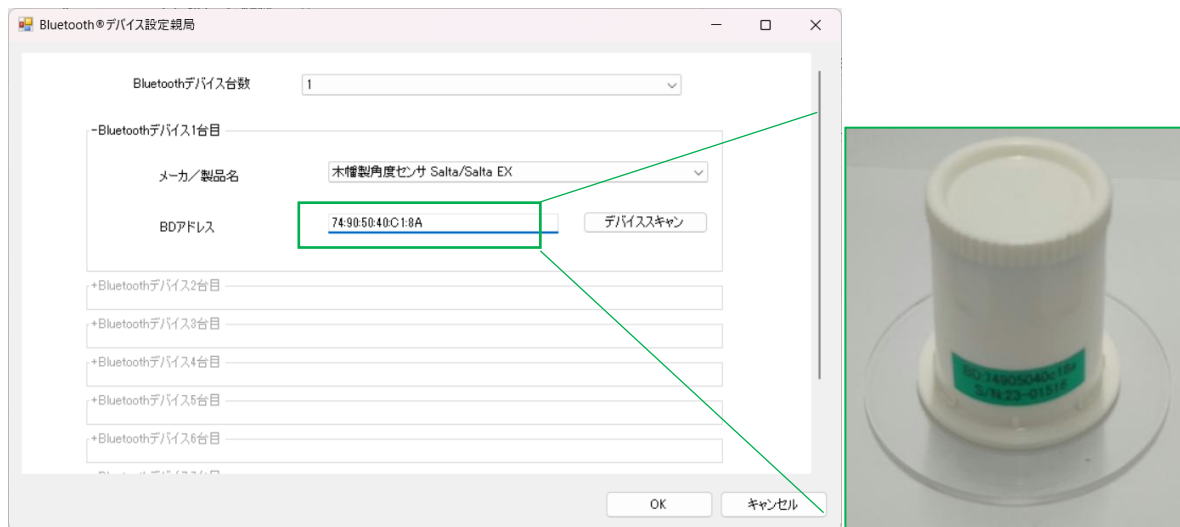
3) 木幡計器製作所センサ

① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

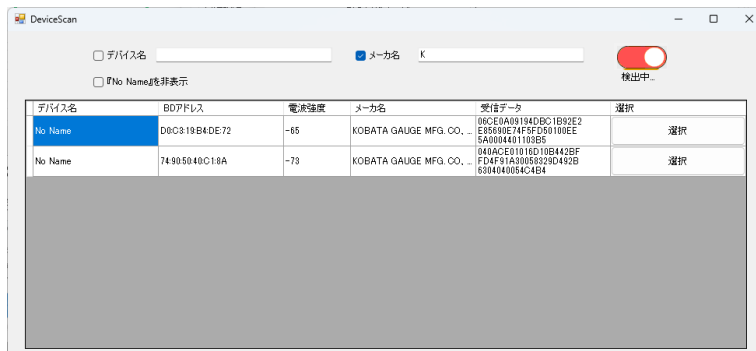
※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照



② センサ記載のアドレスを入力します。



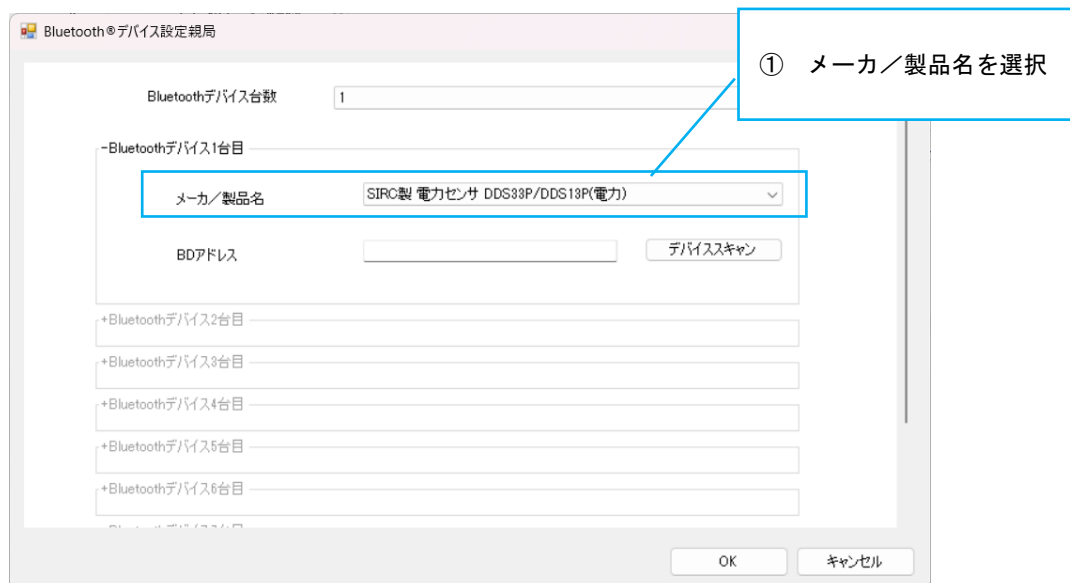
デバイススキャンで検索する場合は、メーカー名に『KOBATA』を入力し検索を実施してください。



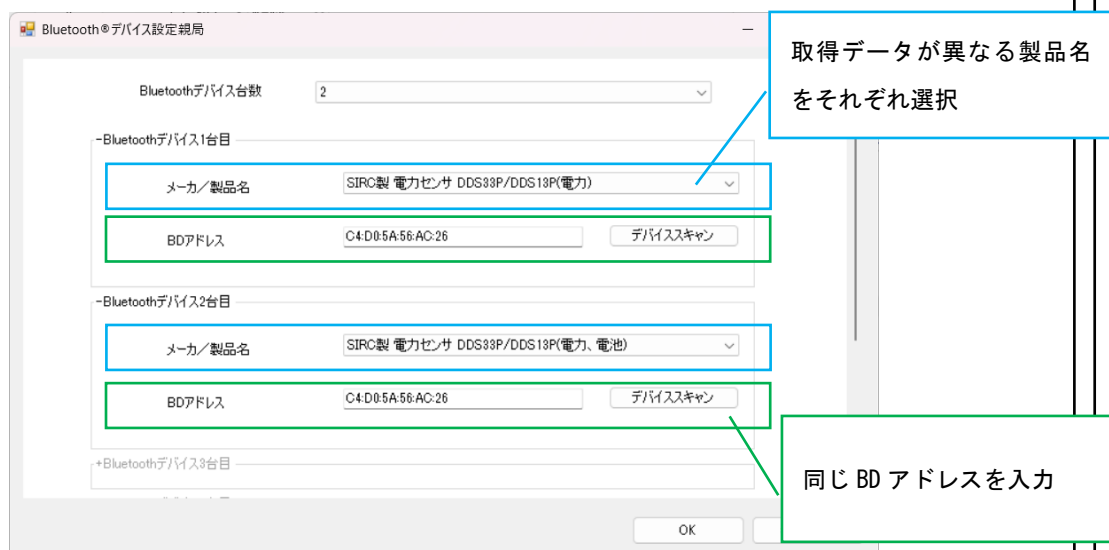
4) SIRC センサ

- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

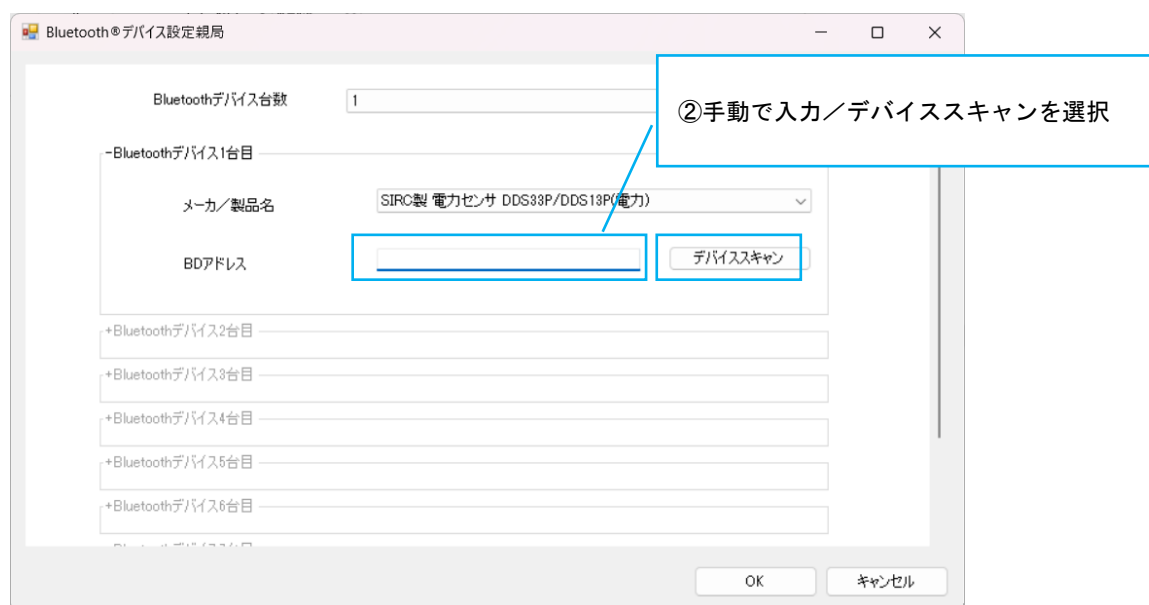
※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照



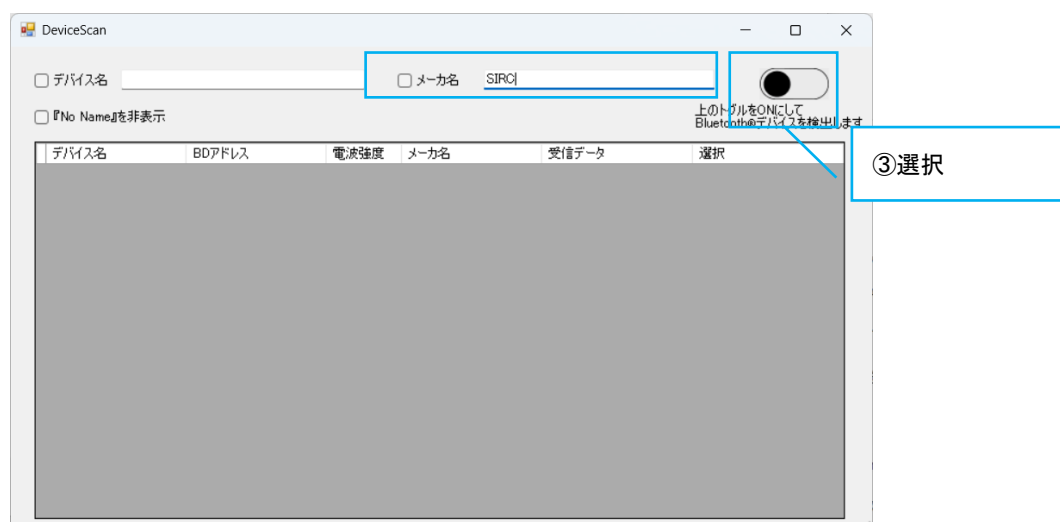
電波強度も合わせて取得するためには 2 台分設定する必要があります。



- ② 接続するセンサの BD アドレスが分かる場合、入力を実施します。
不明な場合は、デバイススキャンを選択します。



- ③ メーカー名に「SIRC」を入力し『スキャン開始』を選択します。



④ 受信データに S/N を入力します。一致するものを選択します。

※13 文字目～18 文字目に 16 進数で表記されています。

以下の場合「061D58」（10 進数表記：0400728）

「16 進変換」ボタンを選択
することで 16 進に変換可能です。

④ 選択

デバイス名	BDアドレス	電波強度	メーカー名	受信データ	選択
No Name	DB:9A:61:35:C6:14	-66	SIRC Co., Ltd.	06BF08000105061D5800 0006DC00000000000000 640A0D4008D8	選択

S/N 0400728
RE DOT-200419
SIRC CO. LTD. MADE IN JAPAN

SIRC 製角度センサの場合は、43 文字目～46 文字目に 16 進数で表記されています。

以下の場合「3B52」（10 進数表記：15186）

④ 選択

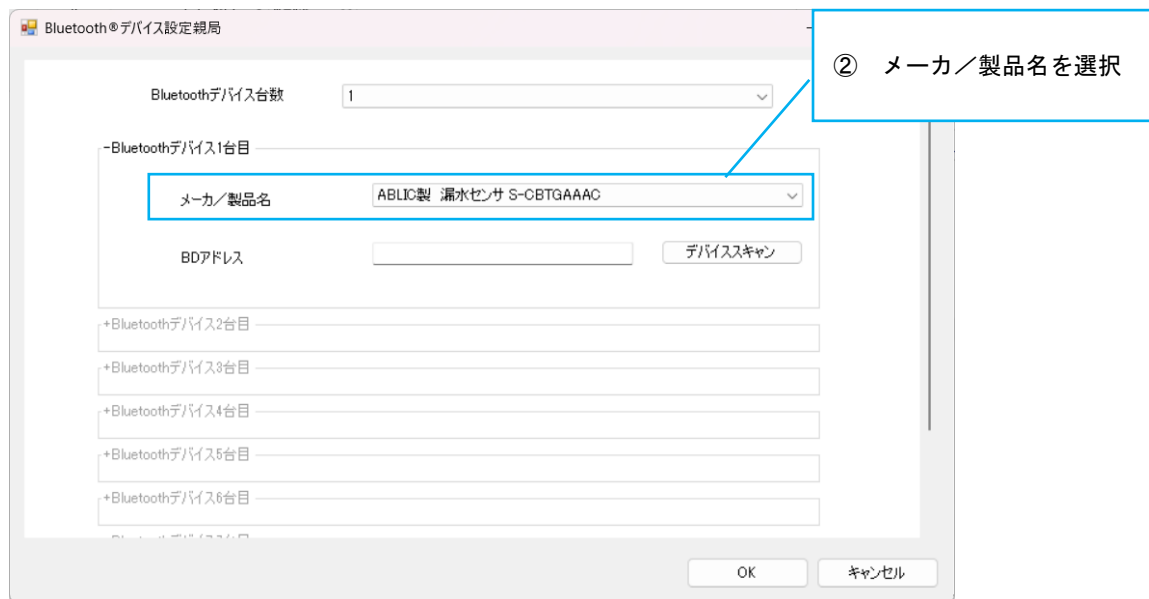
デバイス名	BDアドレス	電波強度	メーカー名	受信データ	選択
No Name	C4:D0:5A:56:AC:26	-38	SIRC Co., Ltd.	06BF080215E4B2440079 0B000000000000000000 2B3B520106FF	選択

S/N 15186
RE DOT-200419
SIRC CO. LTD. MADE IN JAPAN

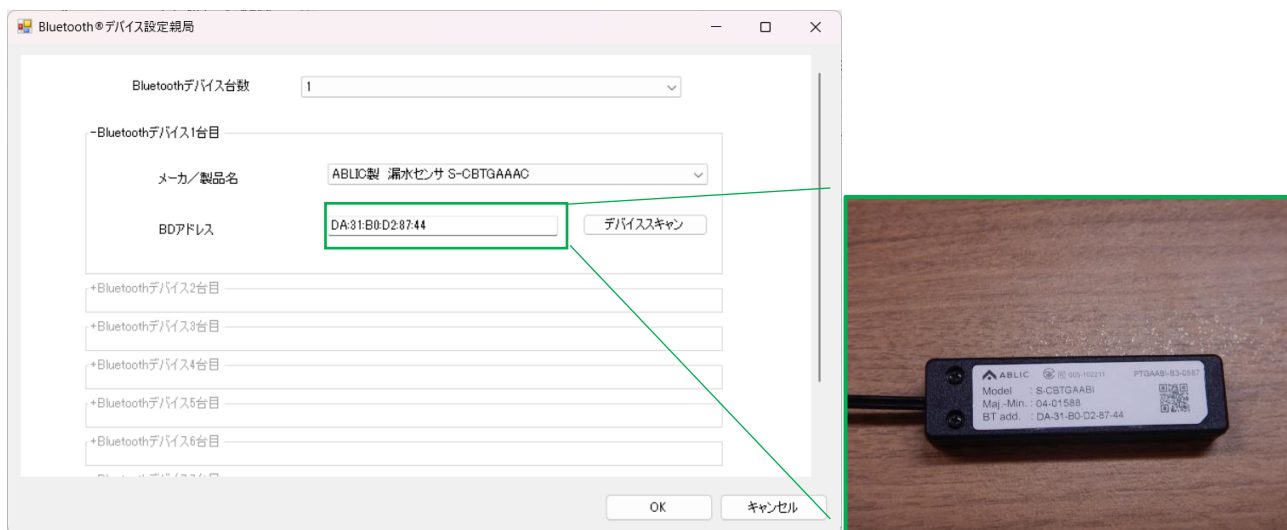
5) ABLIC センサ

① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照



② センサ記載のアドレスを入力します。



ABLIC 製漏水センサを使用する場合は、エラー時データをクリアに設定することで、一定時間データの受信が無いことを判別できます。ABLIC 製漏水センサ以外のセンサで Bluetooth デバイスタイムアウト発生時に、受信データをクリアしたくない場合は、併用を避けてください。

Bluetooth デバイスタイムアウト時間を 1 分に、エラー時データをクリアに設定してお使いください。

●親局 ETMC 詳細画面の場合



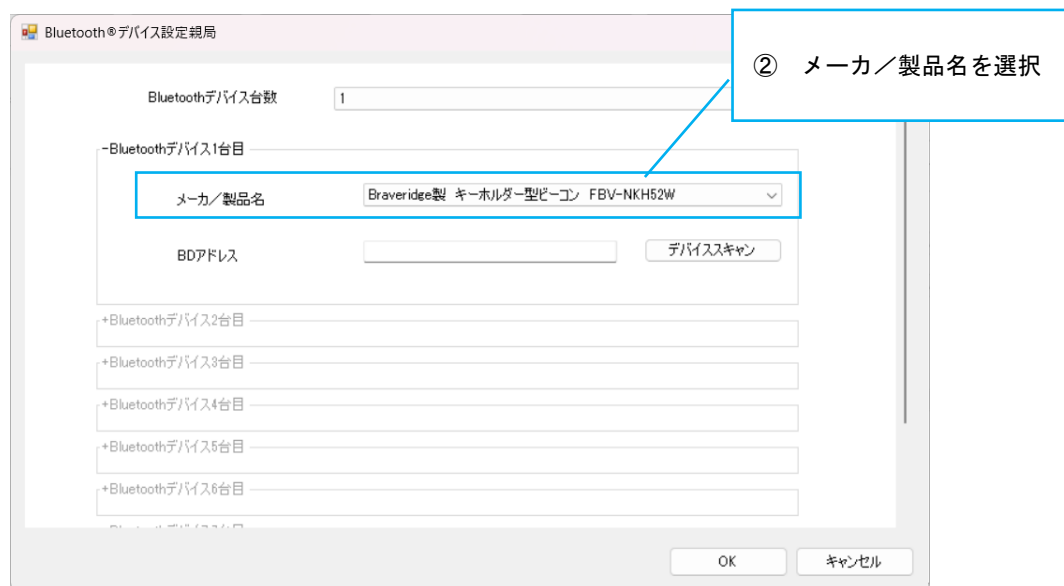
●BLX ゲートウェイモードの場合



6) Braveridge センサ

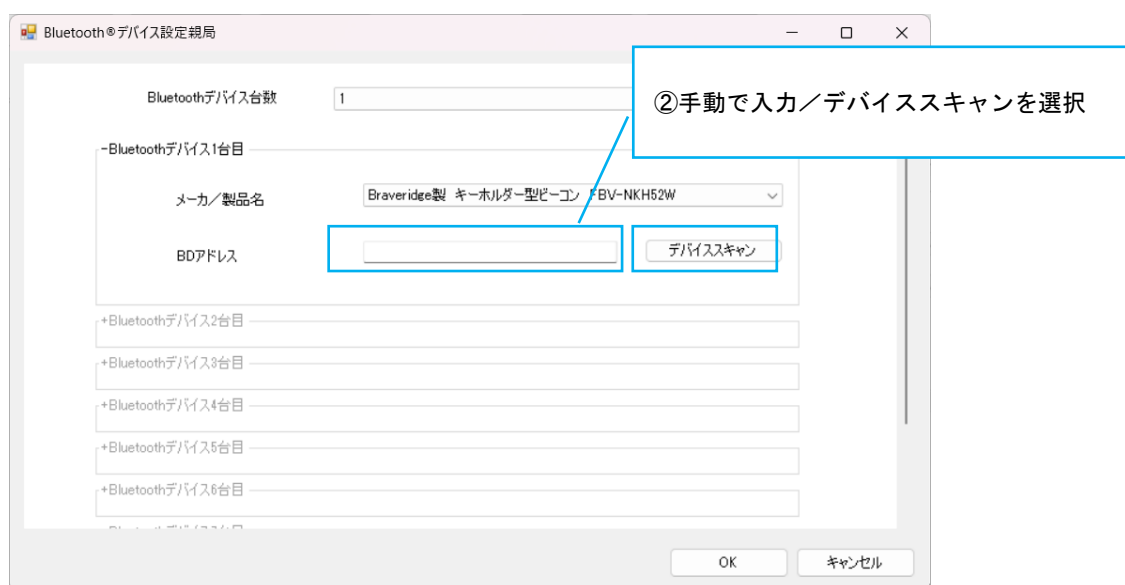
- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照

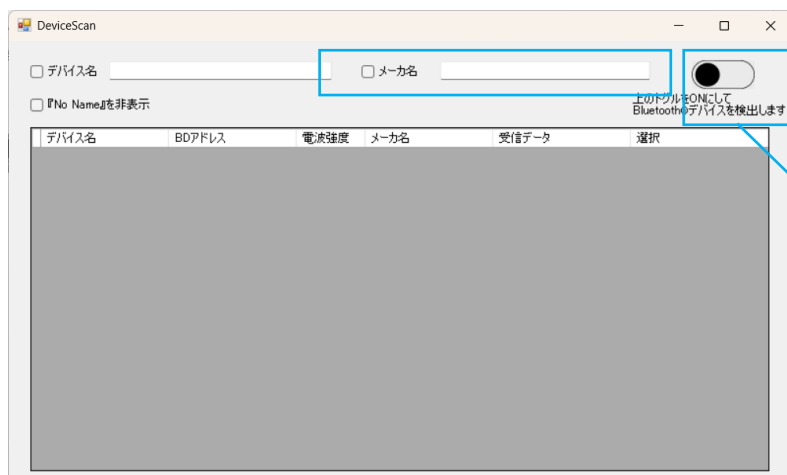


- ② 接続するセンサの BD アドレスが分かる場合、入力を実施します。

不明な場合は、デバイススキャンを選択します。



③ 『スキャン開始』を選択します。



④ S/N が一致するものを選択します。

※43 文字目～50 文字目に 16 進数で表記されています。

以下の場合「01FE、029B」（10 進数表記：510、667）

デバイス名	BDアドレス	電波強度	メーカー名	受信データ	選択
No Name	EE4C:F5:98:61:C4	-66	Apple, Inc.	4C0012020002	選択
No Name	73:3D:0C:16:CB:E3	-66	Apple, Inc.	1A4C001608003AB172F2942C41	選択
No Name	EF:E9:7D:F0:C4:2F	-56	Apple, Inc.	4C0012196A790D759C0DA4D15D618ADF5A73189	選択
No Name	C8:4F:95:9B:2E:A6	-71	Apple, Inc.	064C000215E02CC25E00494185832C3A65DB755D0101FE029B651	選択
KeyringB	C8:4F:95:9B:2E:A6	-73	不明	17A69512F36090C860540FA99000130124B657972696E6742	選択
No Name	D5:B8:0D:3A:33:D8	-63	Apple, Inc.	4C0012020002	選択
No Name	E1:41:C8:23:7B:68	-58	Apple, Inc.	4C0012020002	選択
No Name	F0:A0:F4:D7:E7:1A	-67	Apple, Inc.	4C0012020003	選択
No Name	F0:C9:CC:C5:6E:1E	-66	Apple, Inc.	4C0012020002	選択
No Name	FE:FA:9F:55:51:CB	-59	Apple, Inc.	4C0012023700	選択
No Name	DBC2:B0:7C:3B:40	-65	Apple, Inc.	4C0012020003	選択
No Name	02:2A:7A:9D:1F:BF	-73	Microsoft	060010920225B76530796B115356CFC5D6F29C0	選択

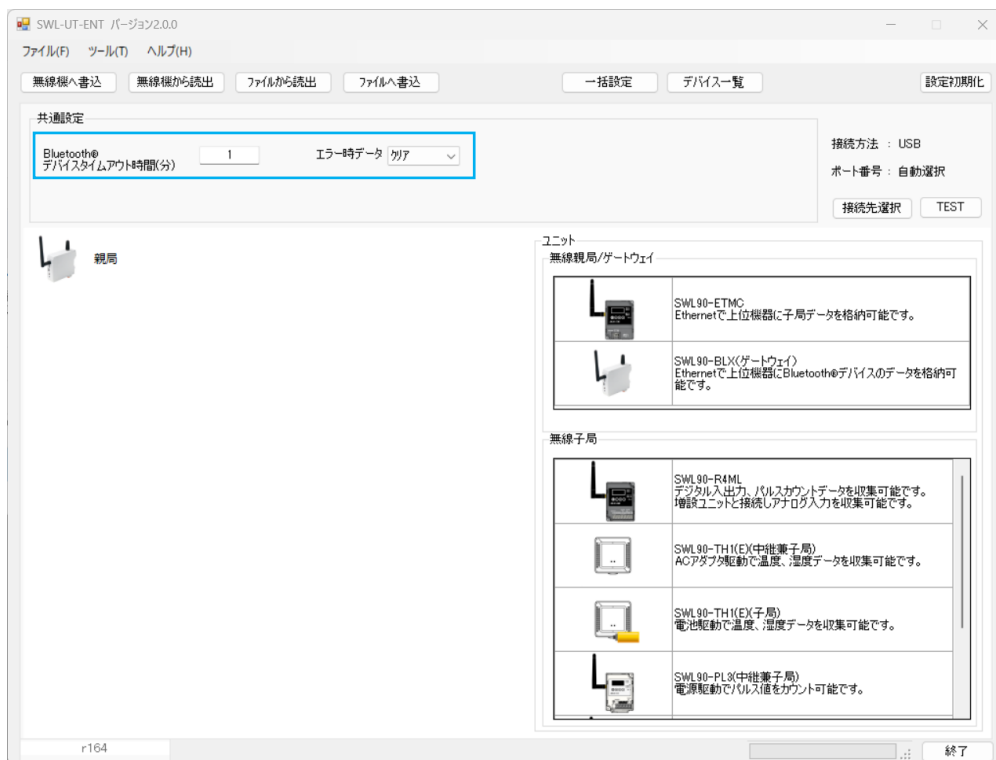
Braveridge 製キーホルダー型ビーコンを使用する場合は、エラー時データをクリアに設定することで、一定時間データの受信が無いことを判別できます。Braveridge 製キーホルダー型ビーコン以外のセンサで Bluetooth デバイスタイムアウト発生時に、受信データをクリアしたくない場合は、併用を避けてください。

Bluetooth デバイスタイムアウト時間を 1 分に、エラー時データをクリアに設定してお使いください。

●親局 ETMC 詳細画面の場合



●BLX ゲートウェイモードの場合



7) 柴田科学センサ

- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照

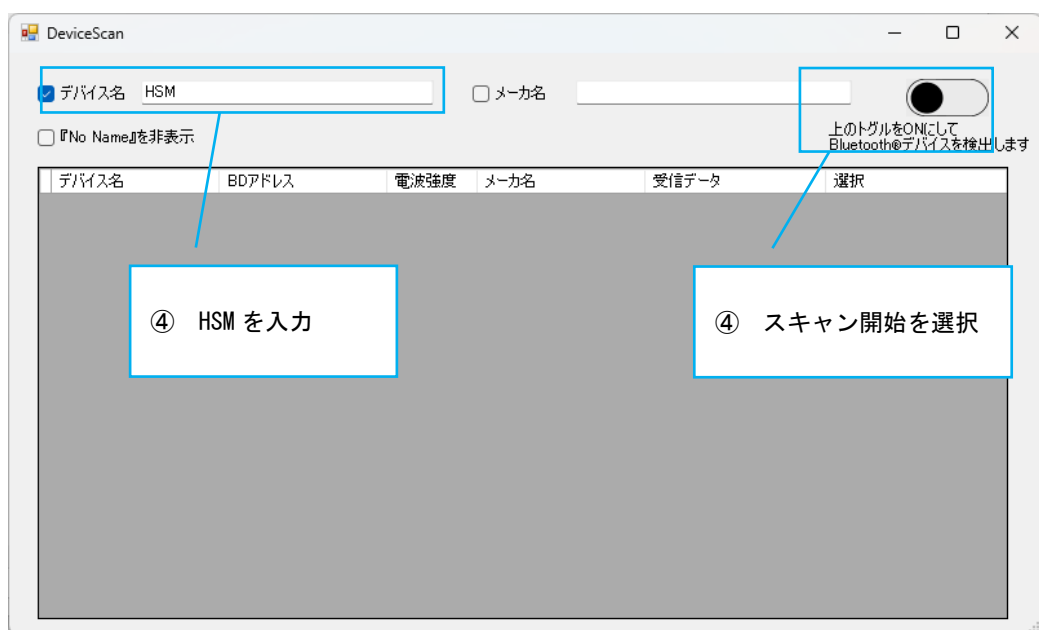
The screenshot shows the 'Bluetooth®デバイス設定親局' (Bluetooth® Device Settings Parent Station) window. At the top, 'Bluetoothデバイス台数' (Number of Bluetooth devices) is set to 3. Below, there are three sections for device configuration. The first section, '-Bluetoothデバイス1台目' (Bluetooth device 1), has 'メーカー/製品名' (Manufacturer/Product Name) set to '柴田科学製 熱中症計 HSM-1(WBGT、黒球温度、温度、湿度)' (Shibata Science Heatstroke Counter HSM-1 (WBGT, Black globe temperature, temperature, humidity)). A blue box highlights this dropdown menu, with a callout bubble containing the text '② メーカー/製品名を選択' (Select manufacturer/product name). Below this, the 'BDアドレス' (BD Address) field is empty, and the 'デバイススキャン' (Device scan) button is visible. The second and third sections, '-Bluetoothデバイス2台目' and '-Bluetoothデバイス3台目', also have their 'メーカー/製品名' dropdowns set to the same sensor. At the bottom of the window are buttons for '詳細設定' (Detailed settings), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel).

- ② 接続するセンサの『BD アドレス』が分かる場合、入力を実施します。

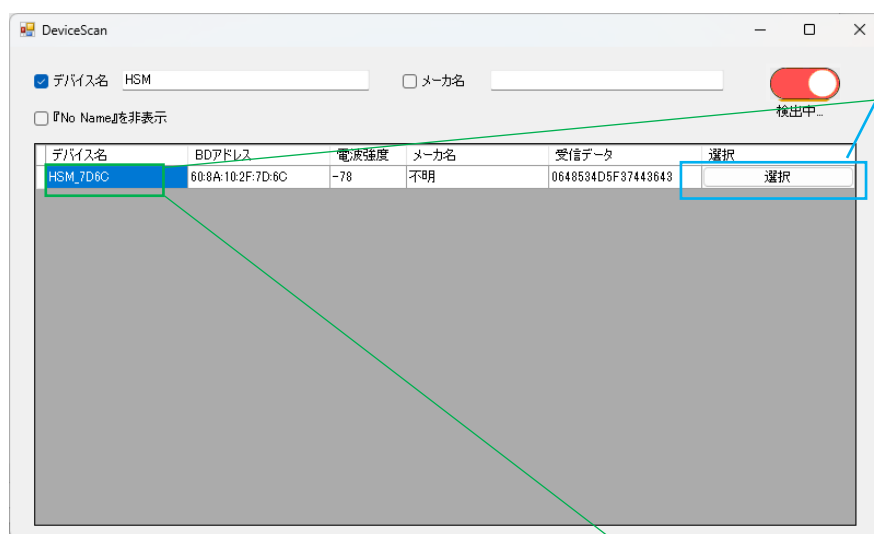
不明な場合は、デバイススキャンを選択します。

This screenshot shows the same 'Bluetooth®デバイス設定親局' window. In the first device section, the 'メーカー/製品名' dropdown is still set to '柴田科学製 熱中症計 HSM-1(WBGT、黒球温度、温度、湿度)'. The 'BDアドレス' field is now highlighted with a blue box, and a callout bubble points to it with the text '②手動で入力/デバイススキャンを選択' (Select manual input/device scan). The 'デバイススキャン' button is also highlighted with a blue box. The rest of the interface, including the other device sections and the bottom buttons, remains the same as in the previous screenshot.

- ③ デバイス名に「HSM」を入力し、『スキャン開始』を選択します。



- ④ 接続したい形名と一致するものを『選択』します。



注) 複数台使用する場合は、電源を1台ずつ入れて機器を特定しながら進めてください。

8) 三菱電機センサ

- ① メーカー/製品名に接続するセンサを選択します。

※各センサの保有情報は『表 4-3 メーカー/製品名』参照

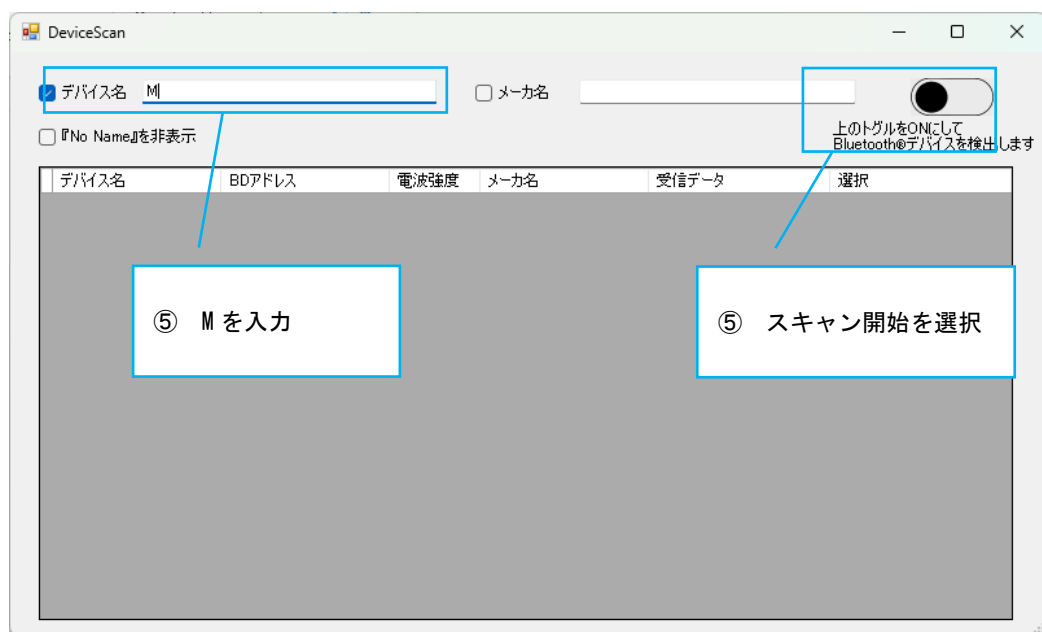
The screenshot shows the 'Bluetooth®デバイス設定親局' (Bluetooth® Device Settings Parent Station) window. At the top, 'Bluetoothデバイス台数' (Number of Bluetooth devices) is set to 4. Under the '-Bluetoothデバイス1台目' (Bluetooth device 1) section, the 'メーカー/製品名' (Manufacturer/Product Name) dropdown menu is highlighted with a blue box and a callout bubble that says '③ メーカー/製品名を選択' (Select manufacturer/product name). The dropdown menu is open, showing '三菱電機製 電力量計 M2PM(計器ID)' (Mitsubishi Electric Power Meter M2PM (Meter ID)). Below this, there is a 'BDアドレス' (BD Address) field and a 'デバイススキャン' (Device Scan) button. The window also has sections for '-Bluetoothデバイス2台目' and '-Bluetoothデバイス3台目', and buttons for '詳細設定' (Detailed Settings), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel) at the bottom.

- ② 接続するセンサの『BD アドレス』が分かる場合、入力を実施します。

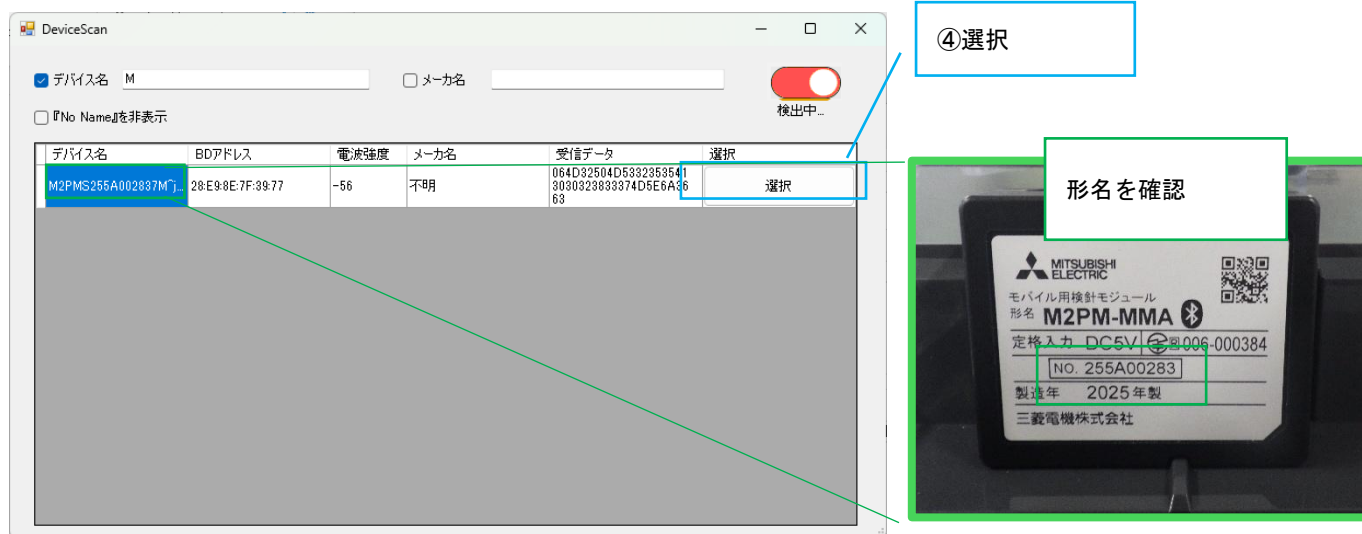
不明な場合は、デバイススキャンを選択します。

The screenshot shows the same 'Bluetooth®デバイス設定親局' window. In the '-Bluetoothデバイス1台目' section, the 'BDアドレス' (BD Address) field is highlighted with a blue box and a callout bubble that says '② 手動で入力/デバイススキャンを選択' (Select manual input/device scan). The 'デバイススキャン' (Device Scan) button is also highlighted with a blue box. The 'メーカー/製品名' dropdown menu is still open, showing '三菱電機製 電力量計 M2PM(計器ID)'.

- ③ デバイス名に「M」を入力し、『スキャン開始』を選択します。



- ④ 接続したい形名と S/N が一致するものを『選択』します。



4.4.9. Ethernet 設定

無線親局の Ethernet 通信(上位 PLC との有線通信)に関する設定を行います。



【無線親局設定】

- ・IP アドレス: SWL90-ETMC に割り当てる IP アドレスの設定を行ってください。
- ・プロトコル選択: 接続する上位機器に合わせてプロトコル設定を行ってください。
 - ▶3E フレームクライアント: iQ-R、Q、L、Fx5U、SWL Monitor
 - ▶1E フレームクライアント: Fx3 シーケンサ
 - ▶3E フレームサーバ: EcoServer III、SA1-III



【相手局設定】

- ・IPアドレス: SWL90-ETMC と Ethernet 接続で通信を行う機器 IP アドレスの設定を行います。
- ・ポート番号: SWL90-ETMC と Ethernet 接続で通信を行う機器ポート番号の設定を行います。
- ・通信デバイス設定: ビットデータ、ワードデータ割付けの先頭デバイスの設定を行います。

The screenshot shows the 'Ethernet設定' (Ethernet Settings) dialog box. It has two tabs: '無線親局設定' (Wireless Parent Station Settings) and '相手局設定' (Peer Station Settings). The '相手局設定' tab is active. It contains two main sections: 'シーケンサリンク設定' (Sequencer Link Settings) and '通信デバイス設定' (Communication Device Settings).

シーケンサリンク設定:

- ネットワーク番号: 00
- PC番号: FF
- 要求先I/O局番: 3FF
- 要求先ユニット局番: 00
- CPU監視タイマ: 16
- Ethernetタイムアウト時間(ms): 5000

通信デバイス設定:

デバイス種別	開始番号
ビット入力(16進数)	1000
ビット出力(16進数)	1000
ワード入力(10進数)	300
ワード出力(10進数)	600
経路情報(10進数)	5000
システム領域書込(10進数)	1000
システム領域読出(10進数)	1050

At the bottom, there are 'IPアドレス' (192, 168, 10, 3) and 'ポート番号(10進数)' (49408) fields. 'OK' and 'キャンセル' buttons are at the bottom right.

備考

デバイス一覧を確認することでデバイスの“どこ”に“何の”データが格納されるか確認することが出来ます。

The screenshot shows the 'SWL-UT-ENT' software interface. On the left, there's a 'デバイス一覧' (Device List) window showing a tree structure of devices. On the right, there's a 'デバイス割付け一覧表' (Device Allocation Table) window. The 'ワード入力' (Word Input) tab is selected, showing a table of device addresses and their corresponding data points.

デバイス	子局番号	子局名称	ユニット詳細
D0000	子局2	子局2	入力ユニット(16ビット)下位
D0001	子局2	子局2	入力ユニット(16ビット)上位
D0002	子局3	子局3	AD4x8ビット
D0003	子局3	子局3	AD4x8ビット
D0004	子局3	子局3	AD4x8ビット
D0005	子局3	子局3	AD4x8ビット
D0006	子局4	子局4	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0007	子局4	子局4	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0008	子局4	子局4	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0009	子局4	子局4	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0010	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0011	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0012	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0013	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0014	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0015	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0016	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0017	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0018	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0019	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0020	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0021	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0022	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位
D0023	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)上位
D0024	子局5	子局5	16ビットデジタルアナログ変換器(16ビット)下位

以上で必要なパラメータ設定は終了です。

システムに合わせてエラー発生時間を調整したい場合などは、詳細設定画面から設定を行ってください。

4.4.10. 親局への設定データの書き込み

無線ユニット親局に USB または Ethernet ケーブルを接続して設定データを書込む手順は以下となります。

※書き込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書き込み中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

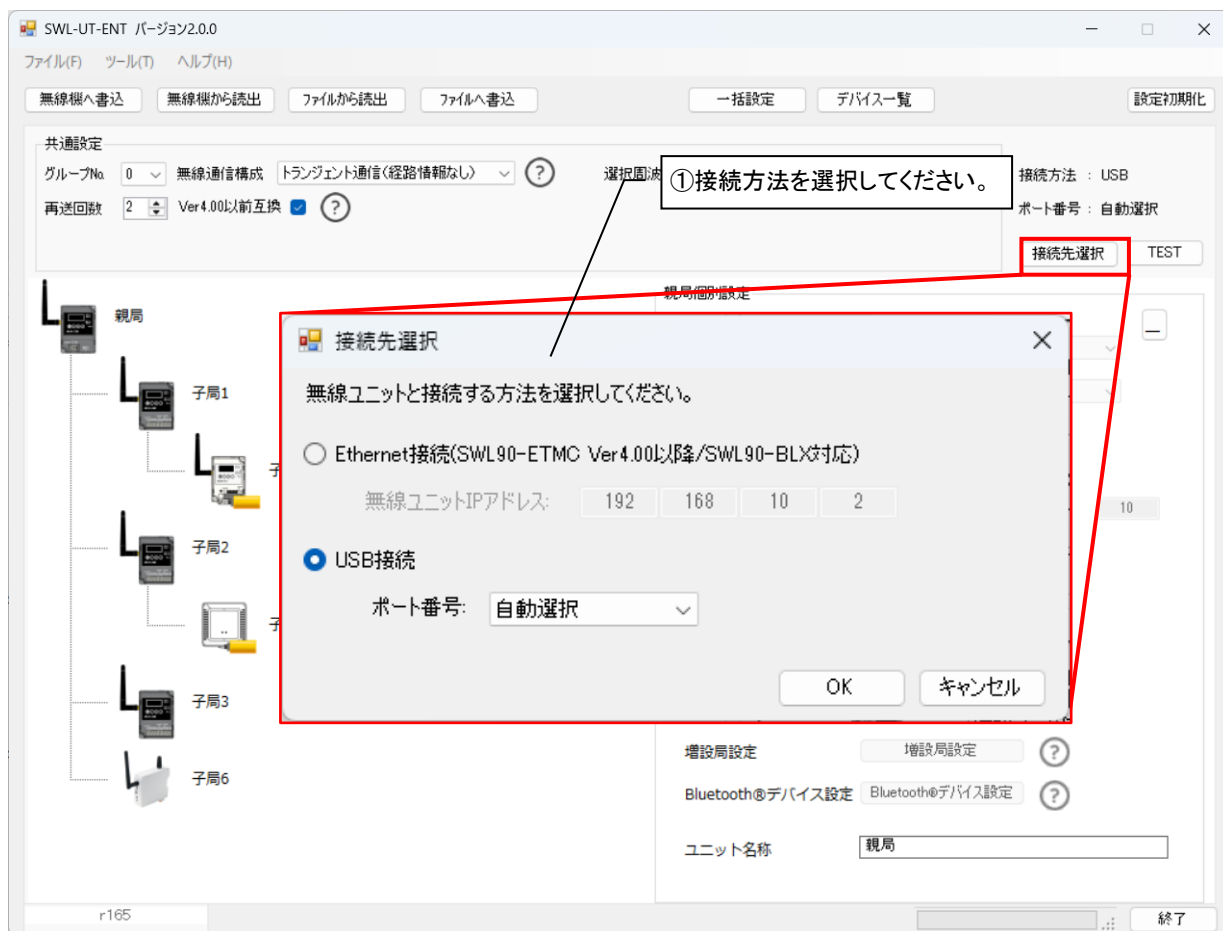
※書き込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

USB 接続 → 接続方法: USB ポート番号: 自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法: Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

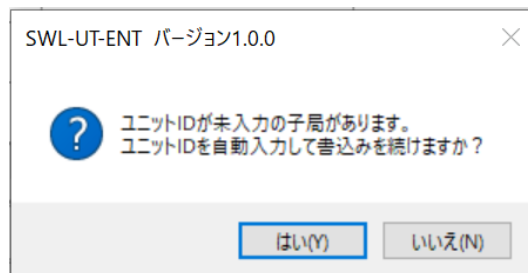


(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込選択」画面を表示します。



!!! 注意事項 !!!

親局への書込み時、ユニット ID が入力されていない子局がある場合、下記のようなダイアログが表示されます。
自動で入力する場合は、子局番号がユニット ID になります。また、パラメータ無線配信機能を使用する場合、
子局本体のユニット ID を自動で入力された設定ユーティリティの値に合わせて変更してください。



!!! 注意事項 !!!

テストモード中にパラメータの書込みはできません。

!!! 注意事項 !!!

以下のパラメータは親局(ETMC)のバージョンによっては、書込みできません。対応表を下記記載します。

○:対応、×:非対応

表 4-8 ETMC バージョンごとの書込み不可パラメータ

パラメータ		親局(ETMC)バージョン				
項目	内容	5.10	5.00	4.10	4.00	3.00
選択周波数チャネル数	2	○	○	○	×	×
中継経路設定数	2、3	○	○	○	×	×
無線送信間隔	60:01 以上	○	○	○	○	×
子局ユニットタイプ	SWL90-BLX	○	○	×	×	×
Bluetooth デバイス設定-Bluetooth デバイス台数	9 台以上	○	×	×	×	×

4.4.11. USB 接続による子局書込み

USB 接続による子局の書込みは以下手順で行います。

※書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書込み中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※書込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1)メイン画面の右上の「接続先選択」を選択してください。

USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

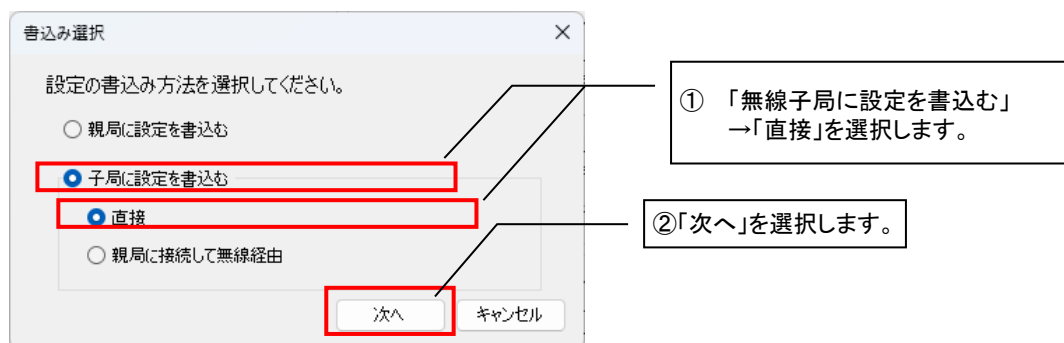
パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



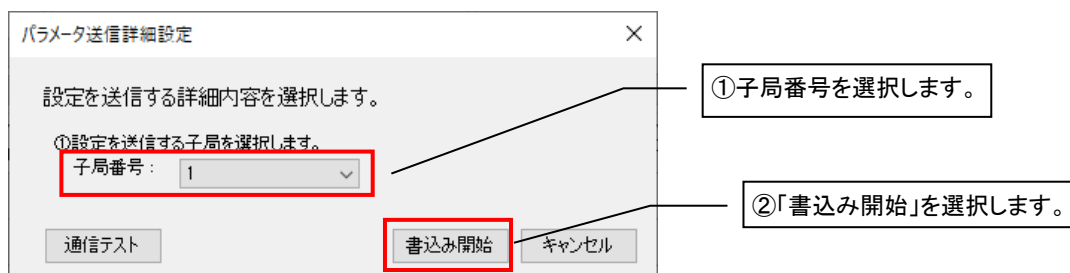
(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



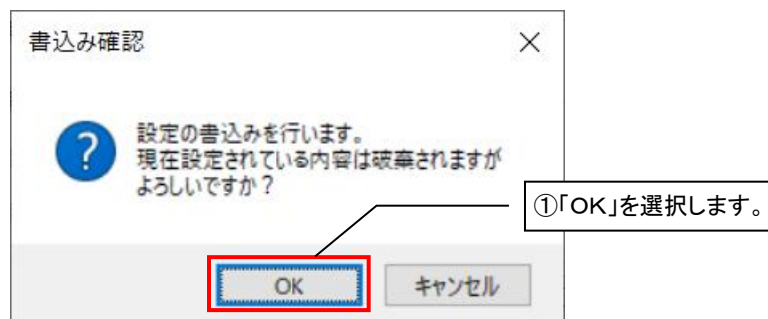
(3)「子局に設定を書込む」と「直接」を選択し「次へ」ボタンを押す。



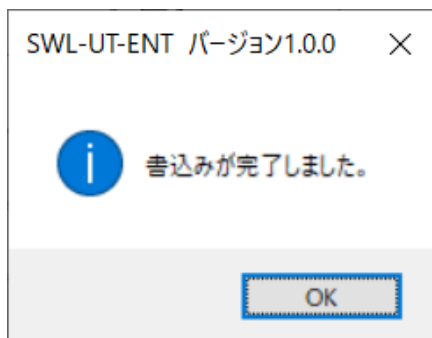
(4)子局番号を選択し、「書込み開始」ボタンを選択します。



(5) 書込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(6) 書き込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



※ETMC(Ver2.00 以前)、R4ML(Ver2.00 以前) PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、
書き込みを行ってください。USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

SWL90-TH1 は設定ツールから設定を書き込むことが出来ません。

親局への設定書き込み後、SWL90-TH1 本体のボタン操作で設定いただく必要があります。

※無線ユニットのボタン操作に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

!!! 注意事項 !!!

以下のパラメータは、書き込み対象子局のバージョンによっては、書き込みできません。対応表を下記記載します。

○: 対応、×: 非対応

表 4-9 R4ML バージョンごとの書き込み不可パラメータ

パラメータ		SWL90-R4ML バージョン		
項目	内容	4.10	4.00	3.00
選択周波数チャンネル数	2	○	×	×
中継経路設定数	2、3	○	×	×

表 4-10 PL3 バージョンごとの書き込み不可パラメータ

パラメータ		SWL90-PL3 バージョン	
項目	内容	4.10	1.00
選択周波数チャンネル数	2	○	×
中継経路設定数	2、3	○	×

表 4-11 BLX バージョンごとの書き込み不可パラメータ

パラメータ		SWL90-BLX バージョン	
項目	内容	2.00	1.00
Bluetooth デバイス台数	9 台以上	○	×
メーカー／製品名	通信タイプが「GATT」のデバイス	○	×

※「メーカー／製品名」で選択する Bluetooth デバイスには通信タイプがあります。

通信タイプに関しては、『表 4-3』以降をご参照ください。

4.4.12. 子局通信確認

無線子局との接続確認を行います。

※親局、子局へ設定データ書込後に実施してください。

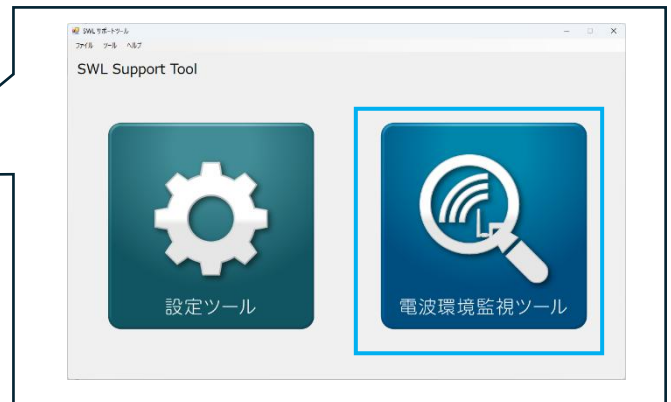
無線親局に USB を接続してください。

SWL サポートツールメイン画面より、「電波環境監視ツール」を選択し

通信チェック機能を使用してユニット間の電波強度を確認してください。

※通信チェック機能の使用方法に関しては、電波環境監視ツールユーザーズマニュアルをご参照ください。

(SWL サポートツールの「ヘルプ」>>「マニュアル」>>「電波環境監視ツール取扱説明書」)



!!! 注意事項 !!!

●無線通信構成に『トランジェント通信』を選択されている場合

無線送信間隔(分:秒)に設定した時間でユニットの電波強度が更新されます。

任意のタイミングで電波を送信したい場合は、無線ユニットのボタン操作で電波を発報してください。

※無線ユニットのボタン操作に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

●無線通信構成に『ポーリング通信』を選択されている場合

無線親局と上位機器の Ethernet が未通信状態の場合、無線親局と無線子局は通信しません。

上位機器が無い構成で無線通信を確立するためには、無線親局をボタン操作でテストモードに設定いただく必要があります。

※テストモードの設定方法に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

4.4.13. 無線配信による子局書込み

親局に USB または Ethernet ケーブルを接続し、無線経由で子局への書込みが可能です。

書込み手順は次ページ以降からご参照ください。

!!! お願い事項／前提条件 !!!

- 書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。
- 書込み中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。
- 親局に設定データ書込後に実施してください。
- 電池駆動子局を含む構成でパラメータ配信に失敗した場合、子局が応答待ちの状態となり通常動作、パラメータ配信が行えません。応答待ち状態は子局の無線送信周期経過後、自動で復旧しますが、お急ぎの場合は中継兼子局から順番に電源を再投入してください。

!!! 注意事項 !!!

- 書込み中は、通常動作が一時停止し、再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。
- 以下の場合は無線書込みが使用できません。USB 経由で書込みを行ってください。
 - ・ユニットタイプを変更する場合(例:SWL90-PL3(子局)を SWL90-PL3(中継兼子局)に変更する)
 - ・電池子局を含む構成で通信の経路を変更する場合
 - ・電池子局を含む構成で送信周期を変更する場合
 - ・再送回数が 5 回以上に設定されている場合
- 電池駆動子局を含む構成でパラメータ配信に失敗した場合、子局が応答待ちの状態となり通常動作、パラメータ配信が行えません。
- SWL90-BLX の Bluetooth デバイス設定及び Bluetooth デバイスタイムアウト時間（分）は無線配信では書込み出来ません。USB/Ethernet でユニットに直接書込みを実施ください。

無線書込みが使用可能なユニットの組み合わせは以下のとおりです。

		無線パラメータ配信対象ユニット											
		入出力子局 [SWL90-R4ML]					温湿度センサ [SWL90-TH1(E)]			パルスカウンタ子局 [SWL90-PL3]		taBaneLE [SWL90-BLX]	
		Ver4.1*	Ver4.0*	Ver3.**	Ver2.**	Ver1.**	Ver4.1*	Ver2.**	Ver1.**	Ver4.1*	Ver1.**	Ver2.**	Ver1.**
親局 [SWL90-ETMC]	Ver5.1*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○*1	○*1
	Ver5.0*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○*1	○*1
	Ver4.1*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×
	Ver4.0*	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver3.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver2.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver1.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1：P700系のパラメータは無線配信による書込みが行えません

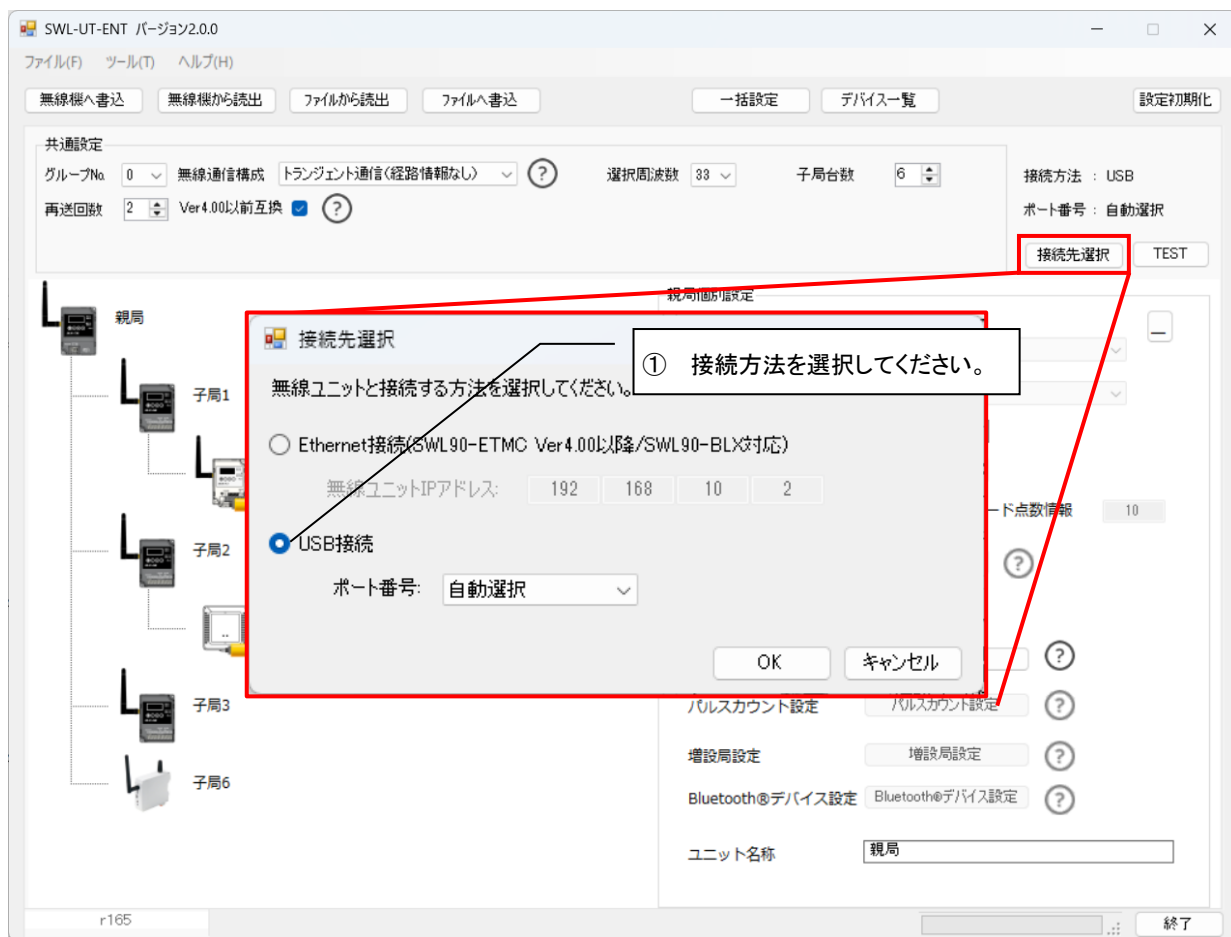
無線ユニット親局に USB または Ethernet ケーブルを接続して設定データを書込む手順は以下となります。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

USB 接続 → 接続方法: USB ポート番号: 自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法: Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

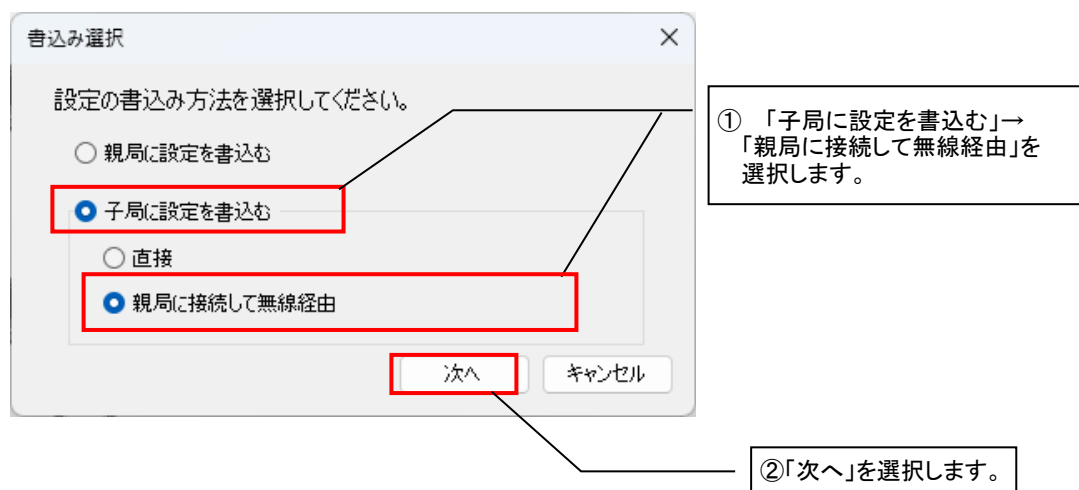


(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



(3) 書込み選択ダイアログが表示されます。

「子局に設定を書込む」を選択し、「親局に接続して無線経由」を選択します。



(4) 子局番号と無線パラメータを選択し、「書き込み開始」を選択してください。

無線パラメータ送信詳細設定

無線で設定を送信する詳細内容を選択します。

①設定を送信する子局を選択します。
設定を送信する子局番号を設定してください。
複数の子局を送信する場合、「1,3,6」のようにカンマで区切るか「1-6」のようにハイフンで範囲を指定してください。

①設定を送信する子局番号を入力します。

子局番号:

②設定を送信する無線パラメータを選択します。

周波数チャンネル: 38
グループ設定: 0
通信トポロジ: ツリー

②現在、書き込み対象子局に設定されている無線パラメータと一時的に一致させます。

※無線ユニットがテストモードの場合、無線配信機能は使用できません。
※Ver 4.00より前のユニットに対しては、無線配信機能は使用できません。
※Ver 4.10より前のユニットはTH1/PL3への無線配信はできません。
※TH1/PL3が対象に含まれる場合、20分以上時間がかかります。
※電池駆動子局が対象に含まれる場合、失敗時等に電池駆動子局が送信周期の間パラメータ配信待ちになる場合がございます。
その間無応答状態となりますので、お急ぎの場合電源の再投入を行ってください。

③書き込み開始を選択します。

通信テスト 書き込み開始 キャンセル

無線子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

SWL-UT-ENT バージョン1.0.0

ファイル(F) ヘルプ(H) ツール(T)

無線機へ書き込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書き込

共通設定

グループNo: 0 無線通信構成: ボーリング通信(経路情報なし) 使用周波数CH数: 1 無線通信トポロジ: ツリー

再送回数: 2 Ver 4.00以前互換: ☒ 選択周波数: 33 最大中継段数: 5

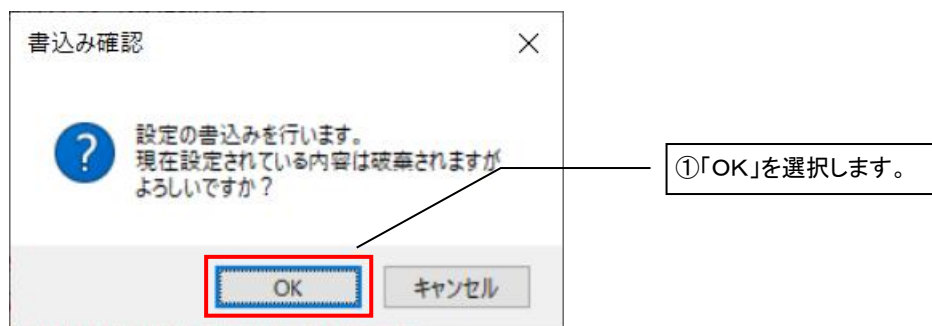
選択周波数2: 38 子局台数: 1

子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

無線送信するには親局と子局の無線パラメータ(周波数、グループ、通信トポロジ)を一致させる必要があります。
このとき、周波数は選択周波数1の周波数を選択してください。

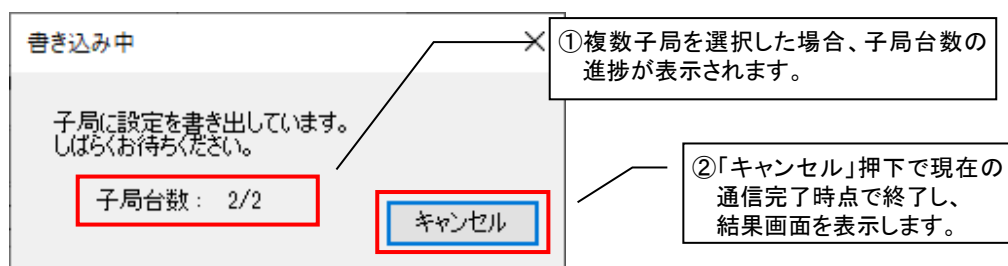


(5)「OK」を選択してください。



(6) 設定の書き込みが開始します。

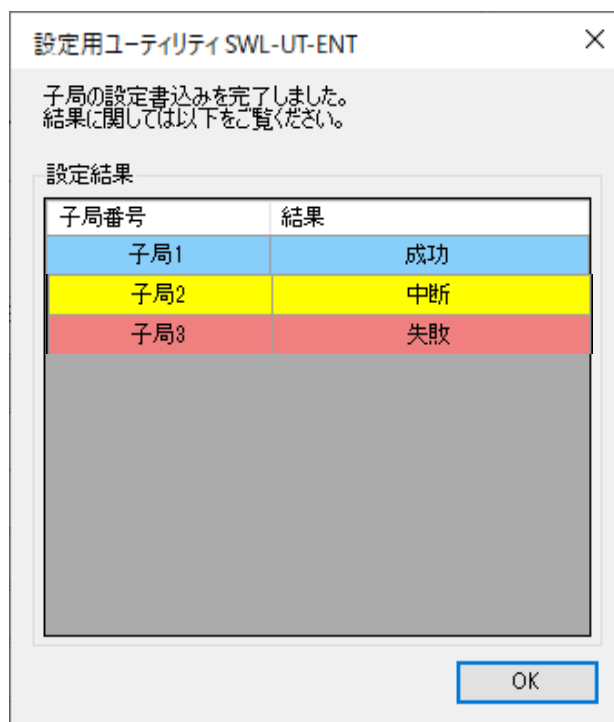
設定書き込み中は下記のように進捗が表示されますので、しばらくお待ちください。



(7) 設定完了後、以下のような結果画面を表示します。

青: 成功、赤: 失敗、黄: 中断

※中継の設定が行われている時、経路の末端から配信が行われ、失敗した時点で無線配信を中断します。



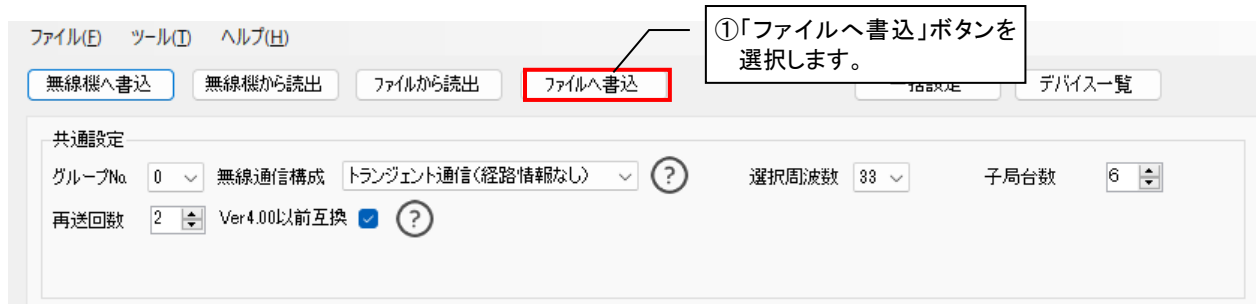
4.4.14. 設定ファイル保存

設定内容をパソコンに csv ファイル形式で保存する手順は以下になります。

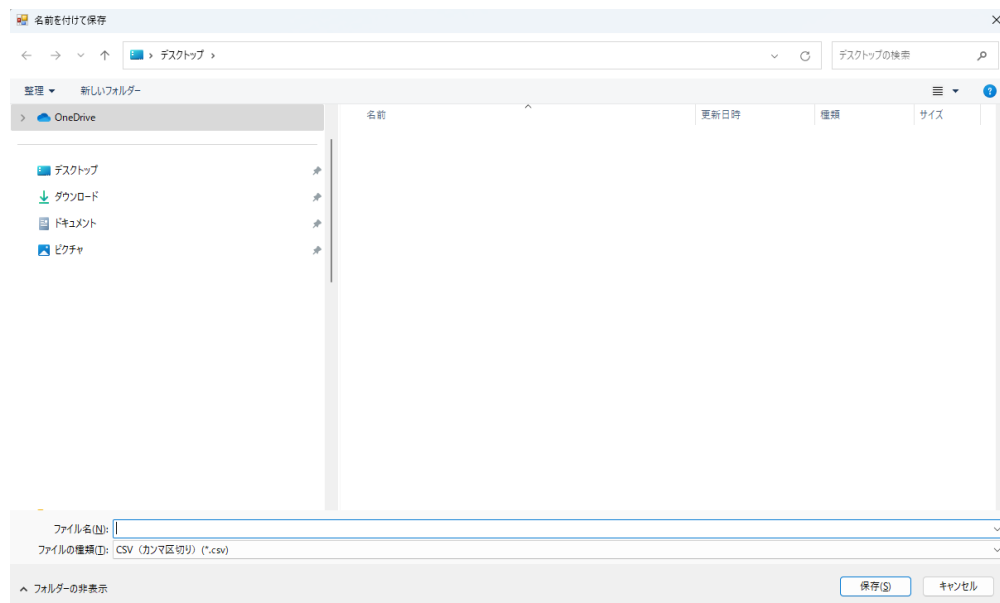
※保存した CSV ファイルを編集しないでください。

設定を編集する場合は、必ず設定ユーティリティに読出してから編集してください。

(3) 画面上部の「ファイルへ書込」ボタンを選択します。



(4) ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンを選択してください。



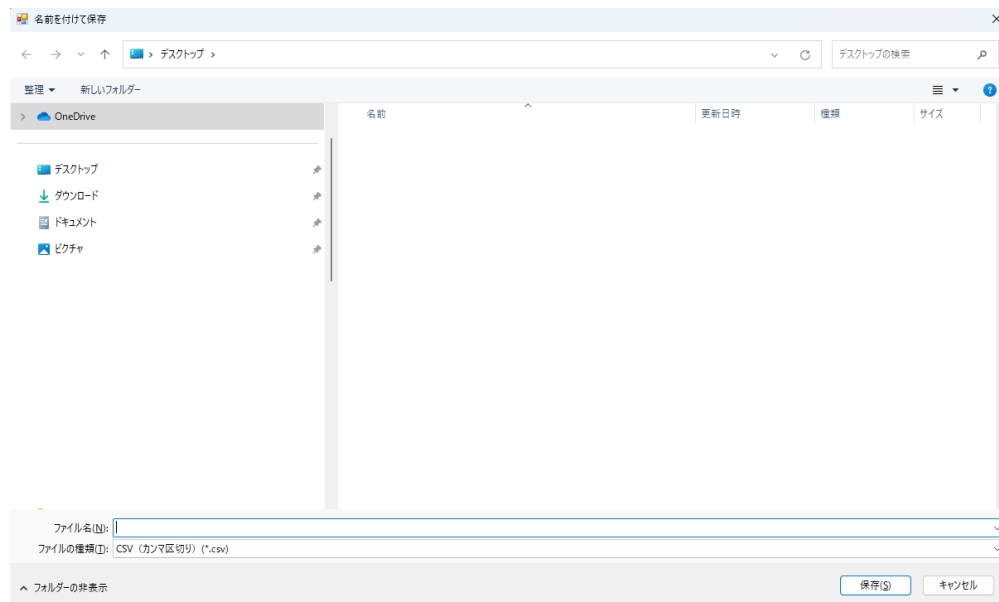
4.4.15. 保存した設定ファイル読出し

パソコンに保存した csv ファイルの読出しは以下手順になります。

(1) 画面上部の「ファイルから読出」ボタンを選択します。



(2) ファイル読出ダイアログが表示されますので、読出すファイルを選択し、「開く」ボタンを選択してください。



4.4.16. 親局から設定データ読出し

無線ユニット親局からの設定データの読出し方法に関して記載します。

!!! お願い事項／前提条件 !!!

- 読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。
- 読出し中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。
- 親局無線ユニットのバージョンが Ver4.00 以降のユニットは、子局パラメータも一括で読出しができます。

!!! 注意事項 !!!

- 読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。
- 親局のパラメータを設定ユーティリティ経由ではなく、ユニット本体のボタン操作で書込んだ場合、親局から全てのパラメータを読出すことができません。
その場合は、親局と子局全台からUSBまたは Ethernet 接続にて読出しを行ってください。

!!! 注意事項 !!!

以下のパラメータは、設定されている値によって、補正された値で読み出されます。

親局(ETMC)のバージョンごとの対応表を下記記載します。

○：対象、－：非対象

表 4-12 ETMC バージョンごとの読出し時補正パラメータ

パラメータ		補正内容		親局(ETMC)バージョン				
		設定値	読出し値	5.10	5.00	4.10	4.00	3.00
P122_Pt(ポート番号)		FFFE 以上	65534	－	－	－	－	○
P123_Sb1(サブネットマスク 1)		252 以上	252	－	－	－	－	○
P401_Pt(ポート番号)		FFFE 以上	65534	－	－	－	－	○
P407_St(ビット入力デバイス種別)		1F41 以上	8000	－	－	－	－	○
P408_St(ビット出力デバイス種別)		1F41 以上	8000	－	－	－	－	○
P20* TP(ユニットタイプ)	SWL90-TH1 (子局) (システム情報あり)	0	SWL90-TH1 (子局) (システム情報あり)	○	○	○	○	○
	SWL90-TH1 (中継兼子局) (システム情報あり)	1	SWL90-TH1 (中継兼子局) (システム情報あり)	○	○	○	○	○

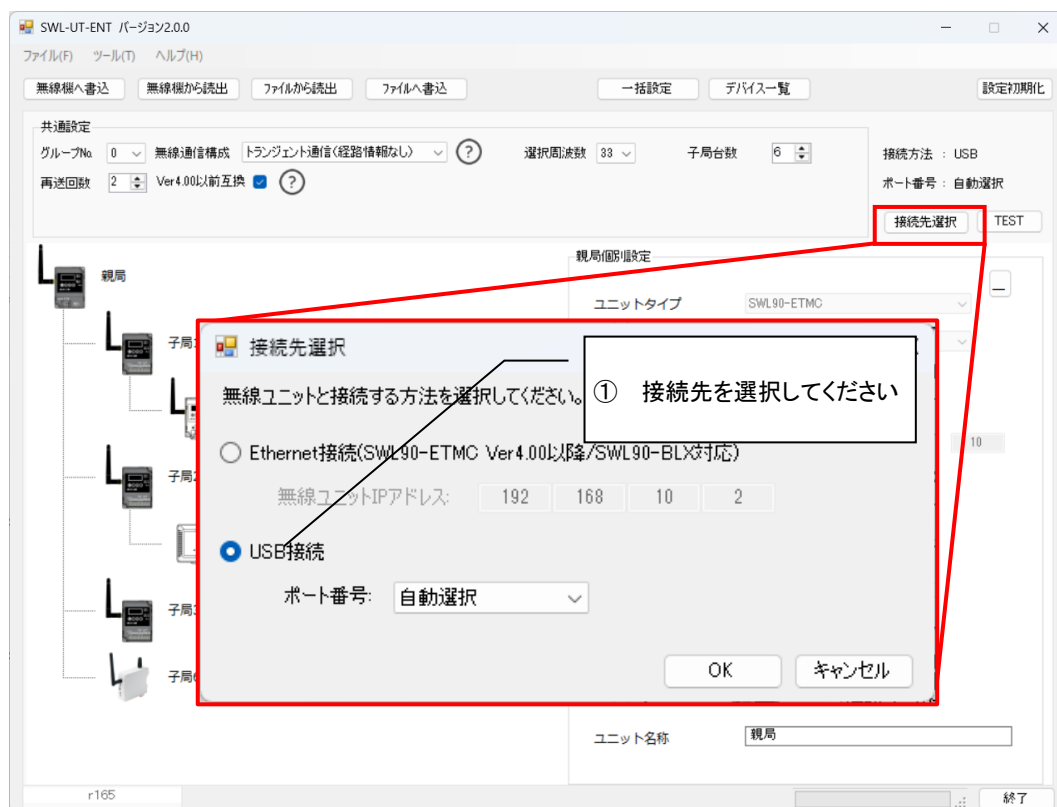
無線ユニットの設定データをパソコンへ読出す場合、以下手順で行います。

(1)メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

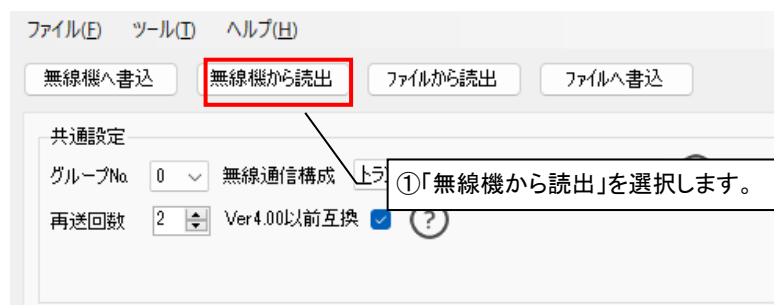
USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法:Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

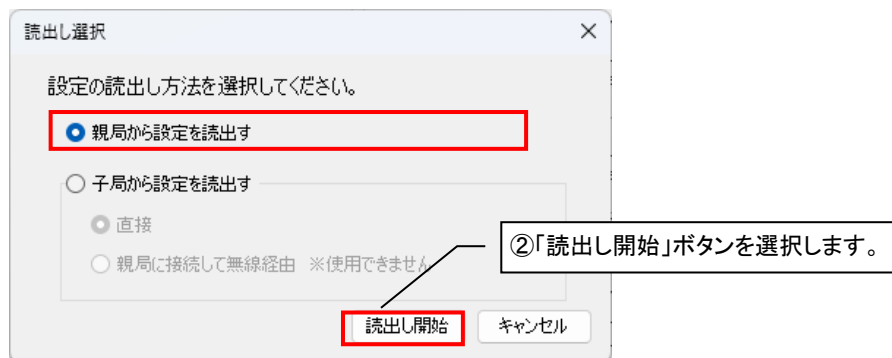


(2)「無線機から読出」ボタンを選択し、「読出し選択」画面を表示します。

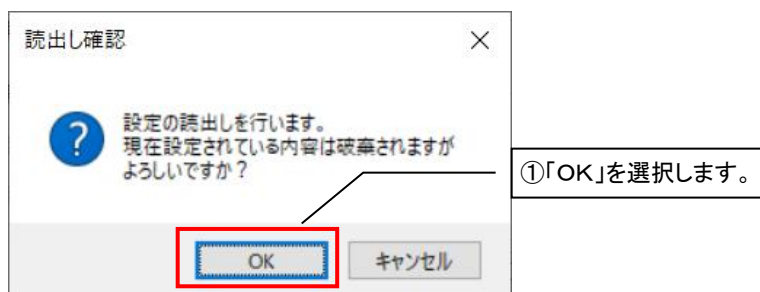


(3)無線機からの読出し方法を選択します。

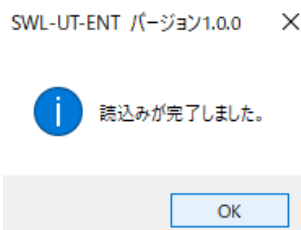
「親局から設定を讀出す」を選択します。



(4)読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(5)読出し完了後、以下のダイアログが表示されます。



※ETMC(Ver2.00 以前)、R4ML(Ver2.00 以前) PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、
読出しを行ってください。USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を讀出す為には、親局と子局の双方から設定データを読出す必要があります。

(子局が複数存在する場合は各子局から讀出す必要があります。)

親局からのパラメータ讀出し時、子局 SERIAL は讀出しできません。

子局 SERIAL は子局から直接讀出してください。

4.4.17. 子局から設定データ読出し

無線ユニットに設定されている設定内容を設定ユーティリティ上に読出しを行う場合、以下手順で行います。

※読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。

※読出し中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

!!! 注意事項 !!!

子局から設定データを読み出す際は、設定ユーティリティのユニットタイプを読出す実機と合わせて読出してください。

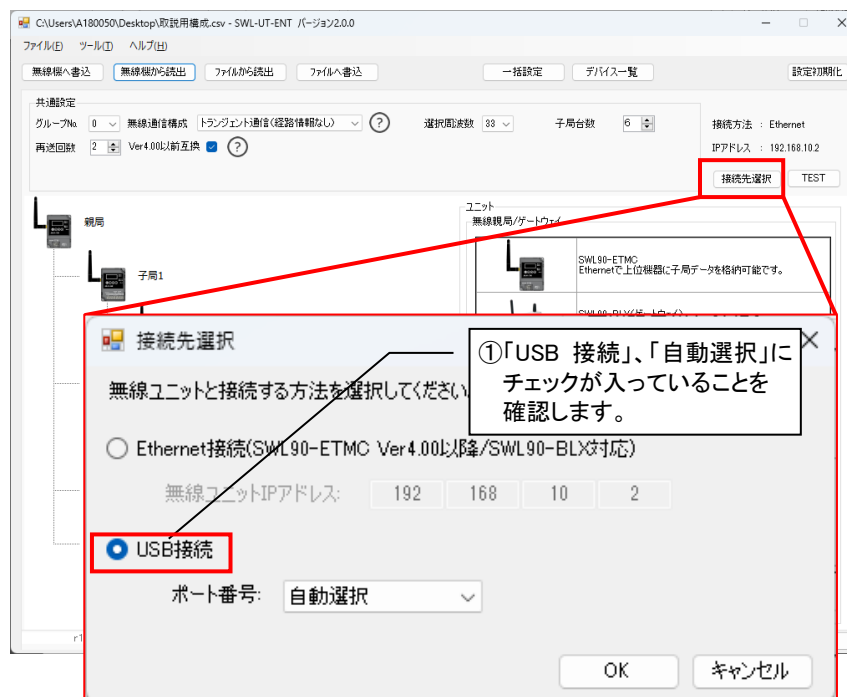
〈ユニットタイプ〉

- ・SWL90-R4ML(中継兼子局)
- ・SWL90-TH1(E)(中継兼子局)(システム領域あり)
- ・SWL90-TH1(E)(子局)(システム領域あり)
- ・SWL90-PL3(中継兼子局)
- ・SWL90-PL3(子局)
- ・SWL90-BLX(中継兼子局)

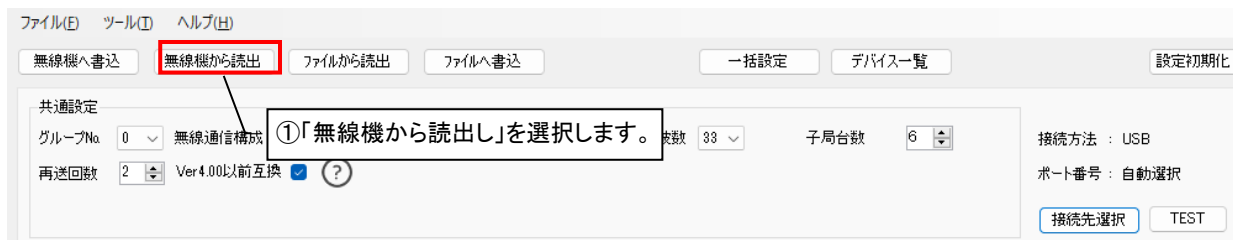
(1) メイン画面の右上の「接続先選択」を選択してください。

USB 接続 → 接続方法: USB ポート番号: 自動選択 であることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。

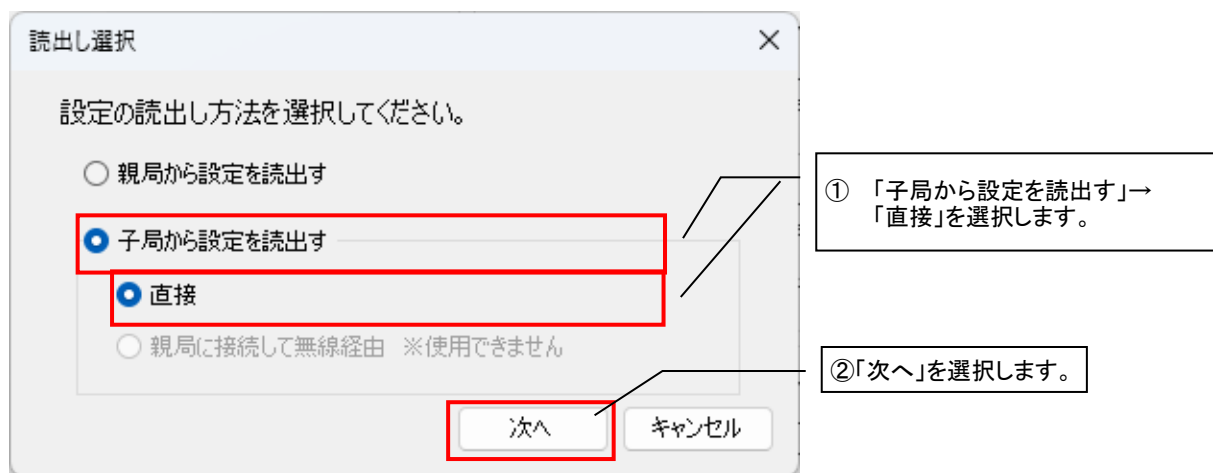


(2)「無線機から読出」ボタンを選択し、「パラメータ読出し選択」画面を表示します。

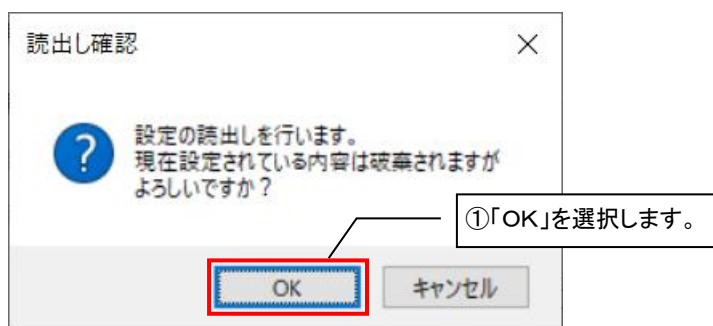


(3)パラメータ読出し選択ダイアログが表示されます。

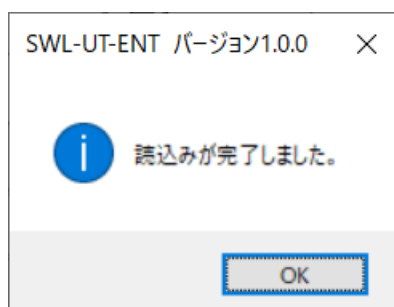
「子局から設定を読出す」と「直接」を選択します。



(4)読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択します。

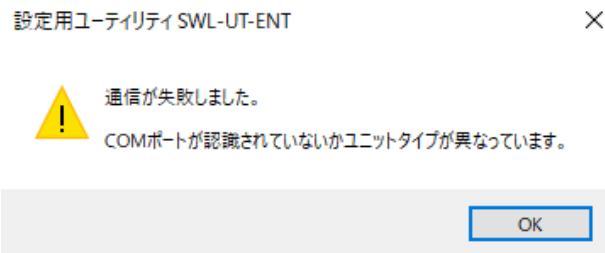


(5)設定の読出しが正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。



！！！！ 注意事項 ！！！！

子局から設定データを読み出す際 USB を親局に接続して行うと以下のダイアログが表示されます。



！！！！ 注意事項 ！！！！

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を読み出すためには、親局と子局の双方から設定データを読み出す必要があります。
(子局が複数存在する場合は各子局から読み出す必要があります。)

4.4.18. エラー履歴読出し

SWL90-BLX は本ツールを使用することで現在発生中のエラー／過去(10件)のエラーを USB/Ethernet 経由で読み出すことが可能です。

読み出す場合、以下手順で行います。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

USB 接続 → 接続方法: USB ポート番号: 自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法: Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

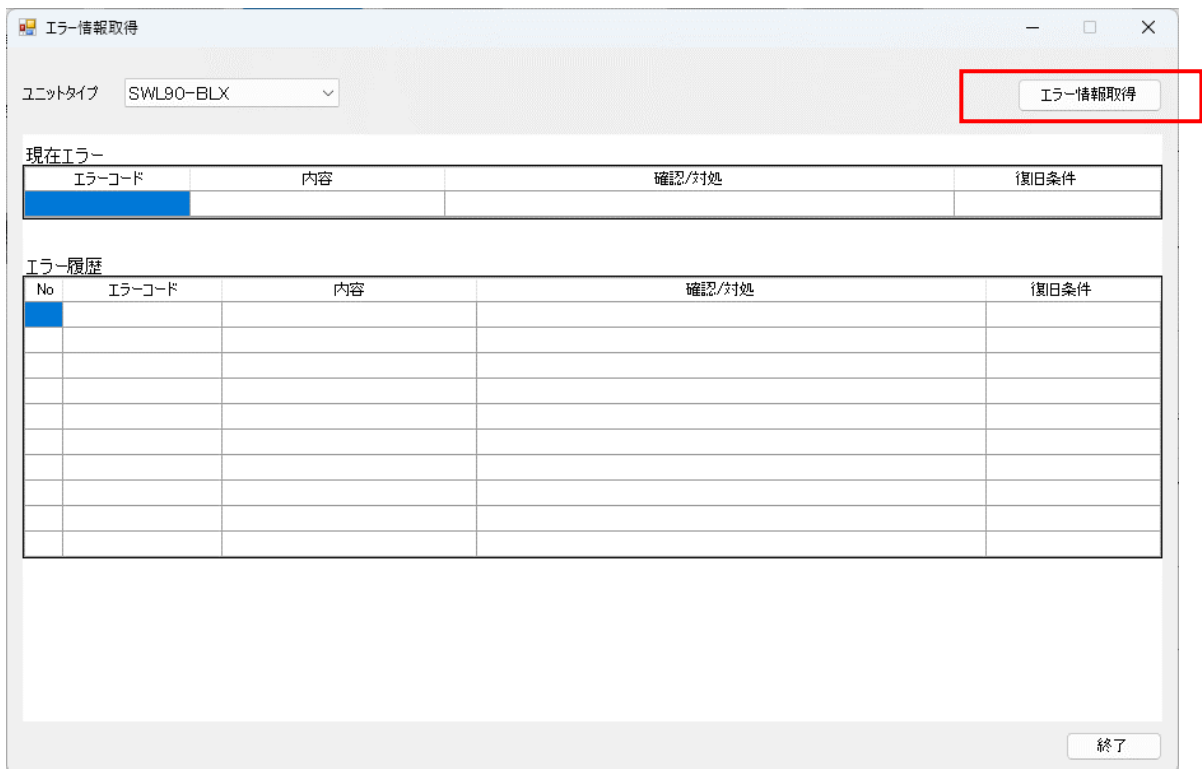
パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。



(2) 「ツール」 > 「エラー履歴読出し」を選択します。



(3) 「エラー情報取得」を選択します。



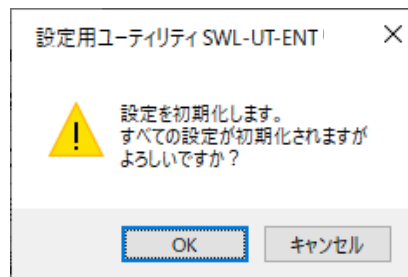
4.4.19. 設定ユーティリティの設定内容初期化

設定ユーティリティに設定した設定データを初期化する場合、以下手順で行います。

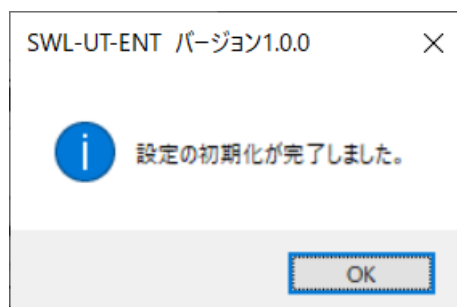
(1) 設定初期化を選択します。



(2) 「OK」を選択すると、設定ユーティリティで設定したデータが初期化されます。



(3) 正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。



4.4.20. ヘルプ機能

画面上の「？」のアイコンをクリックすることで、ヘルプ画面を開くことができます。

パラメータの詳細説明を参照し、パラメータ設定が可能になります。

※ヘルプはブラウザで開かれます。

画面上の「？」アイコンをクリックします。



4.5. 使用手順詳細（親局 ETMC 詳細画面）

4.5.1. 無線ユニットの設定データ作成

詳細画面で設定データを作成することで、簡易画面で変更出来ないパラメータを設定可能です。

使用するシステムに合わせたエラーの発生タイミング調整など、

細かな設定が必要な場合は詳細画面で設定を実施してください。

詳細画面でのみ設定可能なパラメータの一覧を以下に記載します。

対象	設定項目	詳細画面設定範囲
共通設定	選択周波数 CH 数	1／2
	選択周波数 2	24～38
	無線通信トポロジ	ツリー／メッシュ
親局個別設定	920MHz 通信出力電力	1mW／10mW／20mW
	エラー時のデータ	クリア／ ホールド／ ビットクリア、ワードホールド／ ビットホールド、ワードクリア
	920MHz 通信タイムアウト時間(秒) (ポーリング通信時)	0.0～999.9
	親局データ送信ウェイト時間(秒)	0～60
	中継情報更新間隔(秒)	1～600
子局個別設定	920MHz 通信出力電力	1mW／10mW／20mW
	子局入力信号監視遅延時間(秒)	0～60
	エラー端子出力	a 接点／b 接点／LIVE 信号
	920MHz 通信タイムアウト時間(分)	0～250
	Bluetooth デバイスタimeアウト時間(分)	0～250
	出力機能切り替え	エラー出力／警報出力
	エラー時のデータ	クリア／ホールド
	温度データオフセット	-99.9～99.9
	湿度データオフセット	-99.9～99.9
	中継情報更新間隔(秒)	1～600
	電池駆動メッシュ方式	起動時メッシュ／動的メッシュ

!!! 注意事項 !!!

詳細画面から簡易画面に変更する場合は、上記のパラメータはデフォルト値に変更されます。

無線ユニットに書込む設定データを作成します。

各設定の詳細については、「4.2.項 画面詳細」をご参照ください。

SWL-UT-ENT バージョン2.0.0

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書込 設定初期化

共通設定

グループNo: 0 無線通信構成: トランジェント通信(経路情報なし) 使用周波数CH数: 1 無線通信トポロジ: ツリー 接続方法: USB

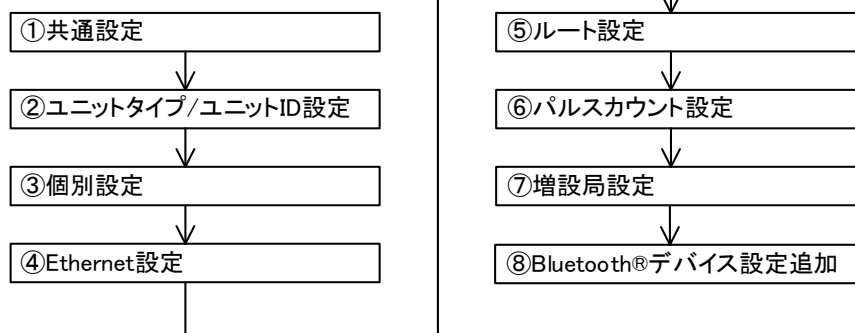
再送回数: 2 Ver4.00以前互換: ☒ 選択周波数: 33 最大中継段数: 5 ポート番号: 自動選択

選択周波数2: 27 子局台数: 6 接続先選択 TEST

子局番号	親局	子局1	子局2	子局3
ユニット名		R4ML_1	R4ML_2	R4ML_3
ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3
ユニットID				
ユニットタイプ		SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)
個別設定	個別設定	個別設定	個別設定	個別設定
ビット点数情報	48	16	16	16
ワード点数情報	10		0	0
Ethernet設定	Ethernet設定			
ルート設定		ルート設定	ルート設定	ルート設定
パルスカウント設定		パルスカウント設定	パルスカウント設定	パルスカウント設定
デバイス割付け一覧	デバイス割付け一覧			
増設局設定		増設局設定	増設局設定	増設局設定
Bluetooth®デバイス設定				

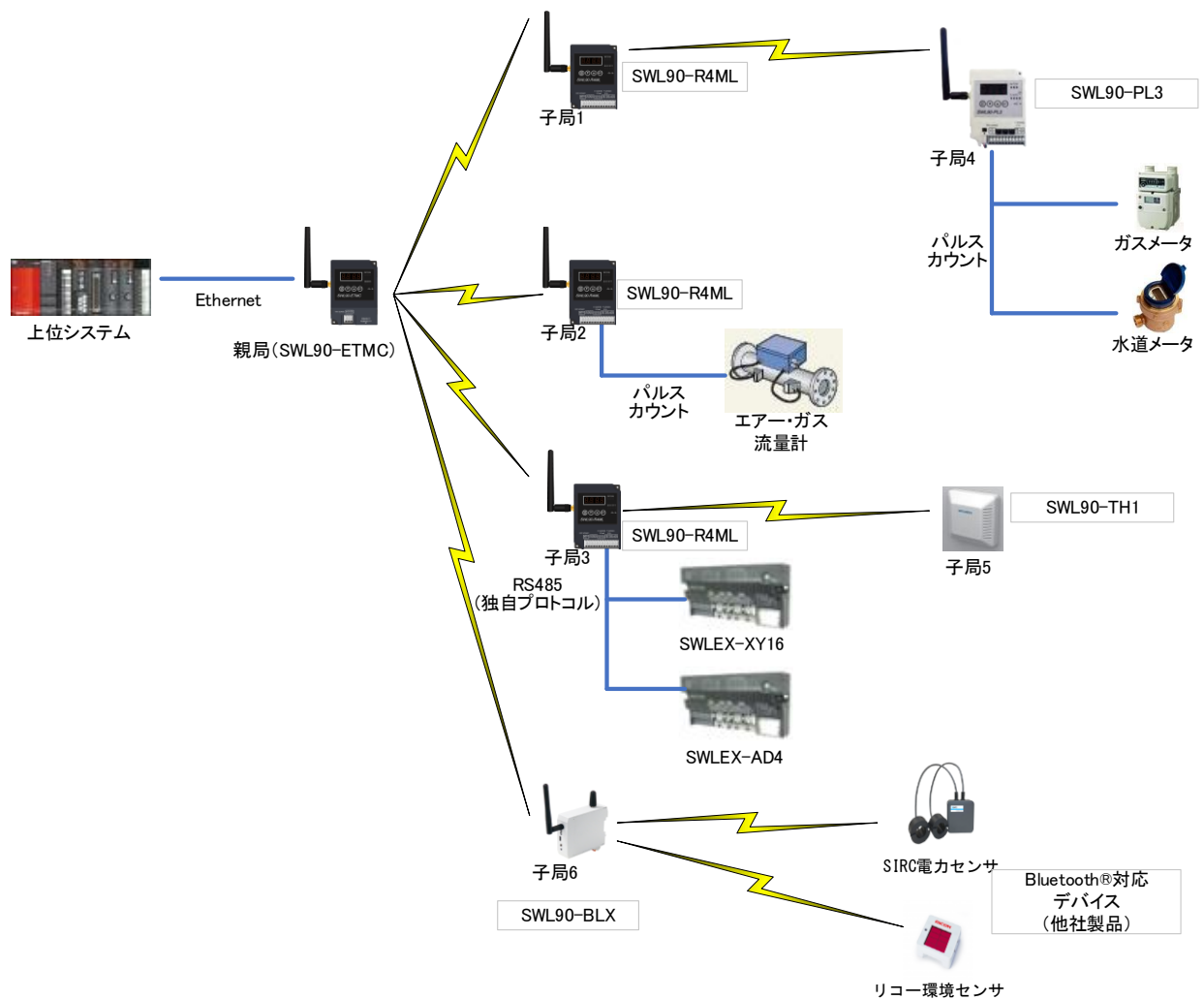
終了

設定手順



無線ユニットのパラメータ設定を順に行います。

下記構成の設定例を元に設定を行います。



4.5.2. 共通設定

無線ユニットに書込む設定データを作成します。

親局、子局の共通設定が一致しなければ通信を行うことができません

SWL-UT-ENT バージョン2.0.0

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

無線機へ書込 無線機から読出 ファイルから読出 ファイルへ書込 設定初期化

共通設定

グループNo. 0 無線通信構成 トランジェント通信<経路情報なし> 使用周波数CH数 1 無線通信トポロジ ツリー 接続方法: USB

再送回数 2 Ver 4.00以前互換 ☒ 選択周波数 33 最大中継段数 5 ポート番号: 自動選択

選択周波数2 27 子局台数 6 接続先選択 TEST

子局番号	親局	子局1	子局2	子局3
ユニット名		R4ML_1	R4ML_2	R4ML_3
SERIAL				
ユニット名称(ラベル)	親局	子局1	子局2	子局3

共通設定

グループNo. 0 無線通信構成 ボーリング通信<経路情報なし> 使用周波数CH数 1 無線通信トポロジ ツリー

再送回数 2 Ver 4.00以前互換 ☒ 選択周波数 33 最大中継段数 5

選択周波数2 38 子局台数 4

ルート設定	パルスカウンタ設定	デバイス割付け一覧	増設局設定
		デバイス割付け一覧	

r164 終了

共通して設定するパラメータは以下の通りです。

パラメータ	詳細
グループ No.	グループ No.を選択します。 同一エリアで複数の無線システムを使用する場合に誤送信、誤受信を防ぎます。
無線通信構成	無線通信にてデータを取得する無線通信構成を設定します。
使用周波数 CH 数	無線周波数を使用するチャンネル数を選択します。
選択周波数 選択周波数 2	選択周波数で通信が安定しない時に、選択周波数 2 で無線通信を行うための周波数を選択します。
無線通信トポロジ	無線通信時の経路構築時に使用する通信構成を設定します。 ツリー設定にて経路を固定することを推奨します。
再送回数	無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。
Ver4.00 以前互換	書込み/読出し対象のユニットバージョンを設定します。 ※メッシュ時はチェックありでマスクされ、設定はできません。 ※互換なしの場合、Ver4.00 以前のユニットと通信できません。
最大中継台数	通信トポロジをメッシュ設定時に可能なパラメータになります。 ユニットの中継段数の範囲を設定できます。
子局台数	子局台数を選択します。

4.5.3. ユニットタイプ/ユニット ID 設定

無線ユニットタイプ/ユニット ID の設定を行います。

【無線ユニットタイプ】

無線ユニット子局のユニットタイプを選択します。

表 4-13 ユニットタイプ

名称	ユニットタイプ
子局 1	SWL90-R4ML (中継局兼子局)
子局 2	SWL90-R4ML (中継局兼子局)
子局 3	SWL90-R4ML (中継局兼子局)
子局 4	SWL90-PL3 (中継局兼子局)
子局 5	SWL90-TH1 (子局)
子局 6	SWL90-BLX (子局)



【子局ユニット ID】

子局本体のユニット ID は工場出荷時には、シリアル No.上位 3 桁が設定されています。

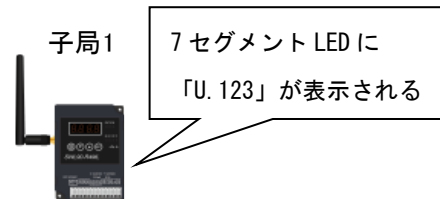
子局本体のユニット ID に合わせて設定ユーティリティのユニット ID を記入してください。

工場出荷時に
子局の定格銘板の
「SERIAL」の上 3 桁が
無線ユニットのユニット ID
になります。

定格銘板

920MHz Wireless Unit	
TYPE	SWL90-R4ML
	12/24VDC 1.4W
SERIAL	12300631
SW Ver.	4.10
MADE IN JAPAN	
MITSUBISHI ELECTRIC SYSTEM & SERVICE CO., LTD.	

無線ユニット



ユニットID		1	2	3	
ユニットタイプ		SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-R4ML(中継局兼子局)	SWL90-PL

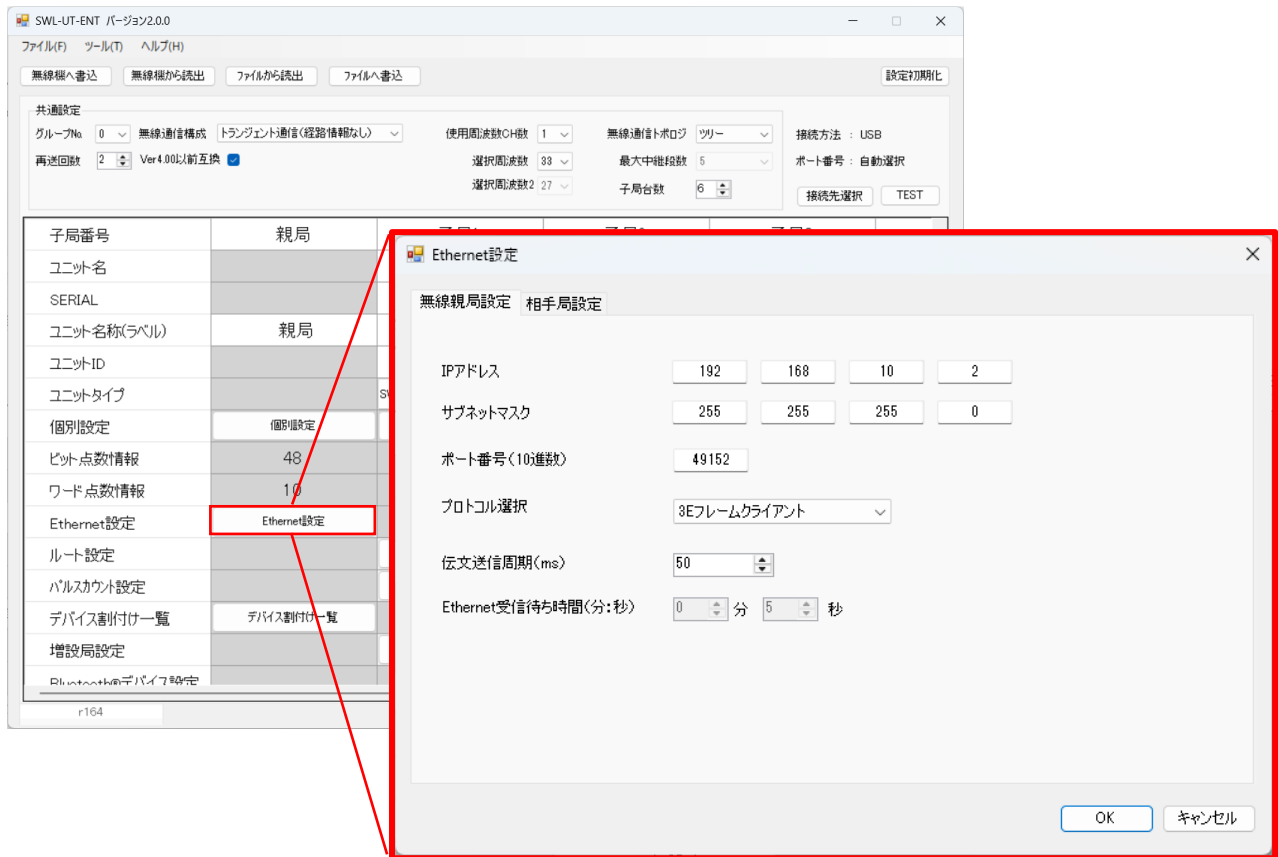
※各子局の本体に任意のユニット ID (例: 子局 1 ユニット ID = 1、子局 2 ユニット ID = 2 など) を
入力することも可能です。

4.5.4. Ethernet 設定

無線ユニットと上位(シーケンサ)間の Ethernet 通信に関する設定を行います。

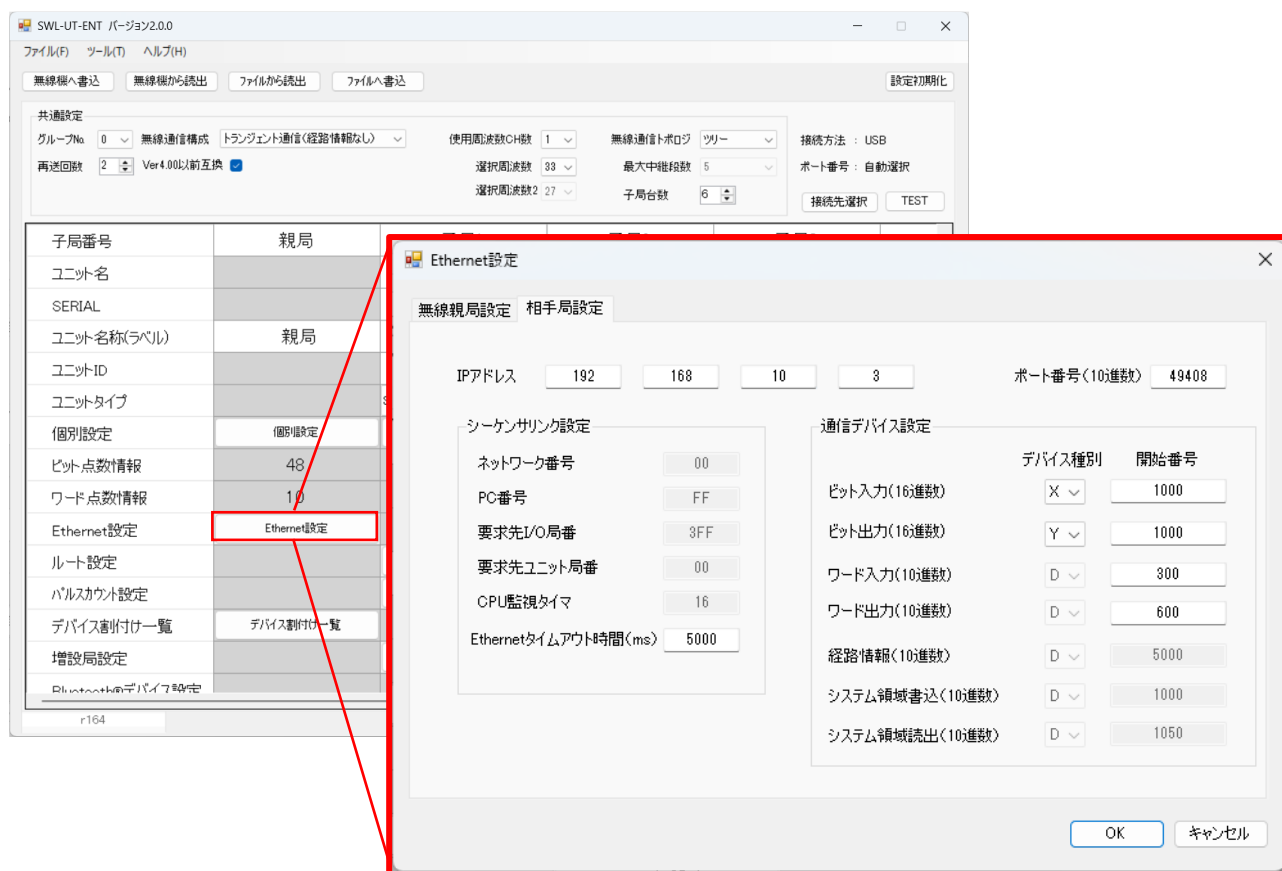
【無線親局設定】

SWL90-ETMC に割り当てる IP アドレスの設定を行ってください。



【相手局設定】

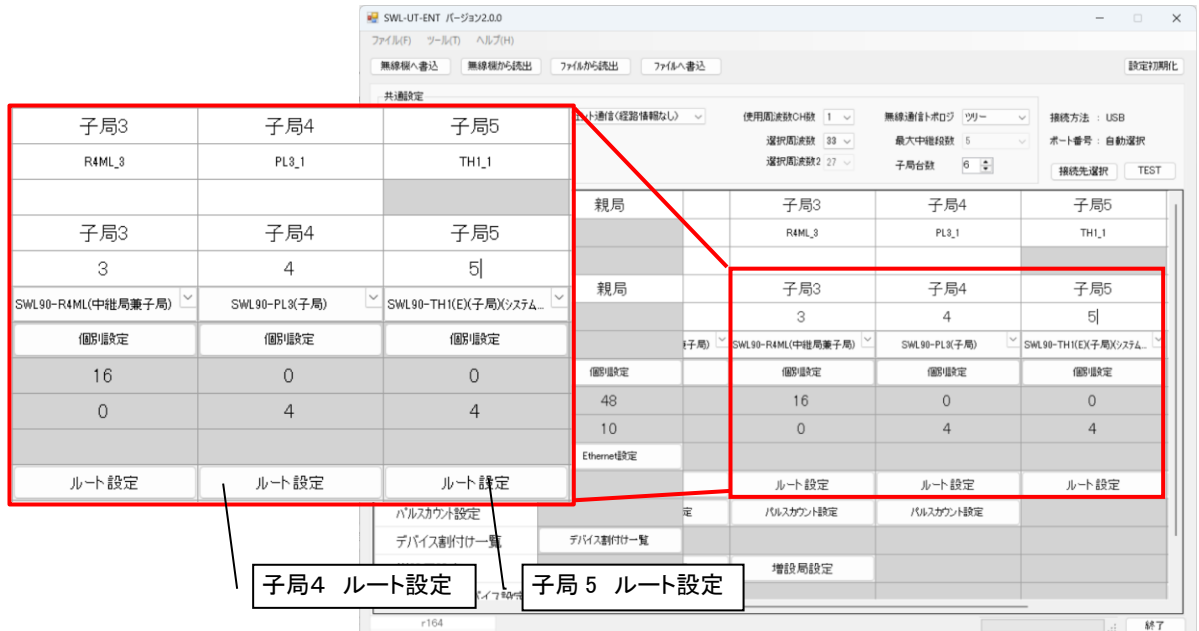
- ・IP アドレス: SWL90-ETMC と Ethernet 接続で通信を行う機器 IP アドレスの設定を行います。
- ・ポート番号: SWL90-ETMC と Ethernet 接続で通信を行う機器ポート番号の設定を行います。
- ・通信デバイス設定: ビットデータ、ワードデータ割付けの先頭デバイスの設定を行います。



4.5.5. ルート設定

無線ユニットの経路設定を行います。

本構成では、中継して無線通信を行う子局 4、子局 5 の設定例を記載します。



【子局 4 ルート設定】

子局 4 は、子局1を経由して親局へ無線送信するため設定は以下のように設定します。



The screenshot shows the '子局ルート設定 子局4' (Substation Route Setting Substation 4) dialog box. It contains a dropdown for '中継経路設定数' (Relay Path Setting Count) set to 1. Below this is a table for setting the relay path segments. The first segment is set to 1, and the subsequent segments are set to 0. The dialog also includes a note about setting the relay stations in order of proximity to the main station and buttons for 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

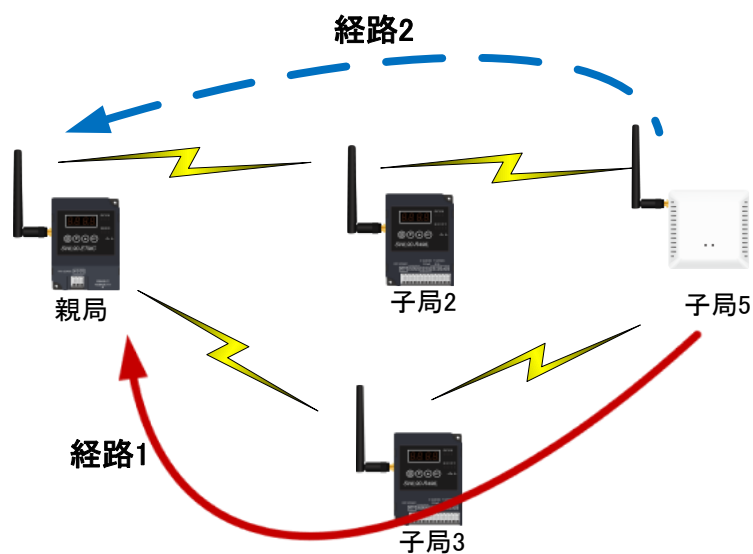
中継段数	中継1	中継2	中継3	中継4	中継5
経路1	1				
経路2	0				
経路3	0				

中継1～5(は中継局の子局番号を親局から近い順に設定してください。)

OK キャンセル

【子局 5 ルート設定】

子局 5 は、子局 3 を経由して親局へ無線送信する経路を基本としますが、万が一子局 3 の通信が途切れた場合に備え、子局 2 を経由して親局へ無線通信する経路を設定します。



子局ルート設定 子局5

×

中継経路設定数

2

▼

	中継段数	中継1	中継2	中継3	中継4	中継5
経路1	1 ▼	3				
経路2	1 ▼	2				
経路3	0 ▼					

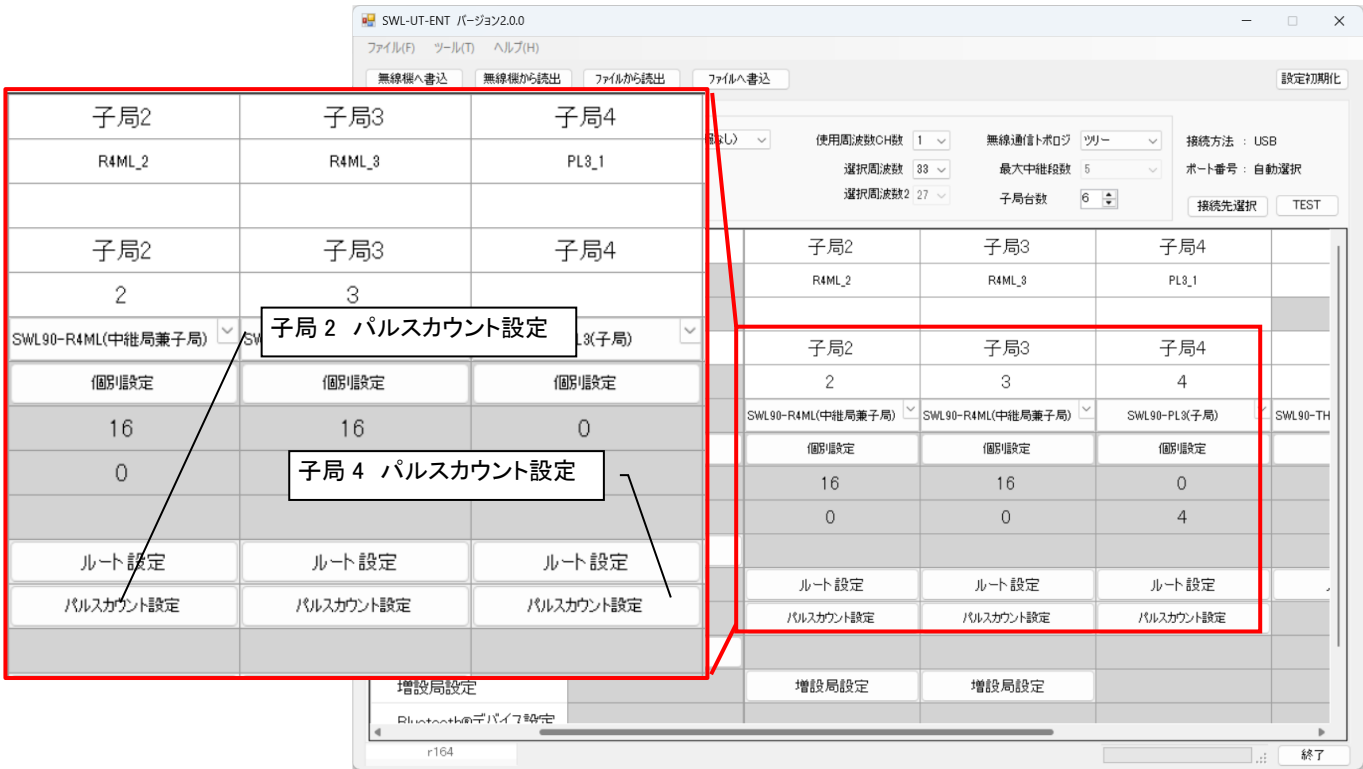
中継1～5には中継局の子局番号を親局から近い順に設定してください。

OK

キャンセル

4.5.6. パルスカウント設定

パルスカウント設定を行います。パルスカウント設定を行わない場合は、入力としてご利用できます。
本構成では、パルスカウントを使用する子局 2、子局 4 の設定例を記載します。



【子局 2 パルスカウント設定】

子局 2 は、エアーガス流量計を接続し、パルスカウントを 1CH 使用するため設定は以下のように設定します。

表 4-14 子局 2 パルスカウント設定

名称	設定値
パルスカウント設定	1CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1



※1: ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

【子局 4 パルスカウント設定】

子局 4 は、ガスメータ、水道メータを接続しパルスカウントを 2CH 使用するため設定は以下のように設定します。

表 4-15 子局 4 パルスカウント設定

名称	設定値
パルスカウント設定	2CH
CH1 カウント桁数	8 ※1
CH1 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1
CH2 カウント桁数	8 ※1
CH2 初期値	0 ※1
最小入力パルス幅	30 ※1

パルスカウント設定 2Ch

CH1

CH1動作: パルスカウント

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

CH2

CH2動作: パルスカウント

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

CH3

CH3動作: ON/OFF入力

カウント桁数 8

初期値 0

最小入力パルス幅(Hz) 30

OK キャンセル

※1:ご使用のシステムに合わせてパラメータを設定してください。

4.5.7. 増設局設定

子局に接続する増設局設定を行います。

本構成では、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用する子局 3 の設定例を記載します。



【子局 3 増設局設定】

子局 3 は、入出力増設ユニットとアナログ増設ユニットを使用するため設定は以下のように設定します。

増設局台数: 2 ☒ 増設局を使用する

	増設1	増設2
ユニット種別	DIO/DI 16点ユニット	AD 4点ユニット
予約設定	使用局	使用局
エラー時のデータ	クリア	クリア
アナログCh設定		アナログCh設定

OK キャンセル

アナログ増設ユニットを設定する場合、「アナログ CH 設定」を行う必要があります。

CH1 を使用した場合の設定を以下の通りです。

増設設定 子局3

増設局台数: 2 ☒ 増設局を使用する

	増設1	増設2
▶ ユニット種別	DIO/DI 16点ユ...	AD 4点ユニット
予約設定	使用局	使用局
エラー時のデータ	クリア	クリア
アナログCh設定	アナログCh設定	

OK キャンセル

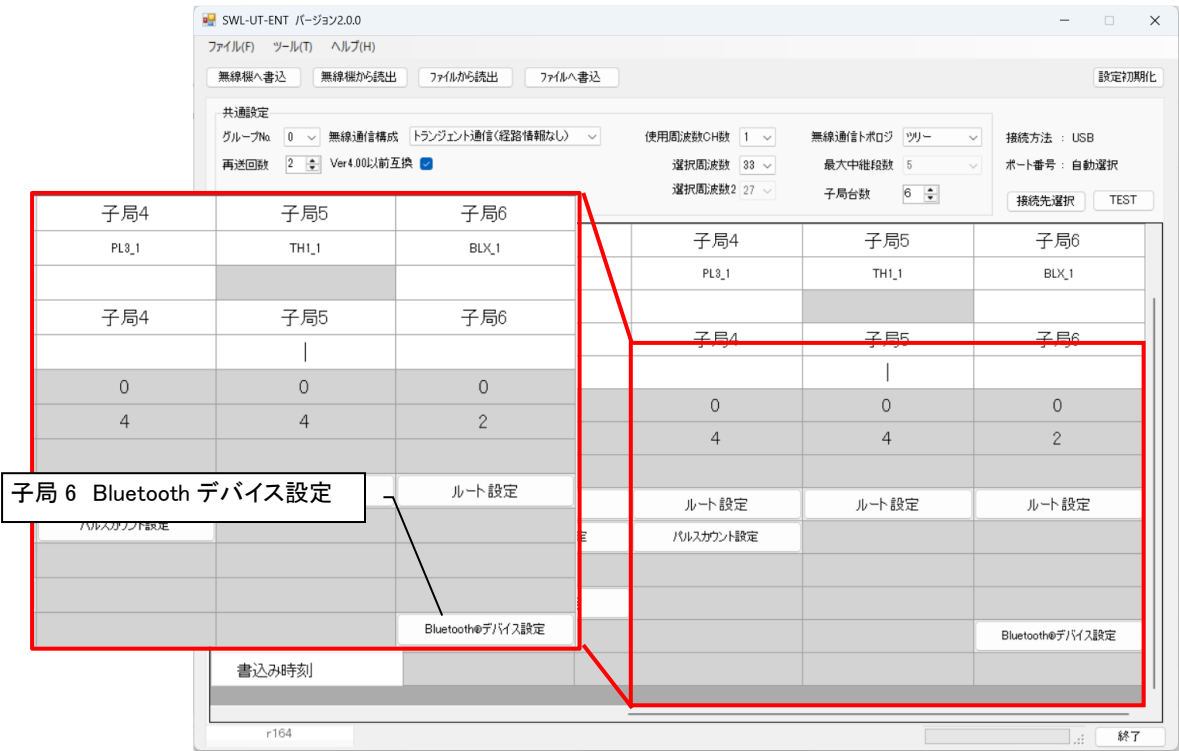
アナログCh設定 子局3 増設2

	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4
▶ Ch使用	☒	☐	☐	☐
入力レンジ	0-10V	0-10V	0-10V	0-10V
平均方法	サンプリング	サンプリング	サンプリング	サンプリング
平均回数	0	0	0	0

OK キャンセル

4.5.8. Bluetooth デバイス設定

子局 6 SWL90-BLX の Bluetooth デバイス設定を実施します。



設定方法に関しては『4. 4. 8 Bluetooth デバイス設定』を参照してください。

4.5.9. 親局への設定データの書き込み

無線ユニット親局に USB または Ethernet ケーブルを接続して設定データを書込む手順は以下となります。

※書き込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

※書き込み中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

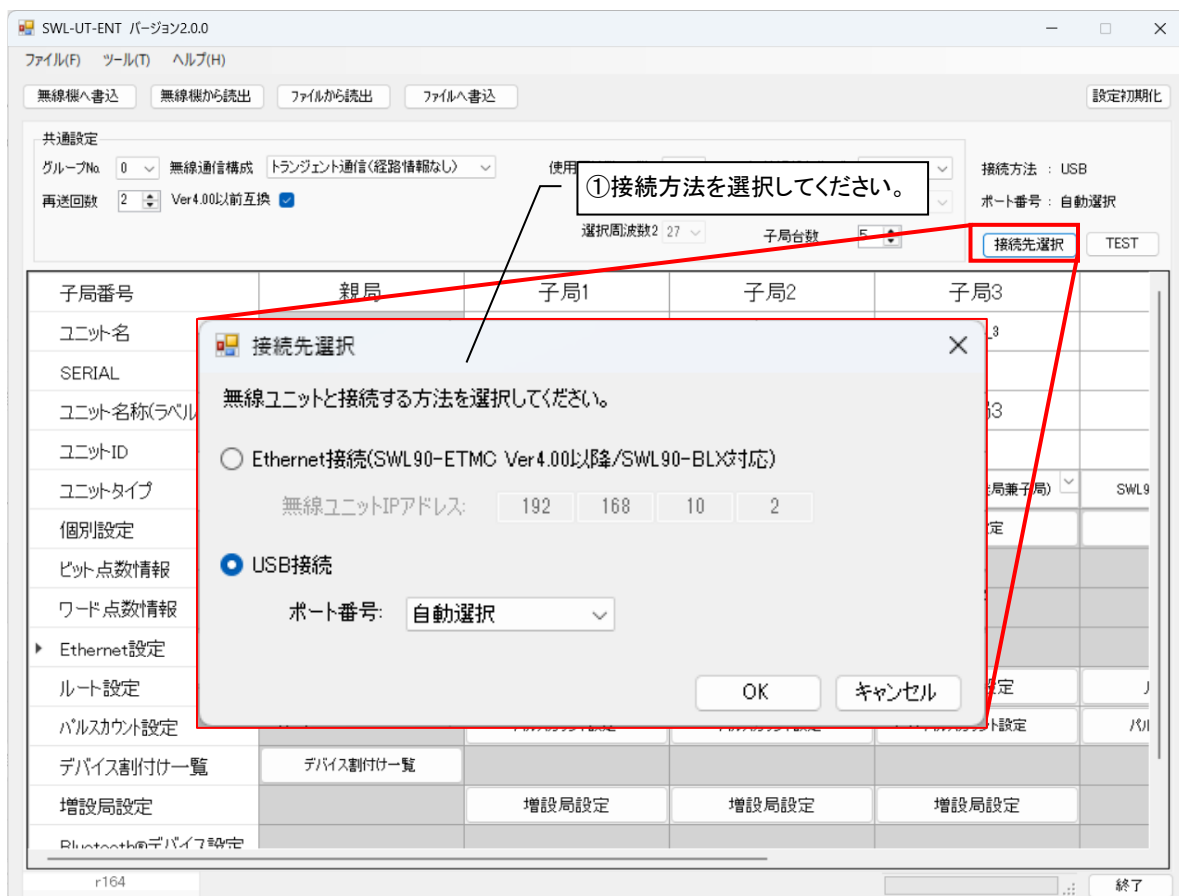
※書き込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

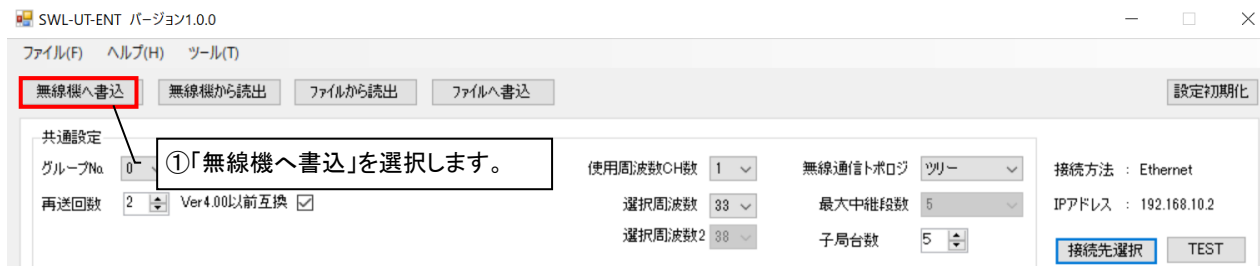
USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法:Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

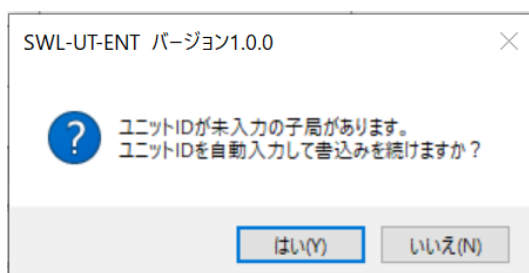


(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込選択」画面を表示します。



!!! 注意事項 !!!

親局への書込み時、ユニット ID が入力されていない子局がある場合、下記のようなダイアログが表示されます。
自動で入力する場合は、子局番号がユニット ID になります。また、パラメータ無線配信機能を使用する場合、
子局本体のユニット ID を自動で入力された設定ユーティリティの値に合わせて変更してください。



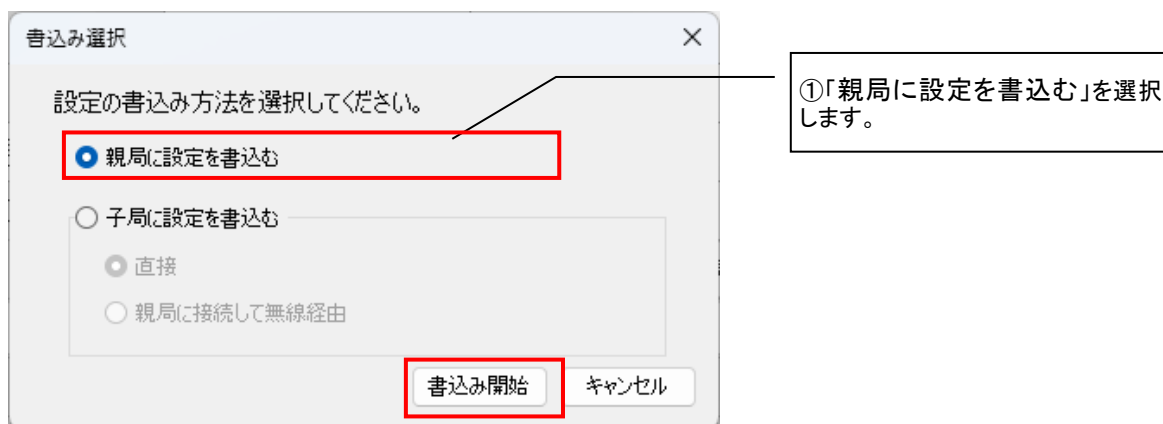
!!! 注意事項 !!!

テストモード中にパラメータの書込みはできません。

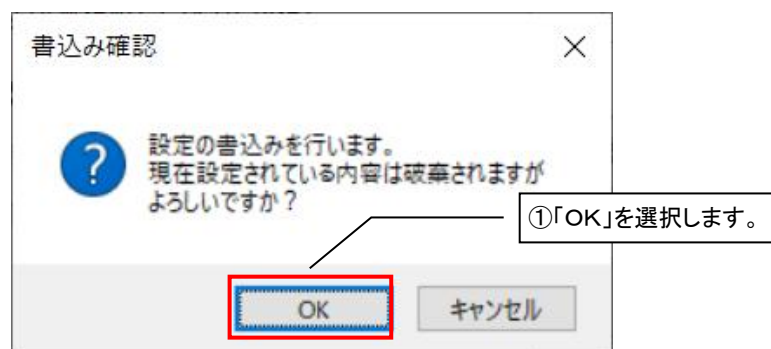
(3) 無線機への書き込み方法を選択します。

「親局に設定を書込む」を選択します。

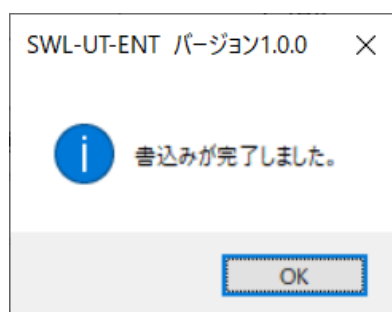
USB 接続時



(4) 書き込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



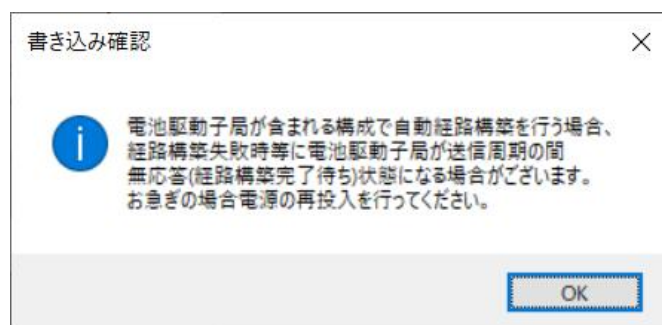
(5) 書き込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



!!! 注意事項 !!!

TH1、PL3 の電池駆動子局が含まれる構成で親局に書き込みを行う場合、下記のダイアログが表示されます。

自動経路構築をご使用の際はご注意ください。



!!! 注意事項 !!!

一部パラメータは親局(ETMC)のバージョンによっては、書き込みできません。

対象パラメータに関しては、『表 4-8 ETMC バージョンごとの書き込み不可パラメータ』をご参照ください。

4.5.10. USB 接続による子局書込み

USB 接続による子局の書込みは以下手順で行います。

※書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。

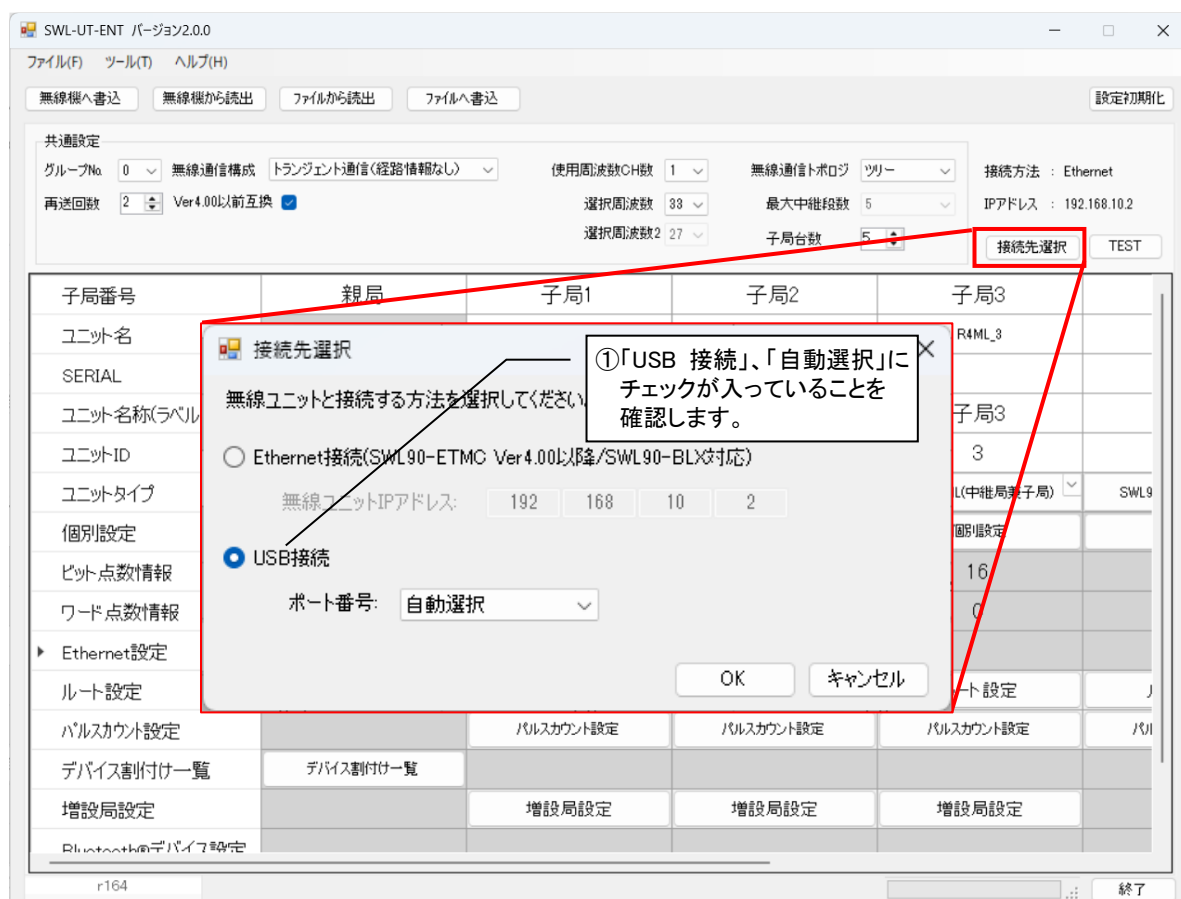
※書込み中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※書込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」を選択してください。

USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

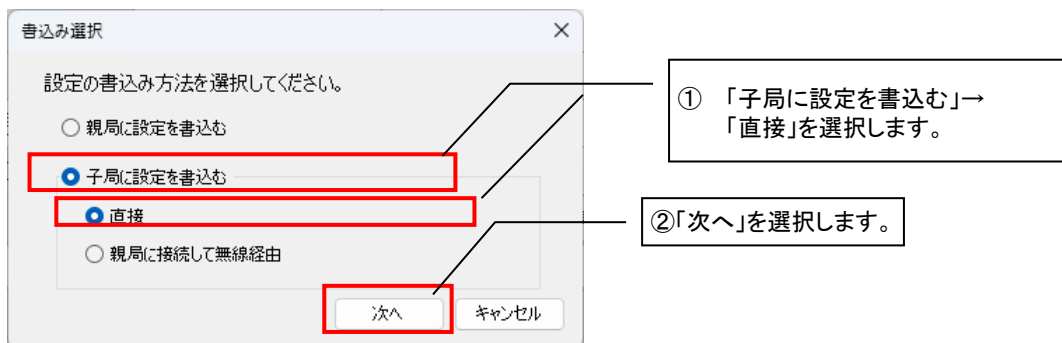
パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。



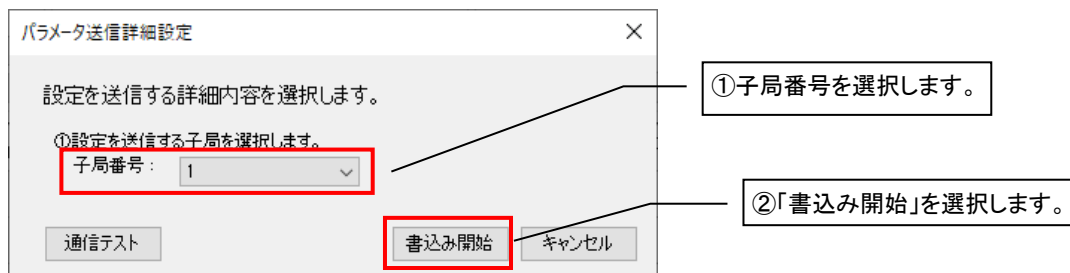
(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



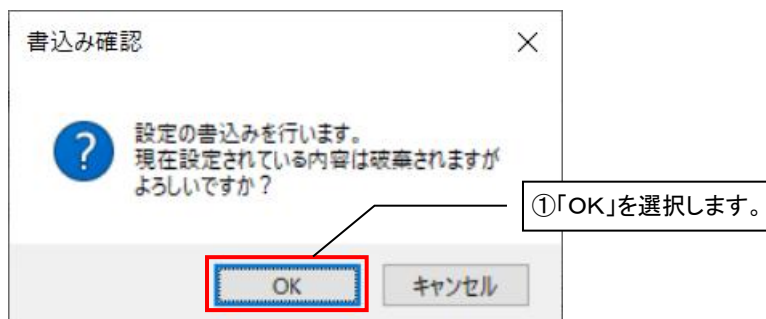
(3)「子局に設定を書込む」と「直接」を選択し「次へ」ボタンを押す。



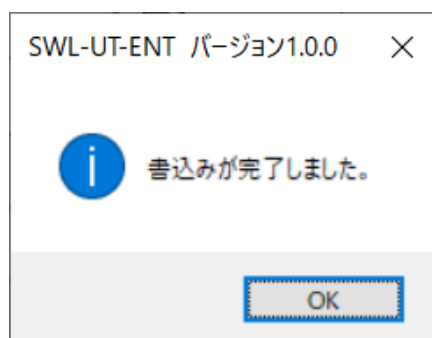
(4)子局番号を選択し、「書込み開始」ボタンを選択します。



(5) 書込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(6) 書き込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



※ETMC(Ver2.00 以前)、R4ML(Ver2.00 以前) PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、
書き込みを行ってください。USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

SWL90-TH1 は設定ツールから設定を書込むことが出来ません。

親局への設定書き込み後、SWL90-TH1 本体のボタン操作で設定いただく必要があります。

※無線ユニットのボタン操作に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

!!! 注意事項 !!!

一部パラメータは、書き込み対象子局のバージョンによっては、書き込みできません。

内容に関しては下記をご参照ください。

『表 4-9 R4ML バージョンごとの書き込み不可パラメータ』～『表 4-11 BLX バージョンごとの書き込み不可パラメータ』

4.5.11. 子局通信確認

無線子局との接続確認を行います。

※親局、子局へ設定データ書込後に実施してください。

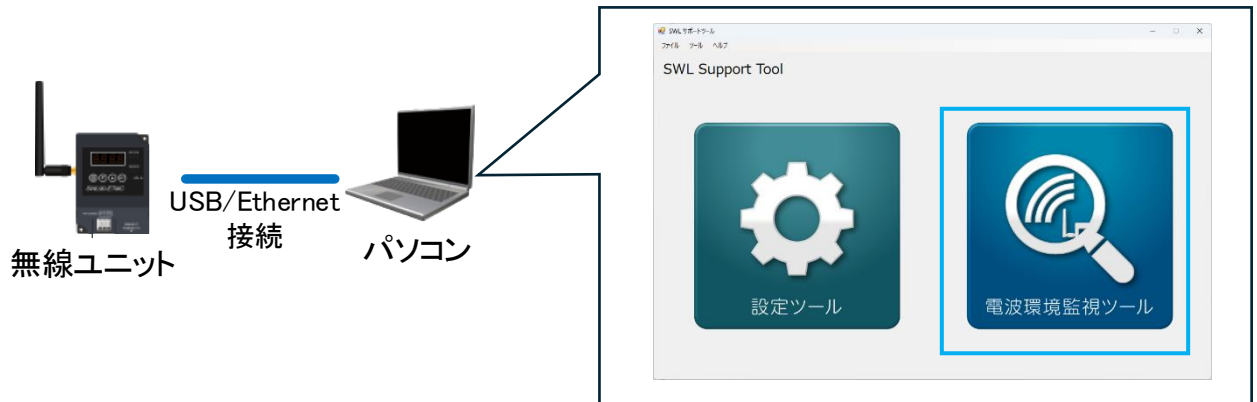
無線親局に USB を接続してください。

SWL サポートツールメイン画面より、「電波環境監視ツール」を選択し

通信チェック機能を使用してユニット間の電波強度を確認してください。

※通信チェック機能の使用方法に関しては、電波環境監視ツールユーザーズマニュアルをご参照ください。

(SWL サポートツールの「ヘルプ」>>「マニュアル」>>「電波環境監視ツール取扱説明書」)



!!! 注意事項 !!!

●無線通信構成に『トランジェント通信』を選択されている場合

無線送信間隔(分:秒)に設定した時間でユニットの電波強度が更新されます。

任意のタイミングで電波を送信したい場合は、無線ユニットのボタン操作で電波を発報してください。

※無線ユニットのボタン操作に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

●無線通信構成に『ポーリング通信』を選択されている場合

無線親局と上位機器の Ethernet が未通信状態の場合、無線親局と無線子局は通信しません。

上位機器が無い構成で無線通信を確立するためには、無線親局をボタン操作でテストモードに設定いただく必要があります。

※テストモードの設定方法に関してはユーザーズマニュアル(詳細編)をご参照ください。

4.5.12. 無線配信による子局書込み

親局に USB または Ethernet ケーブルを接続し、無線経由で子局への書込みが可能です。

!!! お願い事項／前提条件 !!!

- 書込み中は無線ユニット電源を切らないでください。
- 書込み中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。
- 親局に設定データ書込後に実施してください。
- 電池駆動子局を含む構成でパラメータ配信に失敗した場合、子局が応答待ちの状態となり通常動作、パラメータ配信が行えません。応答待ち状態は子局の無線送信周期経過後、自動で復旧しますが、お急ぎの場合は中継兼子局から順番に電源を再投入してください。

!!! 注意事項 !!!

- 書込み中は、通常動作が一時停止し、再起動しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。
- 以下の場合は無線書込みが使用できません。USB 経由で書込みを行ってください。
 - ・通信トポロジが「メッシュ」の場合
 - ・ユニットタイプを変更する場合(例: SWL90-PL3(子局)を SWL90-PL3(中継兼子局)に変更する)
 - ・電池子局を含む構成で通信の経路を変更する場合
 - ・電池子局を含む構成で送信周期を変更する場合
 - ・再送回数が 5 回以上に設定されている場合
- 電池駆動子局を含む構成でパラメータ配信に失敗した場合、子局が応答待ちの状態となり通常動作、パラメータ配信が行えません。
- SWL90-BLX の Bluetooth デバイス設定及び Bluetooth デバイスタイムアウト時間（分）は無線配信では書込み出来ません。USB/Ethernet でユニットに直接書込みを実施ください。

無線書込みが使用可能なユニットの組み合わせは以下のとおりです。

		無線パラメータ配信対象ユニット											
		入出力子局 [SWL90-R4ML]					温湿度センサ [SWL90-TH1(E)]			パルスカウント子局 [SWL90-PL3]		taBaneLE [SWL90-BLX]	
		Ver4.1*	Ver4.0*	Ver3.**	Ver2.**	Ver1.**	Ver4.1*	Ver2.**	Ver1.**	Ver4.1*	Ver1.**	Ver2.**	Ver1.**
親局 [SWL90-ETMC]	Ver5.1*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○*1	○*1
	Ver5.0*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○*1	○*1
	Ver4.1*	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×
	Ver4.0*	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver3.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver2.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ver1.**	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1: P700系のパラメータは無線配信による書込みが行えません

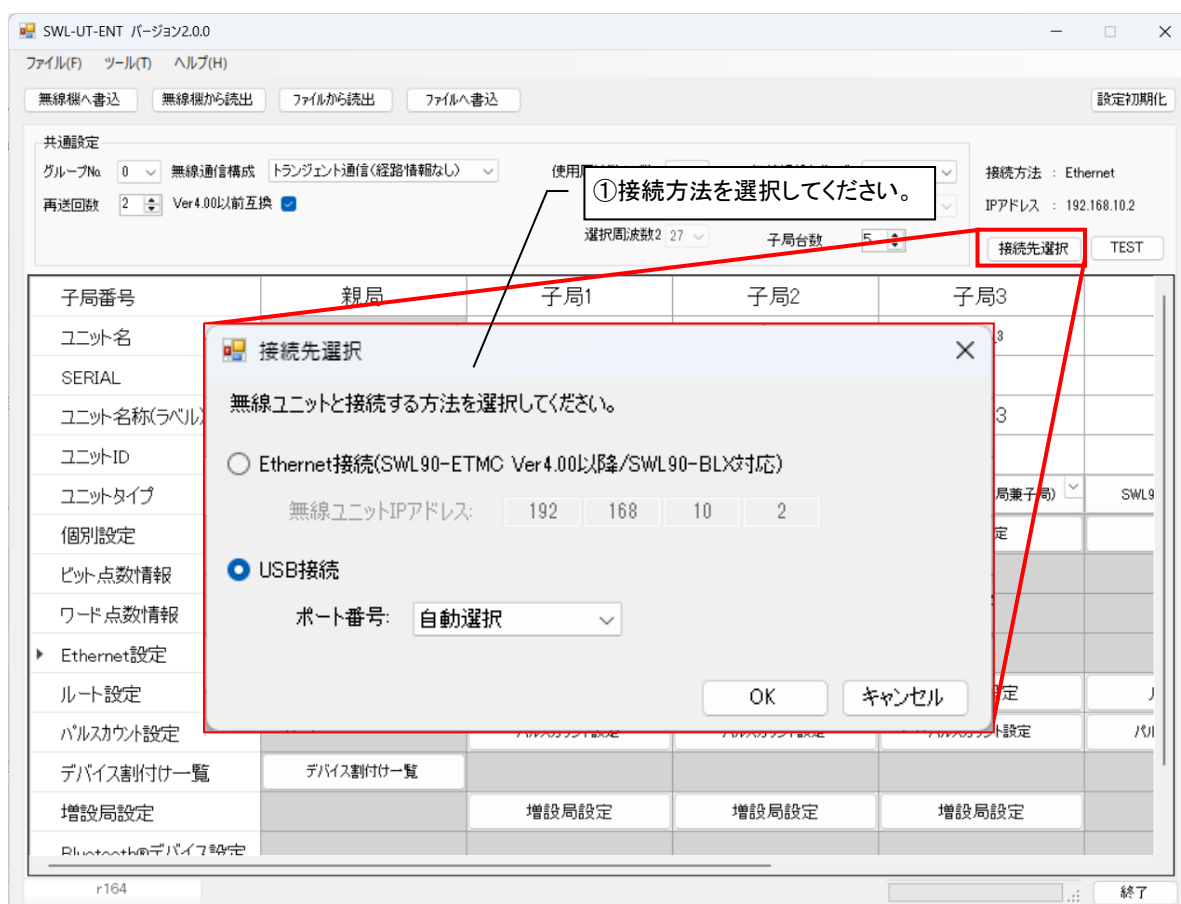
無線ユニット親局に USB または Ethernet ケーブルを接続して設定データを書込む手順は以下となります。

(1) メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

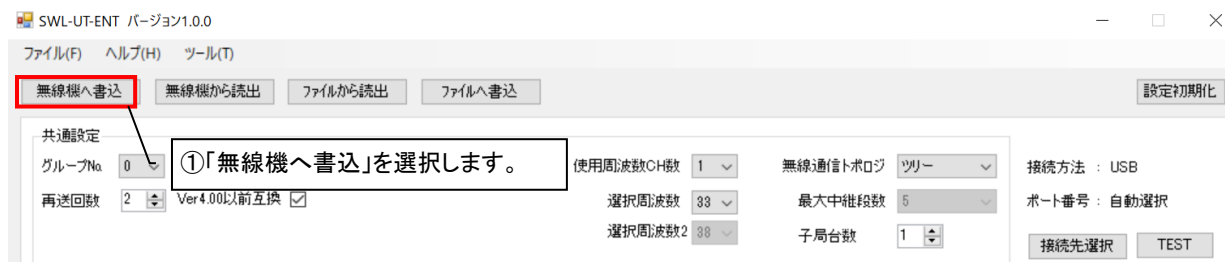
USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法:Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

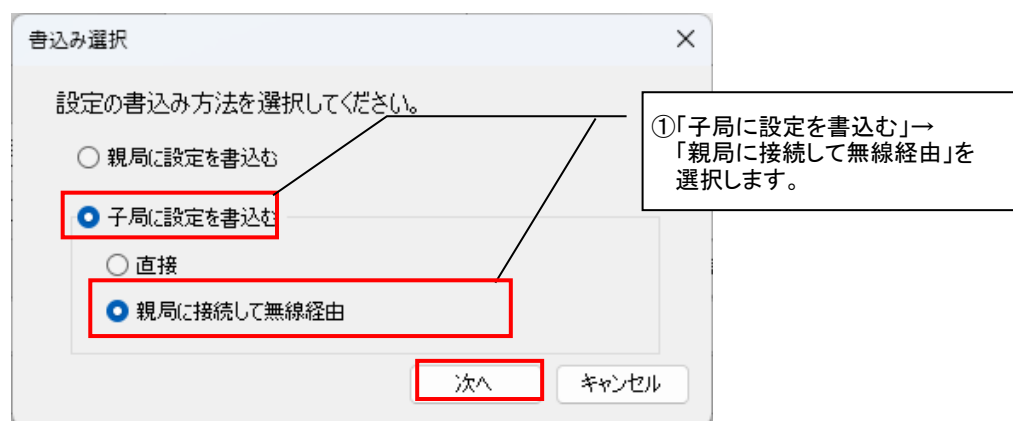


(2)「無線機へ書込」ボタンを選択し、「書込み選択」画面を表示します。



(3) 書込み選択ダイアログが表示されます。

「子局に設定を書込む」を選択し、「親局に接続して無線経由」を選択します。



(4) 子局番号と無線パラメータを選択し、「書込み開始」を選択してください。

無線パラメータ送信詳細設定

無線で設定を送信する詳細内容を選択します。

①設定を送信する子局を選択します。
設定を送信する子局番号を設定してください。
複数の子局を送信する場合、「1,3,6」のようにカンマで区切るか「1-6」のようにハイフンで範囲を指定してください。

①設定を送信する子局番号を入力します。

子局番号:

②設定を送信する無線パラメータを選択します。

②現在、書込み対象子局に設定されている無線パラメータと一時的に一致させます。

周波数チャンネル: 33
グループ設定: 0
通信トポロジ: ツリー

※無線ユニットがテストモードの場合、無線配信機能は使用できません。
※Ver 4.00より前のユニットに対しては、無線配信機能は使用できません。
※Ver 4.10より前のユニットはTH1/PL3への無線配信はできません。
※TH1/PL3が対象に含まれる場合、20分以上時間がかかります。
※電池駆動子局が対象に含まれる場合、失敗時等に電池駆動子局が送信周期の間パラメータ配信待ちになる場合がございます。
その間無応答状態となりますので、お急ぎの場合電源の再投入を行ってください。

③書込み開始を選択します。

通信テスト 書込み開始 キャンセル

無線子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

SWL-UT-ENT バージョン1.0.0

ファイル(F) ヘルプ(H) ツール(T)

無線機へ書き込 無線機から読み込 ファイルから読み込 ファイルへ書き込

共通設定

グループNo: 0 無線通信構成: ボーリング通信(経路情報なし) 使用周波数CH数: 1 無線通信トポロジ: ツリー

再送回数: 2 Ver 4.00以前互換: ☒ 選択周波数: 33 最大中継段数: 5

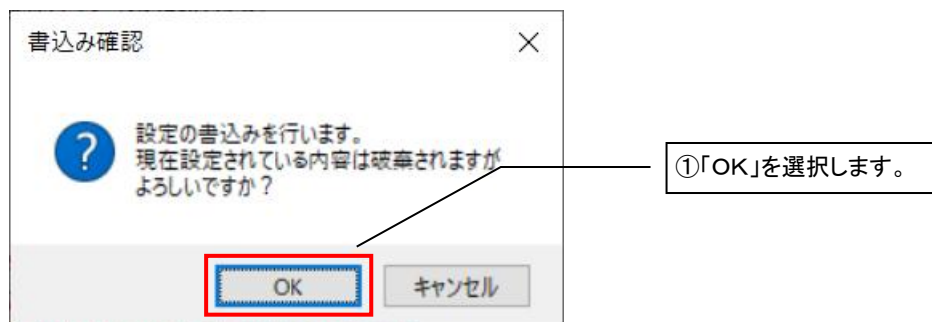
選択周波数2: 33 子局台数: 1

子局には「共通設定」に設定されている無線パラメータ値が書込まれます。

無線送信するには親局と子局の無線パラメータ(周波数、グループ、通信トポロジ)を一致させる必要があります。このとき、周波数は選択周波数1の周波数を選択してください。

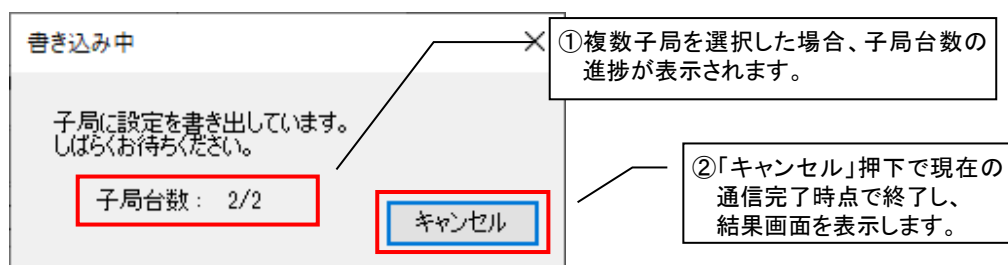


(5)「OK」を選択してください。



(6)設定の書き込みが開始します。

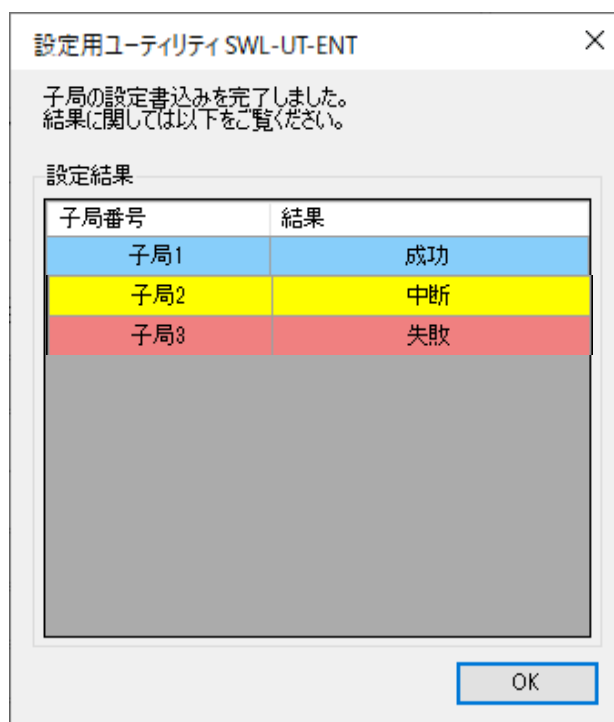
設定書き込み中は下記のように進捗が表示されますので、しばらくお待ちください。



(7)設定完了後、以下のような結果画面を表示します。

青:成功、赤:失敗、黄:中断

※中継の設定が行われている時、経路の末端から配信が行われ、失敗した時点で無線配信を中断します。



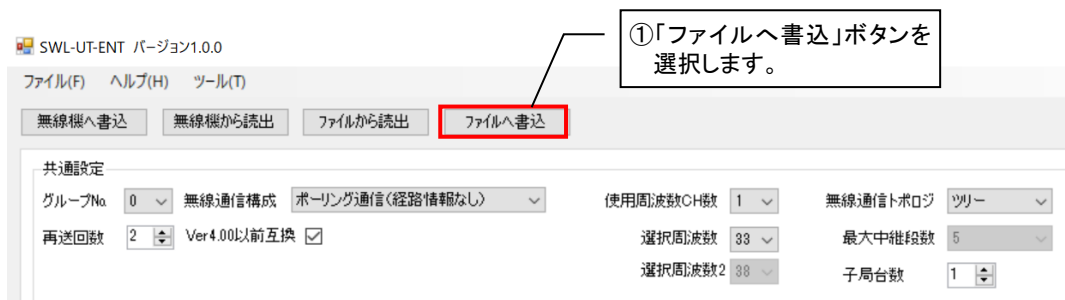
4.5.13. 設定ファイル保存

設定内容をパソコンに csv ファイル形式で保存する手順は以下になります。

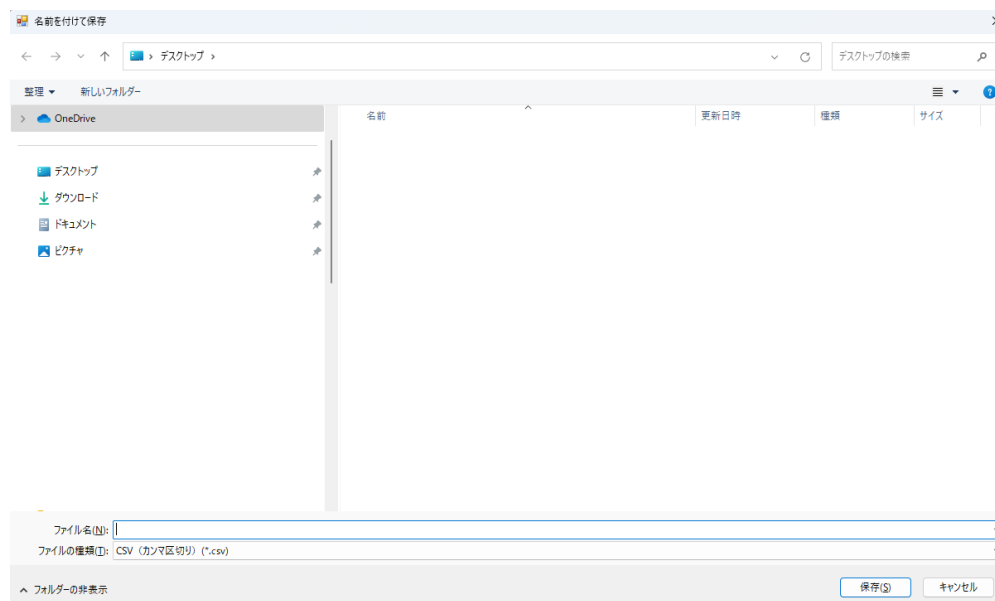
※保存した CSV ファイルを編集すると、設定ユーティリティでの読出しができなくなります。

設定を編集する場合は、必ず設定ユーティリティに読出してから編集してください。

(5) 画面上部の「ファイルへ書込」ボタンを選択します。



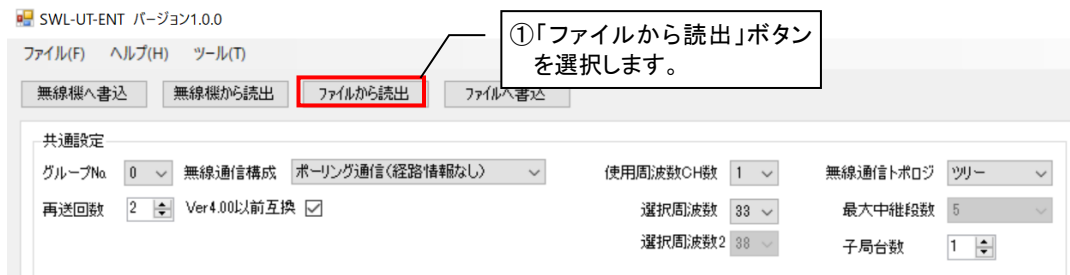
(6) ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンを選択してください。



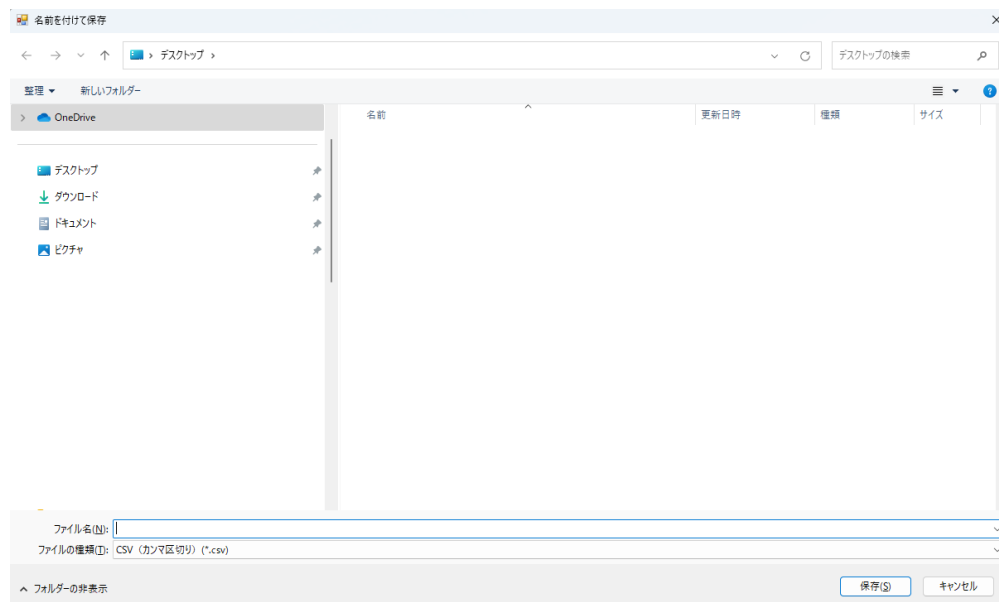
4.5.14. 保存した設定ファイル読出し

パソコンに保存した csv ファイルの読出しは以下手順になります。

(1) 画面上部の「ファイルから読出」ボタンを選択します。



(2) ファイル読出ダイアログが表示されますので、読出すファイルを選択し、「開く」ボタンを選択してください。



4.5.15. 親局から設定データ読出し

無線ユニット親局からの設定データの読出し方法に関して記載します。

!!! お願い事項／前提条件 !!!

- 読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。
- 読出し中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、
パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。
- 親局無線ユニットのバージョンが Ver4.00 以降のユニットは、
子局パラメータも一括で読出しができます。

!!! 注意事項 !!!

- 読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。
- 親局のパラメータを設定ユーティリティ経由ではなく、ユニット本体のボタン操作で書込んだ場合、
親局から全てのパラメータを読出すことができません。
その場合は、親局と子局全台からUSBまたは Ethernet 接続にて読出しを行ってください。

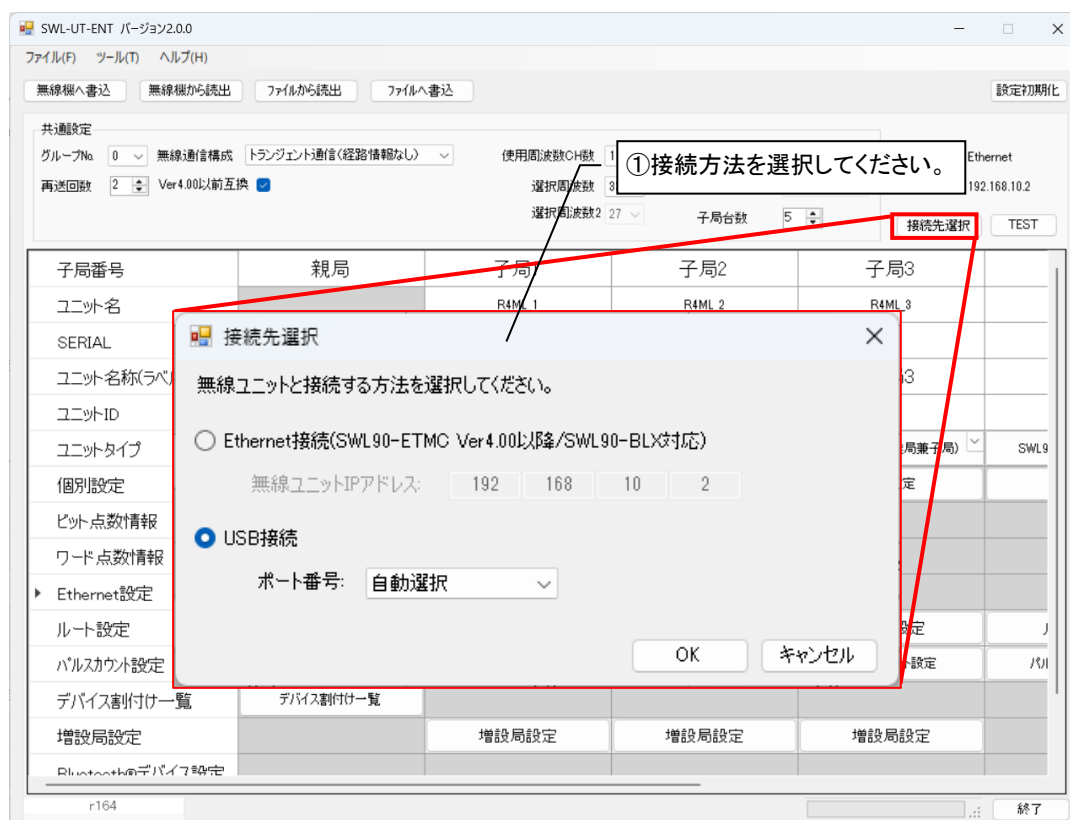
無線ユニットの設定データをパソコンへ読出す場合、以下手順で行います。

(1)メイン画面の右上の「接続先選択」から接続方法を選択してください。

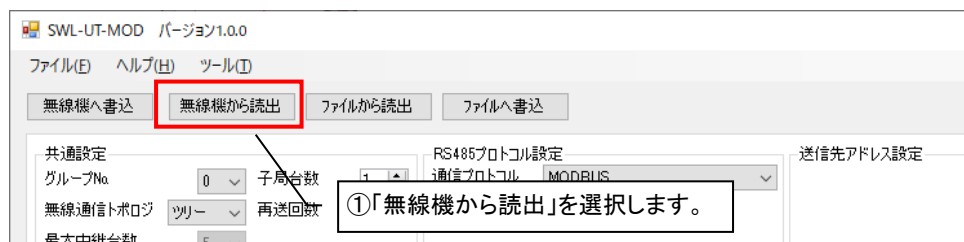
USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

Ethernet 接続 → 接続方法:Ethernet 無線親局の IP アドレスと一致していることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB または Ethernet ケーブルで接続してください。

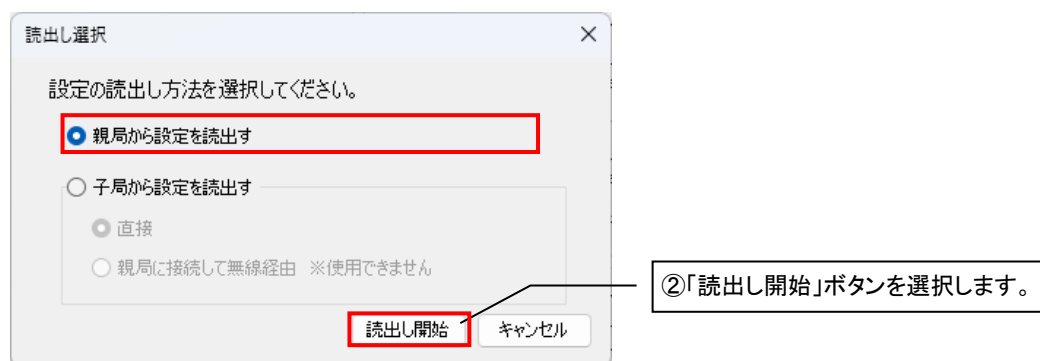


(2)「無線機から読出」ボタンを選択し、「読出し選択」画面を表示します。

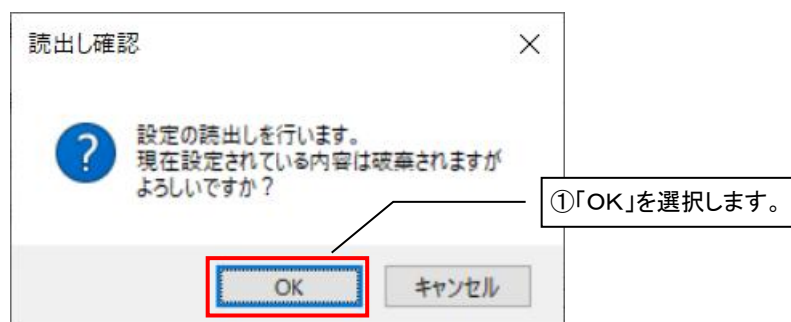


(3)無線機からの読出し方法を選択します。

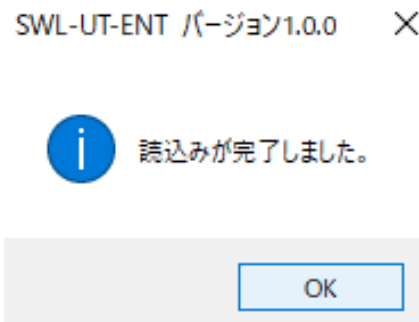
「親局から設定を読出す」を選択します。



(4)読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



(5) 読出し完了後、以下のダイアログが表示されます。



※ETMC(Ver2.00 以前)、R4ML(Ver2.00 以前) PL3(Ver1.00/4.10)は USB モードに変更後、
読出しを行ってください。USB モードへの変更方法は「SET ボタンを押しながら電源投入」になります。

!!! 注意事項 !!!

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を讀出す為には、親局と子局の双方から設定データを読み出す必要があります。

(子局が複数存在する場合は各子局から読み出す必要があります。)

親局からのパラメータ読み出し時、子局 SERIAL は読み出しできません。

子局 SERIAL は子局から直接読み出してください。

!!! 注意事項 !!!

一部パラメータは、設定されている値によって、補正された値で読み出されます。

補正されるパラメータの詳細は『表 4-12 ETMC バージョンごとの読み出し時補正パラメータ』をご参照ください。

4.5.16. 子局から設定データ読出し

無線ユニットに設定されている設定内容を設定ユーティリティ上に読出しを行う場合、以下手順で行います。

※読出し中は無線ユニット電源を切らないでください。

※読出し中は USB ケーブルを抜くなど、パソコンと無線ユニットの通信を切断しないでください。

※読出し中は、通常動作が一時停止しますので無線通信データを取りこぼす可能性があります。

!!! 注意事項 !!!

子局から設定データを読み出す際は、設定ユーティリティのユニットタイプを読出す実機と合わせて読出してください。

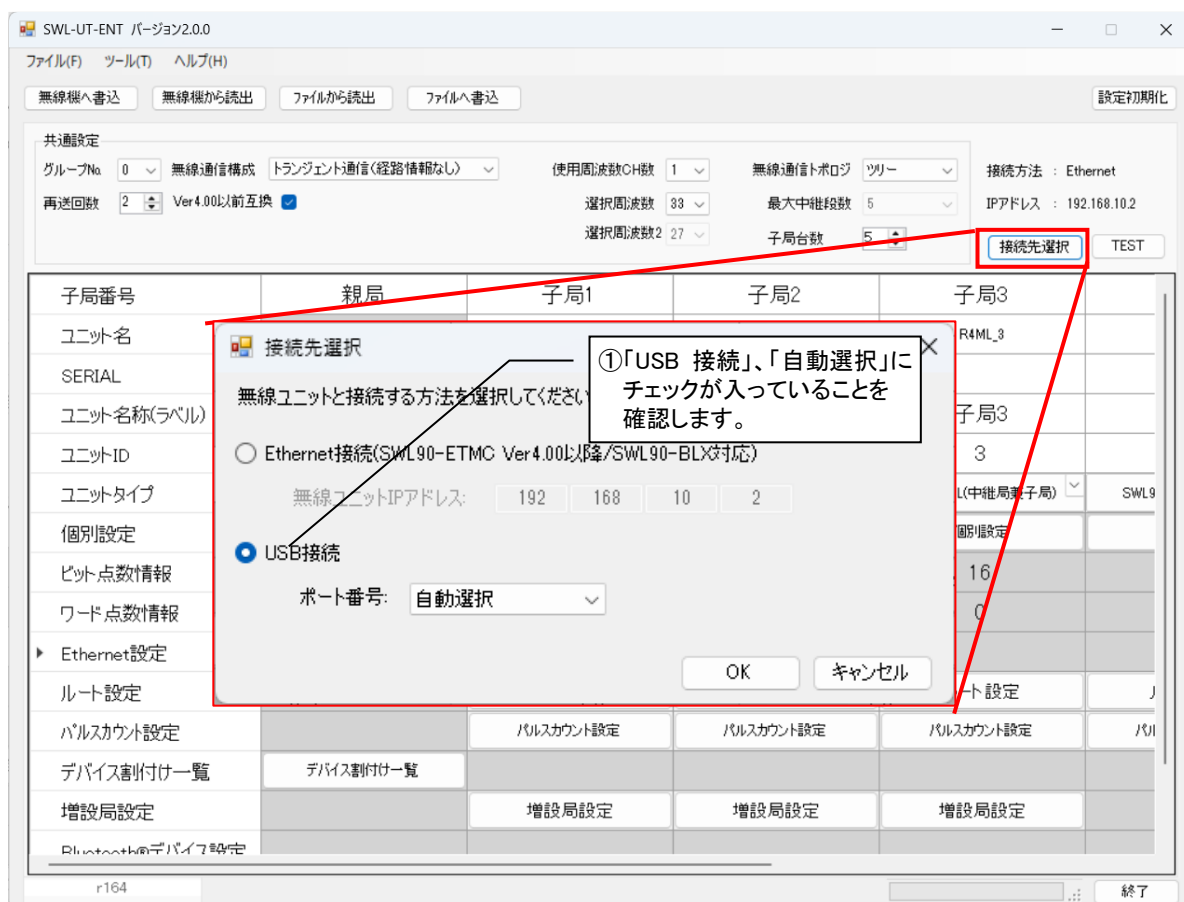
〈ユニットタイプ〉

- ・SWL90-R4ML(中継兼子局)
- ・SWL90-TH1(E)(中継兼子局)(システム領域あり)
- ・SWL90-TH1(E)(子局)(システム領域あり)
- ・SWL90-PL3(中継兼子局)
- ・SWL90-PL3(子局)
- ・SWL90-BLX(中継兼子局)

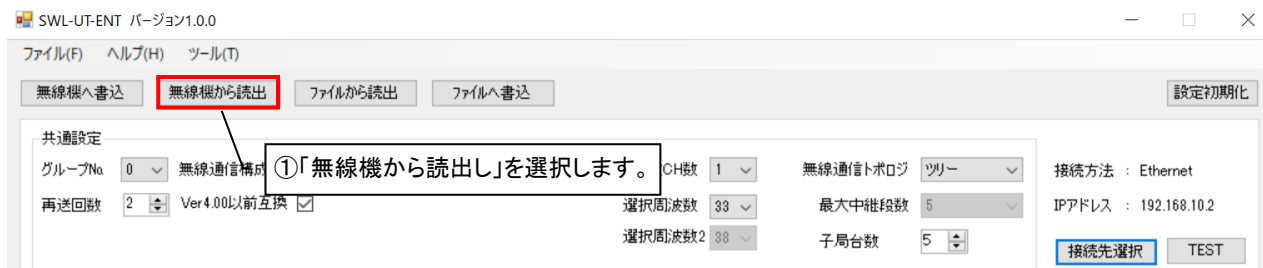
(1) メイン画面の右上の「接続先選択」を選択してください。

USB 接続 → 接続方法:USB ポート番号:自動選択 であることを確認してください。

パソコンと無線ユニットを USB 接続してください。

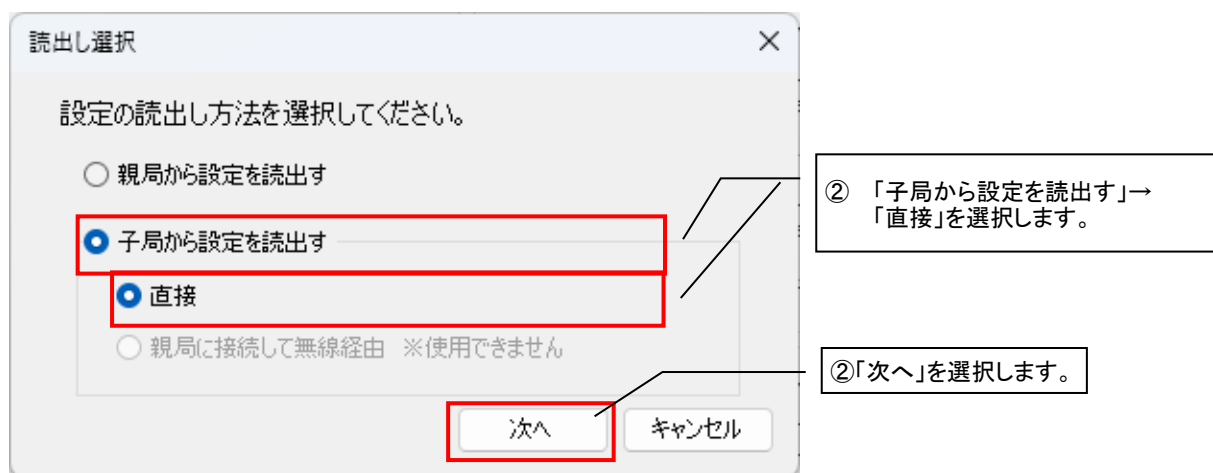


(2)「無線機から読出し」ボタンを選択し、「パラメータ読出し選択」画面を表示します。

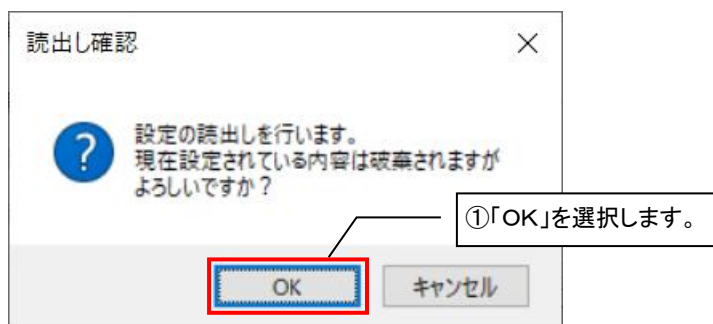


(3)パラメータ読出し選択ダイアログが表示されます。

「子局から設定を読出す」と「直接」を選択します。



(4)読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択します。



(5) 設定の読出しが正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。

SWL-UT-ENT バージョン1.0.0 ×



読込みが完了しました。

OK

!!! 注意事項 !!!

子局から設定データを読出す際 USB を親局に接続して行うと以下のダイアログが表示されます。

設定用ユーティリティ SWL-UT-ENT ×



通信が失敗しました。

COMポートが認識されていないかユニットタイプが異なります。

OK

!!! 注意事項 !!!

無線ユニットのパラメータ設定をボタン操作で変更した場合、設定ユーティリティで正しいパラメータ設定を読出す為には、親局と子局の双方から設定データを読出す必要があります。

(子局が複数存在する場合は各子局から読出す必要があります。)

4.5.17. エラー履歴読出し

SWL90-BLX は本ツールを使用することで現在発生中のエラー／過去(10 件)のエラーを USB/Ethernet 経由で読み出すことが可能です。

読出し手順は『4.4.18 エラー履歴読出し』をご参照ください。

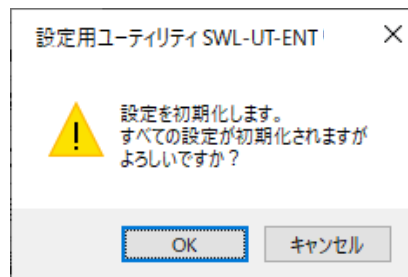
4.5.18. 設定ユーティリティの設定内容初期化

設定ユーティリティに設定した設定データを初期化する場合、以下手順で行います。

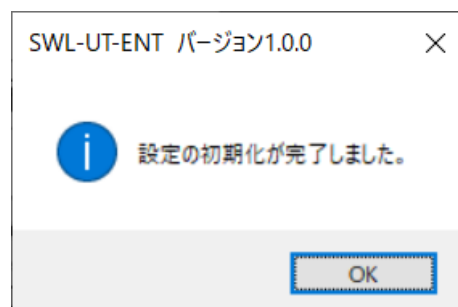
(1) 設定初期化を選択します。



(2) 「OK」を選択すると、設定ユーティリティで設定したデータが初期化されます。



(3) 正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。



4.5.19. ヘルプ機能

メイン画面でパラメータ名称を右選択することで、ヘルプ画面を開くことができます。
パラメータの詳細説明を参照し、パラメータ設定が可能になります。

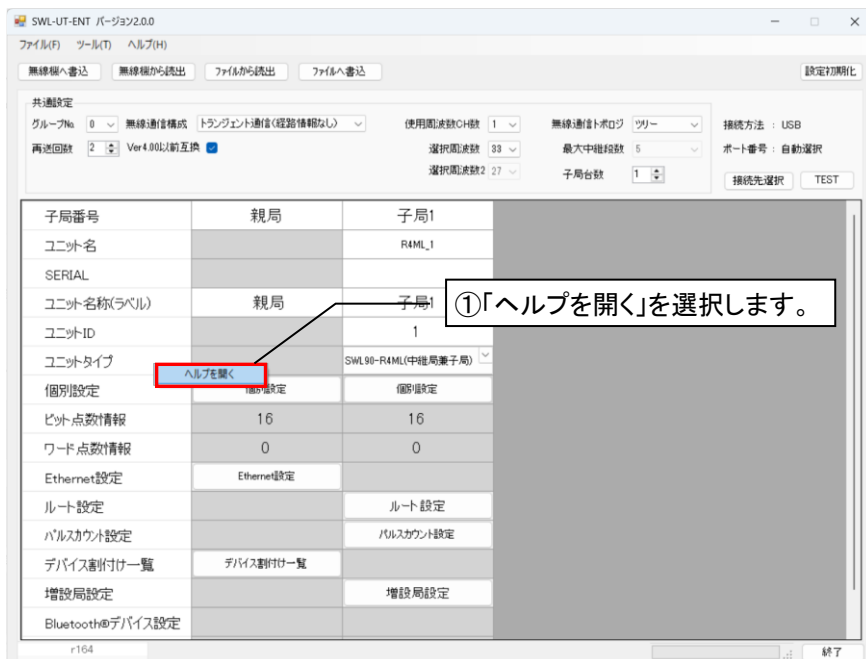
ヘルプウィンドウを開く手順

(1)パラメータ名称を右クリックします。



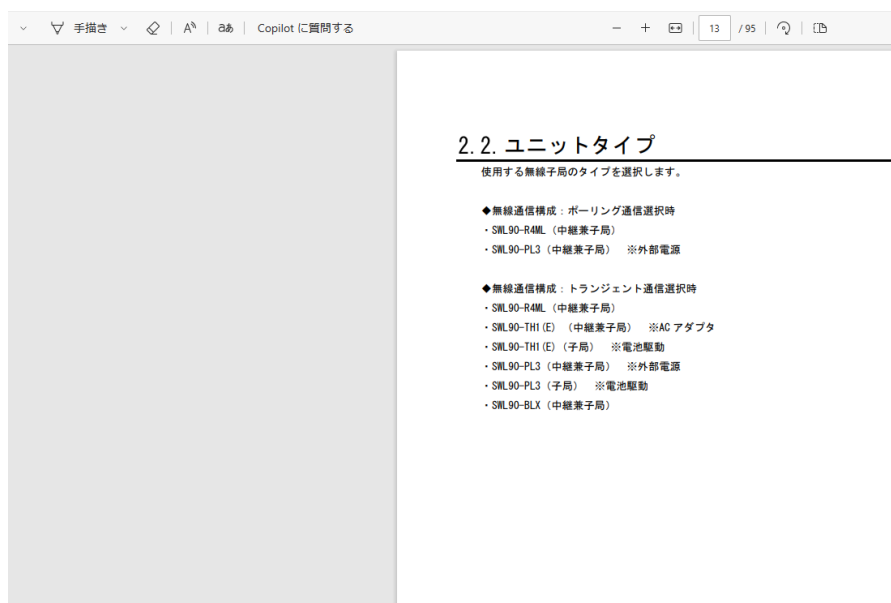
※一部のパラメータはヘルプを表示できません。

(2)「ヘルプを開く」を選択します。

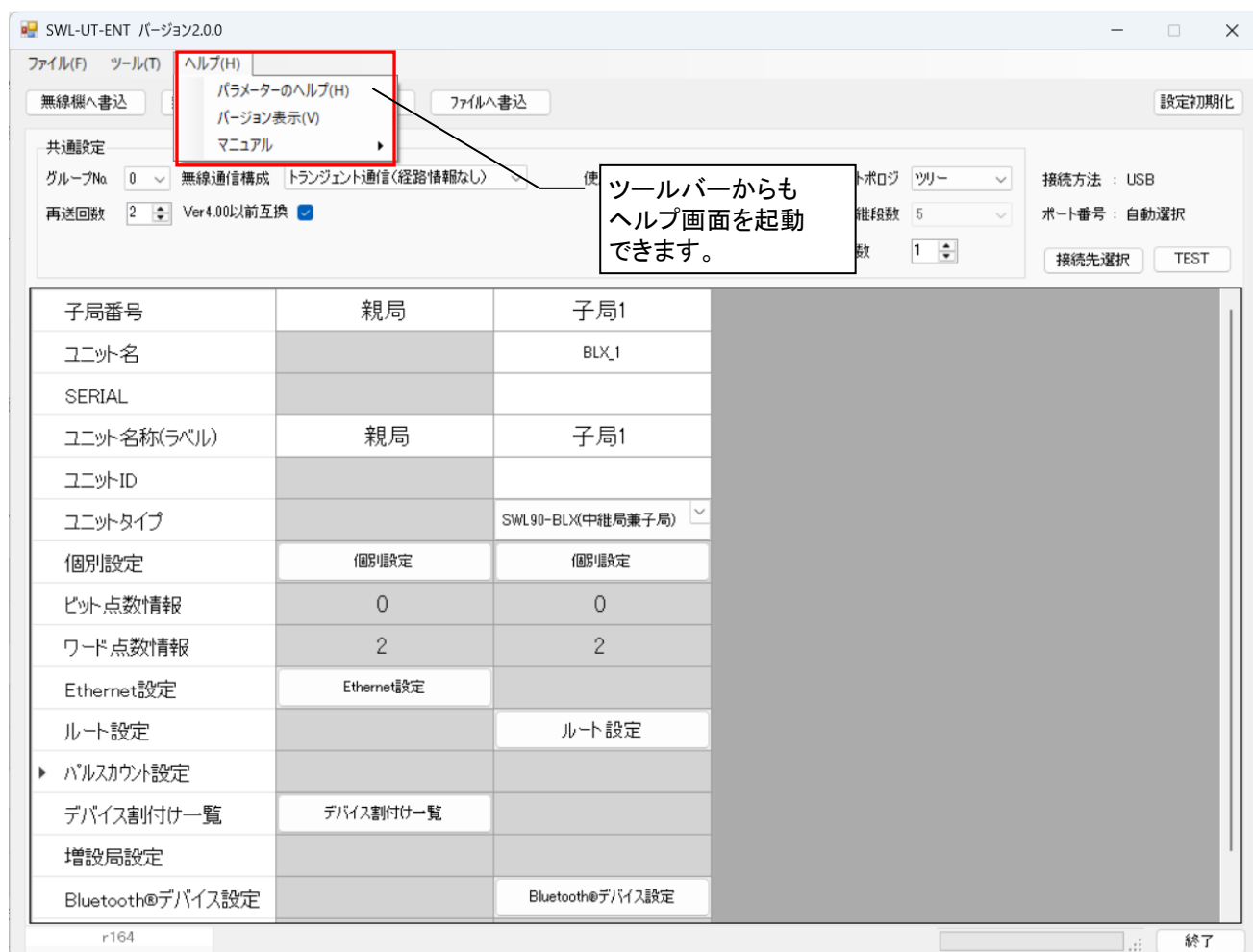


(3)ヘルプウィンドウが開きパラメータの詳細を参照できます。

※ヘルプはブラウザで開きます。



【補足】



4.6. 使用手順詳細（BLX ゲートウェイモード）

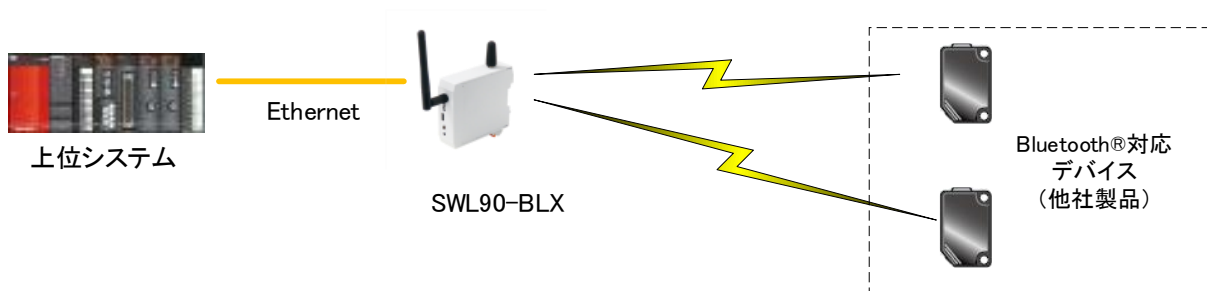
本使用手順は、SWL90-BLX をゲートウェイモードで使用する場合の手順になります。

4.6.1. ゲートウェイユニットの設定データの作成

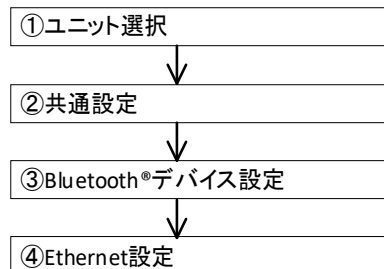
ゲートウェイユニットに書込む設定データを作成します。

各設定の詳細については、「4.2 画面詳細」をご参照ください。

下記構成の設定例を元に設定を行います。



設定手順

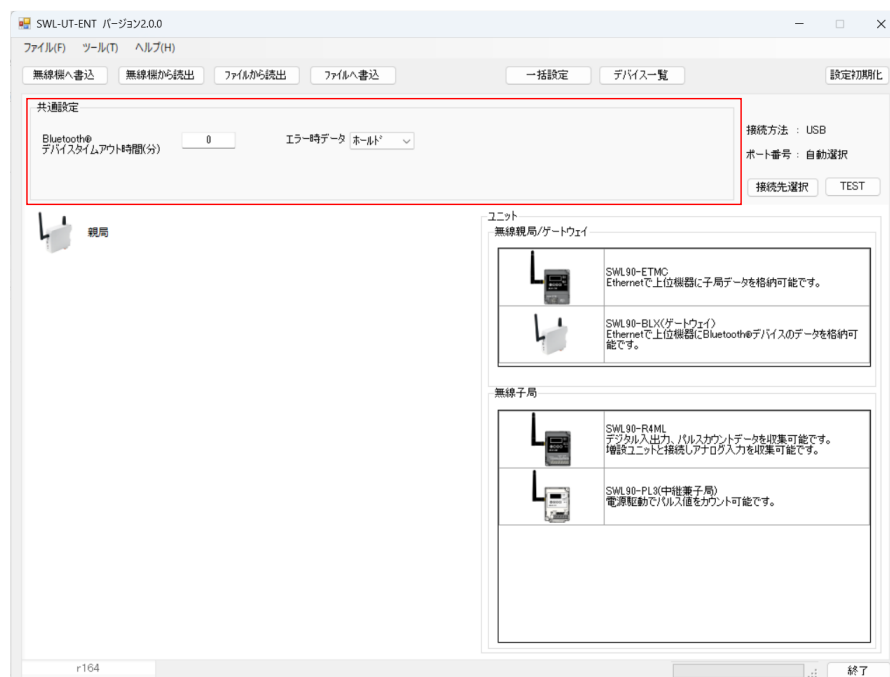


4.6.2. ユニット選択

無線親局／ゲートウェイから「SWL90-BLX(ゲートウェイ)」を親局にドラック&ドロップします。



4.6.3. 共通設定

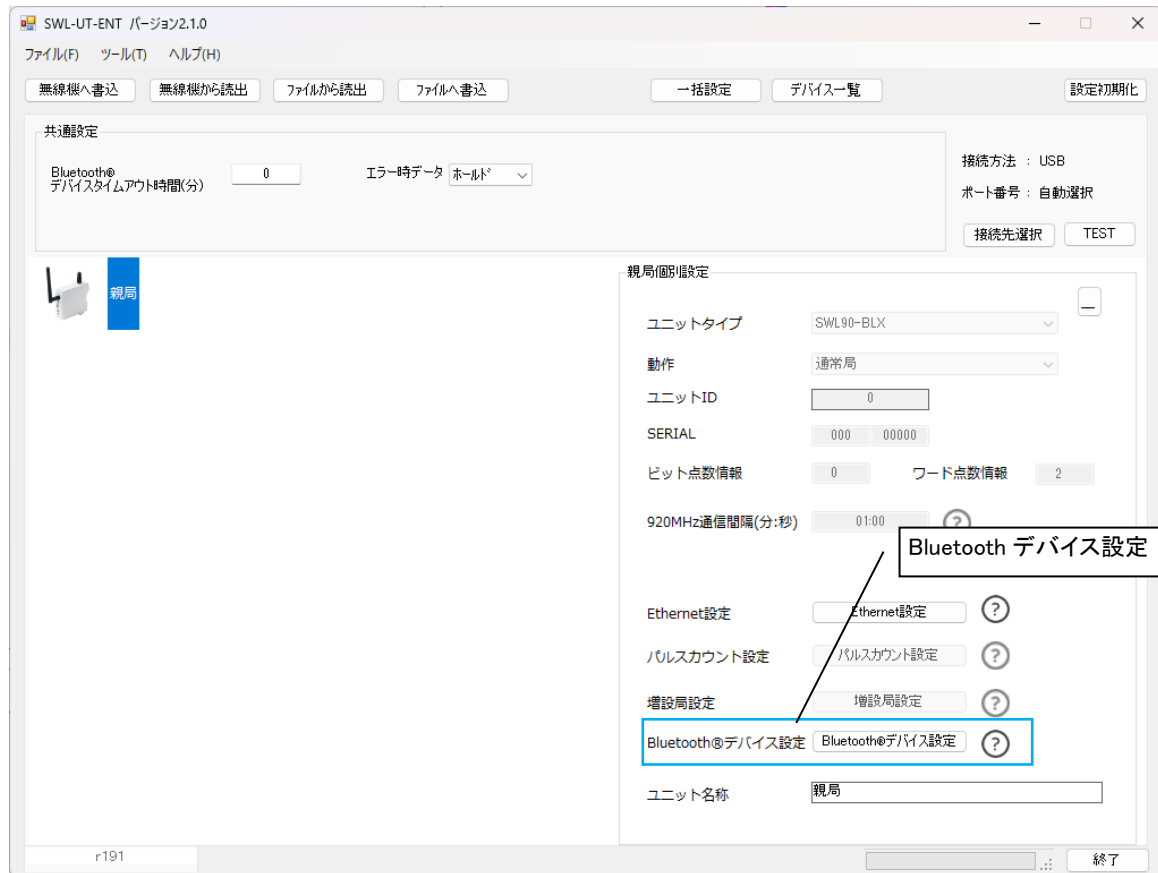


設定する項目は以下の通りです。

パラメータ	詳細
Bluetooth デバイスタイムアウト時間	Bluetooth デバイスの通信タイムアウト時間を分単位で設定します 設定範囲：0～250 （0: Bluetooth デバイスタイムアウト時間無効）
エラー時データ	Bluetooth デバイスの通信でエラーが生じたときに値をホールドするかクリアするかを設定します

4.6.4. Bluetooth デバイス設定

Bluetooth デバイス設定を選択し、接続する Bluetooth デバイスを設定します。



設定方法に関しては『4. 4. 8 Bluetooth デバイス設定』を参照してください。

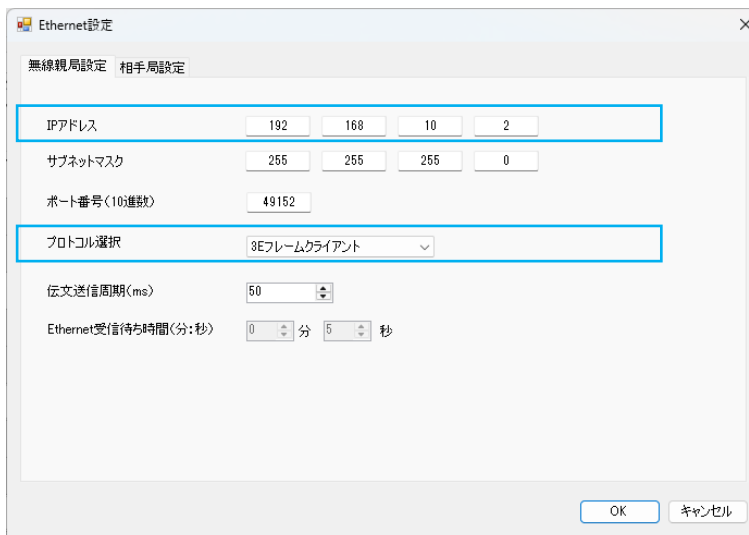
4.6.5. Ethernet 設定

ゲートウェイの Ethernet 通信(上位 PLC との有線通信)に関する設定を行います。



【無線親局設定】

- ・IP アドレス: SWL90-BLX に割り当てる IP アドレスの設定を行ってください。
- ・プロトコル選択: 接続する上位機器に合わせてプロトコル設定を行ってください。
 - ▶3E フレームクライアント: iQ-R、Q、L、Fx5U
 - ▶3E フレームサーバ: EcoServerⅢ、SA1-Ⅲ



●接続確認機種

弊社接続確認機種は以下となります。

接続確認機種以外と接続する場合は事前に通信の確認をお願いいたします。

プロトコル	接続確認機種
3E フレームクライアント	iQ-R シリーズ、iQ-F シリーズ、Q シリーズ
3E フレームサーバ	EcoServerⅢ、SA1-Ⅲ

【相手局設定】

- ・IPアドレス: SWL90-BLX と Ethernet 接続で通信を行う機器 IP アドレスの設定を行います。
- ・ポート番号: SWL90-BLX と Ethernet 接続で通信を行う機器ポート番号の設定を行います。
- ・通信デバイス設定: ビットデータ、ワードデータ割付けの先頭デバイスの設定を行います。

Ethernet設定

無線親局設定 相手局設定

IPアドレス: 192 168 10 3 ポート番号(10進数): 49408

シーケンサリンク設定

ネットワーク番号: 00
 PC番号: FF
 要求先I/O局番: 3FF
 要求先ユニット局番: 00
 CPU監視タイマ: 16
 Ethernetタイムアウト時間(ms): 5000

通信デバイス設定

	デバイス種別	開始番号
ビット入力(16進数)	X	1000
ビット出力(16進数)	Y	1000
ワード入力(10進数)	D	300
ワード出力(10進数)	D	600
経路情報(10進数)	D	5000
システム領域書込(10進数)	D	1000
システム領域読出(10進数)	D	1050

OK キャンセル

備考

デバイス一覧を確認することでデバイスの“どこ”に“何の”データが格納されるか確認することが出来ます。

SWL-UT-ENT バージョン2.0.0

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

無線親局設定 無線親局から読み込む ファイルから読み込む ファイルへ書き込む 一括設定 **デバイス一覧** 設定初期化

無線親局設定: Bluetoothデバイス(タイムアウト時間(分)) 0 エラー時データ (None) 接続方法: USB ポート番号: 自動選択 接続先選択 TEST

無線親局設定

ユニットタイプ: SWL90-BLX
 動作: 遠隔局
 ユニットID: 0
 SERIAL: 000 00000
 ビット点灯情報: 0 ワード点灯情報: 0
 無線通信速度(分/秒): 0.000
 Ethernet設定: Ethernet設定
 パルスカウント設定: パルスカウント設定
 増設局設定: 増設局設定
 Bluetooth通信デバイス設定: Bluetoothデバイス設定
 ユニット名称: 親局

デバイス割付け一覧表

開始アドレス	ビット出力	ワード入力	ワード出力
00300	D0300		
00364			
00428			
00492			
00555			

使用アドレス: 18 / 256ワード

デバイス: 親局番号 親局名称

ユニット割付け

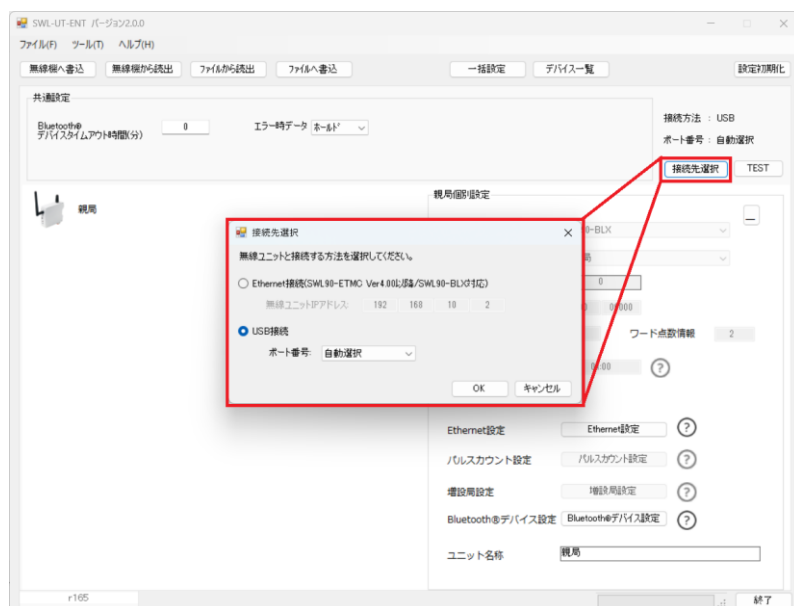
00000: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 積算電力(下位)
 00001: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 積算電力(上位)
 00002: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 積算電力(下位)
 00003: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 積算電力(上位)
 00004: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 電圧 積算電力(下位)
 00005: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 電圧 積算電力(上位)
 00006: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 電圧 電圧電圧
 00007: SPC割 電力ヒヤ D003BP/D003BP電力 電圧 電圧電圧
 00008: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 温度 温度 電圧 電圧
 00009: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 温度 温度 電圧 電圧
 00010: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 温度 温度 電圧 電圧
 00011: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 温度 温度 電圧 電圧
 00012: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 電圧電圧 電圧電圧
 00013: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 電圧電圧 電圧電圧
 00014: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 電圧電圧 電圧電圧
 00015: リコ割 積算電力 D001/D003電圧 電圧電圧 電圧電圧
 00016: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00017: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00018: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00019: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00020: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00021: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00022: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00023: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)
 00024: Bluetoothアドワイエユニット(システム割)

凡例: 未使用 使用 予約範囲

ファイルへ書き込む 終了

4.6.6. 設定ツールと SWL90-BLX の接続方法の設定

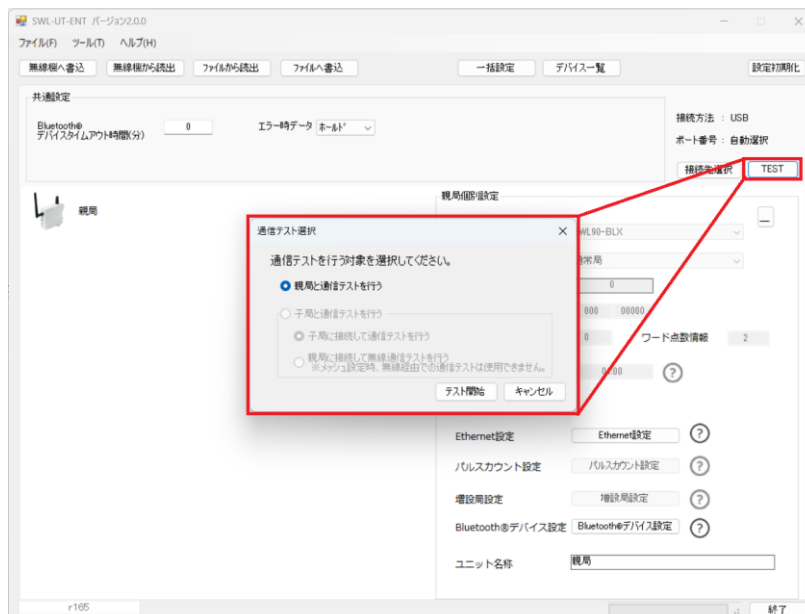
(1) 接続先選択



接続方法を USB または Ethernet から選択してください。

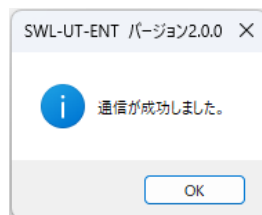
パソコンと SWL90-BLX を USB または Ethernet で接続してください。

(2) 通信テスト



通信テスト選択画面より「無線親局と通信テストを行う」を選択したまま「テスト開始」を行ってください。

正常に完了した場合、以下のダイアログが表示されます。



4.6.7. 設定データの書込み

SWL90-BLX に USB または Ethernet ケーブルを接続して設定データを書込む手順は以下となります。

※書込み中は SWL90-BLX の電源を切らないでください。

※書込み中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと SWL90-BLX の通信を切断しないでください。

※書込み中は、通常動作が一時停止し再起動しますので通信データを取りこぼす可能性があります。

※SWL90-BLX が再起動した後、相手機器の設定によって通信が復旧しない場合があります。

必要に応じて相手機器のリセットもしくは、再起動を行ってください。

(1) 接続方法の設定

『4.6.6 設定ツールと SWL90-BLX の接続方法の設定』を参照し、接続方法を設定してください。

(2) SWL90-BLX への書込み

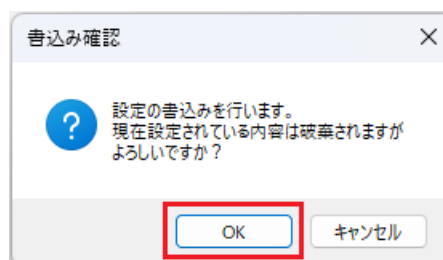
メイン画面の「無線機へ書込み」ボタンをクリックし、「書込選択」画面を表示します。



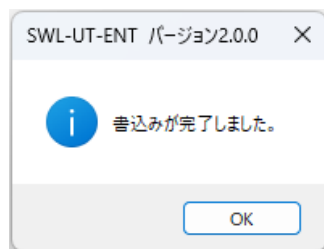
「書込み開始」をクリックしてください。



書込み確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



書き込み完了後、以下のダイアログが表示されます。



(3)再起動

SWL90-BLX の設定書き込み後再起動が行われるまで時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

!!! 注意事項 !!!

一部パラメータは、SWL90-BLX のバージョンによっては、書き込みできません。

内容に関しては『表 4-11 BLX バージョンごとの書き込み不可パラメータ』をご参照ください。

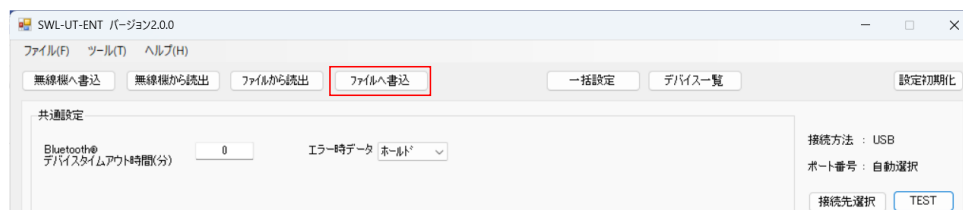
4.6.8. 設定ファイル保存

設定内容をパソコンに csv ファイル形式で保存する手順は以下になります。

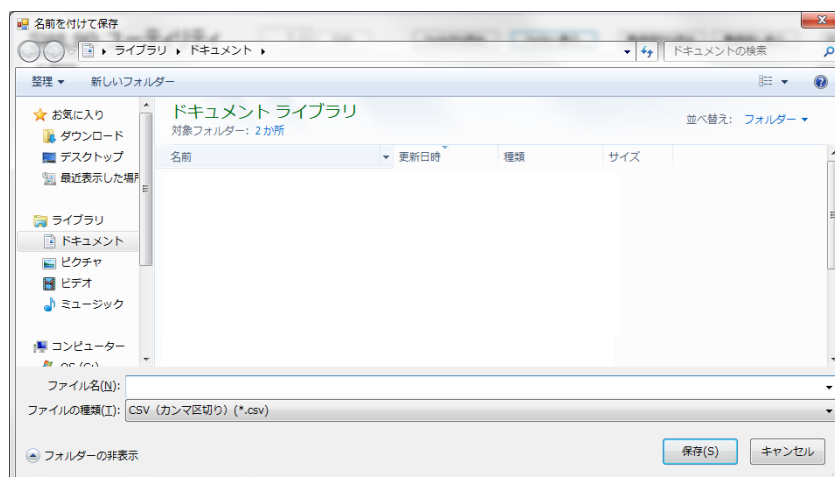
※保存した CSV ファイルを編集すると、設定ユーティリティでの読出しができなくなります。

設定を編集する場合は、必ず設定ユーティリティに読出してから編集してください。

(1)画面上部の「ファイルへ書込」ボタンを選択します。



(2)ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンを選択してください。



4.6.9. 保存した設定ファイル読出し

パソコンに保存した csv ファイルの読出しは以下手順になります。

(1)画面上部の「ファイルから読出」ボタンを選択します。



(2)ファイル読出ダイアログが表示されますので、読出すファイルを選択し、「開く」ボタンを選択してください。



4.6.10. 設定データ読出し

SWL90-BLX の設定データをパソコンへ読出す場合、以下手順で行います。

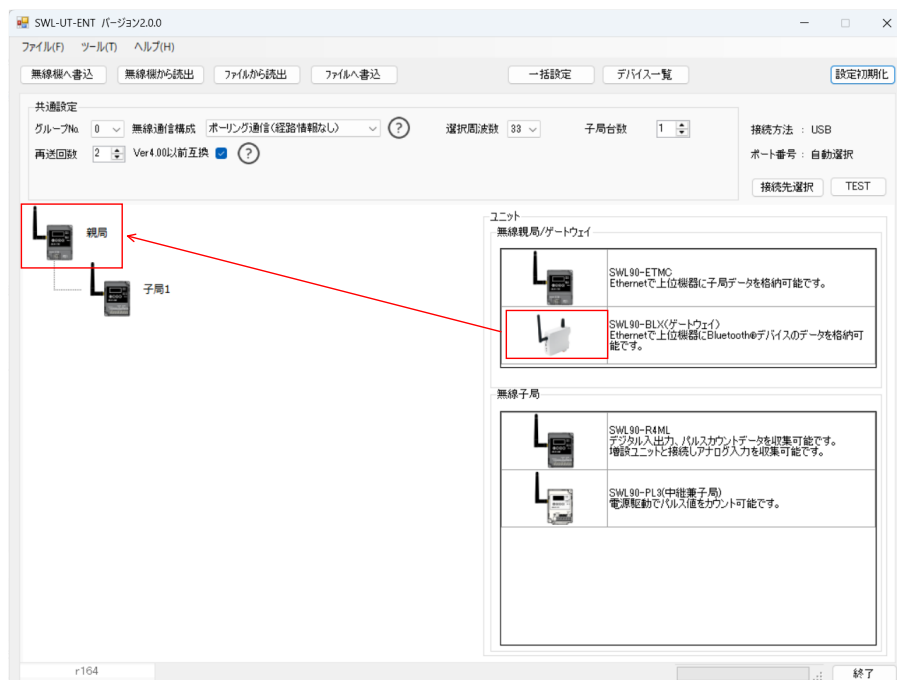
※読出し中は SWL90-BLX の電源を切らないでください。

※読出し中は USB または Ethernet ケーブルを抜くなど、パソコンと SWL90-BLX の通信を切断しないでください。

※読出し中は、通常動作が一時停止しますのでデータを取りこぼす可能性があります。

(1) ユニット選択

無線親局／ゲートウェイから「SWL90-BLX(ゲートウェイ)」を親局にドラック&ドロップします。



(2) 接続方法の設定

『4.6.6 設定ツールと SWL90-BLX の接続方法の設定』を参照し、接続方法を設定してください。

(3)設定データの読出し

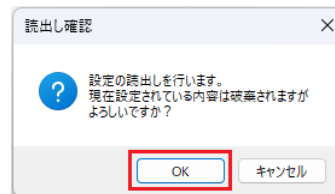
メイン画面の「無線機から読出し」ボタンをクリックし、「読出し選択」画面を表示します。



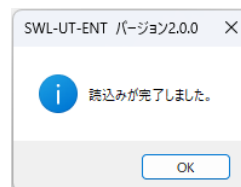
「読出し開始」ボタンをクリックします。



読出し確認のダイアログが表示されますので「OK」を選択してください。



読出し完了後、以下のダイアログが表示されます。



4.6.11. エラー履歴読出し

SWL90-BLX は本ツールを使用することで現在発生中のエラー／過去(10 件)のエラーを USB/Ethernet 経由で読み出すことが可能です。

読出し手順は『4.4.18 エラー履歴読出し』をご参照ください。

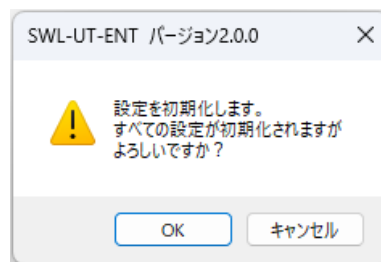
4.6.12. 設定ユーティリティの初期化

設定ユーティリティに設定した設定データを初期化する場合、以下手順で行います。

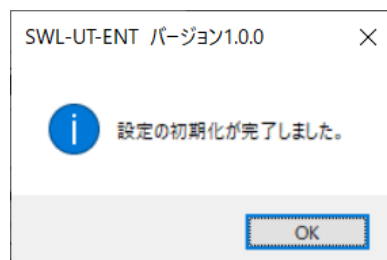
(1)設定初期化を選択します。



(2)「OK」を選択すると、設定ユーティリティで設定したデータが初期化されます。



(3)正常に完了すると下記のダイアログが表示されます。



4.6.13. ヘルプ機能

画面上の「？」のアイコンをクリックすることで、ヘルプ画面を開くことができます。

パラメータの詳細説明を参照し、パラメータ設定が可能になります。

画面イメージは『4.4.20 ヘルプ機能』をご参照ください。

第 5 章

第5章 設定ユーティリティ [SWL11]

5. 1.	画面一覧	5-156
5. 2.	画面詳細	5-157
5. 3.	使用手順	5-164
5. 4.	使用手順詳細	5-169

5. 1. 画面一覧

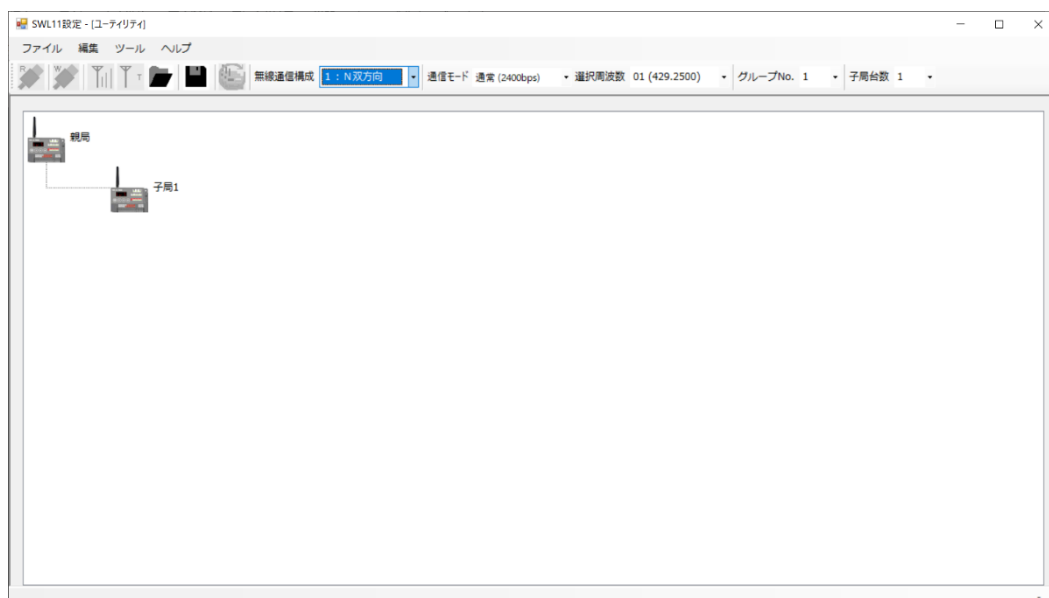
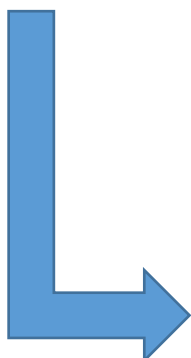
設定ユーティリティの画面は次の通りです。

No.	画面名称	機能概要
1	メイン画面	本アプリ起動～終了まで常に表示されるメイン画面です。 無線パラメータ設定およびファイルの保存/読出し及び無線ユニット パラメータの書込/読込を行うことができます。
2	個別(複数一括)設定画面	無線出力電力量やエラー時のデータ取扱い、増設ユニットの設定等、 無線ユニットのパラメータ設定を行うことができます。
3	バージョン情報画面	本アプリのバージョン情報を表示します。
4	ヘルプ画面	パラメータの詳細説明を表示し、マニュアルレスでパラメータ設定が 可能になります

5.2. 画面詳細

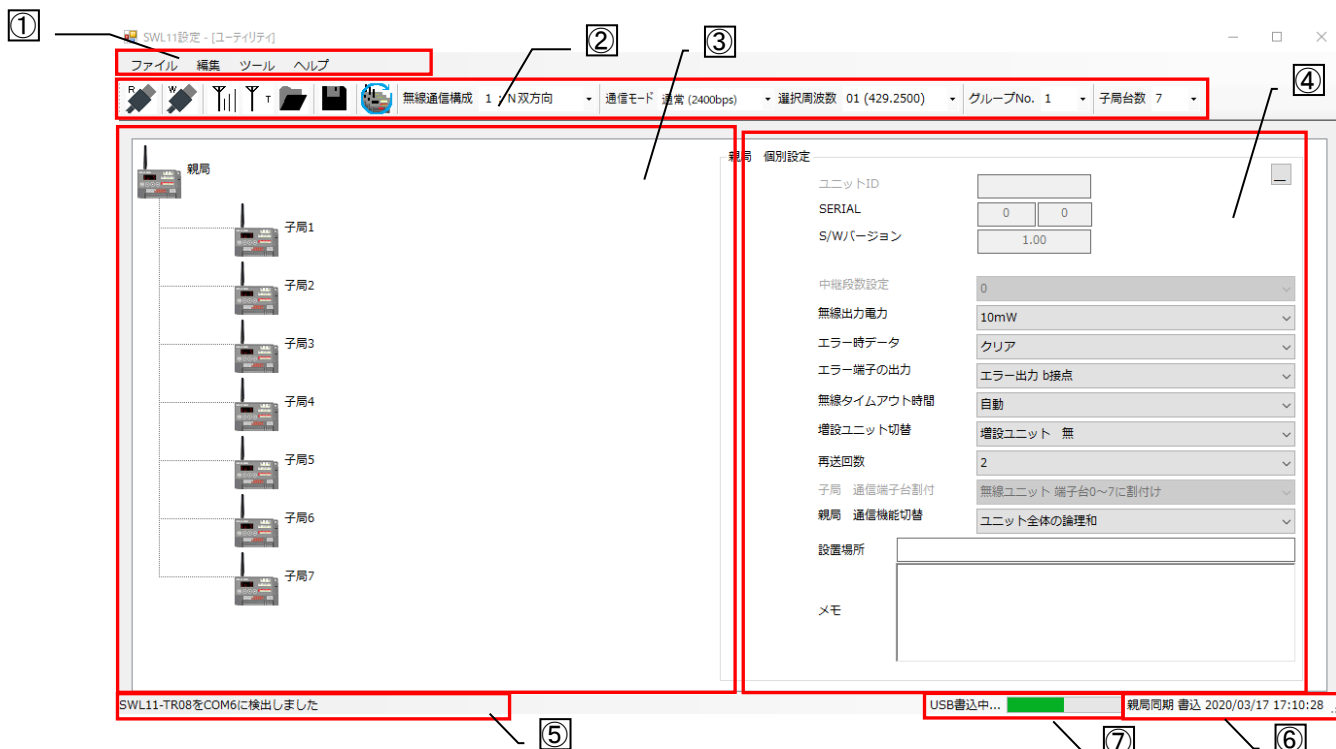
5.2.1. 起動画面

「SWL11」を選択し、設定ユーティリティをクリックします。



5.2.2. メイン画面

メイン画面は、常に表示される画面で、無線パラメータ設定およびファイルの保存/読出し、無線ユニットへのパラメータ書込/読込を行うことができます。



No.	名称	内容	参照項
①	メニューバー	メニューバーから4つのメニューを選択することができます。 ●ファイル: 設定内容のファイルの書込/読込などができます。 ●編集: 無線ユニットのパラメータ設定ができます。 ●ツール: 無線ユニットパラメータの書込/読込/通信テストなどができます。 ●ヘルプ: ツールのバージョン確認、設定パラメータの詳細を表示することができます。	5.2.3.
②	ツールバー	パラメータ共通設定、ファイルの保存/読出し及びパラメータの書込/読込などを行うことができます	5.2.4.
③	ユニット経路構成	無線ユニットの経路を表示/設定できます。	5.2.5.
④	個別設定	ユニット毎の動作についての設定を行います。	5.2.6.
⑤	ステータスバー (USB 接続確認)	USB の接続状況を確認できます。 ・空白: USB 未接続 ・1 台接続: SWL11-TR08 を COM●に検出しました ・2 台以上: 複数の SWL11-TR08 が接続されているため無線ユニットの書込/読込はできません	—
⑥	ステータスバー (親局 書込/読込 確認)	パソコンから親局へパラメータ書込/読込した最新時刻が表示されます。 ・空白: 書込読込未実施 ・時刻表示: 最新時刻表示	—
⑦	ステータスバー (無線 配信中ステータス)	無線への書込/読込中の進捗状況を表示します。	—

5.2.3. メニューバー

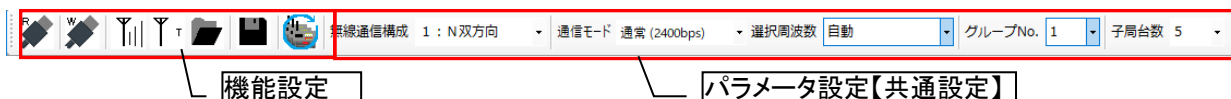
設定ユーティリティを操作するための命令や機能がプルダウンメニューから選択することで、実行することができます。メニューバーは 4 つのメニューから機能を選択することができます。



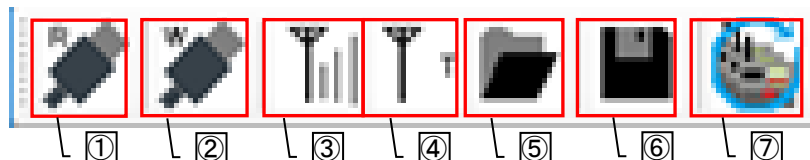
No.	名称		内容	参照項
①	ファイル	開く	パラメータ設定したファイルを読出します。	5.4.10.
		保存	パラメータ設定した内容をファイル上書き保存します。	5.4.9.
		名前を付けて保存	新規作成した設定をファイルに保存します。	5.4.8.
		設定一覧を出力	パラメータ設定内容を一覧表形式で書き出しができます。	5.4.11.
		終了	アプリケーションを終了します。	—
②	編集	一括設定	一括設定ボタンを選択すると、一括設定画面およびユニットアイコンの左上にチェックボックスが表示されます。チェックボックスにチェックがあるユニットはパラメータ設定を同時に行うことができます。 ※子局台数が 2 台以上ある場合に有効な設定です。	5.4.3.
③	ツール	USB 書込	パソコンから USB 経由で無線ユニットへパラメータ書込を行います。	5.4.4.
		USB 読込	無線ユニットから USB 経由でパラメータを読込ます。	5.4.7.
		無線通信テスト	親局と子局間の無線通信確認を実施します。 ※1:N 双方向通信設定時に有効な機能です。	5.4.5.
		無線書込	親局設定した無線ユニットとパソコンを USB 接続し、無線経由で各子局にパラメータ書込を行います。 ※1:N 双方向通信設定時に有効な機能です。	5.4.6.
		アプリ初期化	設定ユーティリティのパラメータを初期化(アプリケーション起動状態)します。	—
④	ヘルプ	バージョン	設定ユーティリティのバージョン表示を行います。	5.2.7.
		パラメータヘルプ	各設定パラメータの詳細説明を表示します。	5.2.8

5.2.4. ツールバー

ツールバーのアイコンをクリックするだけで、そこに割り当てられた機能を実行することができます



●機能設定



No.	名称	アイコン	内容	参照項
①	USB 読込		無線ユニットから USB 経由でパソコンからパラメータを読込みます。	5.4.7.
②	USB 書込		パソコンから USB 経由で無線ユニットへパラメータ書込を行います。	5.4.4.
③	無線書込		親局設定した無線ユニットとパソコンを USB 接続し、無線経由で各子局にパラメータ書込を行います。 ※1:N 双方向通信設定時に有効な機能です。	5.4.6.
④	無線通信テスト		親局と子局間の無線通信確認を実施します。 ※1:N 双方向通信設定時に有効な機能です。	5.4.5.
⑤	開く		パラメータ設定したファイルを読出します。	5.4.10.
⑥	保存		パラメータ設定した内容をファイルに保存します。	5.4.8. 5.4.9.
⑦	一括設定		一括設定ボタンを選択すると、一括設定画面およびユニットアイコンの左上にチェックボックスが表示されます。チェックボックスにチェックがあるユニットはパラメータ設定を同時に行うことができます。※子局台数 2 台以上	5.4.3.

※選択周波数を「自動」に設定している時、無線書込、無線通信テストは使用できません。

●パラメータ設定【共通設定】



No.	名称	内容	設定範囲	初期値
⑧	無線通信構成	無線通信構成を設定します。	1:N 双方向/ 1:N 単方向	1:N 双方向
⑨	通信モード	無線通信の長距離モード使用有無を設定します。 ※長距離モード使用時は無線の応答速度が低下します。	通常 (2400bps)/ 長距離 (480bps)	通常
⑩	選択周波数	周波数を設定します。	1～40/自動	1
⑪	グループ No.	無線通信で使用する無線グループ番号を設定します。 無線ユニットを複数系統使用する場合、グループNoは重複しないように設定してください。	1～40	1
⑫	子局台数	親局と通信を行う子局(中継専用局含む)の台数を設定します。 子局台数により、シートに表示される子局台数が変化します。	1～8	1

5.2.5. ユニット経路構成

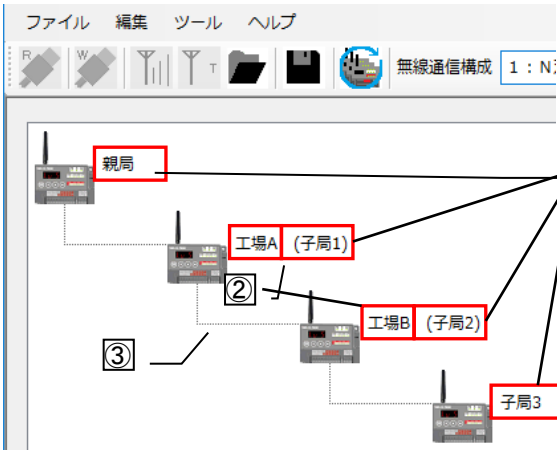
無線ユニットが通信する経路を設定できます。

●単方向通信



No.	名称	内容	表示内容
①	通信構成	無線ユニットの親局/中継局兼子局/子局の役割を表示します。 ※1:N 単方向通信設定時に表示されます。	親/中継/子
②	ユニット番号	親局と子局台数分のユニットを表示します。	親局 子局 1～子局 8
③	設置場所	個別/一括設定画面の設置場所で設定した内容を表示します。	30 文字以内

●双方向通信



No.	名称	内容	表示内容
①	ユニット番号	親局と子局台数分のユニットを表示します。	親局 子局 1～子局 8
②	設置場所	個別/一括設定画面の設置場所で設定した内容を表示します。	30 文字以内
③	経路表示	親局が子局と通信を行うまでの経路を表示します。 ※1:N 双方向通信設定時に表示されます。	—

5.2.6. 個別設定画面/一括設定画面

個別設定/一括設定では、ユニット ID や出力電力、送信周期など、ユニット毎の動作についての設定を行います。

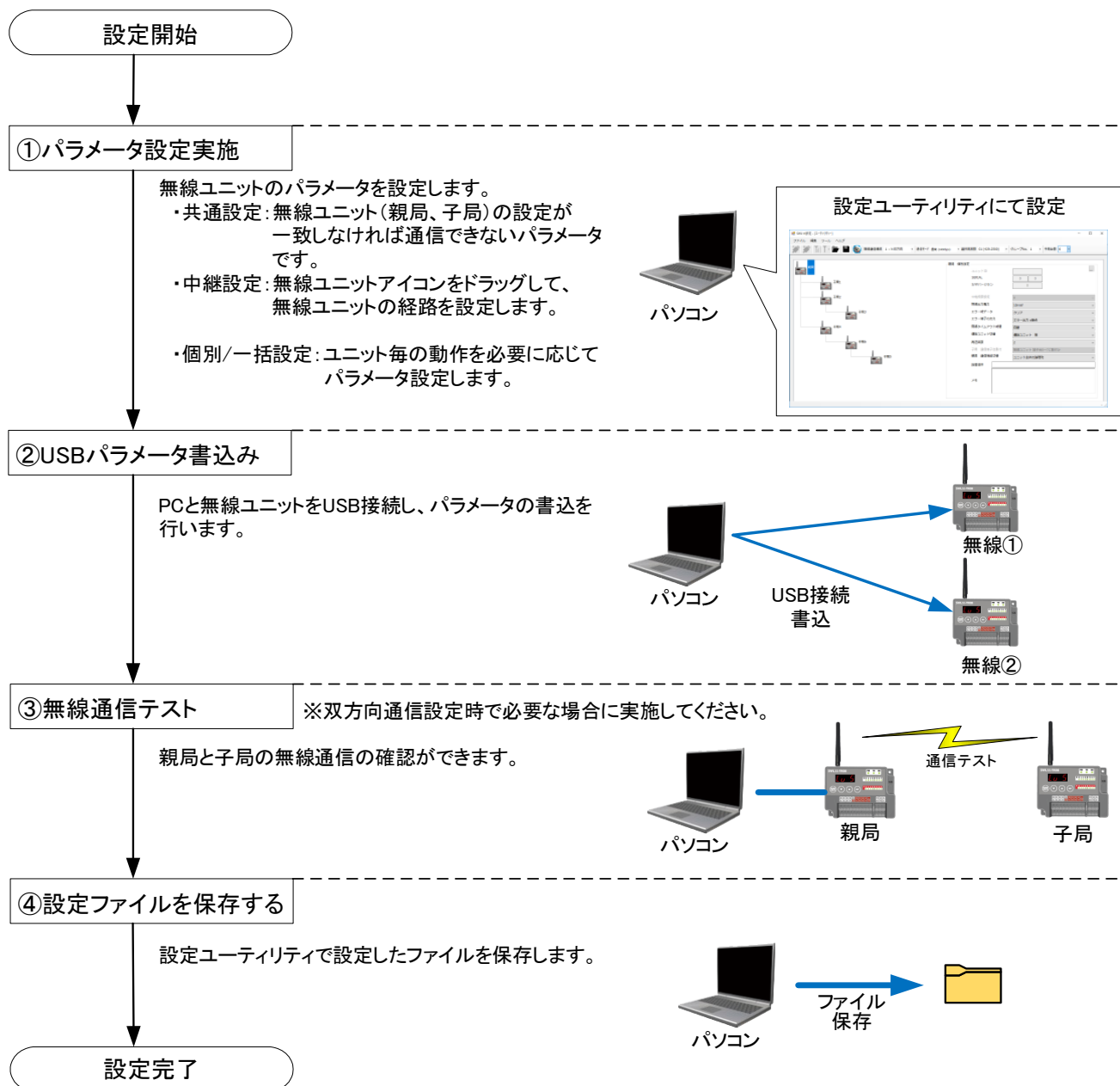
No.	名称	内容	設定範囲	初期値
①	最小化	設定画面を閉じます。	—	—
②	ユニット ID	親局に子局を登録する際のユニット ID を設定します。	1～254 ※ユニット ID は重複しないように設定してください。	1
③	SERIAL	ユニット上部の銘板に記載してある SERIAL を表示します。	—(※パラメータ読込時表示)	—
④	S/W バージョン	ユニット上部の銘板に記載してある S/W バージョンを表示します。	—(※パラメータ読込時表示)	—
⑤	中継段数設定	子局が中継する無線ユニットを最大何台まで許可するかの設定を行います。	0～2(※1:N 単方向設定時に選択可)	0
⑥	無線出力電力	無線通信を行う送信出力の設定を行います。	0.1mW/1mW/10mW	10mW
⑦	エラー時データ	エラー発生時の出力データの設定を行います。	クリア/ホールド	クリア
⑧	エラー端子の出力	エラー発生時のエラー端子の出力信号の設定を行います。	LIVE 信号/エラー出力 a 接点/ エラー出力 b 接点	エラー出力 b 接点
⑨	無線タイムアウト時間	無線通信が途切れた時、エラー発生までのタイムアウト時間を設定します。	自動/5 秒/10 秒/15 秒/20 秒/ 25 秒/ 30 秒/1 分/2 分/5 分/10 分	自動
⑩	増設ユニット切替	増設ユニット使用有無及び接続台数を設定します。	増設ユニット 無/ 増設ユニット 1～4 台	増設ユニット 無

No.	名称	内容	設定範囲	初期値
⑪	再送回数	無線通信で送信が失敗したときの送信リトライ回数を設定します。	0～5	2
⑫	子局通信 端子割付	1:N 双方向通信(ユニット全体論理和)時、子局の入力情報を親局のどの出力端子に割付けするかを設定します。	無線ユニット 端子台 0～7 に割付け 増設ユニット(1 台目) 端子台 0～7 に割付け 増設ユニット(1 台目) 端子台 8～F に割付け : 増設ユニット(4 台目) 端子台 0～7 に割付け 増設ユニット(4 台目) 端子台 8～F に割付け	無線ユニット 端子台 0～7 に 割付け
⑬	親局通信 機能切替	1:N 双方向通信時の親機入出力方法を設定する。	ユニット個別の論理和/ユニット全体の論理和(※1:N 双方向設定時に選択可)	ユニット全体の論理和
⑭	設置場所	無線ユニットの設置場所を記載することができます。	最大文字数:30 文字	空欄
⑮	メモ	各無線ユニットの情報を記載できます。	最大文字数:254 文字	空欄

5.3. 使用手順

5.3.1. 設定書込手順(初期設定)

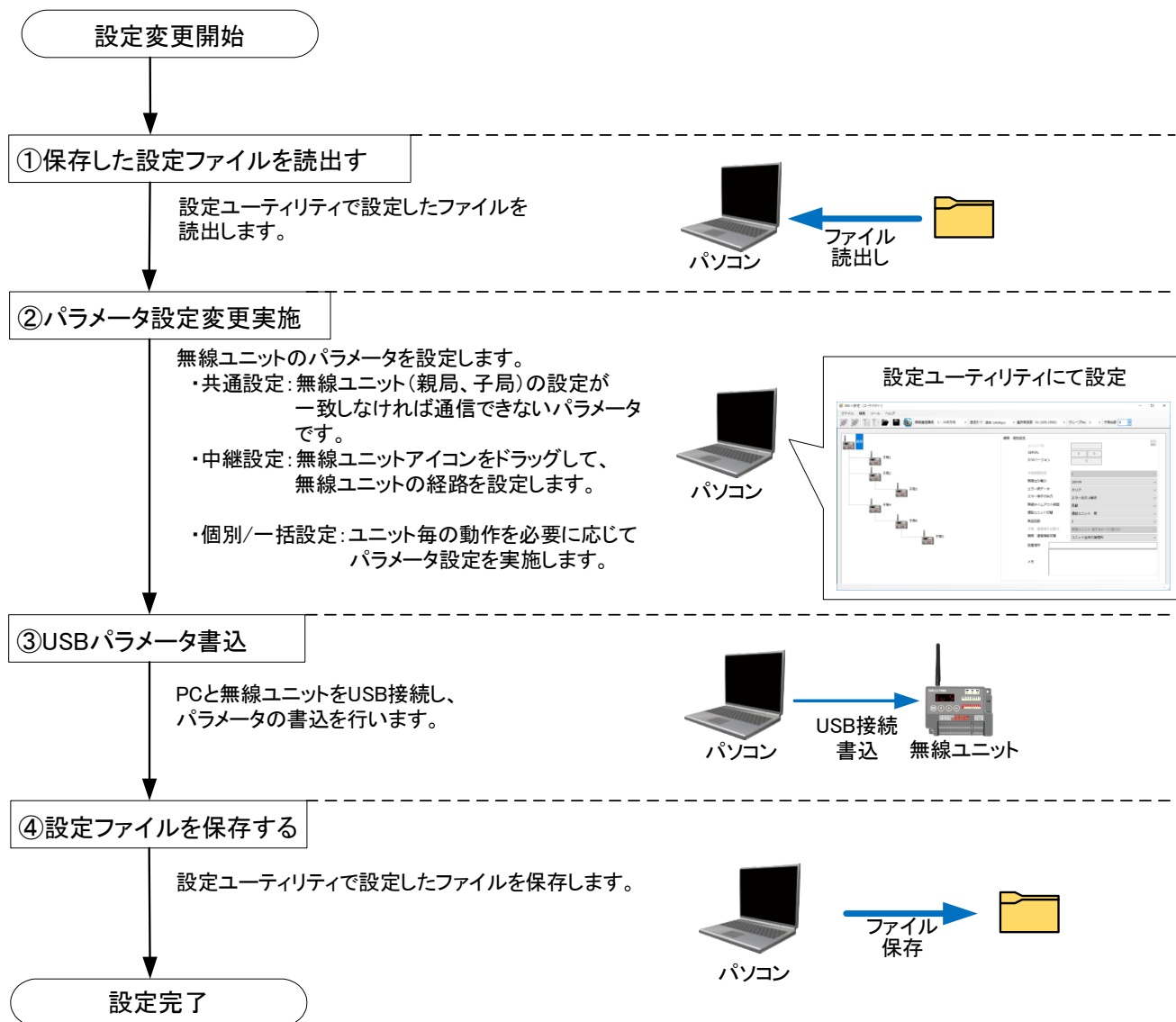
無線ユニットの初期設定の手順として以下を実施してください。



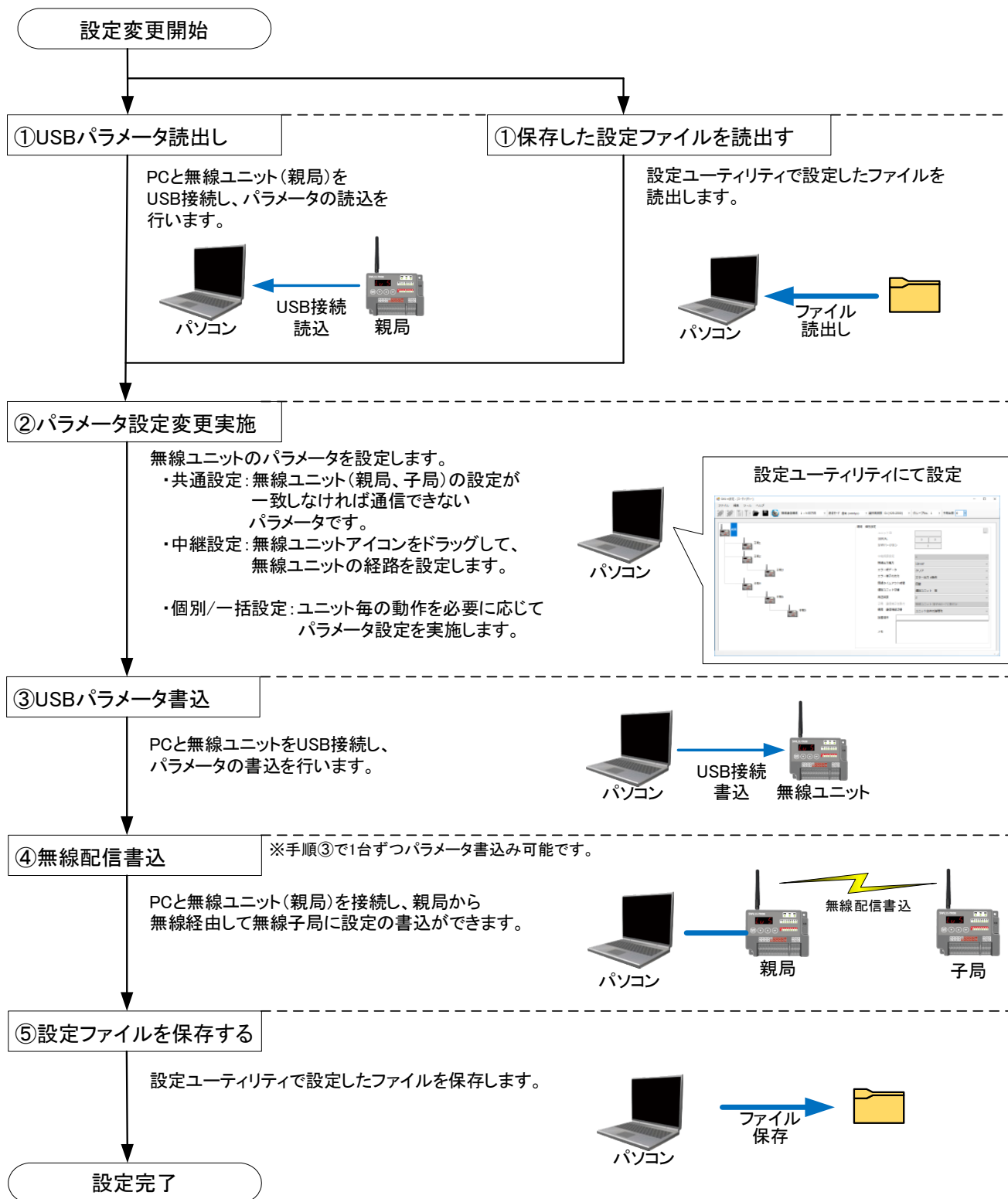
5.3.2. 設定変更の手順

無線ユニットの設定変更までの手順として以下を実施してください。

●単方向通信

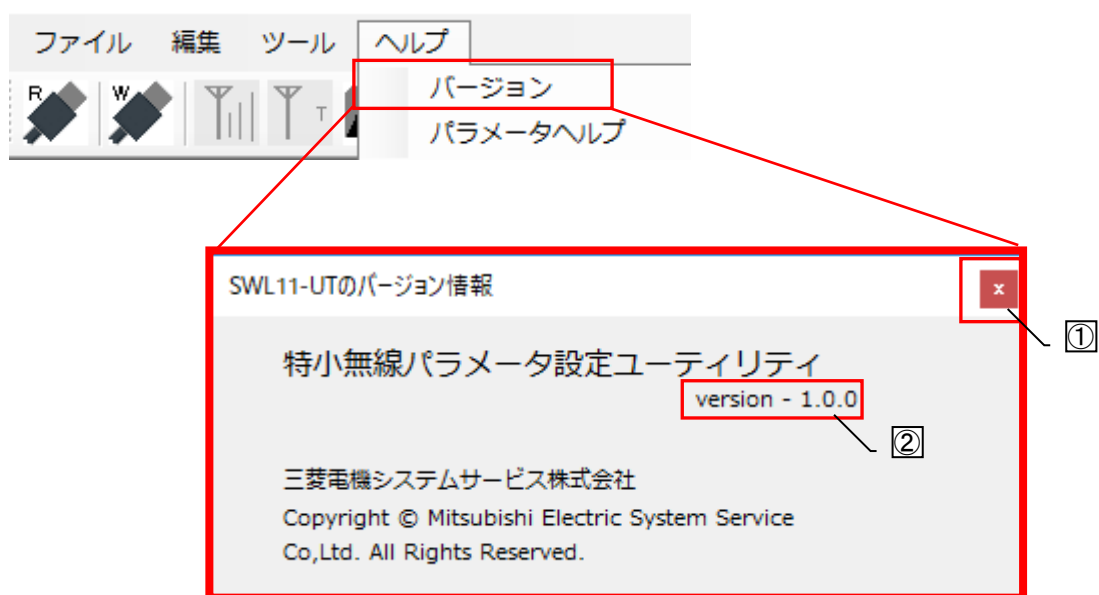


●双方向通信



5.2.7. バージョン確認画面

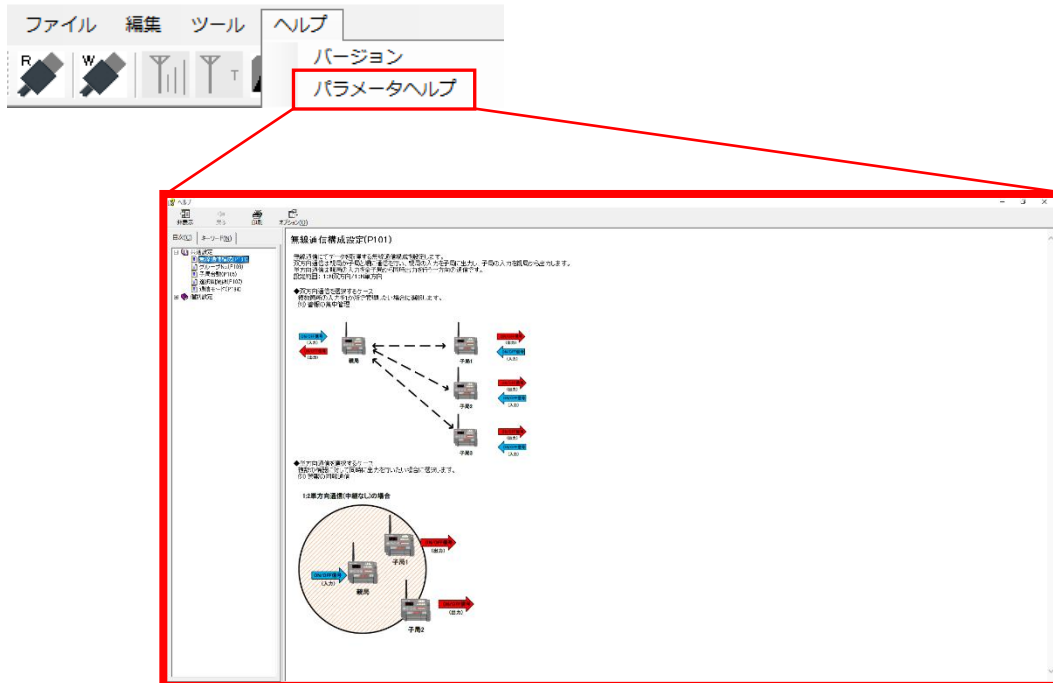
メニューバーから『ヘルプ』⇒『バージョン』を選択すると SWL11-UT のバージョン情報を確認することができます。



No.	名称	内容
①	閉じる	SWL11-UT のバージョン表示画面を閉じます。
②	バージョン表示	SWL11-UT のバージョンを確認できます。

5.2.8. ヘルプ画面

メニューバーから『ヘルプ』⇒『パラメータ』を選択すると、パラメータの詳細説明を参照でき、マニュアルレスでパラメータ設定が可能になります。



5. 4. 使用手順詳細

5. 4. 1. 設定データの作成(共通設定)

無線ユニットに書込む設定データを作成します。

親局、子局の共通設定内容が一致しなければ通信を行うことができません



共通設定のパラメータを設定します。

無線通信構成: 双方向通信/単方向通信を選択してください。

通信モード: 長距離通信が必要な場合は、長距離モードに変更してください。

選択周波数: 周波数を選択します。

同一エリアで近い周波数が使用されている場合は、離れた周波数を選択してください。

グループ No.: グループ No.を選択します。

同一エリアで複数の無線システムを使用する場合に誤送信、誤受信を防ぎます。

子局台数: 子局台数を選択します。

※パラメータ詳細については「429MHz 帯 特定小電力無線 I/O ユニット ユーザーズマニュアル(詳細編)」をご参照ください。

最新のマニュアル PDF については、当社ホームページよりダウンロードできます。

www.melsc.co.jp/business/download/index.html?bannerid=fa_manual



5.4.2. 設定データの作成(中継設定)

親局と子局が通信するための中継ルートを設定を行います。

親局と子局を直接通信する場合は、設定不要です。

※単方向通信の場合、経路を設定することはできません。

※子局番号が若いユニットの順に上から表示されます。

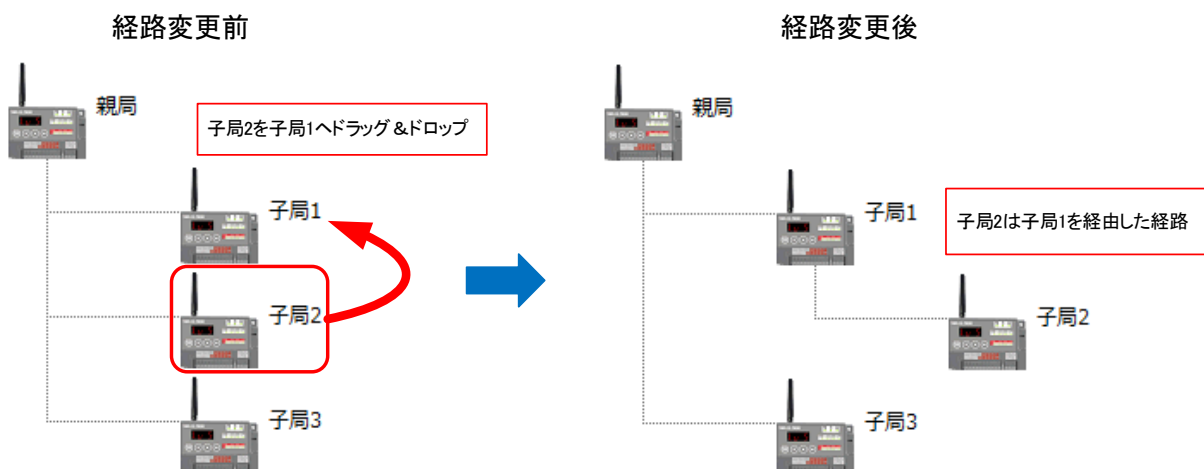


●中継を入れる

無線ユニットの経路を変更する場合、中継して通信する必要のあるユニットを中継するユニットへドラッグ & ドロップすると中継の通信経路を構築することができます。

・双方向通信

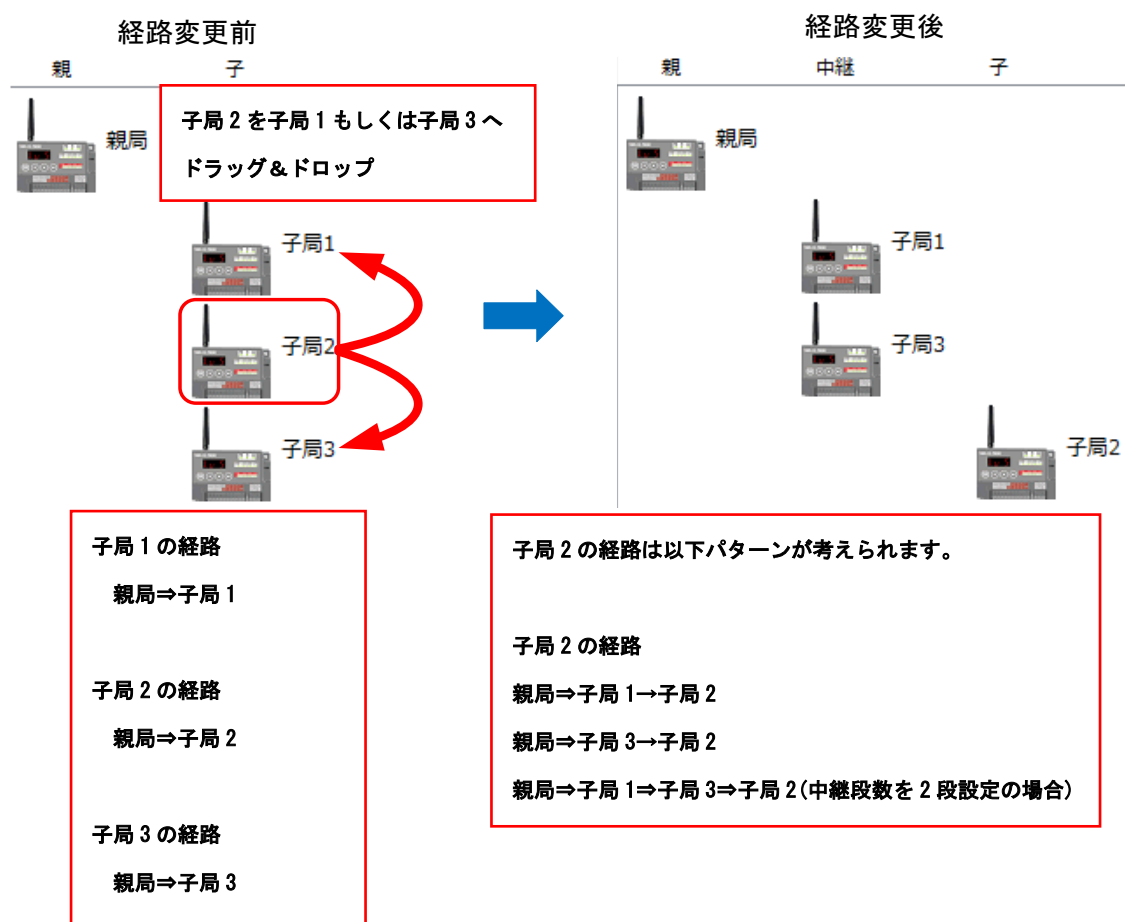
子局 2 が子局 1 を中継して通信する場合の設定は以下のようになります。



・単方向通信

子局 2 を他のユニットを中継して通信する場合の設定は以下のようになります。

※経路変更後は、中継段数の設定を行ってください。

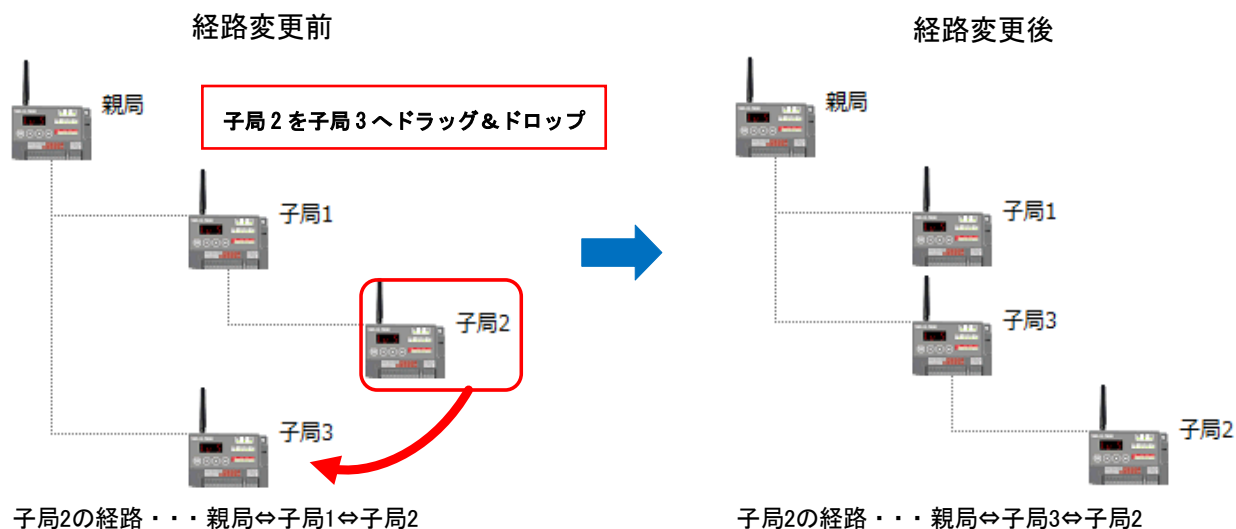


●中継を変更する

無線ユニットの経路を変更する場合、中継して通信するユニットを中継のユニットへドラッグすると通信経路を構築することができます。

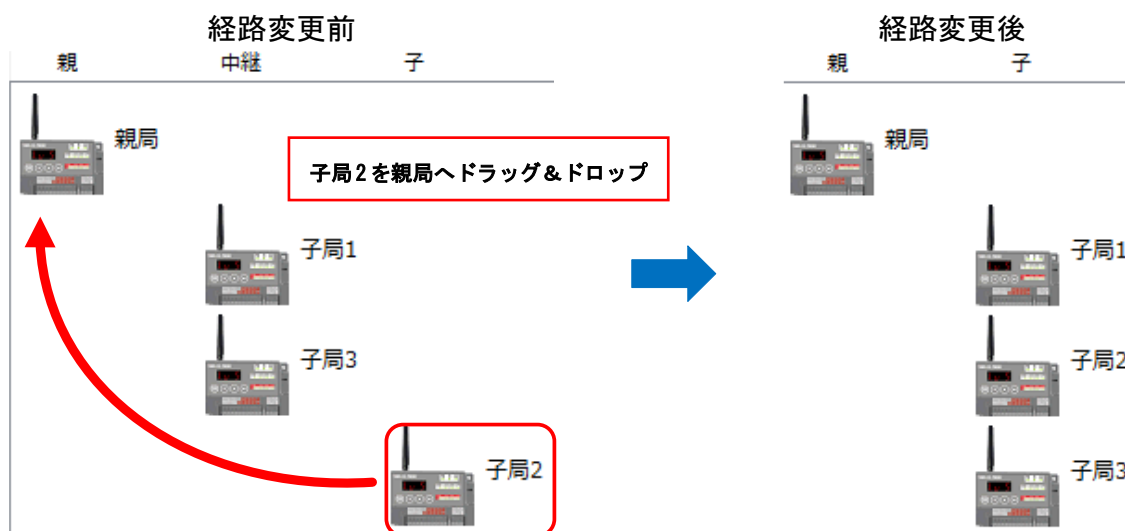
・双方向通信

子局 2 の経路を親局⇒子局 3⇒子局 2 を中継して通信する経路に変更する場合は以下ようになります。



・単方向通信

子局 2 を親局と直接通信する場合の設定は以下ようになります。



5.4.3. 個別設定/一括設定方法

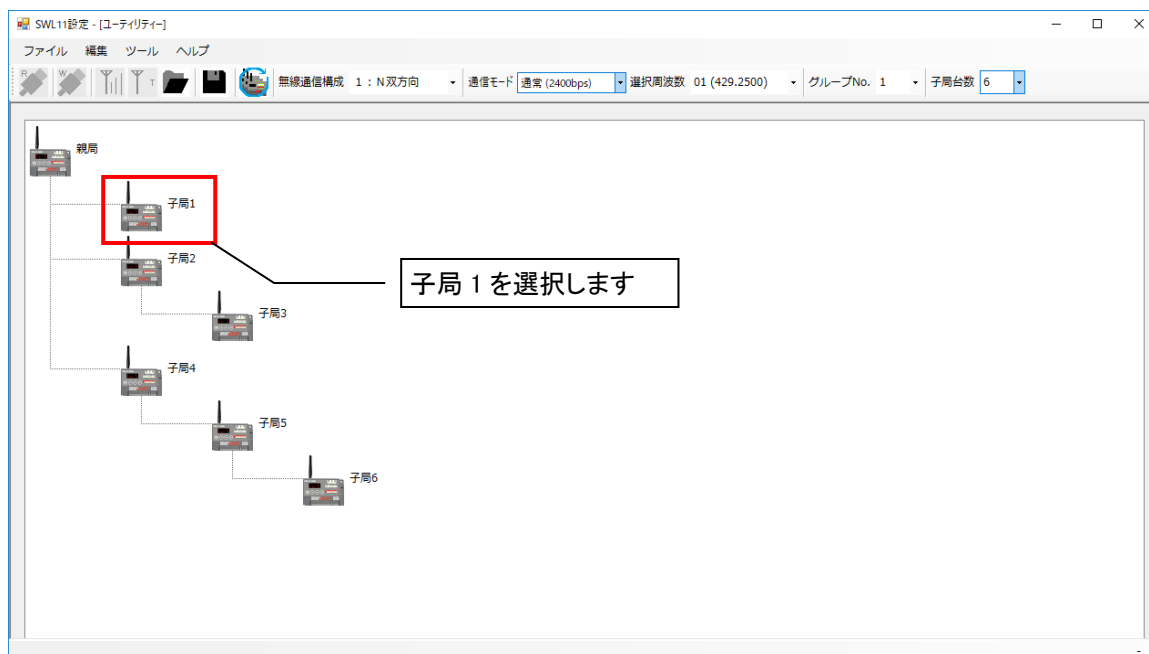
個別設定/一括設定では、ユニット ID や出力電力、送信周期など、ユニット毎の動作についての設定を行います。

ユニット毎に特殊設定が必要な場合に設定が必要なパラメータとなります。

●**個別設定**・・・各ユニット 1 台ずつ設定を実施します。

(1) 設定するユニットのアイコンを選択します。

ここでは、子局 1 を選択します。



(2) 個別設定画面が開き、任意のパラメータの選択ボックスを選択してパラメータの設定を行います。

設定が完了したら、最小化ボタンを選択すると設定が終了します。



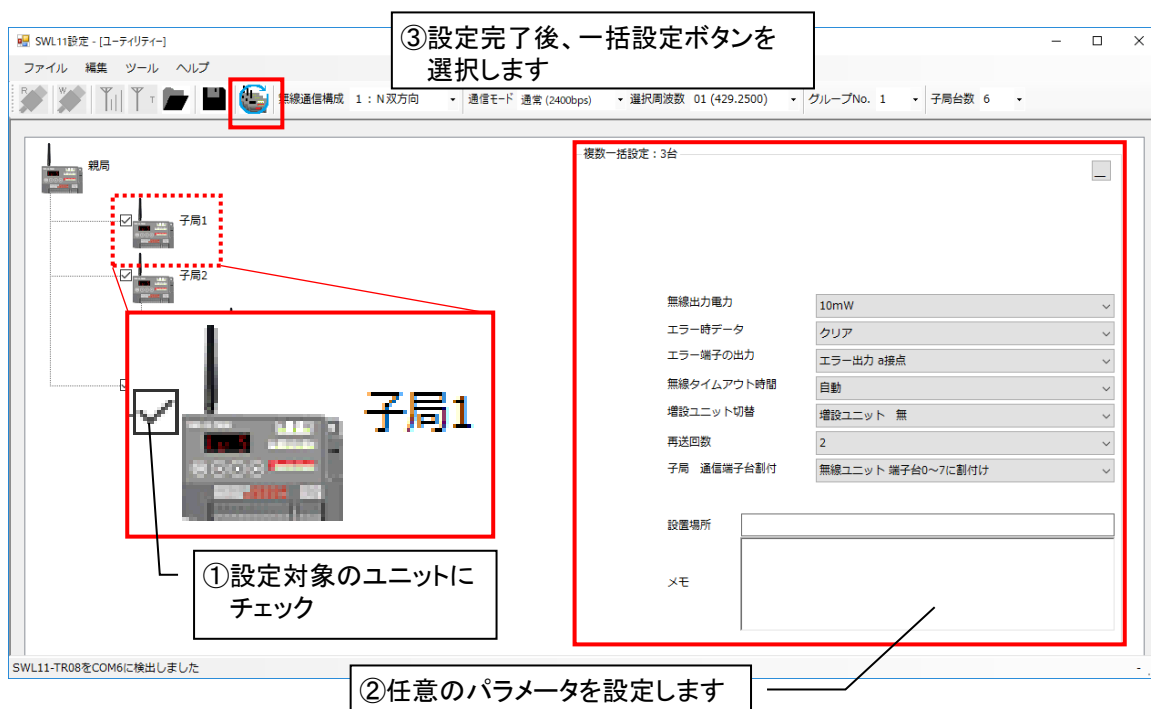
●**一括設定**・・・選択したユニットを一括で設定を行います。

(1) 設定するユニットのアイコンを選択します。



(2) ユニットアイコンの横にチェックボックスが表示され、設定するユニットアイコンのチェックボックスにチェックします。一括設定画面で任意のパラメータの選択ボックスを選択してパラメータの設定を行います。設定が完了したら、一括設定ボタンを選択して設定を終了します。

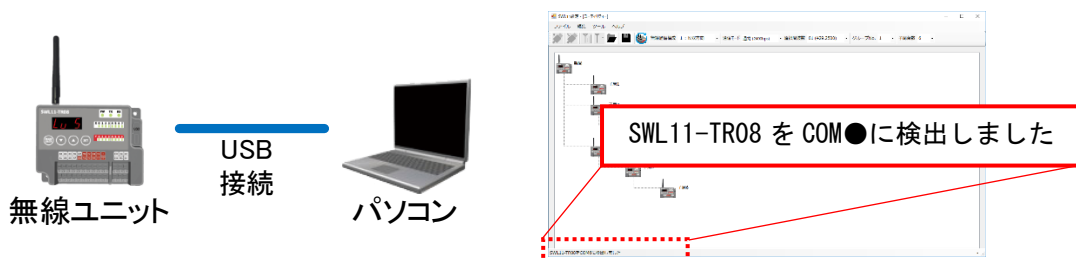
※設定完了後、一括設定ボタンを押さなければ、設定は反映されません。



5.4.4. USB 接続による書き込み

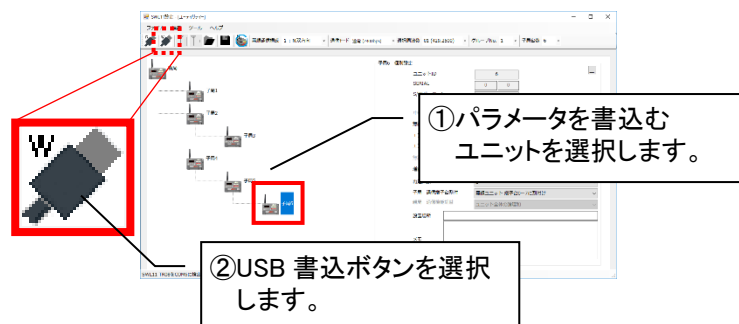
パソコンで設定したパラメータを USB で書込む手順は、以下で行います。

(1)パソコンと無線ユニットを USB 接続し、設定ユーティリティ左下で USB 接続されたことを確認してください。

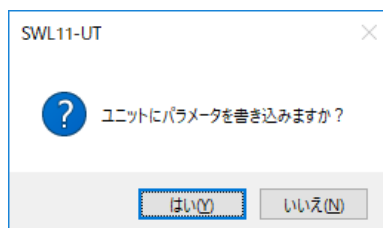


(2)パラメータ書込を行うユニットを選択します。

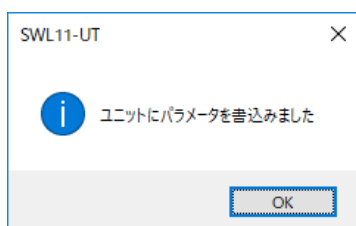
『USB 書込』ボタンを選択します。



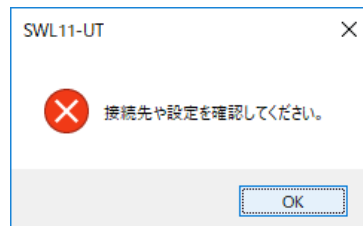
(3)USB 書込確認ダイアログが表示され、「はい」を選択するとパラメータ書込を実行します。



(4)USB 書込完了後、以下画面が表示されます。



書込成功



書込失敗

5.4.5. 無線通信テスト

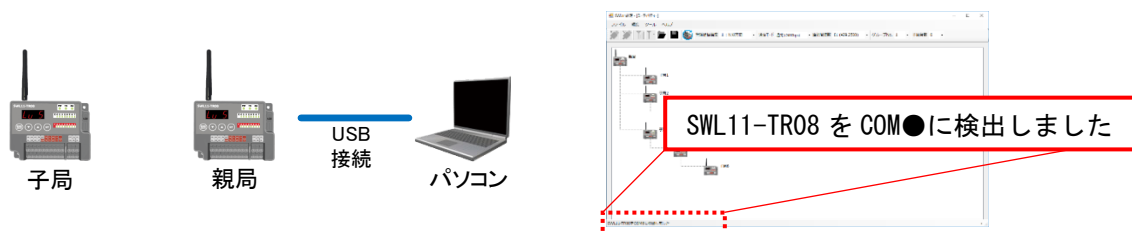
親局と子局間の通信確認は、以下手順で行います。

※双方向通信設定時に有効な機能となります。

※ユニット設定を書込後に実施してください。

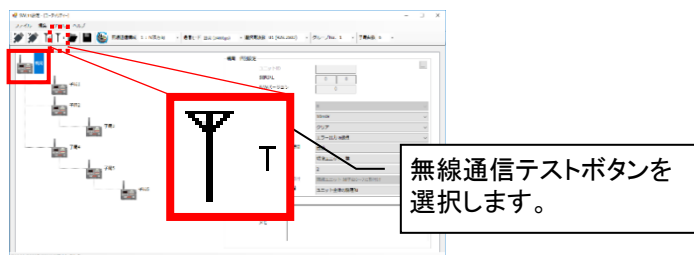
※選択周波数を「自動」に設定している時、無線通信テストは使用できません。

(1)パソコンと親局設定を書込した無線ユニットを USB 接続し、設定ユーティリティ左下で USB 接続されたことを確認してください。

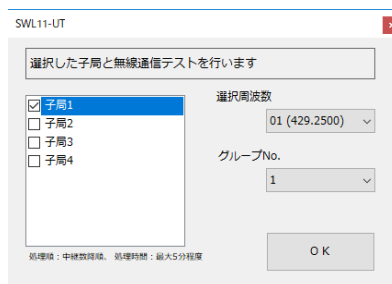


(2)親局のユニットアイコンを選択します。

『無線通信テスト』ボタンを選択します。

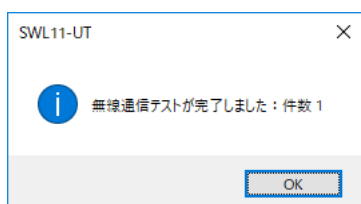


(3)無線通信テストダイアログが表示され、通信テストを行う子局をチェックボックスにチェックし、無線ユニットに設定された選択周波数、グループ No. を選択します。選択後、「OK」を選択すると通信テストを実行します。

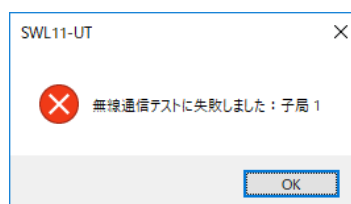


(4)無線通信テスト完了後、以下ダイアログが表示されます。

通信テストは、中継段数が多く子局番号の若い番号順に通信行います。



通信テスト成功



通信テスト失敗

5.4.6. 無線配信による書込み

親局から無線通信経由で子局にパラメータ書込を行う際は、以下手順で行います。

※双方向通信設定時に有効な機能となります

※親局に設定を書込後に実施してください。

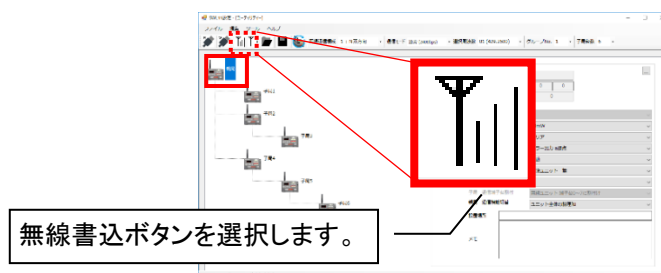
※選択周波数を「自動」に設定している時、無線配信書込は使用できません。

- (1)パソコンと親局設定を書込した無線ユニットを USB 接続し、設定ユーティリティ左下で USB 接続されたことを確認してください。

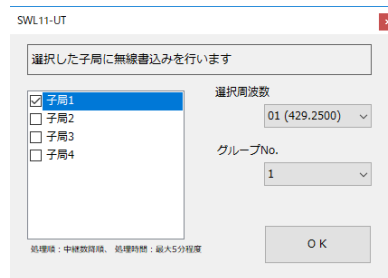


- (2)親局のユニットアイコンを選択します。

『無線書込』ボタンを選択します。

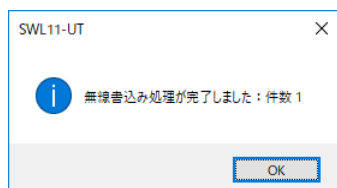


- (3)無線書込ダイアログが表示され、無線書込を行う子局をチェックボックスにチェックし、無線ユニットに設定された選択周波数、グループ No.を選択します。選択後、「OK」を選択すると無線書込を実行します。

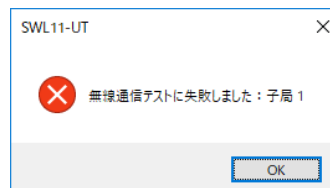


- (4)無線書込完了後、以下ダイアログが表示されます。

無線書込は、中継段数が多く子局番号の若い番号のユニットから無線書込を行います。



通信テスト成功

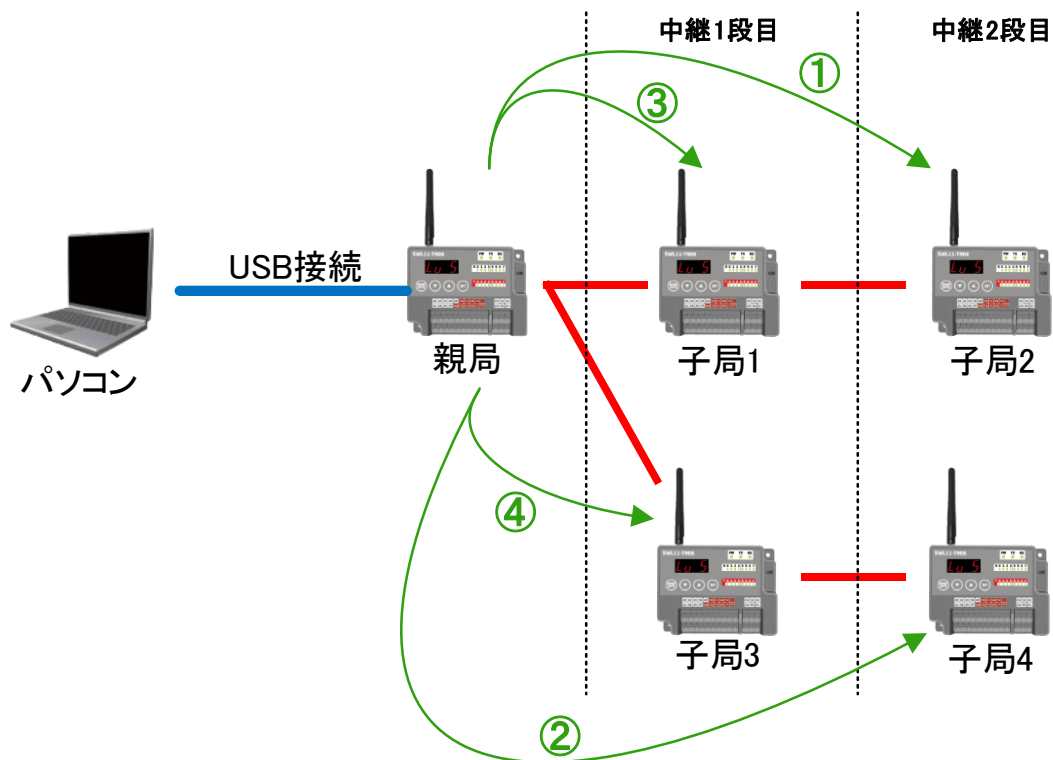


通信テスト失敗

●無線通信テスト/無線配信書込 順路

無線通信テスト/無線配信書込は、中継段数多く子局番号が若いユニットから動作を行います。

下記のような構成の際、無線通信テスト/無線配信書込の順路は以下となります。



動作	内容
①	親局から子局1を中継して子局2へ配信
②	親局から子局3を中継して子局4へ配信
③	親局から子局1へ配信
④	親局から子局3へ配信

※動作②で通信が失敗した場合、動作①(子局①への配信)は完了し、動作②～④が配信できていない状態となります。

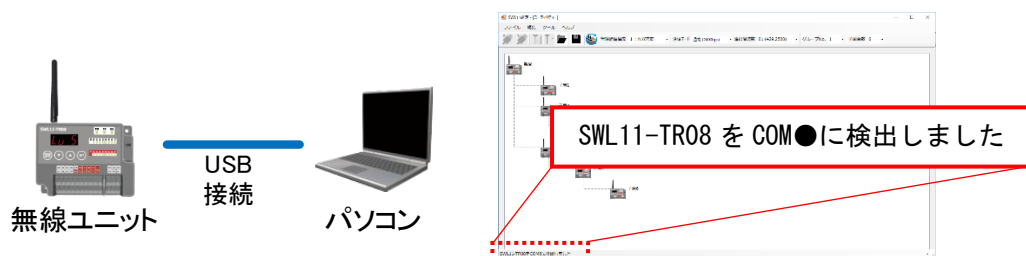
5.4.7. USB パラメータ読込

無線ユニットのパラメータをパソコンへ読込を行う場合、以下手順で行います。

※単方向通信設定時は、親局、子局全てのユニットから設定を読込む必要があります。

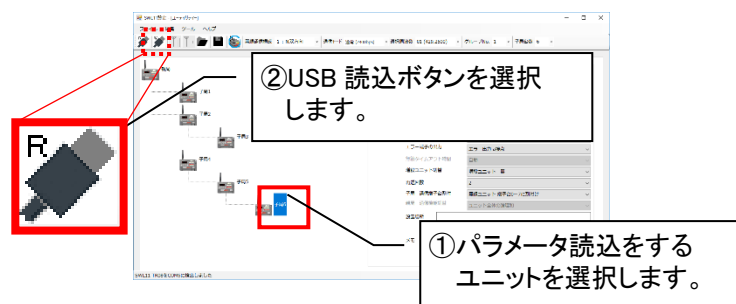
※双方向通信設定、子局設定されたユニットは、共通設定はパラメータ読込みできません。

(1)パソコンと無線ユニットを USB 接続し、設定ユーティリティ左下で USB 接続されたことを確認してください。

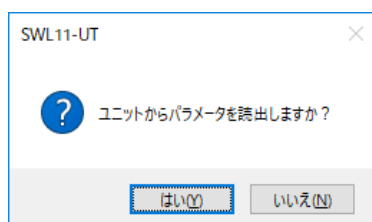


(2)パラメータ読込を行うユニットを選択します。

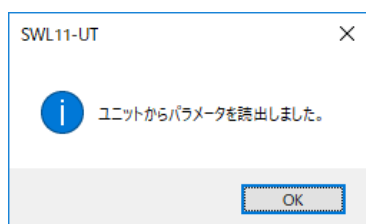
『USB 読込』ボタンを選択します。



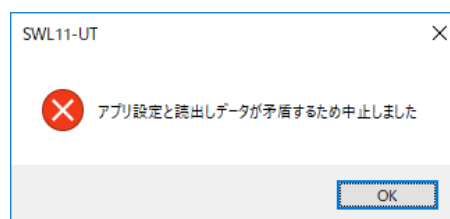
(3)USB 読込確認ダイアログが表示され、「はい」を選択するとパラメータ読込を実行します。



(4)USB 読込完了後、以下画面が表示されます。



読込成功

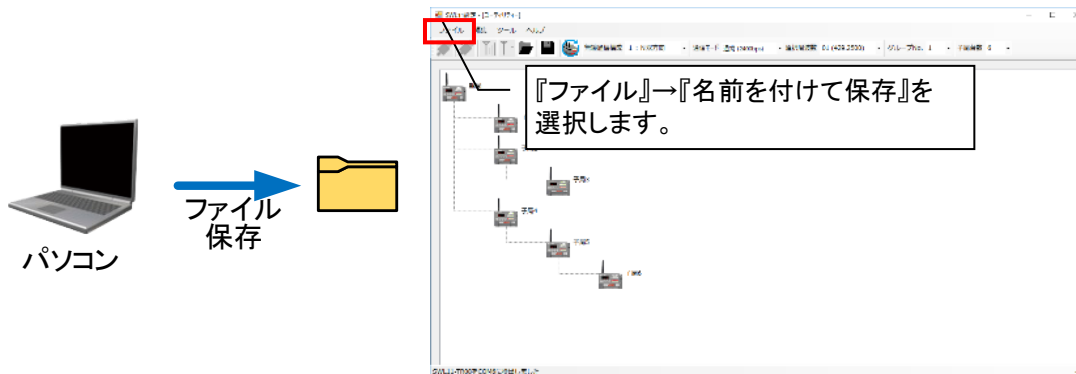


読込失敗

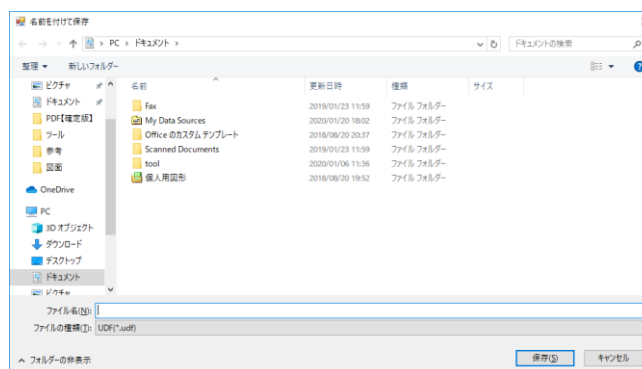
5.4.8. 設定ファイルに名前を付けて保存

無線ユニットに書込んだ設定内容をパソコン上に名前を付けて保存する場合、以下手順で行います。

(1)『ファイル』→『名前を付けて保存』ボタンを選択します。



(2)ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンをクリックしてください。



5.4.9. 設定ファイル上書き保存

無線ユニットに書込んだ設定内容をパソコン上に保存する手順は、以下手順で行います。

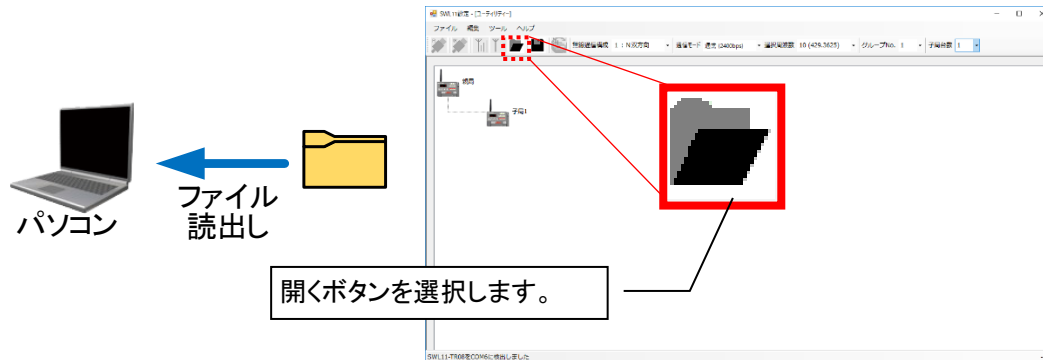
『保存』ボタンを選択します。 ※『ファイル』→『保存』でも動作可能です。



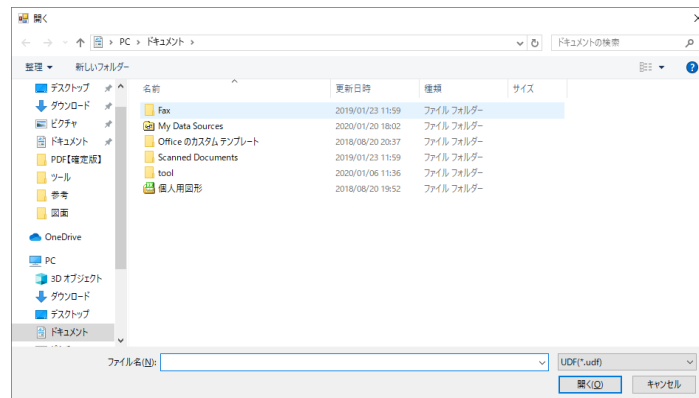
5.4.10. 保存した設定ファイル読出し

パソコンに保存した設定ファイルの読出しは、以下手順で行います。

(1)『開く』ボタンを選択します。



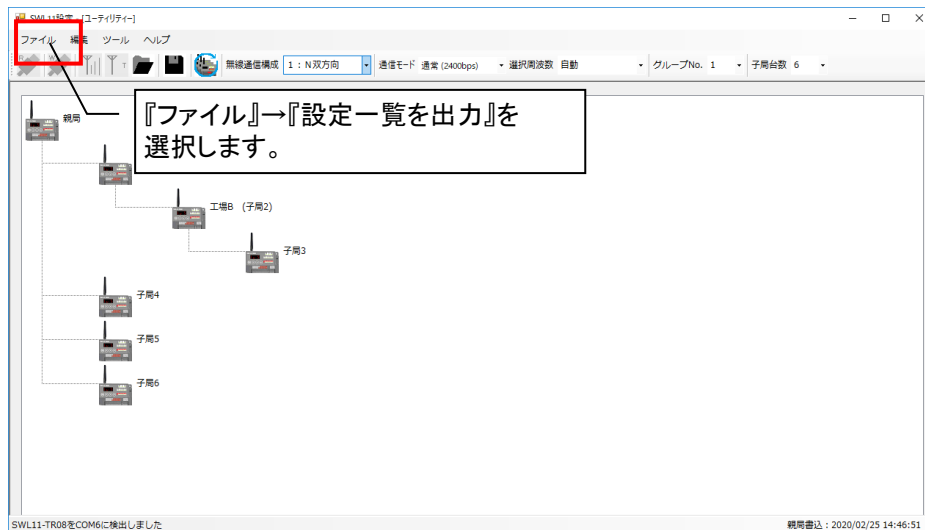
(2)ファイル読出ダイアログが表示されますので、読出すファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。



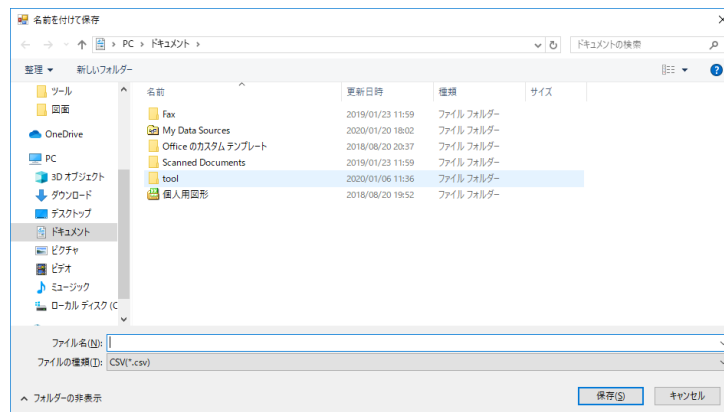
5.4.11. 設定一覧出力

設定ユーティリティで設定したパラメータをファイルへ出力し、パラメータ設定内容を記録する場合以下手順で行います。

(1)『ファイル』→『設定一覧を出力』ボタンを選択します。



(2)ファイル保存ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を選択し、「保存」ボタンをクリックしてください。



(3) 保存したファイルを開くと以下のような画面が表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1			親局	子局1	子局2	子局3	子局4	子局5	子局6		
2	通信構成	P1 01	3[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	4[1:N 双方	方向通信(子局)]
3	シリアル上	P1 02id1	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	シリアル下	P1 02id2	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	グループ番	P1 03	1	1	1	1	1	1	1	1	
6	ID	P1 04	-	1	2	3	4	5	6		
7	1:N通信台	P1 05	6	-	-	-	-	-	-		
8	CH	P1 07	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MC	0[自動(MCA)]
9	出力	P1 08	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]	2[10mW]
10	中継段数	P1 09	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	エラー時	P1 10	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	0[クリア]	
12	タイムアウト	P1 11	0	0	0	0	0	0	0	0	
13	エラー出力	P1 12	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出	1[エラー出力(b	接続点)]
14	通信機能	P1 14	1[ユニット	-	-	-	-	-	-	-	
15	再送回数	P1 16	2	2	2	2	2	2	2	2	
16	増設切替	P1 17	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニ	0[増設ユニットなし]
17	無線通信	P1 19	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モード(2400bps)]
18	自動再起動	P1 97	0[なし]	0[なし]	0[なし]	0[なし]	0[なし]	0[なし]	0[なし]	0[なし]	
19	電波環境	P1 98	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モー	0[通常モード]
20	S/Wバージョン	P1 99	0	0	0	0	0	0	0	0	
21	通信端子	T	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニ	0[無線ユニット 端子台0~7に割付け]
22	中継1ユニ	Hop1	-	0	1	1	0	0	0		
23	中継2ユニ	Hop2	-	-	-	2	-	-	-		
24	設置場所	-		工場A	工場B						
25	メモ	-									

第 6 章

第6章 保守資料

- 6. 1. トラブルシューティング [MODBUS タイプ] 6-2
- 6. 2. トラブルシューティング [Ethernet タイプ] 6-3
- 6. 3. トラブルシューティング [SWL11] 6-5
- 6. 4. 接続 COM ポート確認手順..... 6-6

6.1. トラブルシューティング[MODBUS タイプ]

エラー内容	確認	対処方法
MODBUS マスタでデータを取得できない	①無線ユニット、対象スレーブに電源は入っているか。 ②配線は間違っていないか。 ③無線ユニットにエラーは表示されていないか。 ④マスタの要求伝文は間違っていないか。 ⑤親局と子局で P195(Ver.4.00 以前互換設定)が不一致となっていないか。	①無線ユニット、スレーブに電源を投入してください。 ②配線を確認してください。 無線ユニットの配線は「920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]ユーザーズマニュアル(詳細編)7.3 配線」をご参照ください。マスタ機器、スレーブ機器の配線はご使用の機器の取り扱い説明書をご参照ください。 ③「920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]ユーザーズマニュアル(詳細編)10.1 エラー一覧」を参照してエラーを解消してください。 ④温湿度センサ、パルス値、入出力をご利用の場合は「920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]MODBUS インタフェース編」をご参照ください。スレーブ機器をご利用の場合は使用する機器の取り扱い説明書をご参照ください。 ⑤P195 の設定値を一致させてください。 ※P195 が不一致の状態では正常に通信を行いません。 詳細は 920MHz 帯無線ユニット[MODBUS タイプ]ユーザーズマニュアル(詳細編)9.7.3 時分割通信必要パラメータをご参照ください。
無線パラメータ配信、経路自動構築機能が失敗する	電池駆動子局を含む構成で無線パラメータ配信を行っていないか。	・電池駆動子局を含む通信構成で左記機能を失敗した場合、子局が配信/経路構築待ち状態となり、通常動作を行いません。 子局の送信周期が経過したら、自動的に復帰しますが、お急ぎの場合は中継兼子局から順に電源を再投入してください。 ・電源再投入後もボタン操作が効かない場合は無線ユニットが故障している可能性があります。 本マニュアル記載のお問い合わせ場所に不具合状態をご相談ください。
無線ユニットのボタン操作が効かない		
COM ポートを検出できない	R4MD(Ver1.00～3.00)、PL3(Ver1.00/4.10)は「無線親局への書込み」、「無線子局への書込み」、「無線親局から読出し」、「無線子局から読出し」を行う場合、USB モードに変更してから行う必要があります。	SET ボタンを押しながら無線ユニットに電源を投入して「USB モード」で起動してください。
書込みが正常に行えない		

6.2. トラブルシューティング[Ethernet タイプ]

エラー内容	確認	対処方法
Ethernet 接続で 書込・読出ができない	①無線ユニットに電源が入っているか。 ②Ethernet ケーブルがささっているか。 ③接続先選択が Ethernet になっているか。 ④親局の IP アドレスと接続先選択の IP アドレスは一致しているか。 ⑤他の機器との IP アドレスの重複はないか。 ⑥無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ⑦ユーティリティを 2 カ所以上から同時に書込・読出はしていないか。	①無線ユニットに電源を投入してください。 ②配線を確認してください。 ③接続先設定を確認してください。 参照先『3.4.6. 無線配信による子局書込み』 ④IP アドレスを確認してください。 ⑤IP アドレスの重複を確認してください。 ⑥無線ユニットの電源を再投入してください。 ⑦1 対 1 で接続を実施してください。
Ethernet 接続で 親局から子局へ無線経由での 書込ができない	①無線ユニットの電源が入っているか。 ②Ethernet ケーブルがささっているか。 ③接続先選択が Ethernet になっているか。 ④親局の IP アドレスと接続先選択の IP アドレスは一致しているか。 ⑤他の機器との IP アドレスの重複はないか。 ⑥無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ⑦親局と設定ユーティリティの設定は同じか。 ⑧ユーティリティを 2 カ所以上から同時に書込・読出はしていないか。	①無線ユニットに電源を投入してください。 ②配線を確認してください。 ③接続先設定を確認してください。 参照先『3.4.6. 無線配信による子局書込み』 ④IP アドレスを確認してください。 ⑤IP アドレスの重複を確認してください。 ⑥無線ユニットの電源を再投入してください。 ⑦親局に設定を書込んでから子局に書込・読出を行ってください。 ⑧1 対 1 で接続を実施してください。
Ethernet 接続で 親局から子局へ無線経由での 書込で通信結果失敗が表示される	①無線子局の電源が入っているか。 ②周波数、グループ、通信トポロジは一致しているか。 ③通信可能な距離であるか。 ④無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ⑤ルート設定を設定している子局の場合、中継子局の電源が入っているか。	①無線ユニットに電源を投入してください。 ②一致しているか確認してください。 参照先『4.4.13 無線配信による子局書込み』 ③以下を目安に確認ください。 屋内: 約 100m(見通し) 屋外: 約 400m(見通し) ④無線ユニットの電源を再投入してください。 ⑤中継子局に設定の書込を実施し、子局に書込を行ってください。
同じ IP アドレス の機器に接続機器 を交換した場合、 Ethernet 通信出 来ない。	接続されている機器の MAC アドレスが変わる 為通信出来なくなる可能性があります。	Ethernet 内の機器を交換した場合は、 ネットワーク内のすべての機器を再起動 してください。
設定変更後、 Ethernet 通信が 復旧しない。	①相手機器の動作を確認してください。 ②相手機器のオープン処理が完了しているか 確認してください。	相手機器のオープン処理が 既に完了している場合は 一度、クローズさせるか、 相手機器を再起動してください

エラー内容	確認	対処方法
USB 接続で 書込・読出ができない	①無線ユニットの電源は入っているか。 ②USB ケーブルはささっているか。 ③接続先選択が USB になっているか。 ④ドライバは登録しているか。 ⑤USB ポート番号は正しいか。 ⑥無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ⑦ユーティリティを 2 カ所以上から同時に書込・読出はしていないか。	①無線ユニットに電源を投入してください。 ②配線を確認してください。 ③接続先設定を確認してください。 参照先『3.4.6. 無線配信による子局書込み』 ④デバイスマネージャーが COM ポートを認識しているか確認してください。 ⑤接続先設定で正しいポート番号を認識しているか確認してください。 参照先『3.4.6. 無線配信による子局書込み』 ⑥無線ユニットを再起動してください。 ⑦その他のアプリケーションを終了してください。
USB 接続で 親局から子局へ 無線経由での 書込ができない	①USB ケーブルはささっているか。 ②無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ③親局と設定ユーティリティの設定は同じか。 ④ユーティリティを 2 カ所以上から同時に書込・読出はしていないか。	①配線を確認してください。 ②無線ユニットを再起動してください。 ③親局に設定を書込んでから子局に書込・読出を行ってください。 ④その他のアプリケーションを終了してください。
USB 接続で 親局から子局へ 無線経由での 書込で通信結果 失敗が表示される	①無線子局の電源は入っているか。 ②周波数、グループ、通信トポロジは一致しているか。 ③通信可能な距離であるか。 ④無線ユニットがパラメータ設定モードになっていないか。 ⑤ルート設定を設定している子局の場合、中継子局の電源は入っているか。	①無線ユニットに電源を投入してください。 ②一致しているか確認してください。 参照先『3.4.6. 無線配信による子局書込み』 ③以下を目安に確認ください。 屋内: 約 100m(見通し) 屋外: 約 400m(見通し) ④無線ユニットの電源を再投入してください。 ⑤中継子局に設定の書込を行ってから、子局に書込を行ってください。
ツールバーから マニュアルが開けない	①フォルダ構成を変更していないか。 ②管理者権限でツールを起動していないか。	①再度ツールをダウンロードし直してください。 ②管理者権限でツールを起動しないでください。
以下のエラーが発生する。 「通信エラーが発生しました。 セマフォがタイムアウトしました。」	—	一度無線ユニットとの USB 接続を切り離して再度通信させてください。

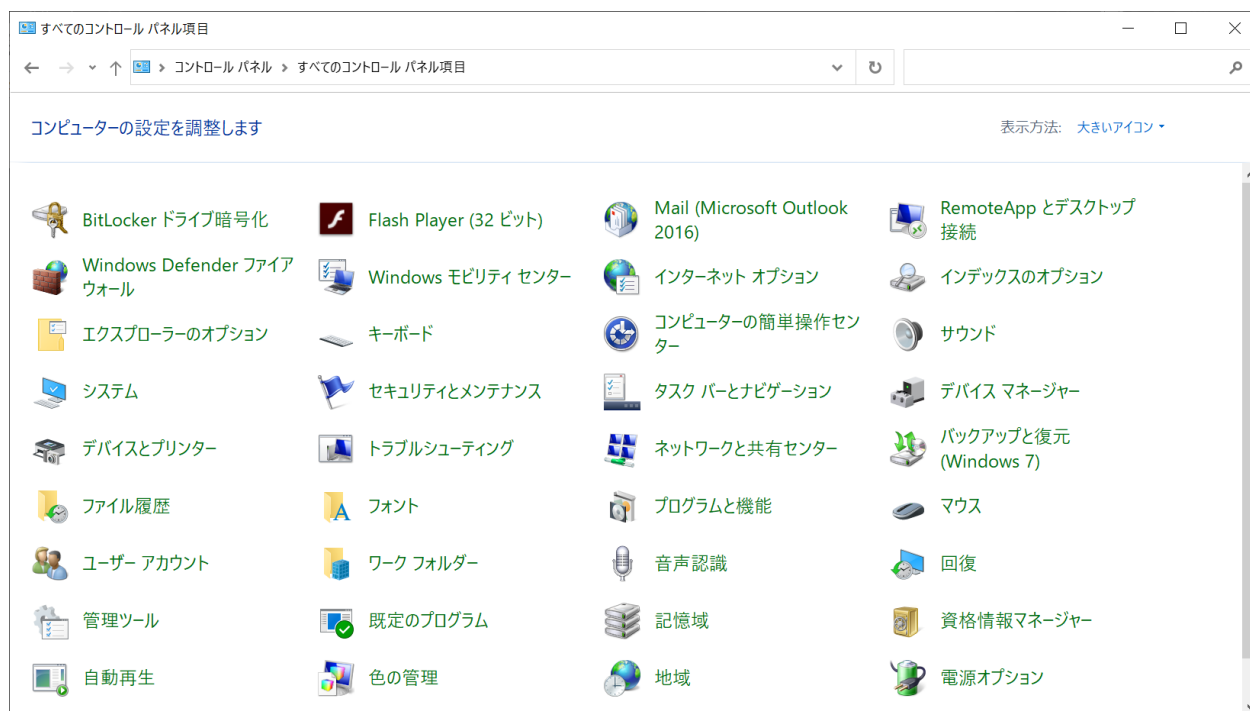
6.3. トラブルシューティング[SWL11]

エラー内容	確認	対処方法
USB書込ができない	①無線ユニットの電源は入っているか。 ②USBケーブルは挿入しているか。 ③無線ユニットを複数台接続していないか。	①無線ユニットに DC12/24V を投入してください。 ②USB を挿入してください。メイン画面、ステータスバー(USB 接続確認)で USB 認識されているか確認できます。 ③無線ユニットを 1 台接続するようにしてください。
USB読込ができない	①無線ユニットの電源は入っているか。 ②USBケーブルは挿入しているか。 ③無線ユニットを複数台接続していないか。 ④子局設定した無線ユニット本体から親局へ読込を実施していないか。	①無線ユニットに DC12/24V を投入してください。 ②USB を挿入してください。 メイン画面、ステータスバー(USB 接続確認)で USB 認識されているか確認できます。 ③無線ユニットを 1 台接続するようにしてください。 ④子局設定したユニットは子局ユニットの無線アイコンをクリックしてから読込を実行してください。
無線通信テストが成功しない	①無線ユニットの電源は入っているか。 ②USBケーブルは挿入しているか。 ③無線ユニットを複数台接続していないか。 ④親局と設定ユーティリティの設定は同じか。 ⑤選択周波数、グループNo.は、子局と一致しているか。 ⑥ルート設定している子局の場合、中継子局の電源は入っているか。 ⑦通信モードは一致しているか。	①無線ユニットに DC12/24V を投入してください。 ②USB を挿入してください。 メイン画面、ステータスバー(USB 接続確認)で USB 認識されているか確認できます。 ③無線ユニットを 1 台接続するようにしてください。 ④設定が異なる場合は、親局に設定を書込んでから子局と通信テストを行ってください。 ⑤無線書込ダイアログで表示された選択周波数とグループNo.が子局のパラメータ設定と一致していることを確認してください。 ⑥経路指定しているユニットを経由して書込を行うため、中継子局の電源を投入してください。 ⑦親局と子局の通信モードを一致させてください。
無線書込が成功しない	①無線ユニットの電源は入っているか。 ②USBケーブルは挿入しているか。 ③無線ユニットを複数台接続していないか。 ④親局と設定ユーティリティの設定は同じか。 ⑤選択周波数、グループNo.は、子局と一致しているか。 ⑥ルート設定している子局の場合、中継子局の電源は入っているか。 ⑦通信モードは一致しているか。	①無線ユニットに DC12/24V を投入してください。 ②USB を挿入してください。 メイン画面、ステータスバー(USB 接続確認)で USB 認識されているか確認できます。 ③無線ユニットを 1 台接続するようにしてください。 ④設定が異なる場合は、親局に設定を書込んでから子局に書込を行ってください。 ⑤無線書込ダイアログで表示された選択周波数とグループNo.が子局のパラメータ設定と一致していることを確認してください。 ⑥経路指定しているユニットを経由して書込を行うため、中継子局の電源を投入してください。 ⑦親局と子局の通信モードを一致させてください。

6.4. 接続 COM ポート確認手順

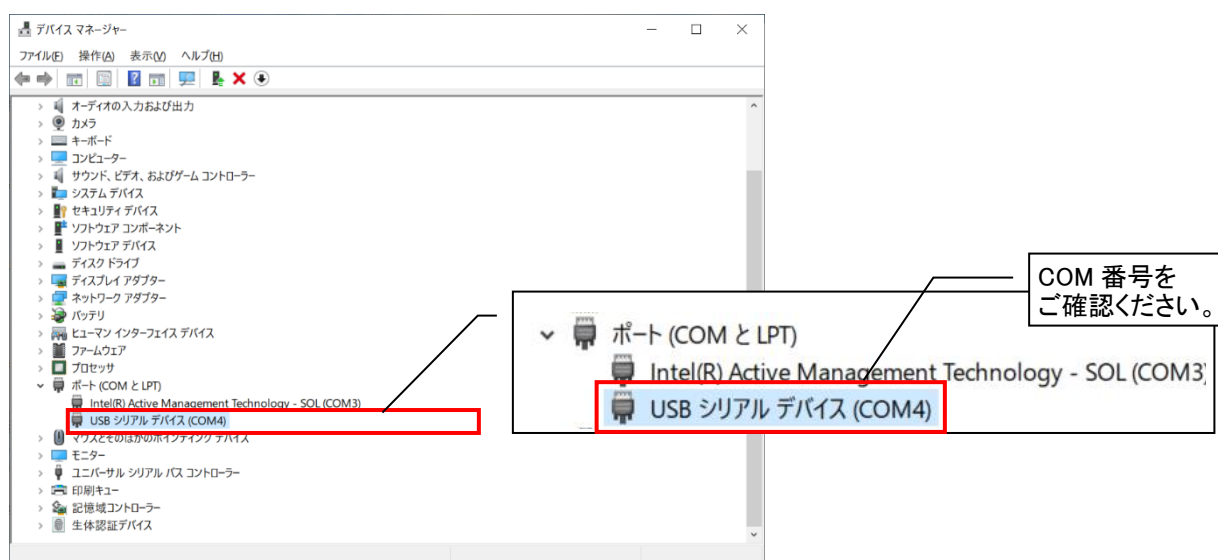
1.「スタート」⇒「コントロールパネル」より、「デバイスマネージャー」を起動します。

(カテゴリ表示の場合、「スタート」⇒「コントロールパネル」⇒「ハードウェアとサウンド」より「デバイスマネージャー」を起動します。)



コントロールパネル

2.「ポート(COM と LPT)」にある COM 番号をご確認ください。



製品仕様の変更

カタログ、仕様書、技術資料などに記載されている仕様は、お断りなしに変更することがあります。

製品の適用について

■使用条件

当社製品をご使用される場合は、万一、故障、不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、バックアップなどの対策が実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。

■適用の除外など

- (1)当社製品は、一般工業などへの用途を対象として設計・製造されています。原子力発電所およびその他発電所、鉄道や航空などの公共交通機関といった公共への影響が大きい用途や車両設備医用機械、娯楽機械、安全装置、焼却設備、および行政機関や個別業界の規制に従う設備への使用で、特別品質保証体制をご要求になる用途には、適用を除外させていただきます。
- (2)人命や財産に大きな影響が予測され、安全面や制御システムにとくに高信頼性が要求される用途には適用を除外させていただきます。
- (3)ただし、上記の用途であっても、用途を限定して特別な品質をご要求にならないことをお客様にご承認いただいた場合には、適用可能とさせていただきます。

その他

上記の記載内容は、日本国内での取引および使用を前提としております。

◆ 製品のお問い合わせ

各製品に関するお問い合わせ先は、当社ホームページにてご確認ください。
www.melsc.co.jp/business/introduction/inquiry.html



『Windows』は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
『.NET Framework』は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
『MODBUS』は Schneider Electric SA の登録商標です。
『MELSEC』、『GOT』は三菱電機株式会社の登録商標です。
『Ethernet』は富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。
『タバネル』、『taBaneLE』は、当社の登録商標です。



- ・お断りなしに内容を変更することがありますのでご了承ください。
- ・無断転載をしないでください。

X903140903L

2026年6月作成